

Oracle® Hyperion Financial Reporting Studio

User's Guide

リリース 11.1.2.3

Reporting Studio User's Guide, 11.1.2.3

Copyright © 1989, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	15
第 1 章 Oracle User Productivity Kit の使用	17
第 2 章 Financial Reporting スタート・ガイド	19
このリリースでの用語	20
Financial Reporting コンポーネント	20
サンプル・レポート	21
レポートのコンポーネント	22
レポート・オブジェクト	23
Studio ワークスペース	23
レポート・デザイナー	24
プロパティ・シート	24
Studio ワークスペースでのナビゲート	24
ワークスペースの機能	25
バッチ・エディタ、ブック・エディタ、バッチ・スケジューラ	25
設計に関する考慮事項	25
Planning 詳細データベース接続の使用	26
Workforce Planning スマート・リストのサポート	26
Oracle Essbase と Planning 詳細のデータベース接続	27
データ・クエリー - 展開データ・セグメントと単一データ・セグメント	27
設計に関する考慮事項	27
欠落ブロックの抑制を使用したレポートの設計に関する Planning の考慮事項	28
動的レポートの設計に関する注意事項	28
Financial Reporting の基本的なタスク	29
Reporting Studio の起動	29
Web ブラウザからの Reporting Studio の起動	29
ワークスペースへのログオン	30
レポートの設計	30
既存のレポートを開く	32
スナップショット・レポートの表示	33

ブックの作成	33
バッチの作成	33
プリファレンスの設定	33
パスワードの変更	33
Studio エクスプローラまたはデザイナを閉じる	34
Reporting Studio の終了	34
ツールバー	34
標準ツールバー	34
デザイナ・ツールバー	35
メニュー	36
「ファイル」メニュー	36
「編集」メニュー	37
「表示」メニュー	37
「挿入」メニュー	38
「フォーマット」メニュー	39
「タスク」メニュー	40
「管理」メニュー	40
「ウィンドウ」メニュー	40
「ヘルプ」メニュー	40
ショートカット・メニュー・コマンド	41
エラー・メッセージ	44
第 3 章 レポート・デザイナのメンバーの選択	47
データの行と列のメンバーの割当て	48
ページ軸のメンバーの割当て	49
特殊メンバーの割当て	50
メンバーの選択用のプロンプトの設定	50
Same As 関数の参照の設定	52
現在の POV の設定	52
関数を使用したメンバーの割当て	53
関数の編集	59
別のアプリケーションのメンバーのコピー	60
メンバーの追加と除去	60
条件に基づいた複数のメンバーの選択	61
フィルタの定義による表示メンバーの指定	62
メンバー・リストの定義	62
メンバー・リストの編集	63
メンバーの検索	63
メンバーのソート	65

選択したメンバーのプレビュー	65
Planning 詳細データベース接続のアクセス権	66
第4章 チャートのカスタマイズ	69
チャートについて	69
棒グラフ	70
折れ線グラフ	70
複合チャート	71
円グラフ	71
チャートのフォーマット	72
チャートのデータの定義	73
「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスの使用法	75
チャート内のフォントの設定	77
チャートの枠線と背景のオプション	78
棒グラフと複合チャートの棒のフォーマット	79
折れ線グラフと複合チャートの線のフォーマット	80
複合チャートのオプションの定義	81
円グラフのフォーマット	81
チャートの背景オプションの設定	82
レポート上のチャートの位置	83
グリッド線の定義	84
データ・セットのスタイルの定義	84
チャートのサイズの変更と移動	85
チャートのタイトルとラベルのフォーマット	85
チャート凡例のタイトルの定義	85
チャートのタイトルの定義	86
チャートの軸のタイトルの定義	87
軸のラベルの定義	88
チャートの表示	89
第5章 レポートの作成	91
レポート・オブジェクトの追加	91
リンク付きオブジェクトとローカル・オブジェクトの使用法	92
テキスト・オブジェクトの追加	94
テキスト・オブジェクトの変更	95
テキスト・オブジェクトの保存	95
グリッドの追加	96
グリッド・オブジェクトのプロパティの変更	99
グリッド・オブジェクトの保存	99
イメージの挿入	100

イメージ・オブジェクトの保存	101
チャートの挿入	102
チャート・オブジェクトの保存	102
ヘッダーとフッターの作成	103
レポート・オブジェクトの位置設定	104
レポート・オブジェクトのサイズ変更	105
レポート・オブジェクトの保存	106
レポートのオブジェクトの除去	107
ヘッダーとフッターの設計	107
タイトル・ページの作成	108
レポート・オブジェクトの前への改ページの挿入	108
レポートの要約の表示	108
サーバー情報の表示	109
第 6 章 グリッドのカスタマイズ	111
グリッドへの行と列の挿入	112
グリッドでの切取り、コピー、貼付け	113
グリッドの行見出しと列見出しの指定	114
グリッドの行見出しと列見出しの上書き	115
行と列のテンプレートについて	116
行と列のテンプレートのフォーマットの継承	118
プロパティ値	118
行と列のテンプレートの作成	120
行と列のテンプレートの挿入	122
行と列のテンプレートのリンクの解除	123
行と列のテンプレートの変更	124
データ・クエリー最適化オプションの設定	124
Financial Management のライン・アイテムの詳細の表示	126
Planning のサポート詳細の表示	126
グリッド POV の定義	128
グリッド POV バーの表示と非表示の切替え	128
グリッド POV のメンバーの選択	129
グリッド POV の設定	129
改ページの挿入	130
ページ軸の見出しの定義	131
グリッドのデータベース接続の変更	133
グリッドへの複数のデータベース接続の割当て	133
データ行とデータ列の自動計算の追加	134
自動計算されたデータの行と列のフォーマット	137

式の間や列の定義	139
式の間と列の見出しの定義	140
行または列の展開	141
計算の反復	146
式バーの使用方	147
式を含むレポートの例	147
式バーを使用した式の作成	149
式バーを使用した式の編集	150
式の削除	151
式バーを使用したメンバー選択の変更	151
プロパティ・シートの機能へのアクセス	152
セル・レベルでの計算	152
テキスト関数を使用した情報の表示	153
グリッド・ヘッダーの固定	154
第7章 ユーザーの POV の定義	157
レポート・デザイナーでのユーザーの POV の設定	157
レポート・デザイナーでのユーザーの POV のメンバーの選択	158
第8章 レポートの詳細データとドキュメントの表示	161
レポートの詳細データにアクセスするための展開機能の設定	162
行と列を展開する位置	162
レポートへのセル・ドキュメントの添付	162
サポートされている Microsoft Office ファイル・タイプ	163
印刷と印刷プレビューのオプション	163
考慮事項	165
セル・ドキュメントの印刷	165
添付されているセル・ドキュメントのリストの印刷	166
関連コンテンツへのリンクの設定	166
関連コンテンツの適用	166
グリッド・セルに指定されている場合の関連コンテンツの結果の例	169
リポジトリの複数のレポートやグリッドの関連コンテンツ・サーバーの変更	170
関連コンテンツへのリンクの除去	170
関連コンテンツのプロパティの変更	171
「関連コンテンツのプロパティ」ダイアログ・ボックス	171
関連コンテンツ・リンクの説明の指定	172
Smart View for Office の使用方	173
第9章 レポートのプレビューと印刷	175
プレビュー時のプロンプトへの応答	175

現在のユーザーの POV 設定のプレビュー	176
プレビュー・プリファレンスの設定	176
Web ブラウザでのレポートのプレビュー	177
Reporting Studio でのレポートのプレビュー	177
レポートの印刷	177
レポート・デザイナーでの印刷について	178
位置設定	178
テキスト・ボックスの印刷	179
グリッドの印刷	179
ページ次元の見出しの印刷	179
ページのメンバーの印刷	180
ヘッダーとフッターの印刷	180
第 10 章 レポートのフォーマット	181
テキスト・ボックスのフォーマット	181
テキスト・ボックスのフォントの指定	181
テキスト・ボックス内のテキストの配置	182
テキスト・ボックスの枠線と網掛けの設定	183
グリッドのフォーマット	183
グリッドの拡大表示	184
フォーマットのヒント	184
グリッド内の数値のフォーマット	184
行、列、グリッドの非表示	195
非表示の行や列での抑制の評価の制御	195
行、列、ページのソート	196
条件付きフォーマットについて	198
グリッドへの条件付きフォーマットの適用	201
条件付きフォーマットの追加	205
条件付きフォーマットの順序の変更	205
条件付きフォーマットの削除	206
行の高さと列の幅の変更	206
複数のセルのマージ	207
条件付き抑制	208
条件付き抑制の動作	208
条件付き抑制の基本オプションの使用	209
条件付き抑制の詳細設定オプションの使用方法	210
条件付き抑制の削除	214
イメージのフォーマット	214
ページ設定の変更	215

第 11 章 関数の使用方法	219
算術関数	220
引数	221
テキスト関数	226
テキスト関数に関する考慮事項	226
Current(Cur)キーワード	228
関数一覧	236
Abs	236
Annotation	237
Average	239
AverageA	240
CalcStatus	241
CellText	242
AllRows/AllCols キーワードを使用した CellText 関数	243
CellText 関数と MemberOverride	243
Count	246
CountA	247
DataSource	247
Date	249
Difference	252
Eval	253
Footnote	253
GetCell	255
GetHeading	256
GridDimension	258
HFMCurrency	258
ListOfCellDocuments	260
IfThen、If	261
条件文に関する注意事項	264
複合条件	264
Max	265
MemberAlias	265
MemberDescription	266
MemberName	268
MemberProperty	269
MemberQualifiedName	270
Min	272
Mod	272
Page	273

PageCount	273
PercentOfTotal	274
Pi	275
PlanningAnnotations	275
注釈の区切りの指定	277
ProcessManagementStatus	278
Product	279
Random	279
Rank	280
ReportAuthor	282
ReportCreated	282
ReportDesc	283
ReportFolder	283
ReportModified	284
ReportModifiedBy	285
ReportName	285
ReportRunBy	286
RetrieveValue	286
Round	286
Sqrt	287
Sum	287
Truncate / Trunc	288
Variance / Var	289
Oracle Essbase データベース接続を使用した場合の計算結果	290
Planning 詳細データベース接続を使用した場合の計算結果	290
Financial Management データベース接続を使用した場合の計算結果	291
Variance 関数の仕組み	291
例	291
関連項目	292
VariancePercent / VarPer	292
Oracle Essbase データベース接続を使用した場合の計算結果	293
Planning 詳細データベース接続を使用した場合の計算結果	293
Financial Management データベース接続を使用した場合の計算結果	293
VariancePercent 関数の仕組み	294
例:	294
式での算術演算子の使用	295
式での算術オペランドの使用	296
計算の順序	297

第 12 章 エクスプローラのリポジトリの管理	299
フォルダの作成	299
リポジトリ内のオブジェクトの複製	300
レポート・オブジェクトのフィルタ	300
リポジトリの項目の切り取り、コピー、貼付け	301
データベース接続の管理	301
リポジトリのオブジェクトとレポート・オブジェクトのエクスポート	301
レポート・オブジェクトのリポジトリへのインポート	301
電子メールによるレポートへのリンクの送信	302
リポジトリのアイテムの削除	302
リポジトリ内のレポートとレポート・オブジェクトのデータベース接続の変更	302
レポートのデータベース接続の変更	303
リポジトリのオブジェクトのセキュリティの管理	303
第 13 章 バッチ処理の使用方法	305
第 14 章 ブックとスナップショット・ブックの操作	307
第 15 章 Financial Reporting の管理情報	309
非 ASCII ユーザー・アカウントのサポート	309
POV の管理	309
ユーザーの POV ユーティリティの使用方法	310
Financial Reporting の初期ユーザー・プリファレンスの定義	313
レポート・サーバーのタスク	314
計算の最大繰返し回数の指定	314
ファイアウォール環境またはポート競合を解決するための Financial Reporting TCP ポートの割当て	315
NAT を実行するデバイスからのサーバー・コンポーネントへのアクセス	316
Oracle Essbase ポート	317
Oracle Essbase ポートと接続の違い	317
スケジューラのコマンド・ライン・インタフェース	320
バッチ入力ファイルの作成	320
コマンド・ラインからのバッチの起動	321
外部スケジューラを使用したバッチのスケジュール	321
パスワードのエンコード	321
属性の変更	322
バッチ入力ファイルの XML タグ・リファレンス	323
BATCH_JOB_OBJECT - ノード・タグ	324
RUN_OPTIONS - 子ノード・タグ	324

NOTIFICATION/EMAIL - 子ノード・タグ	324
JOB_STATUS - 子ノード・タグ	324
JOB_OBJECT - 子ノード・タグ	325
DATA_SOURCE_USER_CREDENTIALS - 子ノード・タグ	325
HR_USER_CREDENTIALS - 子ノード・タグ	325
OUTPUT_OPTIONS - 子ノード・タグ	325
CHILD NODE - HTML	325
CHILD NODE - PDF	325
CHILD NODE - SAVE_AS_SNAPSHOT	326
CHILD NODE - PRINT	326
USER_POV - 子ノード	326
ADM プロパティ値の最大長の増加	326
Microsoft Word テンプレート	327
注釈でのセル・テキスト、プランニング・ユニットの注釈、および Financial Reporting ドキュメントの表示	329
付録 A. プロパティ・シートのヘルプ	331
レポートのプロパティ	331
グリッドのプロパティ	332
グリッドのプロパティ - 全般カテゴリ	332
グリッドのプロパティ - 抑制カテゴリ	334
グリッドのプロパティ - 位置カテゴリ	334
ページのプロパティ	335
見出し行と見出し列のプロパティ	336
行と列のプロパティ	337
セルのプロパティ	339
テキストの行と列のプロパティ	339
テキスト・セルのプロパティ	340
チャートのプロパティ	341
イメージのプロパティ	342
テキストのプロパティ	342
行と列のテンプレートのプロパティ	344
付録 B. よくある質問	345
ユーザーの POV のリストにある次元を変更しても、グリッドに影響がないのはなぜですか?	345
グリッドの POV がレポート・デザイナーのワークスペースに表示されないのはなぜですか?	346
ワークスペースを使用しているユーザーは、どのようにしてグリッドの POV に次元が設定されていることを確認できますか?	347

ユーザーの POV を変更した場合に、グリッドの行、列、またはページの軸で 選択したメンバーに変更が反映されるようにするには、どのようにレポート を設計すればよいですか?	347
なぜブックの POV が必要なのですか?	347
レポート・メンバー選択とは何ですか?	348
レポート・メンバー選択を「レポートの POV」と呼ばないのはなぜです か?	348
なぜバッチの POV が必要なのですか?	348
付録 C. 通貨一覧	349
用語集	351
索引	377

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1



Oracle User Productivity Kitの 使用

Oracle User Productivity Kit (UPK)が配置されていて、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace が管理者によって UPK Player パッケージ用の有効な URL で構成されている場合、ユーザーは Oracle Enterprise Performance Management System の UPK コンテンツにアクセスできます。UPK の構成の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide の Workspace サーバーの設定に関する項、およびアプリケーション・サポート・ガイドの Oracle User Productivity Kit に関する項を参照してください。

注： 事前に作成された UPK コンテンツを使用できます。Oracle.com で入手可能な Oracle Enterprise Performance Management System の UPK について記載されたデータ・シート <http://www.oracle.com/us/products/applications/tutor-upk/064788.html> を参照してください。Oracle Hyperion Financial Management および Oracle Hyperion Planning モジュールには、Oracle Hyperion Smart View for Office および Oracle Hyperion Financial Reporting Studio の適切なコンテンツが含まれています。Financial Management および Planning は、コンテキスト依存方法での UPK コンテンツの起動に対応しています。Smart View または Reporting Studio から起動された UPK コンテンツでは、コンテキストに対してフィルタ処理されていない完全なプレーヤ・パッケージ・アウトラインが起動されます。Reporting Studio および Smart View ユーザーは、Oracle Hyperion Smart View for Office または Reporting Studio コンテンツのみを参照する役割フィルタを使用できます。

▶ UPK のヘルプを開くには:

1 次のいずれかのアクションを行います:

- 「ヘルプ」メニューを選択し、次に「Oracle User Productivity Kit」を選択します。
- 「ヘルプ」ツール・バーの「UPK」をクリックします。
- ダイアログ・ボックスの「ヘルプ」をクリックし、次に「ヘルプ」ツール・バーの「UPK」をクリックします。

2 オプション: ダイアログ・ボックスを開いた場合、作業完了時にダイアログ・ボックスを閉じます。

2

Financial Reporting スタート・ガイド

この章の内容

このリリースでの用語.....	20
Financial Reporting コンポーネント.....	20
Studio ワークスペースでのナビゲート.....	24
設計に関する考慮事項.....	25
Financial Reporting の基本的なタスク.....	29
ツールバー.....	34
メニュー.....	36
ショートカット・メニュー・コマンド.....	41
エラー・メッセージ.....	44

Oracle Hyperion Financial Reporting は、分析データを設計してグラフィック表示する、強力なツールです。資金管理レポート、損益計算書、貸借対照表などの従来の財務諸表のフォーマットを設計できます。また、テキストやグラフィックを含む財務データまたは分析データの従来とは異なるフォーマットを設計することもできます。

Financial Reporting はオブジェクト指向のグラフィック・レポート・レイアウトを使用します。オブジェクト指向のグラフィック・プログラムを使用した経験にかかわらず、レポートを簡単に設計できます。テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどのレポート・オブジェクトを使用してレポートを設計します。同じレポート・オブジェクトを複数のレポートで使用できます。

注： Web アプリケーションの配置場所が変更されました。ドキュメントのこの場所への参照はすべて次のように更新されます。変更前: `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/domains/domainName` 変更後: `EPM_ORACLE_INSTANCE/domains/domainName` ここで、`domainName` は WebLogic ドメインの名前です。

注： Web アプリケーションに関する ODL のログの場所が変更されました。ドキュメントの参照はすべて次のように更新されます。変更前: `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/diagnostics/logs/` 変更後: `EPM_ORACLE_INSTANCE/domains/EPMSYSTEM/servers/serverName/logs` ここで、`serverName` は WebLogic 管理対象サーバーの名前です。

注： このリリースの製品ガイドでは、サード・パーティ製品のリリース番号またはバージョン番号への参照は無視してください。システム要件については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックスを確認してください。これは http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html (Business Intelligence 内)にあります。

このリリースでの用語

Financial Reporting Studio と Web クライアントを区別するために、このガイドでは次の用語を使用します。

- このガイドで、Reporting Studio の「ワークスペース」は、「Studio ワークスペース」と表記します。Reporting Studio では、「ワークスペース」は、「レポート・デザイナー・ワークスペース」を意味します。Web クライアントは EPM Workspace と示します。
- このガイドで、Reporting Studio の「エクスプローラ」は「Studio エクスプローラ」と表記します。Web クライアントと同等のものは「エクスプローラ」を意味します。

注： このガイドには、Reporting Studio で実行できる機能の詳細情報が記載されています。また、Financial Reporting ワークスペースで実行できる追加機能についても簡単に説明しています。ワークスペースで実行できる Financial Reporting 機能の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

Financial Reporting コンポーネント

Financial Reporting は、Reporting Studio、EPM Workspace またはその両方にアクセスできる多数のコンポーネントから構成されています。

- レポート・デザイナー - Reporting Studio 内。レポート・オブジェクト、レポートまたはスナップショット・レポートの作成、編集または削除を行うことができます。
- エクスプローラ
 - Reporting Studio 内。フォルダを開いたり、フォルダの作成、保存および削除を行ったり、レポート・オブジェクト、レポートおよびスナップショット・レポートを保管したりできます。
 - Financial Reporting ワークスペース内。保管されているファイルを開いたり、フォルダの作成、ファイルのインポートとエクスポート、さらに電子メールからフォルダ、レポートおよびスナップショット・ブックへのリンクの設定ができます。
- ブック・エディタ - Financial Reporting ワークスペース内。複数のレポートからブックを作成する機能を備えています。このブックは、ブックまたはスナップショット・ブックとして保存できます。

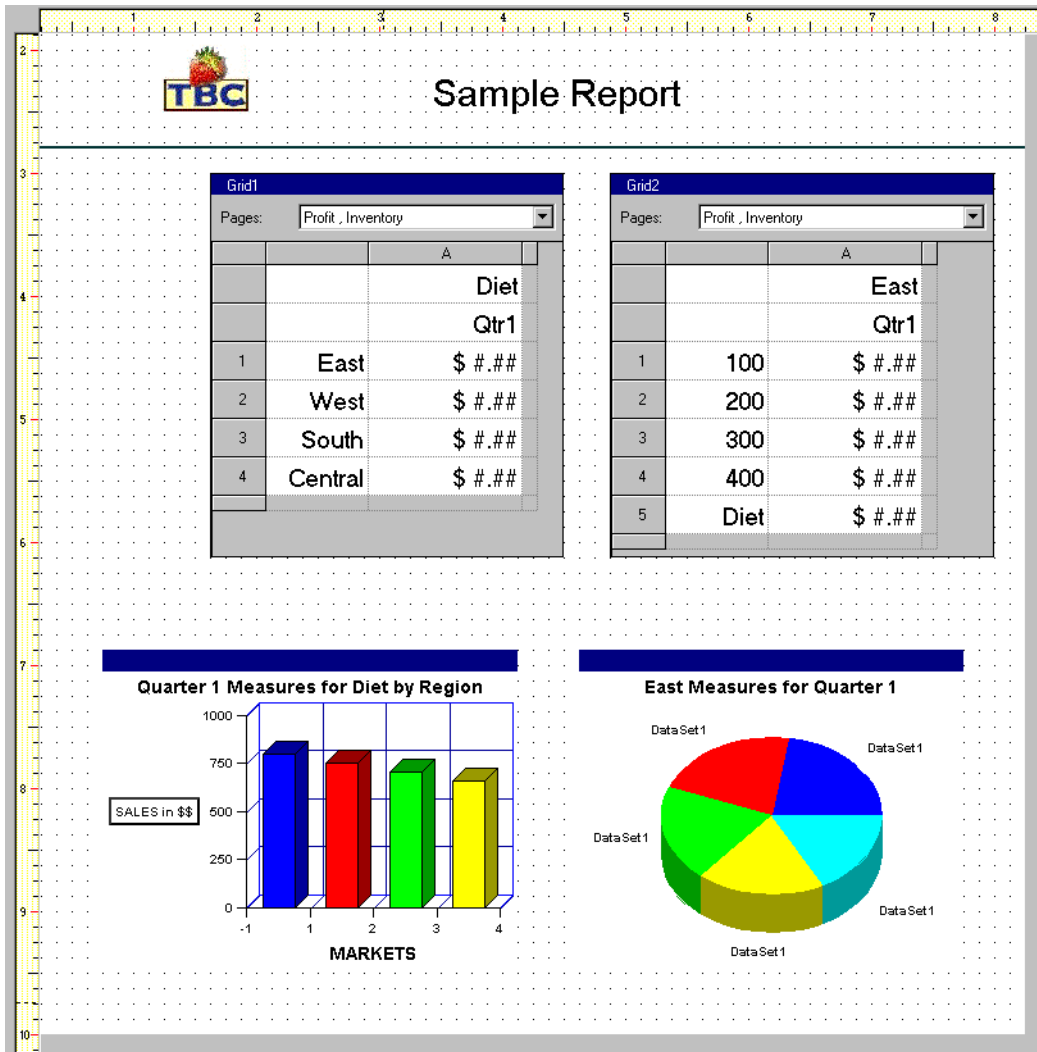
- スケジューラ -Financial Reporting ワークスペース内。バッチをスケジュールしたり、後で処理するようスケジュールされたバッチのステータスを確認したりできます。
- バッチ・エディタ - Financial Reporting ワークスペース内。バッチ・ジョブに対するオブジェクトの追加と除去、バッチ処理のスケジュール、バッチ処理後にバッチを削除するかどうかの指定を行うことができます。
- ワークスペース - 実行できるタスクは、ユーザーの権限によって異なります。
 - Reporting Studio 内 - レポート設計者またはグローバル管理者は、デザイン上の Studio ワークスペースでレポート・オブジェクト、レポートまたはスナップショット・レポートの作成、編集または削除を行うことができます。また、Studio エクスプローラでレポートとレポート・オブジェクトを操作できます。
 - EPM Workspace - レポートのブックの作成、バッチ処理のスケジュールの設定、バッチの表示および編集を行うことができます。表示権限を持つユーザーは、レポートを表示したり、ドキュメントを Microsoft Word、Microsoft Excel および Microsoft PowerPoint にエクスポートしたりすることができます。EPM Workspace の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

Financial Management および Oracle Essbase からデータを取得してフォーマットを行うレポートを設計および表示できます。

注： Financial Reporting のこのリリースでは、SAP BW および Microsoft SQL Server Analysis Services (SSAS)をデータ・ソースとして使用することはサポートされていません。

サンプル・レポート

次の図に、Reporting Studio で作成したサンプル・レポートを示します。このサンプル・レポートは、イメージとタイトルのあるヘッダー、および2つのグリッドとチャートを使用して設計されています。チャートは、前述のグリッドにあるデータを参照しています。



レポートのコンポーネント

次の表には、Reporting Studio でレポートを設計する場合に使用できるコンポーネントを示します。レポートのコンポーネントには、グリッドとチャート、ヘッダーとフッター、グリッドの行、列、およびセルなどのレポート・オブジェクトがあります。

コンポーネント	説明
ヘッダー	レポートの各ページの一番上にあるテキストを表示できる領域。ヘッダーには、別のレポート・オブジェクトを追加することもできます。
テキスト・ボックス	テキスト、またはレポートの設定、データの値や POV、次元のメンバーなどを取得する関数を格納するレポート・オブジェクト。
グリッド	行、列およびページ軸にデータを取得するレポート・オブジェクト。
チャート	指定されたグリッドのデータを表示するレポート・オブジェクト。チャートは、グリッド内のデータのグラフィカルな表現です。





コンポーネント	説明
イメージ	グラフィック・ファイルまたはイメージ・ファイルのあるレポート・オブジェクト。使用可能なフォーマットは次のとおりです: Graphics Interchange Format (.gif)、Joint Photographic Experts Group (.jpg)、アイコン(.ico および cur)、および Windows ビットマップ(.bmp)。イメージは、レポートの本文、およびヘッダーまたはフッターに追加できます。 注: ビットマップ(.bmp)イメージを使用すると、レポートのサイズが非常に大きくなるため、パフォーマンスが低下することがあります。
フッター	レポートの各印刷ページが一番下にテキストを表示できる領域。フッターには、イメージを追加することもできます。
行	グリッド内の情報の水平表示。行には、テキスト、データ、または計算からの派生データを使用できます。グリッド内の個々の行をフォーマットできます。
列	グリッド内の情報の垂直表示。列には、テキスト、データ、または計算からの派生データを使用できます。グリッド内の個々の列をフォーマットできます。
ページ	グリッド・レポート・オブジェクト上の 3 番目の交差参照。ページでは、追加次元の複数のメンバーについて行と列のデータを繰り返します。ページ上のメンバーを定義して、レポートを再実行せずに、様々なビューでデータを表示できます。
セル	グリッドの行、列、ページおよび POV の交差。 注: グリッドの個々のセルをフォーマットできます。

レポート・オブジェクト

レポート・オブジェクトは、Reporting Studio でレポートを設計するための基本的なコンポーネントです。レポート・オブジェクトには、テキスト・ボックス、グリッド、イメージおよびチャートが含まれます。ツールバー・ボタンとメニュー・コマンドを使用して、レポート・オブジェクトをレポートに追加できます。

レポート・オブジェクトの挿入に使用するツールバー・ボタンを次の表に示します。新しいレポート・オブジェクトまたは以前に保存したレポート・オブジェクトを挿入できます。

表 1 レポート・オブジェクト・ツールバーのボタン

ボタン	説明
	テキスト・ボックスを挿入します。
	グリッドを挿入します。
	チャートを挿入します。
	イメージを挿入します。

Studio ワークスペース

Studio ワークスペースは、レポート・デザイナーで新規または既存のレポートを開いて、リポジトリにアクセスできる領域です。Studio ワークスペースは、Reporting Studio にログオンしたときに最初に表示される領域です。Reporting Studio エクス

プローラおよびデザイナーにアクセスできるのは、レポート設計者およびグローバル管理者だけです。権限とセキュリティの詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Security Configuration Guide を参照してください。

レポート・デザイナー

レポート・デザイナーは、Reporting Studio デザイナー領域でレポートを作成および編集できます。レポート・データは、印刷、印刷プレビューまたは Web プレビューで表示できます。

Reporting Studio デザイナーで、ツールバー・ボタンまたはメニュー・コマンドを選択して、レポートにレポート・オブジェクトを追加できます。次に、レポート・オブジェクトのプロパティ・シートを使用して、各レポート・オブジェクトをカスタマイズできます。たとえば、グリッドを選択し、「グリッドのプロパティ」プロパティ・シートを使用して次元の指定、メンバーの選択、および見出しオプションの指定を行うことができます。プロパティ・シートの詳細は、[24 ページの「プロパティ・シート」](#)を参照してください。

レポート・オブジェクトを選択し、右クリックしてショートカット・メニューを表示することもできます。使用可能なショートカット・コマンドのリストの詳細は、[41 ページの「ショートカット・メニュー・コマンド」](#)を参照してください。

プロパティ・シート

プロパティ・シートを使用すると、現在選択されているレポート・コンポーネントの様々なオプションを設定できます。設定したプロパティ・オプションは、選択したレポート・オブジェクトに自動的に適用されます。

プロパティ・シートの機能は、選択したカテゴリによって異なります。使用可能なカテゴリは、選択したレポート・コンポーネントのタイプによって異なります。各カテゴリには、選択したレポート・コンポーネントに設定できる特性の別のセットが表示されます。

デフォルトでは、プロパティ・シートはデザイナーの右側に表示されます。プロパティ・シート・ウィンドウは非表示にすることができます。

プロパティ・シートを非表示にするには、「表示」を選択し、プロパティ・シートの選択を解除します。

プロパティ・シートを表示するには、「表示」、プロパティ・シートの順に選択します。

各プロパティ・シートの詳細は、[付録 A](#) を参照してください。

Studio ワークスペースでのナビゲート

ログオンすると、Studio エクスプローラ・ページが表示されます。このページには、Reporting Studio リポジトリが表示されます。ページの上部にあるメニュー・コマンドを選択するか、ツールバー領域のショートカットを使用します。右クリックすると、ショートカット・メニュー・アイテムが表示されます。

メニュー・バーの「ファイル」、「新規作成」、「レポート」の順に選択して、レポートを作成します。

使用可能なメニュー・オプションの詳細は、[36 ページの「メニュー」](#)を参照してください。ツールバーの詳細は、[34 ページの「ツールバー」](#)を参照してください。ショートカットの詳細は、[41 ページの「ショートカット・メニュー・コマンド」](#)を参照してください。

ワークスペースの機能

Reporting Studio の機能に加えて、ワークスペースは、レポート・デザイナーに拡張機能を提供します。たとえば、レポート、ブック、グラフィックなどのリポジトリ・オブジェクトを開くことや、コピー、削除、移動、インポート、エクスポートおよび名前の変更を行うことができます。フォルダを作成することや開くことに加えて、フォルダの削除、インポート、エクスポートおよび名前の変更を行うことができます。レポートおよびブックを HTML フォーマットまたは PDF フォーマットでプレビューできます。列フィールド・ヘッダーをクリックして、リポジトリ内のアイテムをソートすることもできます。さらに、次のメニュー・コマンドも使用できます。次のトピックの詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace User's Guide を参照してください。

- アクセス権
- プリファレンス
- データベース接続の変更とデータベース接続マネージャ
- リンクの電子メール送信
- 表示するアイテムのタイプ
- Hyperion System 9 Shared Servicestm

バッチ・エディタ、ブック・エディタ、バッチ・スケジューラ

ワークスペースには、ブックおよびバッチを操作する機能が含まれています。バッチを作成、編集、および保存できます。バッチは、ワークスペースのバッチ・スケジューラ機能を使用してスケジューラすることもできます。ブックも作成、編集、および保存できます。メンバー選択の詳細設定には、Reporting Studio に似たメンバー関数(Children や Descendants など)およびリストなどの機能があります。バッチ、ブック・エディタ、およびバッチ・スケジューラの詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace User's Guide を参照してください。

設計に関する考慮事項

レポート・パフォーマンスは、クライアントごとに異なります。許容できるパフォーマンスもクライアントによって異なります。たとえば、ピーク時以外にレポートをバッチで実行する際、翌営業日までに処理を完了する必要がある場合があります。また、1 時間ごとにデータが更新されるときに、秒単位でレポート出力を行うレポート・パフォーマンスが求められる場合もあります。

Planning 詳細データベース接続の使用

Hyperion System 9 Planning™ Planning 詳細 ADM ドライバをインストールした後、データベース接続として Planning 詳細を選択できます。Planning 詳細 ADM ドライバは、サポート詳細、プランニング・ユニットの注釈、メタデータ・フィルタなどの機能を提供するデータ・ソースとして最適化されています。これらの Planning 機能をレポート・グリッドで使用しない場合は、レポートのデータベース接続として Oracle Essbase を選択します。詳細は、126 ページの「Planning のサポート詳細の表示」および275 ページの「PlanningAnnotations」を参照してください。

その他の考慮事項

- Planning 詳細では、属性次元は次元としてサポートされません。(レポートに属性値を表示する場合は、MemberProperty テキスト関数を使用してください。)
- Planning 詳細データ・ソースを使用している場合、Hsp_Rates を次元として使用することはできません。
- レベル 0 以外のレベルを使用するメンバー選択はサポートされません。

Workforce Planning スマート・リストのサポート

スマート・リストは、メンバーに割り当てられた属性のような値で、実際の割当てでは、メンバーの Oracle Essbase キューブにデータとして保管されます(0、1、2、3、4 など)。Planning リポジトリは、この数値をテキスト文字列に変換します(0="定額償却", 1="倍額定率"など)。

Oracle Hyperion Financial Reporting のスマート・リストのサポートの例:

- Planning データベース内でスマート・リストを含むセルを参照するグリッドは、数値ではなく文字列値を戻します。結果には、数値ではなく文字列が常に表示されます。
- GetCell() というテキスト関数がスマート・リストを含むセルを参照すると、数値ではなく文字列値が戻されます。
- 数値比較演算子および文字列比較演算子(equals、startswith など)を使用すると、条件付きフォーマットおよび条件付き抑制でセル値オペランドを含む任意のセル(データ、式、テキスト)を選択できます。たとえば、条件付き抑制では、スマート・リスト文字列を含むデータ・セルを参照して、「セルの値 B6 が ABC で始まる場合に行を抑制」などの条件付き抑制を適用できます。
- 条件付きフォーマットおよび条件付き抑制は、Workforce Planning またはスマート・リスト・テキスト・データに適用できます。
- スマート・リストの文字列を Oracle Hyperion Planning から取得すると、文字列値(「Meets」など)および数値が格納され使用できるようになり、次の機能が可能になります。
 - スマート・リスト文字列値またはその基盤となる数値のいずれかに基づいて、条件付き抑制および条件付きフォーマットを設定できます。

- 数値のデータ・セル値と組み合わせたスマート・リスト値を持つ行または列をソートできます。このとき、スマート・リストの数値は他の数値のセル値と比較して使用されます。
- セルへの式参照を通じてスマート・リスト数値にアクセスできます。スマート・リスト・セルへの式参照はすべて、スマート・リスト数値に対して機能します。

Oracle Essbase と Planning 詳細のデータベース接続

Interactive Reporting データベース接続から Planning 詳細データベース接続(またはその逆)にレポートを変更する場合は、データ・ソース参照のみが変わるので、いくつかの制約があります。詳細は、[303 ページの「レポートのデータベース接続の変更」](#)を参照してください。

データ・クエリー・展開データ・セグメントと単一データ・セグメント

データ・セグメントは、データベースからデータを取得する行または列です。展開データ・セグメントは展開可能な行または列なので、結果のグリッドは表示するときに複数の行または列に展開します。展開データ・セグメントでは、子または子孫などの関数を使用されることがあります。単一データ・セグメントは、1つの行または列としてビューアに表示される1つの行または列です。

通常、同じグリッドで展開データ・セグメントと単一データ・セグメントを使用できますが、大量のデータを含むグリッドを設計する場合は、単一データ・セグメントではなく展開データ・セグメントを使用することを検討してください。展開データ・セグメントは、単一データ・セグメントよりもパフォーマンスの点で優れています。しかし、複数の異なるデータ行または列に詳細なフォーマットを行う場合は、単一データ・セグメントを使用します。

設計に関する考慮事項

レポートを設計する前に、次のことを検討してください。

- データソース・アプリケーションが、すべてのレポートに必要な階層と計算をサポートするように設計されているかどうか。
- レポートの主な目的は何か。
- レポートのエンド・ユーザーは誰か。
- レポートを生成する頻度と、生成するユーザーの数はどのくらいか。
- データの取得とレポートの生成にかかる時間はどのくらいまで許容できるか。
- 抑制される前に、レポート・クエリーを実行するセルの数はどれくらいか。

欠落ブロックの抑制を使用したレポートの設計に関する Planning の考慮事項

行または列に疎次元が含まれる場合、欠落ブロックの抑制を使用してパフォーマンスを改善できます。欠落ブロックの抑制を使用すると、行に大きな疎次元を配置して、クエリーの密度が低い場合に応答時間を改善できます。データがあるブロックのみ取得されます。たとえば、このオプションを使用するとき、行に数千のメンバーを含む従業員次元を配置し、ページまたは POV にエンティティを配置できます。次に、選択したエンティティの従業員だけを取得できます。

欠落ブロックの抑制を使用すると、多くの行(90%以上)を抑制するときに欠落データの抑制のパフォーマンスが向上します。抑制する行が少ない場合または抑制する行がない場合は、欠落ブロックの抑制設定によってパフォーマンスが低下することがあります。また、一部の抑制されたブロックでは、動的計算メンバーが無視されることがあります。

動的レポートの設計に関する注意事項

動的レポートを設計する場合は、次のことに注意してください。

- 展開データ・セグメントを使用して、パフォーマンスを最適化する:
 - 関数は、別々の行や列に配置されない展開データ・セグメントで使用する
 - 複数メンバー選択は、別々の行や列に配置されない展開データ・セグメントで使用する
 - フォーマットや計算が必要な場合のみ、単一データ・セグメントを使用する
- 効率的な式を作成する:
 - できるかぎり、セルではなく、行や列の式を使用する
 - 参照プロパティを使用する
 - 軸の相互参照ではなく、セルの参照を使用する
 - 式で不要なカッコを除去する
- レポートをグリッド・オブジェクトに限定しない:
 - 特定の領域をハイライトするテキスト・ボックスに関数を追加する
 - レポートのデータのグリッドを非表示にして、グラフィックスのみをハイライトする
- レポートのテンプレートを作成する:
 - POV とプロンプト関数を活用する
 - 現在の POV とプロンプト関数を使用して、一度設計する
 - グリッド、ユーザー、ブック、およびバッチの POV の使用を覚える
- 再使用可能なオブジェクトおよび行と列のテンプレートを作成する。テキスト、イメージ、グリッド、チャート・オブジェクト、および行と列のテンプレートは、複数のレポートで再使用できます。

Financial Reporting の基本的なタスク

Reporting Studio の基本的なタスクは次のとおりです。

- 29 ページの「Reporting Studio の起動」
- 30 ページの「レポートの設計」
- 32 ページの「既存のレポートを開く」
- 33 ページの「スナップショット・レポートの表示」
- 33 ページの「ブックの作成」
- 33 ページの「バッチの作成」
- 33 ページの「プリファレンスの設定」
- 33 ページの「パスワードの変更」
- 34 ページの「Studio エクスプローラまたはデザイナを閉じる」
- 34 ページの「Reporting Studio の終了」

Reporting Studio の起動

▶ Reporting Studio を起動するには:

- 1 次のいずれかのアクションを行います:
 - デスクトップの「Reporting Studio」アイコンをダブルクリックします。
 - Windows の「スタート」メニューから、「プログラム」、「Hyperion」、「Reporting & Analysis」、「Financial Reporting」、「Studio」の順に選択します。
- 2 「Hyperion のログオン」ダイアログ・ボックスが表示されたら、ユーザー ID、パスワードを入力し、レポート・サーバーを選択します。「OK」をクリックします。

Web ブラウザからの Reporting Studio の起動

▶ Web ブラウザから Reporting Studio を起動するには:

- 1 リポジトリ内のレポートをハイライト表示し、「ファイル」を選択します。
- 2 「ファイル形式を指定して開く」、「Studio プレビュー」の順に選択します。
選択したレポートが Reporting Studio に表示されます。
- 3 **オプション:** レポートを開かずに Reporting Studio を起動するには、EPM Workspace へログオンし、「ツール」、「Financial Reporting Studio の起動...」の順に選択します。

注: Financial Reporting Studio がインストールされていることを確認してください。Financial Reporting Studio をインストールするには、「ツール」、「インストール」、「Financial Reporting Studio」の順に選択します。ダウンロードが完了したらブラウザをすべて終了し、Oracle Hyperion Financial Reporting Studio インストーラを管理者として実行します。

注： Reporting Studio は、Web ブラウザから Reporting Studio でレポートを開くマシンにインストールする必要があります。

ワークスペースへのログオン

▶ ワークスペースにログオンするには:

- 1 Web ブラウザの「アドレス」ボックスに次の URL を入力します。大文字と小文字が区別されることに注意してください。

```
http://  
webserver:port number  
/workspace/index.jsp
```

- 2 ユーザー名とパスワードを入力します。
- 3 「ログオン」をクリックします。ワークスペースが表示されます。

レポートの設計


Reporting Studio デザイナで空白のレポート・レイアウトを使用し、レポートのコンテンツ(グリッド、チャート、イメージ、テキスト・ボックス、ヘッダー、フッターなど)を指定してレポートを設計できます。

▶ レポート・デザイナーでレポートを設計するには:

- 1 「ファイル」、「新規」、「レポート」の順に選択します。
- 2 レポートにデータを追加するには、「挿入」、「グリッド」の順に選択し、デザイナーの Studio ワークスペースで、グリッドを入れる領域をドラッグします。
- 3 「データベース接続の選択」ダイアログ・ボックスで、次のアクションを行います:
 - ドロップダウン・リストからデータベース接続を選択し、「OK」をクリックします。
 - 「新規データベース接続」ボタンをクリックして、新しいデータベース接続を作成します。「データベース接続のプロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

1. 「データベース接続名」テキスト・ボックスに、接続名として固有の名前を入力します。
2. 「タイプ」ドロップダウン・リストから、データ・ソースのタイプを選択します。

注： Planning のデータ・ソースを使用してレポートを設計する場合は、グリッドにサポート詳細や Planning ユニットの注釈が含まれている場合にかぎり、Planning 詳細をデータ・ソースとして選択します。それ以外の場合は、Oracle Essbase をデータ・ソース・タイプとして選択します。

3. Oracle Essbase または Financial Management データ・ソースの場合、「サーバー」テキスト・ボックスにデータベース・サーバー名を入力します。Essbase サーバー名の入力の詳細は、[32 ページの「Essbase サーバーへの各種アクセス方法」](#)を参照してください。
4. 「ユーザー ID」にユーザー ID を入力します。
5.  をクリックして、アプリケーション/カタログおよびデータベースを選択します。
6. Planning Detail データ・ソースの場合は、「プランのタイプ」テキスト・ボックスにプランのタイプの名前を入力します。

注： データベース/キューブの検索は、アプリケーション/カタログ検索ボタンと共用です。アプリケーション/カタログ検索ボタンを使用すると、アプリケーションまたはカタログと、対応するデータベースまたはキューブのツリー表示が表示されます。アプリケーションは親として、データベースは子としてリストされます。データベースに関連付けられていないデータ・ソースでは、アプリケーションのみがリストされます。

4 「OK」をクリックします。

Essbase サーバーへの各種アクセス方法

「データベース接続マネージャ」で、「サーバー」フィールドを使用すると、様々な方法で Essbase サーバーにアクセスできます。2つのモード(埋込みモードまたは3層 APS モード)のいずれかを使用してアクセスできます。3層 APS モードの場合、Financial Reporting で、EssbaseJAPIServer プロパティを使用して JConsole の APS サーバー・マシン名を定義します。すべての API 呼出しはそのサーバーを介して送信されます。

- 両方のモードで、Essbase サーバーを直接指定します - Host[:port]。たとえば、EssServer1 です。
- 両方のモードの Essbase クラスタ名では、次のいずれかの行えます:
 - Essbase クラスタ名を直接指定します。たとえば、EssCluster1 です。Financial Reporting では、実行時にクラスタ名をサーバー名に内部的に解決します。
 - Essbase クラスタ名を含む APS URL を入力します。たとえば、http://host:port/aps/Essbase?ClusterName=EssCluster1 です。ここで、host:port は Essbase クラスタ名を解決するための APS サーバーです。フェイルオーバーは Essbase クラスタ内の Essbase サーバー全体でサポートされています。
- 3層モードでのみ、APS クラスタ名を入力できます。たとえば、APSCluster1 です。

APS クラスタ名およびメンバーは Essbase 管理ユーティリティで定義されています。この方法は、APS クラスタ内の Essbase サーバー全体でフェイルオーバーおよびロード・バランシングをサポートします。

既存のレポートを開く

デザイナまたは Studio エクスプローラで既存のレポートを開き、レポート・デザインを変更したり、レポートに最新データを表示したりすることができます。レポートを開いたり表示したりすると、データがリフレッシュされます。スナップショット・レポートとして保存するときには、レポートとともに静的データを保存できます。

▶ デザイナで既存のレポートを開くには:

- 1 「ファイル」を選択してから「開く」を選択します。

- 2 「開く」ダイアログ・ボックスでフォルダをダブルクリックするか、フォルダ名をハイライトして「開く」をクリックします。

フォルダ内のすべてのレポートのリストが表示されます。

- 3 開くレポートを選択して、「開く」をクリックします。

▶ Studio エクスプローラで既存のレポートを開くには:

- 1 Studio エクスプローラでフォルダをダブルクリックして、フォルダ内のすべてのレポートを表示します。
- 2 レポートをダブルクリックして開きます。

スナップショット・レポートの表示

静的レポートを表示したり印刷したりするには、スナップショット・レポートを表示します。スナップショット・レポートは、Studio エクスプローラのリポジトリから開くことができます。

▶ スナップショット・レポートを表示するには、リポジトリから1つ以上のスナップショット・レポートを選択し、「ファイル」、「印刷プレビュー」の順に選択します。スナップショット・レポートの表示または印刷方法の詳細は、[第9章「レポートのプレビューと印刷」](#)を参照してください。

ブックの作成

ブックは、ワークスペースで作成します。ブックの作成の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

バッチの作成

バッチは、ワークスペースで作成されます。バッチの作成の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

プリファレンスの設定

プリファレンスは、ワークスペースで設定します。プリファレンスの設定の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

パスワードの変更

パスワードは、ワークスペースで設定します。手順の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

Studio エクスプローラまたはデザイナを閉じる

Studio エクスプローラとデザイナのページは、次のようにして閉じることができます。

- ▶ Studio エクスプローラまたはデザイナのページを閉じるには、「ファイル」、「閉じる」の順に選択します。

Reporting Studio の終了

Reporting Studio はいつでも終了できます。保存していないレポートやバッチが開いている場合は、保存してから終了するよう促すメッセージが表示されます。

- ▶ Reporting Studio を終了するには、「ファイル」、「終了」の順に選択します。






ツールバー



ツールバーを使用すると、よく使用する機能にすばやくアクセスできます。使用できるツールバー・ボタンは、現在のウィンドウおよび選択したレポート・オブジェクトのコンテンツによって異なります。「表示」メニューを使用すると、「標準」ツールバーと「デザイナ」ツールバーの表示と非表示を切り替えることができます。

注： ワークスペースの Financial Reporting で使用可能なツールバーの機能を表示するには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

標準ツールバー










標準ツールバーには、標準の機能へのショートカットが含まれています。「表示」メニューを使用すると、標準ツールバーの表示または非表示を切り替えることができます。次の表は、標準ツールバー・ボタンを示しています。









ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「ファイル」>「新規作成」>「レポート」	「新規レポート」ボタン: Reporting Studio からレポートを作成します。
	「ファイル」>「開く」	「開く」ボタン: デザイナでレポート、スナップショット・レポートまたはレポート・オブジェクトを開きます。
	「ファイル」>「保存」	「保存」ボタン: 現在のファイルを保存します。
	「ファイル」>「エクスプローラ」	「エクスプローラ」ボタン: ファイルを開いてフォルダを作成するための、リポジトリを開きます。
	「ファイル」>「印刷」	「印刷」ボタン: 「印刷」ダイアログ・ボックスを開きます。現在のレポートまたはブックを印刷できます。

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「ファイル」 > 「印刷プレビュー」	「印刷プレビュー」ボタン: レポートの各ページがどのように印刷されるかを示します。
	「ファイル」 > 「Web プレビュー」	「Web プレビュー」ボタン: ワークスペースにレポートまたはスナップショット・レポートを表示します。

デザイナー・ツールバー

デザイナー・ツールバーには、設計機能へのショートカットが含まれています。「表示」メニューを使用すると、デザイナー・ツールバーの表示または非表示を切り替えることができます。次の表は、デザイナー・ツールバーのボタンおよびそれと同等のメニュー・コマンドを示しています。デザイナー・ツールバーは、Studio ワークスペースにのみ適用されます。

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「挿入」 > 「グリッド」	「グリッドの挿入」ボタン: レポートにグリッドを追加します。
	「挿入」 > 「テキスト」	「テキストの挿入」ボタン: レポートにテキスト・オブジェクトを追加します。
	「挿入」 > 「イメージ」	「イメージの挿入」ボタン: レポートにイメージを追加します。
	「挿入」 > 「チャート」	「チャートの挿入」ボタン: レポートにチャートを追加します。
	「挿入」 > 「行」	<p>「行の挿入」ボタン: グリッド内のハイライトした行の上に行を挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> グリッドで選択している行と同じ種類の行を挿入するには、メイン・ボタンをクリックします。 別のタイプの行(式やテキストの行)を挿入するには、矢印をクリックして、ドロップダウン・リストから行のタイプを選択します。
	「挿入」 > 「列」	<p>「列の挿入」ボタン: グリッド内のハイライトした列の左側に列を追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> グリッドで選択している列と同じ種類の列を挿入するには、メイン・ボタンをクリックします。 別のタイプの列(式やテキストの列)を挿入するには、矢印をクリックして、ドロップダウン・リストから列のタイプを選択します。
	「フォーマット」 > 「セル」 > 「フォント」タブ	「太字」ボタン: 選択したテキストを太字にします。
	「フォーマット」 > 「セル」 > 「フォント」タブ	「斜体」ボタン: 選択したテキストを斜体にします。
	「フォーマット」 > 「セル」 > 「フォント」タブ	「下線」ボタン: 選択したテキストの下に線を 1 本引きます。

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「フォーマット」 > 「セル」 > 「配置」 タブ	「左揃え」 ボタン: 選択したテキストを左に揃えます。「配置」 オプションには、「セルのフォーマット」 ダイアログ・ボックスの「配置」 タブからアクセスできます。
	「フォーマット」 > 「セル」 > 「配置」 タブ	「中央揃え」 ボタン: 選択したテキストを中央に揃えます。「配置」 オプションには、「セルのフォーマット」 ダイアログ・ボックスの「配置」 タブからアクセスできます。
	「フォーマット」 > 「セル」 > 「配置」 タブ	「右揃え」 ボタン: 選択したテキストを右に揃えます。「配置」 オプションには、「セルのフォーマット」 ダイアログ・ボックスの「配置」 タブからアクセスできます。
	「フォーマット」 > 「セル」 > 「配置」 タブ	「インデントを増やす」 ボタン: 選択したテキストのインデントを1ピクセルずつ増やします。インデント機能には、「セルのフォーマット」 ダイアログ・ボックスの「配置」 タブからアクセスできます。
	「フォーマット」 > 「セル」 > 「配置」 タブ	「インデントを減らす」 ボタン: 選択したテキストのインデントを1ピクセルずつ減らします。インデント機能には、「セルのフォーマット」 ダイアログ・ボックスの「配置」 タブからアクセスできます。
	「フォーマット」 > 「セル」	「フォーマット」 ボタン: 「セルのフォーマット」 ダイアログ・ボックスを開きます。選択した領域のフォント、フォント・サイズ、色などを指定できます。
	「フォーマット」 > 「条件付きフォーマット」	「条件付きフォーマット」 ボタン: 「条件付きフォーマット」 ダイアログ・ボックスを開きます。特定の条件を満たしているかどうかに基づいて、選択したセルにフォーマットを適用できます。
	フォーマット・ペインタ	「フォーマット・ペインタ」 ボタン: 選択したセルまたはセルの範囲の既存のフォーマットを、別のセルまたはセルの範囲に適用できます。 第10章「レポートのフォーマット」 を参照してください。

メニュー

次の項にメニューで使用できるコマンドを示します。メニューには、「ファイル」、「編集」、「表示」、「挿入」、「フォーマット」、「タスク」、「ウィンドウ」、「ヘルプ」があります。

注： ワークスペースの Financial Reporting で使用可能なメニュー・コマンドを表示するには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

「ファイル」メニュー

「ファイル」メニューは、Reporting Studio ワークスペース、レポート・デザイナー、および Studio エクスプローラで使用できます。「ファイル」メニューを使用すると、レポートを開いたり、保存したり、印刷したりできます。使用できるメニュー・オプションは、現在のウィンドウのコンテンツおよびこのメニューにアクセスする元のモジュールによって異なります。次の表に、「ファイル」メニューのコマンドを示します。

コマンド	Reporting Studio での機能
新規	レポートを作成します。
開く	デザイナーでレポート、スナップショット・レポート、またはレポート・オブジェクトを開きます。
閉じる	デザイナーまたは Studio エクスプローラで現在のレポートを閉じます。
保存	現在のレポートまたはスナップショット・レポートを保存します。
名前を付けて保存	現在のアイテムをレポートまたはスナップショットとして保存します。
オブジェクトの保存	「オブジェクトの保存」ダイアログ・ボックスを開きます。選択したオブジェクトを Studio エクスプローラに保存できます。 注： この機能は、デザイナーのみで使用できます。
印刷	「印刷」ダイアログ・ボックスを開きます。プリンタを指定してレポートを印刷できます。
ページ設定	「ページ設定」ダイアログ・ボックスを開きます。ページのサイズやマージン、およびデザイナーのワークスペースのサイズを指定できます。
印刷プレビュー	選択したレポートを印刷される状態を表示します。
Web プレビュー	ワークスペース内にレポートを表示します。レポートの表示オプションには HTML と PDF があります。
要約	「レポートの要約」ダイアログ・ボックスが開き、レポートの要約が表示されます。
レポート・サーバー情報	「レポート・サーバー情報」ダイアログ・ボックスを開き、レポート・アクティビティ、JVM のメモリー、スレッドなどのサーバー情報を表示します。
終了	Financial Reporting を終了します。

「編集」メニュー

次の表に、「編集」メニューのコマンドを示します。

コマンド	説明
削除	デザイナーでは、レポートからオブジェクトを除去します。Studio エクスプローラでは、レポート、スナップショット・レポートまたはレポート・オブジェクトを除去します。

「表示」メニュー

「表示」メニューを使用すると、ツールバー、プロパティ・シート、グリッド線の表示/非表示を切り替えたり、タイプごとにアイテムをリフレッシュおよび表示できます。また、選択したグリッドにズームのオプションを適用することもできます。次の表に、「表示」メニューで使用できるコマンドを示します。

表2 「表示」メニュー

コマンド	説明
標準ツールバー	標準ツールバーの表示と非表示を切り替えます。
リポジトリ・ツールバー	エクスプローラで、リポジトリ・ツールバーの表示と非表示を切り替えます。
デザイナ・ツールバー	デザイナ・ツールバーの表示と非表示を切り替えます。
プロパティ・シート	デザイナで、現在のプロパティ・シートの表示と非表示を切り替えます。
ガイドライン	デザイナで、ガイドラインの表示と非表示を切り替えます。
リフレッシュ	リポジトリ・ライブラリのファイル・リストをリフレッシュします。
右端で折り返す	Studio エクスプローラで、テキストを折り返して次の行に送ります。
表示するアイテムのタイプ	Studio エクスプローラでは、ファイルのタイプを選択することでリストに表示されるファイルを制限できます。使用できるファイル・タイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● すべて: すべてのファイルが表示されます。 ● レポート: レポートのみが表示されます。 ● スナップショット: スナップショット・ファイルのみが表示されます。 ● 保存したレポート・オブジェクト: 保存したレポート・オブジェクトのみが表示されます。
グリッドのズーム	グリッドで作業するときに、「グリッドのズーム」を選択すると、グリッドを Studio ワークスペースのサイズに拡大します。
Web プレビューの行と列のヘッダー	Web プレビューで行と列のヘッダーが表示されます。

「挿入」メニュー

「挿入」メニューは、デザイナで使用できます。「挿入」メニューを使用すると、新規または既存のレポート・オブジェクトを追加したり、新しい行や列をグリッドに挿入したりできます。現在のウィンドウのコンテンツに応じて使用できるメニュー・オプションが異なります。次の表に、「挿入」メニューにあるコマンドを示します。

表3 「挿入」メニュー

コマンド	説明
グリッド	レポートにグリッドを挿入します。
テキスト	レポートにテキスト・ボックスを挿入します。
イメージ	レポートにイメージを挿入します。
チャート	レポートにチャートを挿入します。

コマンド	説明
保存したオブジェクト	「保存したオブジェクトの挿入」ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログ・ボックスでは、保存済のグリッド、チャート、イメージおよびテキスト・オブジェクトをリポジトリからレポートに挿入できます。「保存したオブジェクトの挿入」ダイアログ・ボックスにある「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスを選択すると、保存したオブジェクトをソース・オブジェクトにリンクできます。
「行」>「データ」	グリッド内の挿入位置の上にデータの行を挿入します。
「行」>「式」	グリッド内の挿入位置の上に、式の行を挿入します。
「行」>「テキスト」	グリッド内の挿入位置の上に、テキストの行を挿入します。
「列」>「データ」	グリッド内の挿入位置の左側に、データの列を挿入します。
「列」>「式」	グリッド内の挿入位置の左側に、式の列を挿入します。
「列」>「テキスト」	グリッド内の挿入位置の左側に、テキストの列を挿入します。

「フォーマット」メニュー

「フォーマット」メニューは、デザイナーで使用できます。「フォーマット」メニューおよびデザイナー・ツールバーからアクセスできる「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスを使用すると、選択されているテキストまたはグリッド・オブジェクトのフォントを変更したり、行の高さや列の幅を指定したり、行や列を非表示にしたり、その他のフォーマットのオプションを設定したりできます。使用できるコマンドは、レポートが選択されているか、レポート・オブジェクトが選択されているかによって異なります。次の表に、「フォーマット」メニューで表示されるコマンドを示します。

表4 「フォーマット」メニュー

コマンド	説明
セル	「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択したセルの、数値のフォーマット、テキストの整列、フォント・オプションの変更、枠線と網掛けの指定、テキストの置換を実行できます。
条件付きフォーマット	「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログ・ボックスでは、条件付きフォーマットを適用できます。詳細は、 第10章「レポートのフォーマット」 を参照してください。
前面へ移動	レポート・オブジェクトを整理するときに、「前面へ移動」を選択して、他のオブジェクトの前面にオブジェクトを移動します。
背面へ移動	レポート・オブジェクトを整理するときに、「背面へ移動」を選択して、選択したオブジェクトの上つまり前面に他のレポート・オブジェクトを再調整します。
フォント	テキスト・オブジェクトの場合は、「フォント」ダイアログ・ボックスを開き、テキスト・オブジェクトのテキストにフォーマットを適用します。

「タスク」メニュー

「フォーマット」メニューは、デザイナーで使用できます。「タスク」メニューを使用すると、POVを設定したり、グリッド上の行や列をソートしたりできます。次の表に、「タスク」メニューで使用できるコマンドを示します。

コマンド	説明
ユーザーの POV の設定	開いているレポートで、データ・ソースの POV 設定を変更します。
データ・クエリー最適化設定	グリッドで作業しているときに、データ・クエリーの最適化オプションを設定して、指定したデータ・クエリーの効率を最適化できます。

「管理」メニュー

「管理」メニューは、ワークスペースからのみ使用できます。管理者は、「管理」メニューを使用して、ユーザーやグループの管理、レポート・サーバーの構成を実行できます。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

「ウィンドウ」メニュー

「ウィンドウ」メニューは、Studio ワークスペース、レポート・デザイナー、および Studio エクスプローラで使用できます。「ウィンドウ」メニューは、複数の Hyperion Desktop ウィンドウを重ねて表示したり、並べて表示したり、整列したり、開いている別の Hyperion Desktop ウィンドウにアクセスするために使用できます。使用できるコマンドは、現在のウィンドウのコンテンツやメニューへのアクセスを行ったモジュールによって異なります。次の表で、「ウィンドウ」メニューで使用できるコマンドを説明します。

表 5 「ウィンドウ」メニュー

コマンド	説明
重ねて表示	Hyperion Desktop で開いているウィンドウを、最後にアクセスしたファイルを一番上にして、すべて重ねて表示します。
上下に並べて表示	Hyperion Desktop で開いているウィンドウを、上下に並べて表示します。
左右に並べて表示	Hyperion Desktop で開いているウィンドウを、左右に並べて表示します。
アイコンの整列	Hyperion Desktop で最小化されているウィンドウを等間隔に整列します。

「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューは、Studio ワークスペース、レポート・デザイナーおよび Studio エクスプローラで使用可能です。「ヘルプ」メニューを使用すると、PDF 版のユーザー・ガイドであるヘルプと Financial Reporting に関する情報にアクセスできます。次の表で、「ヘルプ」メニューにあるコマンドを説明します。

表 6 「ヘルプ」メニュー

コマンド	説明
目次	オンライン・ヘルプの「目次」タブを開きます。ヘルプ・トピックを検索できます。
Reporting Studio のバージョン情報	Financial Reporting に関する情報が記載されています。この情報には、バージョン、ユーザーのログオン・ユーザー ID、レポート・サーバーが含まれています。

ショートカット・メニュー・コマンド

多くの共通のタスクを実行する際にショートカット・メニュー・コマンドを使用できます。レポート・デザインまたは Studio エクスプローラ内を右クリックすると、様々なショートカット・メニュー・コマンドが表示されます。選択されているコンポーネントによって、使用できるコマンドが異なります。次の表に、使用できるショートカット・メニュー・コマンドを示します。

表 7 ショートカット・メニュー: デザインからの行または列の編集

列の編集 - デザインの右クリック・メニュー	
メニュー・コマンド	説明
切り取り	選択した行または列をレポートから除去して、Windows のクリップ・ボードに配置します。
コピー	選択した行や列をコピーして、Windows のクリップ・ボードに配置します。
貼付け	切り取った、またはコピーした行や列をレポートに挿入します。
削除	選択した行または列をレポートから除去します。
行および列テンプレートとして保存	選択した行または列を、行と列のテンプレートとして保存します。テンプレートとは、再利用可能なリポジトリ・オブジェクトです。
行および列テンプレートの挿入	リポジトリに保存されている行と列のテンプレートを、行の下またはグリッドで選択した列の左側に挿入します。
フォーマット	「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択したアイテムの、数値のフォーマット、テキストの整列、フォント・オプションの変更、枠線と網掛けの指定、テキストの置換を行えます。
条件付きフォーマット	「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログ・ボックスでは、条件付きフォーマットを適用できます。詳細は、 第 10 章「レポートのフォーマット」 を参照してください。
「行の挿入」>「データ」、 「列の挿入」>「データ」	データ行またはデータ列を、レポートに追加します。
「行の挿入」>「式」、 「列の挿入」>「式」	式の行または式の列を、レポートに追加します。
「行の挿入」>「テキスト」、 「列の挿入」>「テキスト」	テキスト行またはテキスト列を、レポートに追加します。

表 8 ショートカット・メニュー: グリッドの選択(オブジェクトではない)

グリッドの選択・デザイナーの右クリック・メニュー	
メニュー・コマンド	説明
次元レイアウト	「次元レイアウト」ダイアログ・ボックスを開きます。ページ、グリッドの行と列の次元を変更できます。
グリッド POV	グリッド POV バーの表示と非表示を切り替えます。
グリッド POV の設定	「グリッド POV の設定」ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドの POV のメンバーを選択できます。
データ・クエリ最適化設定	「データ・クエリ最適化設定」ダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスでは、データベース接続サーバーまたはレポート・サーバー上の行を抑制したり、Oracle Essbase の疎のコマンドを含めるかどうかを指定したり、集計する非対称列の数を設定したりできます。

表 9 ショートカット・メニュー: レポートのバックグラウンド

レポートのバックグラウンド・デザイナーの右クリック・メニュー	
メニュー・コマンド	説明
保存	レポートを保存します。
印刷	レポートを印刷します。
ページ設定	「ページ設定」ダイアログ・ボックスを開きます。ページ設定オプション(ページ、マージン、レポート・デザイナーのワークスペースのサイズ)を指定できます。
印刷プレビュー	各ページがどのように印刷されるかを示します。
Web プレビュー	各ページがワークスペースにどのように表示されるかを示します。
要約	「レポートの要約」ダイアログ・ボックスが開き、レポートの要約が示されます。
ガイドラインの表示	レポート・デザイナーのワークスペースにガイドラインを表示します。
「オブジェクトの挿入」>「グリッド」	レポートにグリッドを挿入します。
「オブジェクトの挿入」>「テキスト」	レポートにテキスト・ボックスを挿入します。
「オブジェクトの挿入」>「イメージ」	レポートにイメージを挿入します。
「オブジェクトの挿入」>「チャート」	レポートにチャートを挿入します。
「オブジェクトの挿入」>「保存したオブジェクト」	「保存したオブジェクトの挿入」ダイアログ・ボックスが開きます。Studio エクスプローラに保存されているオブジェクトを挿入できます。

表 10 ショートカット・メニュー: グリッドのタイトル・バー、テキスト、イメージ、チャート・オブジェクトの編集

グリッドのタイトル・バー、テキスト、イメージ、チャート・オブジェクトの編集 - デザイナの右クリック・メニュー	
コマンド	説明
オブジェクトの保存	「オブジェクトの保存」ダイアログ・ボックスを開きます。選択したオブジェクトを、リポジトリまたはリポジトリ内のフォルダに保存できます。
削除	レポートから選択したアイテムを除去します。
「フォーム上の横方向の位置」>「なし」	選択したオブジェクトの横方向の位置を設定しません。
「フォーム上の横方向の位置」>「相対」	オブジェクトの横方向の位置を、フォームの他のオブジェクトとの相対位置に設定します。
「フォーム上の横方向の位置」>「左」	オブジェクトをフォームの左端に揃えます。
「フォーム上の横方向の位置」>「中央」	オブジェクトをフォームの横の中央に合せます。
「フォーム上の横方向の位置」>「右」	オブジェクトをフォームの右端に揃えます。
「フォーム上の縦方向の位置」>「なし」	選択したオブジェクトの縦方向の位置を設定しません。
「フォーム上の縦方向の位置」>「相対」	オブジェクトの縦方向の位置を、フォームの他のオブジェクトとの相対位置に設定します。
「フォーム上の縦方向の位置」>「上」	オブジェクトをフォームの上端に揃えます。
「フォーム上の縦方向の位置」>「中央」	オブジェクトをフォームの縦の中央に合せます。
「フォーム上の縦方向の位置」>「下」	オブジェクトをフォームの下端に揃えます。
前面へ移動	レポート・オブジェクトを整理するときに、「前面へ移動」を選択して、他のオブジェクトの前面にオブジェクトを移動します。
背面へ移動	レポート・オブジェクトを整理するときに、「背面へ移動」を選択して、選択したオブジェクトの上つまり前面に他のレポート・オブジェクトを再調整します。
ズーム	グリッドで作業するときに、グリッドをレポート・デザイナのワークスペースのサイズに拡大します。

表 11 ショートカット・メニュー: デザイナ・グリッド・セル・レベルの選択

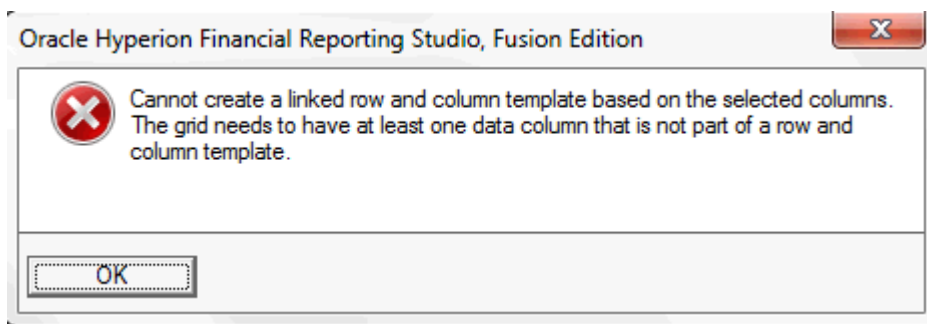
セル・レベル - 右クリック・メニュー	
メニュー・コマンド	説明
フォーマット	「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択したアイテムの、数値のフォーマット、テキストの整列、フォント・オプションの変更、枠線と網掛けの指定、テキストの置換を行えます。

セル・レベル・右クリック・メニュー

メニュー・コマンド	説明
条件付きフォーマット...	「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスを開きます。このダイアログ・ボックスでは、条件付きフォーマットを適用できます。詳細は、 第 10 章「レポートのフォーマット」 を参照してください。
マージ	グリッドの複数のセルを 1 つのセルに結合します。

エラー・メッセージ

エラー・メッセージは、重要な情報を伝え、アラートおよびクリティカルな問題の警告を提供するものです。これには、説明、解決策および詳細情報が含まれる場合もあります。



エラー・メッセージのダイアログ・ボックスには、次のものが表示されます。

- アイコン。メッセージ・タイプを表す 3 つのアイコンの 1 つが表示されます。これらのアイコンの使用法と説明は、次の Microsoft 標準に準拠しています。

アイコン	メッセージ・タイプ	説明
	情報	コマンドの結果に関する情報を示します。ユーザーに対する選択肢はなく、ユーザーは「OK」ボタンをクリックしてメッセージを確認します。
	警告	有害で不可逆の結果を招く可能性があるアクションなど、処理を続行する前にユーザーの決断と入力が必要とする状態または状況をユーザーに警告します。メッセージは「MyReport の変更を保存しますか?」などの質問の場合もあります。
	重大	ユーザーが介入したり、何かを修正したりしなければ、処理を続行できないことを示します。

- 短いメッセージ。可能なかぎり、状況を具体的に示す短い説明です。次に例を示します。
サーバーに接続できません。

- 解決策。可能なかぎり、ユーザーが何をチェックすべきかを示す情報が含まれます。例を次に示します。確認:

ネットワーク接続、サーバーが実行されていること、アプリケーション名が有効であること、データベース名が有効であること。

- エラーの詳細。「詳細の表示」ボタンをクリックすると、詳細情報が表示されます。次に例を示します。

エラー・スタック: `com.hyperion.reporting.util.HyperionReportException`: データソース接続の取得中にエラーが発生しました 場所: `com.hyperion.reporting.client.DesignerManager.getDataSourceConnection`(不明ソース) 場所:
`com.hyperion.reporting.javacom.DesignerManagerComImpl.getDataSourceConnection`(不明ソース)

3

レポート・デザイナーのメンバーの選択

この章の内容

データの行と列のメンバーの割当て	48
ページ軸のメンバーの割当て	49
特殊メンバーの割当て	50
関数を使用したメンバーの割当て	53
関数の編集	59
別のアプリケーションのメンバーのコピー	60
メンバーの追加と除去	60
条件に基づいた複数のメンバーの選択	61
フィルタの定義による表示メンバーの指定	62
メンバー・リストの定義	62
メンバー・リストの編集	63
メンバーの検索	63
メンバーのソート	65
選択したメンバーのプレビュー	65
Planning 詳細データベース接続のアクセス権	66

グリッドにデータを指定すると、取得するデータを識別する基準が設定されます。グリッドの視点(POV)およびユーザーの POV のバーだけでなく、グリッドの行、列およびページ軸にメンバーを割り当てて、基準を設定します。詳細は、[第7章「ユーザーの POV の定義」](#)を参照してください。

再使用可能なメンバーのリストを作成し、メンバーを動的に取得する関数を使用できます。メンバーの定義を始める前に、レポートにグリッドを挿入し、次元レイアウトを定義する必要があります。詳細は、[96 ページの「グリッドの追加」](#)を参照してください。

注： Planning キューブに対するデータソース接続のタイプとして Planning 詳細を使用する場合は、使用できるすべての次元がリストされます。ただし、ユーザーには特定の次元のメンバーに対するアクセス権しかありません。これはレポートの出力に影響を与えます。レポートに対するアクセス権の影響の詳細は、[66 ページの「Planning 詳細データベース接続のアクセス権」](#)のトピックを参照してください。

データの行と列のメンバーの割当て

メンバーとメンバー・リストを割り当てて、レポートのデータを取得します。レポートに表示するメンバーを選択するか、次元メンバーを動的に選択する関数を使用できます。選択した各メンバーに対してグリッドに個別の行または列を挿入することや、選択したすべてのメンバーを1つの行または列に配置することができます。

▶ データ行や列に割り当てるメンバーを選択するには:

1 レポートを開きます。

2 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスを使用してメンバーを追加するには、次のいずれかのアクションを行います。



- グリッド内の次元をダブルクリックします。
- グリッド内の次元を選択します。次に、式バーで次元名のボタンをクリックします。

注: 次元のメンバー名がわかっている場合は、メンバー名をカンマで区切って式バーのテキスト領域に入力します。メンバー名では大文字と小文字が区別されますが、関数名では区別されません。たとえば、メジャー次元の場合は、(Profit)の子を入力し、チェック・マークをクリックしてメンバー名を確認します。

3 次のいずれかのアクションを行います。

- 個々のメンバーを割り当てるには、「メンバー」タブを選択し、データ行または列に追加するメンバーをハイライトします。
- メンバー・リストを割り当てるには、「リスト」タブを選択し、データ行または列に追加するメンバー・リストをハイライトします。
- 関数を割り当てるには、「関数」タブを選択し、データ行または列に追加する関数をハイライトします。

4 次のいずれかのアクションを行います。

- ハイライトしたアイテムを「選択済」領域に追加するには、をクリックします。
- メンバー関数(children や descendents など)を選択したメンバーに追加するには、をクリックします。

注: 「関係の追加」ボタンは、「メンバー」タブのみで使用できます。

5 「オプション:」 「選択済」領域で、「表示」ボタンをクリックして「プレビュー」を選択し、選択したメンバーを確認します。詳細は、[65 ページの「選択したメンバーのプレビュー」](#)を参照してください。

6 「オプション:」 選択したメンバーごとに行または列を割り当てて挿入するには、「選択した項目を別々の行に配置」または「選択した項目を別々の列に配置」チェック・ボックスを選択します。

注： このオプションは、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスのみで使用できます。式バーでは使用できません。

7 「OK」をクリックして、レポート・デザイナーに戻ります。

ページ軸のメンバーの割当て

グリッドのページ軸にメンバーを割り当てることができます。ページ軸のメンバーを選択してレポートを実行すると、各ページ・メンバーのグリッドが生成されます。複数のページ・メンバーを含むグリッドをチャートが参照している場合は、ページ・メンバーごとに新しいチャートが生成されます。

たとえば、ページ軸にシナリオ次元とエンティティ次元の次のメンバーを割り当てるとします。

- シナリオ次元の目標 1 と目標 2
- エンティティ次元のラジオ販促部と Web 販促部

レポートを表示すると、ページ軸のメンバーのすべての組合せのデータがフォーマットされて読み込まれます。レポートには、4つのグリッド(ページ・メンバーの組合せごとに1つのグリッド)が含まれます。

どのメンバーの組合せでも選択できます:

- 目標 1: ラジオ販促部
- 目標 1: Web 販促部
- 目標 2: ラジオ販促部
- 目標 2: Web 販促部

ページ軸の次元の追加と変更については、[96 ページの「グリッドの追加」](#)を参照してください。

注： Financial Reporting でレポートを実行すると、ページ軸のメンバー(および対応するデータ)がすべて取得されます。ページ軸のメンバー数が多いレポートを実行すると、パフォーマンスに影響することがあります。

▶ ページ軸にメンバーを割り当てるには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 「ページ」・バーで次元を選択します。
- 3 式バーで、次元名のボタンを選択します。

注： 次元のメンバー名がわかっている場合は、式バーのテキスト領域にメンバー名を入力します。たとえば、メジャー次元に「収益、販売」と入力します。チェック・マークをクリックして、メンバーの選択を確認します。

- 4 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで、ページ軸で使用するメンバーを選択して「OK」をクリックします。

特殊メンバーの割当て

「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスを使用して、特殊メンバー(プロンプト、Same As 関数、現在の POV、ユーザーの POV)を選択できます。

- プロンプトは、レポートの実行時にメンバーの選択をユーザーに求める変数のように動作します。設計時に次元とデフォルト値を決定し、ユーザーがレポートの生成時にメンバーを選択します。プロンプトでは、レポートの実行時にユーザーが選択できる次元メンバーをレポート・ライターでフィルタすることもできます。
- Same As 関数は、列または行のメンバーを選択するのに、他の列または行と同じ設定を使う場合に使用します。
- 現在の POV は、レポートの実行時に次元のメンバーを指定する POV の変数として動作します。
- ユーザー POV は、ブックの POV のメンバーとして選択できます。パラメータは、エンド・ユーザーが変更できます。

メンバーの選択用のプロンプトの設定

プロンプトにより、参照者は次元へのメンバーの割当てが可能になります。プロンプトは、設計時に設定します。レポート設計者は、次元に割り当てるデータのタイプを制限できます。「プロンプトに応答」ダイアログ・ボックスにメンバー名、説明(Financial Management データベース接続の場合)、別名(Oracle Essbase または Planning データベース接続の場合)、またはメンバー名と説明または別名の両方を表示するかどうかも指定できます。

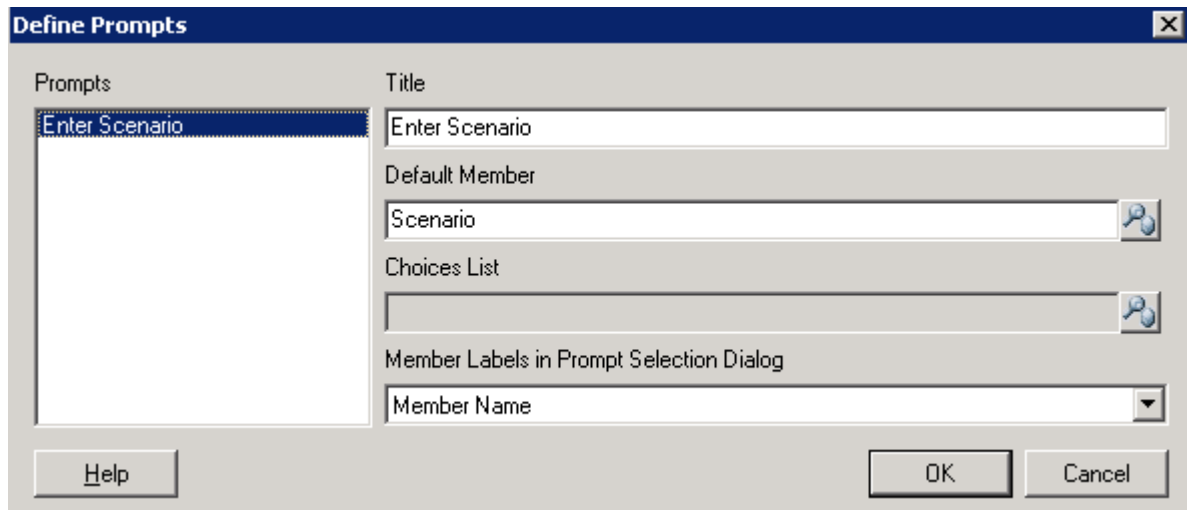
たとえば、製品ラインからユーザーが選択できるレポートを作成するとします。レポート設計者はプロンプトを製品のメンバーとして選択して、特定の製品ラインを選択します。レポートを実行するエンド・ユーザーは、これらの製品ラインから選択します。

▶ メンバーの選択用のプロンプトを設定するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 プロンプトを割り当てる次元のセルをダブルクリックします。
- 3 「メンバー」タブの「使用可能」領域で、「プロンプト:(「次元名」)」を選択して、「選択済」領域に移動します。
- 4 「OK」をクリックします。

「プロンプトの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 1 メンバーの選択用のプロンプトの設定



- 5 「オプション」: プロンプトに回答するときを選択できるものを、特定のデフォルト・メンバーかメンバー・リスト(またはその両方)に制限するには、次のいずれかのアクションを行います。
 - メンバー名がわかっている場合は、「デフォルト・メンバー」にメンバー名を入力するか、「デフォルト・メンバー」検索ボタンをクリックします。プロンプトに複数のメンバーを入力する場合は、各メンバーをカンマで区切る必要があります。メンバーの選択の詳細は、[48 ページの「データの行と列のメンバーの割当て」](#)を参照してください。


注: 「デフォルト・メンバー」を空白にした場合は、ユーザーがレポートを実行するとき、またはバッチを作成するとき「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスにデフォルト・メンバーが表示されません。ユーザーは、空白のデフォルトを受け入れずに、メンバーを指定する必要があります。メンバーを選択しない場合、レポートは実行されません。
 - メンバー・リストがわかっている場合は、「選択リスト」ボタンをクリックして、メンバーのリストを選択します。プロンプト用に複数のメンバー・リストを指定する場合は、メンバー・リストをカンマで区切る必要があります。詳細は、[62 ページの「メンバー・リストの定義」](#)を参照してください。
- 6 「プロンプト用のメンバーを選択するダイアログ・ボックスに表示されるラベル」ドロップダウン・リストで、レポートの実行時に「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスに表示されるラベルの種類を選択します。
 - データベース接続が Oracle Essbase または Planning の場合は、「メンバー名」、「別名」、または「メンバー名と別名」を選択します。
 - データベース接続が Financial Management の場合は、「メンバー名」、「説明」または「メンバー名と説明」を選択します。
- 7 「OK」をクリックします。

Same As 関数の参照の設定

Same As 関数を使用すると、設計者は、別の行または列からメンバー選択を取得できます。Financial Reporting の Same As 関数には、次のような特徴があります。

- Same As 関数で参照するメンバーは、レポート内で常に同じ次元、同じタイプのデータベース接続、同じグリッドにあるメンバーになります。
- Same As 関数で参照するメンバーは、グリッドの行または列のメンバー選択に対してのみ使用可能です。Same As 関数は、次のメンバー選択として使用できません。
 - ページ軸
 - グリッドの POV
 - ユーザーの POV
 - ブックの POV
 - バッチの POV
 - プロンプトのデフォルト・メンバー選択
 - プロンプトへの応答
 - Member 関数のメンバー・パラメータ(範囲など)
 - ブック・エディタで使用するメンバー選択
- Same As 関数は、プロンプトや現在の POV にメンバー選択を取得する行や列を参照できます。
- Same As 関数は、他の Same As 関数の参照先を参照できません。
- Same As 関数は、行と列のテンプレートで使用することはできません。
- Same As 関数は、必ず単独で使用します。別のメンバー選択と組み合わせることはできません。

▶ Same As 関数を設定するには:


- 1 レポートを開き、Same As 関数を設定するメンバー選択をダブルクリックします。
- 2 「メンバー」タブで、「次のメンバー選択と同じ」を展開し、次元の行または列で「Same As」関数を選択します。次に、「追加」、 をクリックし、次元の「Same As」関数を選択済領域に追加します。
- 3 「OK」をクリックします。

現在の POV の設定

設計者は、現在の POV を設定して、ユーザーの POV から行、列またはページのメンバーを取得できます。

▶ 現在の POV を設定するには:

- 1 レポートを開き、現在の POV を設定するメンバー選択をダブルクリックします。

- 2 「メンバー」タブで、次元の「現在の POV」を選択し、「追加」ボタンをクリックして、次元の「現在の POV」を「選択済」領域に追加します。
- 3 「OK」をクリックします。

関数を使用したメンバーの割当て

関数を使用して、メンバーを動的に選択できます。関数を選択した後、そのパラメータを編集できます。関数の動的使用の詳細は、[147 ページの「式バーの使用方法」](#)を参照してください。関数パラメータの編集の詳細は、[59 ページの「関数の編集」](#)を参照してください。

メンバーを割り当てるために使用する関数を [表 12](#) および [表 13](#) に示します。

注： 明記してある場合を除き、記載されているすべての関数は Oracle Essbase および Planning 詳細でサポートされています。Financial Management でサポートされている関数は、個別の列に示されています。

表 12 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスと式バーで使用できる関数

関数	構文	Financial Management	説明
Children	メンバー名の子(含む)	x	指定した親の 1 レベル下のメンバー
Descendants	<メンバー名>の子孫(含む)	x	指定した親より下のレベルの全メンバー
BottomOfHierarchy	階層次元の最下位	x	レベル 0 のすべてのメンバー
Siblings	<メンバー名>の兄弟(含む)	x	指定したメンバーと同じ親を持つメンバー
OnSameLevelAs	メンバー名と同じレベル		指定したメンバーと同じ次元で同じレベルのメンバー
SameLevelAs			同一レベルのすべてのメンバーです。
OfSameGeneration	メンバーと同じ世代		指定したメンバーと次元と世代が同じメンバー
Parent	<メンバー名>の親(含む)	x	指定したメンバーの 1 レベル上のメンバー
TopOfHierarchy	階層次元の最上位	x	階層の最上位のメンバー
SystemMemberList	システム定義メンバー・リスト・レベル(n)、次元	x	指定したシステム定義メンバー・リストに含まれるメンバー
Ancestors	<メンバー名>の祖先(含む)	x	指定したメンバーより上のレベルの全メンバー
AllMembers	階層次元のすべてのメンバー	x	指定した次元のメンバー

関数	構文	Financial Management	説明
Member	メンバー	x	指定したメンバー
Members			現在の次元のすべてのメンバー
Base	階層次元の基本メンバー	x	階層の基本メンバーまたはレベル 0 のメンバー。基本メンバー関数は、Financial Management でのみ使用可能であり、Essbase および Planning ではサポートされていません。Essbase および Planning については、BottomOfHierarchy および Descendants 関数を使用してください。
UserDefined1	ユーザーが定義したすべてのメンバーは選択した属性です	x	Financial Management でのみサポートされます。すべてのエンティティとカスタム次元は、ビュー、ICP、年、期間、シナリオ以外で使用できます。選択した属性のメンバー
UserDefined2	ユーザーが定義したすべてのメンバーは選択した属性です	x	Financial Management でのみサポートされます。すべてのエンティティとカスタム次元は、ビュー、ICP、年、期間、シナリオ以外で使用できます。選択した属性のメンバー
UserDefined3	ユーザーが定義したすべてのメンバーは選択した属性です	x	Financial Management でのみサポートされます。すべてのエンティティとカスタム次元は、ビュー、ICP、年、期間、シナリオ以外で使用できます。選択した属性のメンバー

through member selection. 次の表に示すメンバー関数は、メンバー選択の「関数」タブで選択できます。ただし、これらの関数は式バーに動的に入力できません。

表 13 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのみで選択できる関数

関数	説明
Property	Oracle Essbase および Planning 詳細でのみ使用します。指定したプロパティ値のメンバーを取得します。
UserMemberList	Oracle Essbase でのみ使用します。指定したユーザー定義メンバー・リストのメンバーを取得します。
Match	Financial Management、Oracle Essbase およびプランニング詳細で使用します。指定したパターンまたは文字のセットに一致するメンバー。 注： Planning データベース接続で*ワイルドカードを使用する場合は、パターンの最後に*を 1 つだけ付けることができます。

関数	説明
CommonChildren	<p>Financial Management でのみ使用します。この関数は、エンティティ次元の共通メンバーに対してのみ有効です。たとえば、次に示すような構造です。</p> <pre> 親 1 子 A 子 B 子 C 親 2 子 A 子 B 子 D </pre> <p>共通の子関数は、メンバーを親で置き換えます。この例では、メンバーは親 1 で、親は親 2 です。したがって、この例で CommonChildren を使用すると、次の出力が得られます。</p> <pre> 親 2.子 A 親 2.子 B 親 2.子 C </pre> <p>これは親 1 の子と親 2 で、親が親 2 で置き換えられています。この例では、子 A と子 B は親 2 の子なので、これらの 2 つの結果は有効です。しかし、親 2.子 C の結果は有効ではなく、何も戻されません。</p>
PeriodOffset	<p>Financial Management データベース接続でのみ使用します。この関数では、期間次元でのみ演算オフセットを実行できます。</p> <p>注： 演算オフセットとは、指定したレベルから前後にどれだけ移動するかを示す数値です。</p> <p>たとえば、次のデータをリストするには:</p> <p>現在の四半期 翌月</p> <p>次のようにパラメータを設定します:</p> <pre> Member = Current POV Offset = +1 Hierarchy = Dim </pre> <p>注： PeriodOffset 関数は、常に期間と年の組合せをスパンします。したがって、2002 年の 1 月に対して -2 のオフセットを選択すると、表示されるメンバーは 2001 年 11 月になります。</p>

関数	説明
RelativeMember	<p>Oracle Essbase および Planning 詳細データベース接続のすべての次元で使用します。この関数は、Financial Management データベース接続の年次元でも使用できます。この関数では、演算オフセットを実行できます。</p> <p>注： 演算オフセットとは、指定したレベルで前後にどれだけ移動するかを示す数値です。</p> <p>たとえば、Oracle Essbase データベース接続で次のデータをリストするには:</p> <p>現在の四半期 翌月</p> <p>次のようにパラメータを設定します:</p> <pre>Member = Current Point Of View Offset = 1 Hierarchy = Year RelativeMemberList = Lev0, Year UseFirstDescendant = checked</pre> <p>注： 上の例では、UseFirstDescendant = checked に設定しているので、第 1 四半期の最初の子孫である 1 月から計算が始まります。オフセットは+1 なので、翌月は 2 月になります。</p> <p>現在の POV が Qtr1 の場合は、次のような結果になります:</p> <p>現在の四半期 翌月</p> <p>Qtr1 Feb</p> <p>注： 時間次元を使用する場合は、同じ暦年のオフセットを指定したレベルと同じにします。たとえば、6 月から開始する場合、1 月まで戻るオフセットまたは 12 月まで進むオフセットを設定できます。</p> <p>Financial Management データベース接続の場合、次のデータをリストするには:</p> <p>年 翌年</p> <p>次のようにパラメータを設定します:</p> <pre>Year = Current Point Of View for Year Offset = 1 Hierarchy = Year</pre> <p>現在の POV が Year の場合は、次のような結果になります:</p> <p>現在の年 翌年</p> <p>2003 2004</p>


関数	説明
DynamicMemberList	<p>Oracle Hyperion Financial Management データベース接続でのみ使用します。この関数では、エンティティ次元で動的 POV を使用するために定義されたメンバー・リストを選択できます。DynamicMemberList 関数は POV に基づき、パラメータとしてエンティティと親 (オプション) を取ります。親パラメータが指定されている場合は、リストの列挙から戻されるすべてのエンティティに親の名前が使用されます。親パラメータが指定されていない場合は、置換は行われません。</p> <p>注： 強化された Financial Management の DynamicMemberList 機能は Financial Reporting では使用できません。</p> <p>エンティティは、POV レベルで定義されたシナリオ、年および期間に基づきます。したがって、グリッドではシナリオ、年および期間は使用されません。グリッドにシナリオ、年または期間を配置した場合、「5200: クエリーを実行中にエラーが発生しました: シナリオ、年、期間は、動的なメンバー・リストの POV で指定する必要があります。」というメッセージが表示されます。</p> <p>注： DynamicMemberList 関数は、「リスト」タブまたは「関数」タブから実行できます。「リスト」タブでは、(動的)リストを選択して、エンティティおよび親パラメータを追加します。「関数」タブでは、DynamicMemberList 関数を選択して、動的リスト (DynamicNamedGroup)、エンティティおよび親を選択します。</p>
動的時系列メンバー	<p>次の 8 つの動的時系列メンバーは、Oracle Essbase 内で定義できます。Financial Reporting の「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの「関数」タブには、Oracle Essbase データベースで定義された動的時系列メンバーだけが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● H-T-D (History-to-date、累計) ● Y-T-D (Year-to-date、年次累計) ● S-T-D (Season-to-date、季節累計) ● P-T-D (Period-to-date、期間累計) ● Q-T-D (Quarter-to-date、四半期累計) ● M-T-D (Month-to-date、月次累計) ● W-T-D (Week-to-date、週次累計) ● D-T-D (Day-to-date、日次累計) <p>これらのメンバーは、最大 8 レベルの期間累計レポートを提供します。使用するメンバーの数および使用するメンバーは、データおよびデータベース・アウトラインにより決定されます。</p> <p>注： これらのメンバーは、時間ベースの次元および最下位レベルのデータでのみ使用されます。サンプル・アプリケーションおよび基本データベースに対して年次元を選択すると、「関数」タブに累計、四半期累計および月次累計の動的時系列メンバーが表示されます。</p> <p>動的時系列メンバーの詳細は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。</p>

関数	説明
代替変数	<p>「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで選択された次元のディレクトリに保管された代替変数は、定期的に変更される情報のプレースホルダとして機能します。変数の値は、Oracle Essbase 管理者によって随時変更されることがあります。代替変数は、レポート期間に依存するレポートの場合に便利です。CurMnth などの代替変数をサーバーで設定すると、期間に対して割り当てられた値を毎月変更できます。</p> <p>注：「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに表示される使用可能な Oracle Essbase 代替変数のリストは、Financial Reporting レポート・クライアントを起動したときに取得されます。Oracle Essbase アプリケーション・マネージャを使用して新しい代替変数を追加した場合は、レポート・クライアントを再起動する必要があります。レポートを実行するたびに、すべての Oracle Essbase 代替変数の最新の値が使用されます。サンプル・アプリケーションおよび基本データベースに対して年次元を選択すると、「メンバー」タブに CurrMonth 代替変数のメンバーが表示されます。代替変数の前には緑の正方形が表示されます。</p> <p>代替変数の詳細は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。</p>
SuppressSharedMember	<p>Oracle Essbase およびプランニング詳細でのみ、重複するメンバーの表示を抑制します。この関数は、DIMBOTTOM、OFSAMEGEN または ONSAMELEVELAS 関数と組み合わせた場合にのみ有効です。</p> <p>注： 正常に動作させるには、AND ではなく UNION を使用してください。</p>
範囲	<p>Oracle Essbase および Planning 詳細データベース接続では、範囲の開始メンバーと終了メンバーを選択してメンバーの範囲を指定できます。たとえば、年次元を使用した場合、範囲の開始メンバーとして 1 月を選択し、終了メンバーとして 3 月を選択すると、第 1 四半期のすべての月を指定できます。</p> <p>Financial Management の場合、Range 関数は、期間次元にのみ適用されます。たとえば、次のデータを表示する場合：</p> <p>開始期間 終了期間</p> <p>現在の四半期のメンバーの範囲として、次のパラメータを設定します。</p> <p>Start Member = July</p> <p>End Member = September</p> <p>Years to Iterate Over = 0</p> <p>指定した繰返し数により期間次元の範囲が決定されます。たとえば、Years to Iterate Over パラメータに 1 を指定した場合、レポートは 7 月から翌年の 9 月までスパンします。</p> <p>注： Range 関数にプロンプトを含めている場合は、プロンプトと Range 関数を同じグリッドで使用しないでください。</p>
OrderBy	<p>プランニング詳細データベース接続のみで使用できます。メンバー・プロパティを指定して、メンバー選択から戻される順序を指定できます。</p> <p>OrderBy 関数には、次の 2 つの必須パラメータがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Property - Member Name(メンバー名)オプションとメンバーのプロパティのリストを指定します。デフォルト値は Name です。 ● Direction - 方向のオプション(昇順、降順、階層昇順、階層降順)を指定します。 <p>OrderBy 関数は、「選択済」リストにあるすべてのメンバー選択に適用されます。</p>
SortHierarchy	<p>Web Analysis でのみ階層ごとにアウトラインの順序でメンバーをソートします。この関数は、Essbase レポート・スクリプト・コマンド<sortHierarchy に変換されます。詳細は、Oracle Essbase のドキュメントを参照してください。</p>

▶ 関数を使用してメンバーを割り当てるには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 関数を使用してメンバーを割り当てる次元のセルをダブルクリックします。
- 3 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの「関数」タブを選択します。
- 4 関数をハイライトします。

注: 複数の関数を選択する際は[Ctrl]を押します。

- 5 「追加」ボタンをクリックし、「(名前)関数の編集」「」ダイアログ・ボックスを開きます。

注: 「(名前)関数の編集」ダイアログ・ボックスは、BottomofHierarchy、TopofHierarchy、AllMembers、SuppressSharedMembers など、パラメータ値が不要な関数では表示されません。

- 6 行 1 の「値」列をダブルクリックし、「検索」ボタンをクリックして値を編集します。

注:

ヒント: カテゴリの列の幅を変更するには、列区切りにポインタを置き、ポインタが両方向の矢印に変わったら、マウスをドラッグします。

- 7 手順 2 から手順 6 を繰り返して、残りの行を編集します。
- 8 「OK」をクリックします。
- 9 「OK」をクリックしてレポートに戻ります。

関数の編集

関数のパラメータ値を変更して関数を編集できます。たとえば、指定したメンバーを関数に含めるか除外するかを指定したり、関数の階層値を変更することもできます。


▶ 関数を編集するには:

- 1 レポートを開き、関数を編集するデータの行や列、またはその見出しのセルを選択します。
- 2 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの「選択済」領域で、編集する関数をダブルクリックします。
- 3 行 1 の「値」列をダブルクリックし、「検索」ボタンをクリックして値を編集します。
- 4 手順 1 から手順 3 を繰り返して、残りの行を編集します。
- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「OK」をクリックしてレポートに戻ります。

別のアプリケーションのメンバーのコピー

Excel スプレッドシートなどのアプリケーションから有効なメンバーをコピーして、別のアプリケーションの対応する次元の新しいメンバーとして貼り付けることができます。たとえば、Excel の年次元に 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月、6 月、8 月、9 月、10 月、11 月、12 月のメンバーがある場合、これらのメンバーを年次元を含むグリッドにコピーできます。セカンダリ・データベース接続を含む行または列にメンバーを貼り付けると、データベース接続のタイプはメンバーとともにコピーされます。




▶ 別のアプリケーションのメンバーをコピーするには:

- 1 レポートにコピーするメンバーを含むアプリケーションを開きます。
- 2 Financial Reporting で使用するメンバーをコピーします。
- 3 Financial Reporting に切り替えます。
- 4 「ファイル」を選択してから「開く」を選択します。
- 5 レポートを開きます。
- 6 グリッドで、メンバーのコピー先の次元を含むセルを選択します。
- 7 式バーのテキスト・ボックスの内側を右クリックし、「編集」、「貼付け」の順に選択します。
- 8 式バーに表示されるメンバーとメンバーの間にカンマを追加します。
- 9  をクリックして、メンバー名を確認します。

メンバーの追加と除去

次元に対してメンバーの除去または追加を行うことができます。メンバーを除去すると、レポートの出力が変更され、レポートのコンテンツを詳細に制御できます。

▶ 1 つのセルに含まれているメンバーを追加または除去するには:

- 1 メンバーを含むセルをクリックします。式バーのボタンに次元名が、テキスト領域にメンバー名が表示されます。
- 2 式バーで、次のいずれかのアクションを行います。
 - コマンド・ボタンに表示されている次元名をクリックして、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
 - 「**選択済**」領域から 1 つ以上のアイテムを除去するには、アイテムを選択して、「**削除**」ボタン  をクリックします。
 - すべてのアイテムを除去する場合は、 をクリックします。
 - メンバーを除去または追加して式バーのテキスト領域を編集します。メンバーはカンマで区切ります。  をクリックしてメンバー名を確認します。

▶ 別々の行や列にあるメンバーを除去するには:

- 1 行または列を選択します。
- 2 行または列を右クリックして、「削除」を選択します。

条件に基づいた複数のメンバーの選択

ユーザー定義の条件に基づいてメンバーを動的に選択できます。条件は、メンバー、ブール演算およびコマンドの式を作成して定義します。

ブール演算子を使用すると、レポートに対してメンバーの正確な組合せを指定できるので、大量のデータを扱う場合に便利です。AND、OR、UNION および NOT ブール演算子を式のコマンドと組み合わせて使用して、メンバー選択を絞り込みます。

▶ 条件を指定して複数のメンバーを選択するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 メンバーを割り当てる次元のセルをダブルクリックします。
- 3 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの「選択済」領域を右クリックして、「詳細設定」をクリックします。

注: 条件を作成するには、「選択済」領域に少なくとも2つのメンバーが表示されている必要があります。

4 次の演算子や記号を1つ以上使用して、式を作成します:

- ブール演算子 NOT を式に追加するには、「NOT」を選択します。NOT は、選択した条件の逆の条件を指定します。
- 式に開始文字を追加するには、左カッコ(を入力します。
- 式に終了文字を追加するには、右カッコ)を入力します。
- 「演算子」列をクリックして、「AND」、「OR」、または「UNION」を選択します。
 - すべての条件を満たす必要がある場合は、AND 演算子を使用します。
 - いくつかの条件のうち1つを満たす必要がある場合は、OR 演算子を使用します。
 - データを結合するには、UNION 演算子を使用します。


注: 3つのメンバーを使用する場合は、2組みのカッコを使用する必要があります。たとえば、市場(Market)の子孫を選択して東部(East)、西部(West)および南部(South)を除外する場合、詳細なメンバー選択クエリーは、Descendants of Market AND NOT (East AND NOT (West AND NOT SOUTH))となります。

5 「OK」をクリックしてレポートに戻ります。

フィルタの定義による表示メンバーの指定

フィルタを定義して、条件を満たすメンバーだけを表示します。次に、フィルタされたリストからレポートのメンバーを選択します。たとえば、米国部門のみの地域を表示できます。フィルタは、表示されるメンバーの数を減らす場合に便利です。

▶ フィルタを定義するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 メンバーを編集する次元のセルをダブルクリックします。
「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 「使用可能」領域の内側を右クリックして、次のいずれかを選択します:
 - 「フィルタ」、「カスタム」の順に選択して、使用可能な関数のリストをハイライトします。次に、「追加」ボタンをクリックして、ハイライトしたアイテムを「選択済」領域に移動します。
 - 「フィルタ」、「事前定義」の順に選択して、使用するリストをハイライトします。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「OK」をクリックしてレポートに戻ります。



メンバー・リストの定義

メンバー・リストは、ユーザー定義の保存されたクエリまたはシステム定義のメンバー・リストです。システム定義のリストは、一般的にデータベース管理者が作成します。メンバー・リストには、メンバー、その他のメンバー・リストおよび関数を含めることができます。

注: ユーザー定義リストは、Oracle Essbase をデータベース接続に使用した場合にのみ作成できます。メンバー・リストの最大サイズは、4K です。

▶ メンバー・リストを定義するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 メンバーを割り当てる次元のセルをダブルクリックします。
- 3 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、次のいずれかのアクションを行います。
 - 「メンバー」タブで、メンバー・リストに含めるメンバーをハイライトして、「使用可能」領域内を右クリックして、「ハイライト済項目の保存」をクリックします。
 - 「リスト」タブで、「使用可能」領域内を右クリックして、「作成」をクリックします。

- 4 「(次元名)リストの作成」ダイアログ・ボックスの「使用可能」領域で、メンバー・リストに含めるメンバー、メンバー・リスト、および関数を選択し、「追加」ボタン  または「関係の追加」 「」 ボタン  をクリックします。
- 5 「オプション:」 関数を編集するには、59 ページの「関数の編集」に記載されている手順を使用します。
- 6 「OK」 をクリックします。
- 7 メンバー・リストの名前と説明を入力して、「OK」 をクリックします。





注: メンバー・リストを入力するときは、引用符(")を使用しないでください。引用符を使用すると、引用符付きで名前が Financial Reporting に保存されますが、その名前は後で選択できません。

- 8 「OK」 をクリックしてレポートに戻ります。

メンバー・リストの編集

ユーザー定義のメンバー・リストを編集できます。たとえば、メンバー・リストに対してメンバーや関数の追加または除去を行うことができます。

▶ メンバー・リストを編集するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 メンバー・リストを編集する次元のセルをダブルクリックします。
- 3 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの「リスト」タブを選択します。
- 4 編集するユーザー定義のメンバー・リストをダブルクリックします。
- 5 「(リスト名)リストの編集」ダイアログ・ボックスで、次のいずれかのアクションを行います。
 - 「**選択済**」リストにメンバーを追加するには、「メンバー」、「リスト」、または「**関数**」タブでアイテムをハイライトして、「追加」ボタン  または「**関係の追加**」ボタン  をクリックします。
 - リストからメンバーを除去するには、「**選択済**」領域でメンバーをハイライトして、「**除去**」ボタン  をクリックします。
 - すべてのアイテムを除去するには、「**すべて削除**」ボタンをクリックします  。
- 6 「OK」 をクリックします。
- 7 「OK」 をクリックしてレポートに戻ります。

メンバーの検索

編集するメンバーを検索できます。検索は、テキスト文字列またはプロパティ(名前および説明)を使用して実行できます。空白スペースを区切り記号として使用し


て、同時検索を実行することもできます。文字列を引用符で囲むと、完全一致検索を実行できます(文字間の空白スペースを含む)。

以前の検索条件文字列は最大 25 個まで保存されます。リストまたは関数を検索する場合は、「次を検索」または「前を検索」ボタンを使用して、この機能をアクティブにする必要があります。

注： Financial Management では、エンティティを検索する場合、parent.entity を検索する必要があります(たとえば D62VIELO.D62475LO)。エンティティだけを検索する場合は、エンティティの前にワイルドカードを配置する必要があります(*D62475LO など)。

次の表に、メンバーの検索のオプションを示します。

表 14 メンバーの検索のオプション

オプション	説明
「検索」テキスト・ボックス	検索を実行する文字を入力するか、保存された検索条件文字列をリストから選択します。検索文字列には、検索文字列の一部、単語、または複数の単語を使用できます。
	メンバーの検索に使用します。「検索」ボタンをクリックすると、検索条件を満たすメンバーが表示されます。
ワイルドカードを使用	「検索」テキスト・ボックスでワイルドカード記号(*および?)を使用して、指定したメンバーを検索できます。デフォルトでは、「ワイルドカードを使用」は使用可能になっています。 <ul style="list-style-type: none"> ● 疑問符(?)は、任意の 1 文字を表します。 ● アスタリスク(*)は、任意の複数の文字を表します。 注： 検索条件にスペースを含める場合は、検索フレーズを二重引用符で囲みます。たとえば、*IC Offset*は"*IC Offset*"と指定します。IC Offset*のように*ワイルドカードを最後にのみ指定する場合は、引用符で囲む必要はありません。
Parameters...	クリックすると、「検索」テキスト・ボックスの検索パラメータが設定されます。以下のパラメータ・オプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 検索 - 検索するメンバーのプロパティを選択します。 ● ワイルドカード検索(デフォルト) - 「検索」テキスト・ボックスにテキストとワイルドカード記号(*および?)を挿入して、指定したメンバーを検索します。*は複数の文字を表し、?は 1 文字を表します。 ● 大文字と小文字を区別した検索 - 「検索」テキスト・ボックスにテキストを入力して指定したメンバーを検索します。このとき、大文字と小文字が区別されます。
(前を検索)	リストまたは関数の検索に使用します。検索条件に一致する前のアイテムがハイライトされます。
(次を検索)	リストまたは関数の検索に使用します。検索条件に一致する次のアイテムがハイライトされます。


▶ メンバーを検索するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 メンバーを検索する次元のセルをダブルクリックします。

- 3 「使用可能」の横にある「検索」ボックスに文字列を入力するか、保存されている条件をドロップダウン・リストから選択します。

注： メンバー選択中に、ワイルドカード・オプションが自動的に使用可能になります。

- 4 次のいずれかのアクションを行います：

- メンバーを検索するには、「検索」ボタン  をクリックします。
- リストまたは関数を検索するには、「次を検索」ボタンまたは「前を検索」ボタンをクリックします。

- 5 「OK」をクリックしてレポートに戻ります。

メンバーのソート

メンバーをソートして、メンバー選択内の表示を見やすくできます。デフォルトでは、メンバーはデータベース接続のソート順で表示されます。


希望する順序で選択可能なメンバーをソートできます。また、レポートのデータの行または列の順序に一致するようメンバーをソートできます。選択したアイテムは、メンバー選択に表示される順序に従ってレポートで評価および表示されま

す。

プロパティごとにメンバーをソートして、昇順または降順で表示できます。デフォルトでは、リストは数字、アルファベットの順にソートされます。

ビューを切り替えたときにリストが自動的にソートされるように設定したり、リストを手動でソートしたりできます。

- ▶ メンバーを手動でソートするには：

- 1 レポートを開きます。
- 2 メンバーをソートする次元のセルをダブルクリックします。
- 3 「選択したメンバー」リストで、「表示」、「ソート」の順に選択します。
- 4 「(次元)のソート」ダイアログ・ボックスで、1番目のソート方法のプロパティを選択して  をクリックします。必要に応じてこの手順を繰り返して、2番目および3番目のソート方法を選択します。
- 5 「OK」を2回クリックします。

選択したメンバーのプレビュー

レポートを実行する前に、選択したメンバーまたはメンバー・リストをプレビューできます。表示されるメンバーは、評価されたメンバー・リストまたは関数から戻されるメンバーです。

- ▶ メンバーをプレビューするには：

- 1 レポートを開きます。

- 2 メンバーをプレビューするセルをダブルクリックします。
- 3 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの「選択済」領域をクリックします。
- 4 「表示」ボタンをクリックして、「プレビュー」を選択します。
- 5 「(次元)のプレビュー」ダイアログ・ボックスが開き、選択したセルのメンバー選択が表示されます。
- 6 「OK」をクリックして、「(次元)のプレビュー」ダイアログ・ボックスを閉じます。

Planning 詳細データベース接続のアクセス権

グリッドでデータベース接続として Planning 詳細を使用する場合、Financial Reporting では、特定の次元のメンバーに対するアクセス権が付与されます。これらの次元には、会計、エンティティ、シナリオ、およびバージョンがあります。「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスには、アクセス権に関係なく、Planning 詳細データベース接続のすべてのメンバーが表示されます。そのため、レポートの実行時に戻されないメンバーをグリッドに配置できます。選択したメンバーは、レポートの出力に影響します。たとえば、POV またはページ軸でユーザーがアクセスできないメンバーを選択すると、エラー・メッセージが戻されます。

エンド・ユーザーに対するアクセス権セキュリティの設定の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

次の 4 つのシナリオで、グリッドの次元やメンバーに有効なものと無効なものが含まれている場合に、どのような値が戻されるかについて説明します。

どのシナリオでも、ユーザーは、Planning 詳細データベース接続を使用してレポートを実行し、次の次元とメンバーのアクセス権を持っています。

- 勘定科目: 販売、利益
- バージョン: 第 1 版、第 3 版、最終版
- エンティティ: 北部、カナダ
- シナリオ: 予算

シナリオ 1

ユーザーは、次のグリッドのレポートを実行します。

ページ: 予算

	ドラフト第 1 版	ドラフト第 2 版	ドラフト第 3 版
北部	###	###	###
中部	###	###	###
南部	###	###	###

結果: ユーザーは、中部や南部、第 2 版のアクセス権を持っていないので、次のようなレポートになります。

ページ: 予算

	ドラフト第 1 版	ドラフト第 3 版
北部	23.89	12.90

シナリオ 2

ユーザーは、次のグリッドのレポートを実行します。

ページ: 実績

	ドラフト第 1 版	ドラフト第 2 版	ドラフト第 3 版
北部	###	###	###
中部	###	###	###
南部	###	###	###

結果: ユーザーはページのシナリオ: 実績のアクセス権を持っていないので、ページは表示されず、アクセス権がないことを示すエラー・メッセージが表示されます。

シナリオ 3

ユーザーは、次のグリッドのレポートを実行します。

ページ: 予算

	ドラフト第 1 版	ドラフト第 2 版	ドラフト第 3 版
ロンドン	###	###	###
パリ	###	###	###
ニューヨーク	###	###	###

結果: ユーザーは、行のエンティティ次元のアクセス権を持っていないので、ページは表示されず、アクセス権がないことを示すエラー・メッセージが表示されます。

シナリオ 4

ユーザーは、次のグリッドのレポートを実行します。

ページ: 予算

	バージョンの子孫
エンティティの子孫	###

結果: レポートのデータは次のようになります。

ページ: 予算

	ドラフト第1版	ドラフト第3版	最終バージョン
北部	23.89	12.90	67.12
カナダ	2.67	8.90	54.78

4

チャートのカスタマイズ

この章の内容

チャートについて	69
チャートのフォーマット	72
チャートのタイトルとラベルのフォーマット	85

この章では、作成できるチャートの種類と、チャートをフォーマットする方法について説明します。次のトピックで、チャートをカスタマイズする基本的なフレームワークを作成します。

チャートは、レポートのグリッドのレポート・データをグラフィック表示したものです。チャートはグリッドからデータを動的に取得するので、グリッドのデータが変更されると、チャートが自動的に更新されます。

チャートの次のコンポーネントを定義およびフォーマットできます。

- チャートのタイプとデータ・コンテンツ
- チャートの属性(タイトル、タイトルの角度、フォントの角度、背景のフォーマットなど)
- 凡例と軸の情報(ラベル、フォント、背景色、方向など)
- チャートのタイプに固有のフォーマット・オプション(棒グラフの棒の幅など)
- レポート内のチャートの位置(縦横)

コントロール・グリッドを非表示にして、レポート内にチャートのみを表示できます。詳細は、[195 ページの「行、列、グリッドの非表示」](#)を参照してください。

レポートにチャートを追加する方法の詳細は、[102 ページの「チャートの挿入」](#)を参照してください。

チャートについて

チャートを作成して、レポートでデータを視覚的に示します。様々なタイプのチャートを使用して、トレンドや傾向を示し、違いや進歩を強調したり、レポートに値や情報のチャートやグラフを追加したりできます。

棒グラフ、折れ線グラフ、複合チャートおよび円グラフを設計できます。次の項では、これらのチャート・タイプについて説明します。

棒グラフ

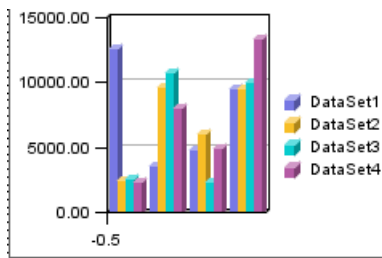
棒グラフは、最大 50 のデータ・セットを表示できます。各データ・セットには、値の任意のメンバーを割り当てることができます。棒グラフでは、次のアイテムのプロパティを使用できます。

- 表示形式
- 凡例
- 軸
- 要素のスタイル
- 棒

対応する棒をグループ化したり重ねたりしてデータ・グループを表示できます。また、個別の行に表示することもできます。棒、三角形棒グラフ、ひし型棒グラフまたは円柱グラフの形状を適用して、3D 効果で棒を表示することもできます。

次の例は、東部、西部、南部、中央部の 4 つのデータ・セットを示します。各データ・セットには、4 つの値が割り当てられています。棒はグループ化され、3D 効果で表示されています。

図 2 棒グラフの例



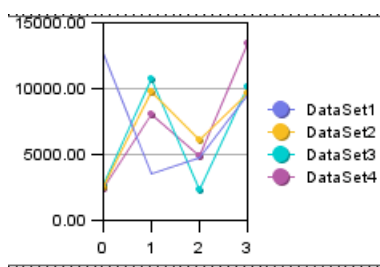
折れ線グラフ

折れ線グラフは、最大 50 のデータ・セットを表示できます。X 軸には均一の間隔が自動的に設定されます。折れ線グラフでは、次のアイテムのプロパティが使用できます。

- 表示形式
- 凡例
- 軸
- 要素のスタイル
- 線

次の例は、東部、西部、南部、および中央部を表す折れ線で表現された 4 つのデータ・セットを示します。それぞれの折れ線には、データ・セットの絶対値が反映されています。

図3 折れ線グラフの例



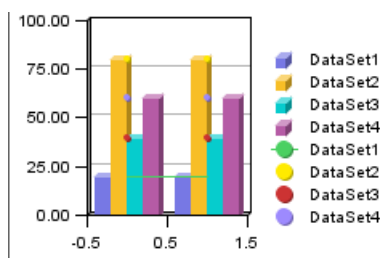
複合チャート

複合グラフは、棒グラフと折れ線グラフの組合せです。複合グラフは、一般的に比較目的で使用されます。複合チャートでは、棒データ・セットと折れ線データ・セットのグループを使用できます。棒グラフと折れ線グラフのすべての表示パラメータが使用されます。2つのデータ・セット(棒のレンダリングを行うデータ・セットと折れ線のレンダリングを行うデータ・セット)を選択する必要があります。複合グラフでは、次のアイテムのプロパティを使用できます。

- 表示形式
- 凡例
- 軸
- 要素のスタイル
- 棒
- 線

次の例は、第1四半期、第2四半期、第3四半期、および第4四半期を表す4つのデータ・セットを含む複合グラフを示します。製品次元を市場次元と比較しています。各データ・セットには、4つの値が割り当てられています。棒はグループ化され、3D効果で表示されています。チャートでは、棒グラフと折れ線グラフの表示オプションが使用されています。

図4 複合チャートの例



円グラフ

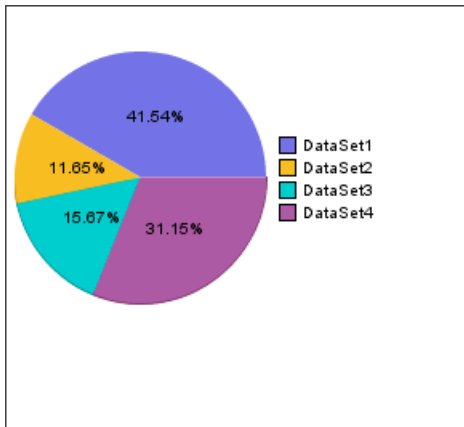
円グラフは、円のスライスで1つのデータ・セット・セグメントを表します。円グラフでは、次のアイテムのプロパティを使用できます。

- 表示形式

- 凡例
- 要素のスタイル
- 円グラフ

次の円グラフの例は、東部、西部、南部、および中央部のデータ・セットの四半期ごとのデータを示します。

図 5 円グラフの例



チャートのフォーマット

チャートをフォーマットして、レポートでのチャートの外観とレイアウトをカスタマイズします。チャートをフォーマットして、棒グラフや複合チャートを含む様々なチャート・タイプを使用してデータを表すこともできます。チャートのフォーマットを変更するには、「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスを使用します。このダイアログ・ボックスには、「チャートのプロパティ」プロパティ・シートからアクセスします。

「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスの詳細は、次のトピックを参照してください。

- [75 ページの「「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスの使用法](#)」
- [77 ページの「チャート内のフォントの設定」](#)
- [78 ページの「チャートの枠線と背景のオプション」](#)
- [79 ページの「棒グラフと複合チャートの棒のフォーマット」](#)
- [80 ページの「折れ線グラフと複合チャートの線のフォーマット」](#)
- [81 ページの「複合チャートのオプションの定義」](#)
- [81 ページの「円グラフのフォーマット」](#)
- [82 ページの「チャートの背景オプションの設定」](#)
- [83 ページの「レポート上のチャートの位置」](#)
- [84 ページの「グリッド線の定義」](#)
- [84 ページの「データ・セットのスタイルの定義」](#)

- [85 ページの「チャートのサイズの変更と移動」](#)
- [85 ページの「チャートのタイトルとラベルのフォーマット」](#)
- [89 ページの「チャートの表示」](#)

チャートのデータの定義

「チャートのプロパティ」プロパティ・シートを使用して、チャート・データを定義します。グリッドを制御して、表示するデータを含む行と列を識別できます。データ範囲の連続した(または連続しない)行と列を選択してグリッドを制御し、データまたは式の行と列を参照できます。データ・セットに自動計算を含めることや、データ・セットから自動計算を除外することもできます。

折れ線グラフ、棒グラフ、または複合チャートを設計する場合は、グリッドの複数の行または列を参照できます。円グラフを設計する場合は、グリッドの1つの行または列を参照できます。複合チャートを定義する場合は、棒グラフと折れ線グラフのデータ行および列を指定します。

- ▶ 展開可能な集約行または集約列をチャートに表示できます。たとえば、チャートで行 1 を指定し、行 1 に含まれている関数が 10 個の子メンバーを取得する場合は、チャートには、10 個のデータ・セット(各子メンバーに 1 個のデータ・セット)が示されます。
- ▶ チャートのデータを定義するには:
 - 1 レポートを開き、グリッドとチャートを作成します。
 - 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートで、設計するチャートのタイプ(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフまたは複合チャート)を「チャートのタイプ」ドロップダウン・リストから選択します。次の図は、「チャートのプロパティ」プロパティ・シートのオプションを示します。詳細は、[付録 A「プロパティ・シートのヘルプ」](#)を参照してください。

図 6 「チャートのプロパティ」シート

Chart Properties - [FinalQ2Bar]

Chart Type
Combo

Grid
Grid1

Legend Items from Grid
 Row(s)
 Col(s)

Bar Data Range
Row(s) Col(s)
 1 A
 2 B
 3 C

Line Data Range
Row(s) Col(s)
 1 A
 2 B
 3 C

Include Auto Calculation
Format Chart

Page Break Before
Position Object on Report
Horizontal
None
Vertical
None

Add Related Content
Setup...

Name
FinalQ2Bar

注： 複合チャートをフォーマットする場合は、「チャートのプロパティ」シートには、折れ線グラフ用と棒グラフ用のデータの範囲を選択するオプションが表示されます。

- 3 「グリッド」ドロップダウン・リストから、このチャートで参照するグリッドの名前を選択します。グリッドは、現在のレポート上に存在する必要があります。
- 4 「凡例に入れるグリッドのアイテム」で、「行」(行データを参照する場合)または「列」(列データを参照する場合)を選択します。
- 5 すべてのタイプのチャート(棒グラフ、折れ線グラフ、複合チャートまたは円グラフ)に表示するデータの範囲を指定します。「データ範囲」リスト・ボックスで、含める行を「行」リストのチェック・ボックスで選択するか、含める列を「列」リストのチェック・ボックスで選択します。

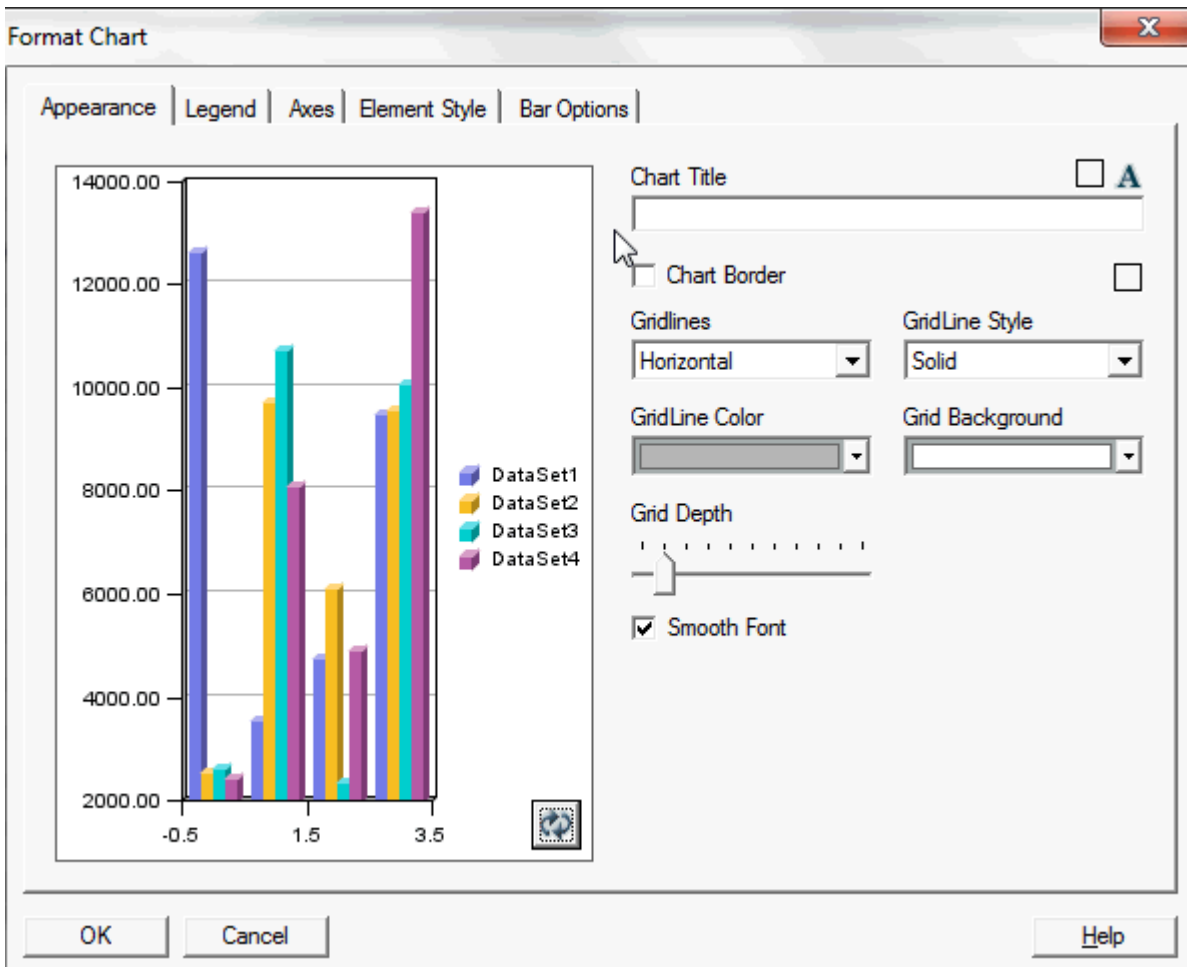
注： データ範囲に指定する行と列は、連続していてもしていなくてもかまいません。

- 6 オプション: データ・セットの自動計算を設定する場合は、「自動計算を含める」チェック・ボックスを選択します。
- 7 オプション: チャートの前に改ページを挿入する場合は、「前に改ページ」チェック・ボックスを選択します。
- 8 「チャートのフォーマット」ボタンをクリックし、チャートにフォーマットを適用します。[75 ページの「「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスの使用方法](#)を参照してください。
- 9 オプション: 「レポート上のオブジェクトの位置」ドロップダウン・リスト・ボックスを使用して、オブジェクトの水平および垂直位置を変更します。詳細は、[83 ページの「レポート上のチャートの位置](#)」を参照してください。
- 10 関連コンテンツを追加するには、「関連コンテンツの追加」チェック・ボックスを選択し、「設定」をクリックします。[166 ページの「関連コンテンツの適用](#)」を参照してください。
- 11 「名前」フィールドに、チャートの名前を入力します。
- 12 チャートとデータを表示するには、「ファイル」を選択し、「印刷プレビュー」または「Web プレビュー」を選択します。

「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスの使用方法

「チャートのプロパティ」シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックして、チャートのフォーマットを変更します。「チャートのフォーマット」に表示されるタブは、「チャートのプロパティ」プロパティ・シートで選択したチャートのタイプに応じて異なります。たとえば、円グラフを選択した場合、ダイアログ・ボックスに「円グラフのオプション」タブが表示されますが、「棒グラフのオプション」タブは表示されません。

図7 「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックス - 棒グラフ



注： 使用するチャートのタイプによって、「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスで選択できるオプションが異なります。

表 15 では、「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスのタブについて説明します。

表 15 「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスのタブ

タブ	説明
表示形式	「表示形式」タブを使用して、すべてのチャート・タイプのチャートのタイトル、チャートの枠線、フォント、グリッド線、グリッド線のスタイル、グリッド線の色、グリッドの背景色を指定します。チャート・グリッドの奥行きも指定できます。「表示形式」タブでは、チャートのプレビューも表示できます。
凡例	「凡例」タブを使用して、すべてのチャート・タイプの凡例プロパティを指定します。チャート上での凡例の位置を指定し、凡例のタイトルを定義できます。凡例タイトルのフォント、フォント・スタイル、フォント・サイズおよびテキストの効果を設定できます。「繰返しのラベルを抑制」のデフォルト設定は使用不可ですが、使用可能にしてグリッドの設定を継承できます。詳細は、85 ページの「チャート凡例のタイトルの定義」を参照してください。

タブ	説明
軸	<p>「軸」タブを使用して、軸のプロパティ(メタデータ、プライマリ軸、セカンダリ軸のタイトルおよび軸ラベル)を指定します。プライマリおよびセカンダリ軸ラベルを指定して、両方のフォント・オプションを指定できます。値のデフォルトまたはカスタム範囲を使用して、プライマリおよびセカンダリ軸のデータ・ラベルも指定できます。フォント・オプション(フォント、フォント・スタイル、フォント・サイズおよびテキストの効果)も指定できます。</p> <p>注： 棒グラフ、複合チャートおよび折れ線グラフで作業する場合は、セカンダリ軸のタイトル・ラベルを設定できます。これらのタイトルとラベルには、パーセンテージを表す 0 から 100 までの値が表示されます。複合チャートで作業する場合は、値のデフォルトまたはカスタム範囲を使用して、セカンダリ軸のデータ・ラベルを表示できます。</p> <p>メタデータ・ラベルを表示して、ラベルの表示のフォントの角度を指定できます。メタデータ・ラベルのその他のフォント・オプションも変更できます。詳細は、87 ページの「チャートの軸のタイトルの定義」を参照してください。</p> <p>注： 円グラフを除くすべてのチャート・タイプの軸プロパティを定義できます。</p>
要素のスタイル	<p>「要素のスタイル」タブを使用して、チャート・タイプに応じてデータ・セットの棒グラフと円グラフの塗りつぶし、線スタイル、ライン・マーカースタイル、マーカースタイル、サイズ、および線の幅を指定します。たとえば、円の塗りつぶしは円グラフでのみ指定できます。棒の形は、棒グラフと複合チャートで指定できます。データ・セットを選択して、そのデータ・セットに適用するパターン、スタイル、色および形状を指定できます。各パターンまたは塗りつぶしの指定では、最大 2 つの色を指定できます。グラフ内の棒に色を適用する際は、2 つの異なる色を切り替えることができます。</p>
折れ線グラフのオプション	<p>折れ線グラフをフォーマットする場合は、「折れ線グラフのオプション」タブのオプションを使用して、線のタイプ(行、パーセント、または上下に重ねるラベル表示)を指定します。点の値を表示し、チャートに表示される値のフォント・オプションを設定することもできます。「折れ線グラフのオプション」では、フォーマットを変更する際に折れ線グラフのプレビューを表示できます。</p>
棒グラフのオプション	<p>棒グラフをフォーマットする場合は、「棒グラフのオプション」タブを使用して、棒グラフの棒のタイプ(グループ、スタックまたは行)および向き(垂直または水平)を指定します。グラフの棒の幅(0 から 100)を指定できます。棒の枠線のスタイルおよび幅(0 から 20)を選択できます。点の値を表示して、グラフに表示されるデータ値のフォント・オプションを設定できます。「棒グラフのオプション」タブでは、フォーマットを変更する際に棒グラフのプレビューを表示できます。</p>
折れ線グラフと棒グラフのオプション	<p>複合チャートをフォーマットする場合は、「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスに「折れ線グラフのオプション」と「棒グラフのオプション」タブが表示されます。これらのタブの詳細は、この表の「折れ線グラフのオプション」タブおよび「棒グラフのオプション」タブの説明を参照してください。</p> <p>注： 複合チャートをフォーマットする場合は、「チャートのプロパティ」シートには、折れ線グラフ用と棒グラフ用のデータの範囲を選択するオプションが表示されます。</p>
円グラフのオプション	<p>円グラフのフォーマット・オプションを指定するには、「円グラフのオプション」を使用します。円グラフの角度の変更、区切り距離の指定(円グラフの最初のスライスにのみ適用されます)および円グラフに表示するスライス値の選択(パーセント、データまたはラベル)を行うことができます。これらの値のフォント・オプションもフォーマットできます。スライス値の位置(外側または内側)を指定できます。スライスの枠線のスタイル(実線、点線、波線、または一点鎖線)およびスライスの枠線の幅(0 から 20)を指定できます。「円グラフのオプション」タブでは、フォーマットを変更する際に円グラフのプレビューを表示できます。</p>

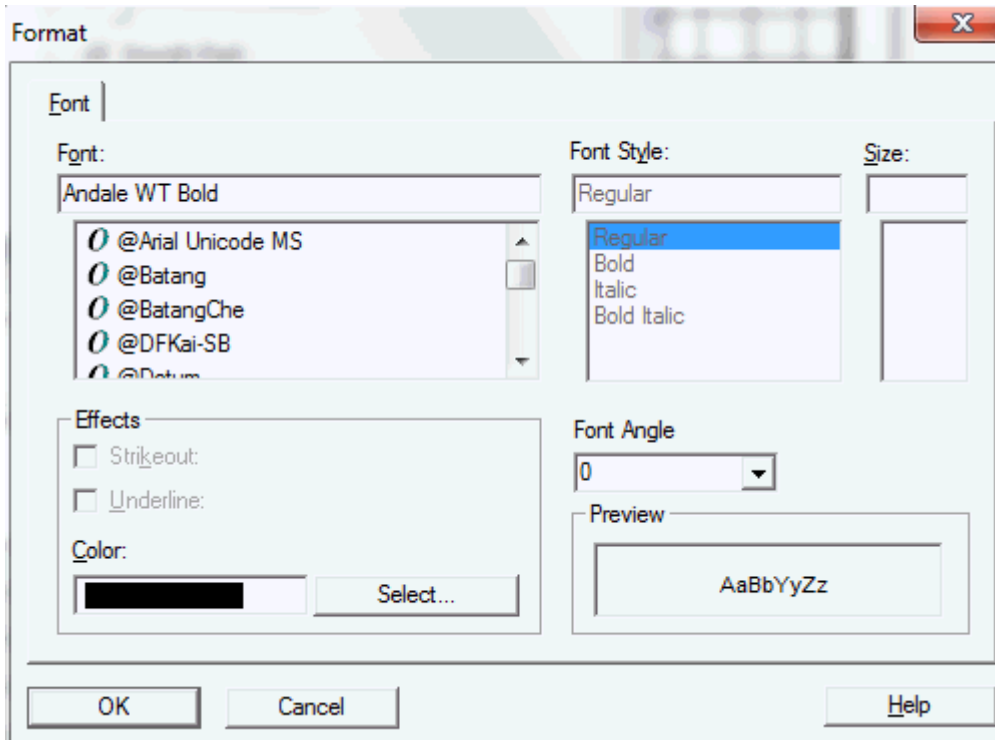
チャート内のフォントの設定

チャートで作業する場合、フォントをフォーマットして表示形式をカスタマイズできます。フォント・フォーマットのオプションには、フォントの選択、フォント・サイズ、色、およびフォントの角度(0 から 45 度単位で 315 度まで)が含まれます。

「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスのすべてのタブに表示される「フォーマット」ボタン **A** をクリックして、フォントをフォーマットできます。


注：「フォーマット」ダイアログ・ボックスには、現在設定しているフォントを示すプレビュー・ウィンドウが付いています。

図 8 「フォーマット」ダイアログ・ボックス



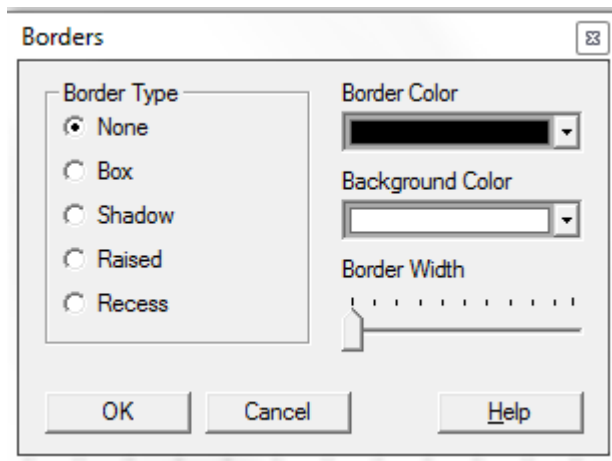
「フォーマット」ダイアログ・ボックスでは、チャートに戻らずにフォント・オプションの選択をプレビューできます。フォントのフォーマットの詳細は、[188 ページ](#)の「フォントのオプションの変更」を参照してください。

チャートの枠線と背景のオプション

「枠線と背景」ダイアログ・ボックスを使用して、チャートの枠線と背景をフォーマットできます。このダイアログ・ボックスにアクセスするには、「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスの「枠線と背景」アイコン  をクリックします。

枠線と背景のフォーマット・オプションには、枠線のタイプ、枠線色、背景色および枠線幅があります。

図9 「枠線と背景」ダイアログ・ボックス



棒グラフと複合チャートの棒のフォーマット


データ・セットをグループ化し、チャート上での向きを指定して棒グラフまたは複合チャートの棒を表示できます。点の値も棒グラフまたは複合チャートに表示できます。棒の形状と幅および棒の枠線を変更できます。

チャートで棒をどのように表示するかを決めるときは、次のことに注意してください。

- 棒の向きを垂直に指定すると、横軸から垂直に棒が伸びます。
- 棒の向きを水平に指定すると、縦軸から水平に棒が伸びます。
- 棒を3次元で表示できます。3次元の奥行きは、3D効果またはシャドウのピクセルの奥行きを表します。
- 棒の幅は、使用可能なスペースのパーセンテージとして棒の相対的な幅を表します。小さい値を設定すると、棒の間隔が広がります。
- チャートに表示される棒の形を指定できます。
- 「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスの「要素のスタイル」タブを使用して、データ・セットごとに網掛け(パターンと色)を適用できます。詳細は、表15を参照してください。

▶ 棒グラフや複合チャートの棒をフォーマットするには:

- 1 レポートを開き、棒グラフまたは複合チャートを作成するか選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックします。
- 3 「棒グラフのオプション」タブを選択します。
- 4 「タイプ」オプションで、次のいずれかを選択します。
 - 棒を並べて表示するには、「グループ」を選択します。
 - 棒を下から上へ積み上げて表示するには、「スタック」を選択します。
 - 棒を前から後ろへ表示するには、「行」を選択します。
- 5 「向き」オプションで、次のいずれかを選択します。

- 棒が横軸から垂直に伸びるようにするには、「**縦方向**」を選択します。
 - 棒が縦軸から水平に伸びるようにするには、「**横方向**」を選択します。
- 6 棒が表す数値またはデータを表示するには、「**点の値を表示**」チェック・ボックスを選択します。値が棒の内部に表示されます。
 - 7 「**フォント**」ボタン  をクリックして、棒の値のフォント・オプションを設定します。
 - 8 棒の枠線のスタイルを指定するには、「**棒の枠線のスタイル**」ドロップダウン・リストから「**実線**」、「**点線**」、「**波線**」または「**一点鎖線**」を選択します。
 - 9 棒の幅を変更するには、「**棒の幅**」ボックスのスライダ・ツールを使用します。
 - 10 棒の枠線の幅を変更するには、「**棒の枠線の幅**」ボックスのスライダ・ツールを使用します。
 - 11 「**OK**」をクリックします。


注： 現在のデータ・セットを表す棒のスタイルを定義できます。詳細は、[84 ページの「データ・セットのスタイルの定義」](#)を参照してください。

折れ線グラフと複合チャートの線のフォーマット

折れ線グラフと複合チャートの線の表示オプションを指定できます。たとえば、線を複数の個別の行、すべての値の合計のパーセンテージとしてのスタック、または絶対値のスタックとして表示できます。

▶ 折れ線グラフと複合チャートの線をフォーマットするには:

- 1 レポートを開き、折れ線グラフまたは複合チャートを作成するか選択します。
- 2 「**チャートのプロパティ**」プロパティ・シートの「**チャートのフォーマット**」ボタンをクリックします。
- 3 「**折れ線グラフのオプション**」タブを選択します。
- 4 線のタイプを、次のいずれかから選択します。
 - 線のセットを複数の個別の行に表示するには、「**行**」を選択します。たとえば、0 以外の 3D の奥行きを定義した場合、線は前面から背面への複数の個別の行に表示されます。
 - 線のセットを相互に重ねて表示するには、100%に正規化して「**パーセント**」を選択します。それぞれの線のセットが描画されるに従って、表示された以前の値に値が追加され、すべての値の合計のパーセンテージとして表示されます。
 - 線のセットを重ねて表示するには、「**スタック**」を選択します。それぞれの線のセットが描画されるに従って、値が以前の値に追加されます。ドロップダウン・リストから次のいずれかを選択します。
 - 累積値をポップアップで表示する場合は、「**合計値**」を選択します。
 - 各アイテムの値をポップアップで表示する場合は、「**セグメント値**」を選択します。

- 5 線が表す数値またはデータを表示するには、「点の値を表示」チェック・ボックスを選択します。値が線の上に表示されます。
- 6 表示される値のフォント・オプションを設定するには、「フォント」ボタンをクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

注： 現在のデータ・セットを表す線のスタイルを定義できます。詳細は、[84 ページの「データ・セットのスタイルの定義」](#)を参照してください。

複合チャートのオプションの定義

複合チャートは、折れ線グラフと棒グラフの組合せです。一般的に、データ・セットを比較する複合チャートは、棒グラフと折れ線グラフのオプションを使用し、棒グラフと折れ線グラフと同じ変数が設定されます。


複合チャートをフォーマットする場合は、「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスに「折れ線グラフのオプション」タブと「棒グラフのオプション」タブが表示されます。詳細は、[表 15](#)を参照してください。複合チャートの折れ線グラフのオプションの定義の詳細は、[79 ページの「棒グラフと複合チャートの棒のフォーマット」](#)を参照してください。複合チャートの折れ線グラフのオプションの定義の詳細は、[80 ページの「折れ線グラフと複合チャートの線のフォーマット」](#)を参照してください。

円グラフのフォーマット

円グラフを作成するとき、最初の円スライスの開始角度、円スライス間の区切りのレベル、円スライス・ラベルの位置とタイプ、およびスライスの枠線のスタイルと幅を指定できます。フォント・オプション(スライス値のテキスト表示のフォント、フォント・サイズ、効果および角度)も設定できます。

▶ 円グラフをフォーマットするには:

- 1 レポートを開き、円グラフを作成するか選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックします。
- 3 「円グラフのオプション」タブをクリックします。
- 4 最初の円スライスの角度を指定するには、「扇形の角度」のスライダ・ツールを使用します。角度は、左回りに 0 度から 360 度で設定されます。0 度は、3 時の位置を示します。
- 5 スライス間の距離を指定するには、「区切り」のスライダ・ツールを使用します。スライダ・ツールを左に移動するとスライス間の距離が小さくなり、右に移動すると大きくなります。
- 6 「スライス値の表示形式」で、次のいずれかを選択します。
 - データ値をパーセンテージとして表示するには、「パーセント」を選択します。
 - データの絶対値を表示するには、「データ」を選択します。


- データ値をラベルとして表示するには、「ラベル」を選択します。
- 7 グラフに表示されるスライス値のフォント・オプションを設定するには、「フォント」ボタンをクリックします。
- 8 「位置」オプションで、次のいずれかを選択します。
 - スライス値を円グラフの外側に表示するには、「外側」を選択します。
 - スライスの値を円グラフの内側に表示するには、「内側」を選択します。スライダー・ツールを使用して、スライス内のデータ値の位置を調整します。
- 9 「スライスの枠線のスタイル」ドロップダウン・リストで、円グラフのスライスの枠線に適用するスタイル(実線、点線、波線または一点鎖線)を選択します。
- 10 スライスの枠線の幅を指定するには、「スライスの枠線の幅」のスライダー・ツールを使用します。最大幅は 100 です。
- 11 「OK」をクリックします。

注： 現在のデータ・セットを表すスライスのスタイルを定義できます。詳細は、[84 ページの「データ・セットのスタイルの定義」](#)を参照してください。

チャートの背景オプションの設定

チャートの背景オプション(枠線、グリッド線、グリッド線の色、グリッド線のスタイルおよびグリッドの背景)を設定できます。グリッドの奥行きも設定できます。

▶ チャートの背景オプションを設定するには:

- 1 レポートを開き、チャートを選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックします。
- 3 「表示形式」タブを選択します。
- 4 「オプション:」チャートの周囲に枠線を付けるには、「チャートの枠線」チェック・ボックスを選択します。
- 5 「枠線と背景」アイコンをクリックして、チャートの枠線と背景をフォーマットします。
- 6 グリッド線、グリッド線の色とスタイル、背景を変更するには、ドロップダウン・リストから適切なオプションを選択します。
 - グリッド線を指定するには、「グリッド線」ドロップダウン・リストから「両方」、「縦方向」、「横方向」、または「なし」を選択します。
 - グリッド線のスタイルを指定するには、「グリッド線のスタイル」ドロップダウン・リストから「実線」、「点線」、「波線」、「一点鎖線」または「棒」を選択します。
 - グリッド線の色を定義するには、「グリッド線の色」ドロップダウン色パレットで色を選択します。

- グリッド線の背景色を指定するには、「グリッドの背景」ドロップダウン色パレットで色を指定します。

注： 円グラフでは、これらの背景オプションは使用できません。

- 7 「オプション」:グリッドの奥行きを変更する場合は、「グリッドの奥行き」のスライダ・ツールを使用します。
- 8 フォントの補整を使用するには、「フォントの補整」チェック・ボックスを選択します。
- 9 「OK」をクリックします。

レポート上のチャートの位置

レポート上のチャートの位置および印刷時の表示方法を指定できます。グリッドに相対的な位置またはその他のレポート・オブジェクトに相対的な位置を指定できます。位置を指定しないことも可能です。位置を指定しない場合、チャートはレポート上で最初に作成された位置に配置されます。

▶ レポート上のチャートの位置を設定するには:

- 1 レポートを開き、チャートを選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「レポート上のオブジェクトの位置」でチャート・オブジェクトの水平および垂直位置を変更します。
 1. 「横方向」ドロップダウン・リストで、次のいずれかを選択します。
 - チャートをレポート内の現在の位置に固定する場合は、「なし」を選択します。チャートは、その位置で印刷されます。
 - チャートの左側にあるその他のレポート・オブジェクトに相対的な距離でチャートを配置する場合は、「相対」を選択します。このオプションを使用すると、別のレポート・オブジェクト上にチャートが印刷されないようにできます。
 - レポートの左マージンに沿ってチャートを配置する場合は、「左」を選択します。
 - レポートの中央にチャートを配置する場合は、「中央」を選択します。
 - レポートの右マージンに沿ってチャートを配置する場合は、「右」を選択します。
 2. 「縦方向」ドロップダウン・リストで、次のいずれかを選択します。
 - チャートをレポート内の現在の位置に固定する場合は、「なし」を選択します。チャートは、その位置で印刷されます。
 - チャートの上部にあるその他のレポート・オブジェクトに相対的な距離でチャートを配置する場合は、「相対」を選択します。このオプションを使用すると、別のレポート・オブジェクト上にチャートが印刷されないようにできます。
 - レポートの上端に沿ってチャートを配置する場合は、「上」を選択します。
 - レポートの中央にチャートを配置する場合は、「中央」を選択します。

- レポートの下端に沿ってチャートを配置する場合は、「下」を選択します。

グリッド線の定義

棒、折れ線または複合チャートの背後にグリッド線を表示できます。グリッド線は表示することも非表示にすることも可能で、グリッド線の色、スタイルおよび背景色を指定できます。

▶ グリッド線を定義するには:

- 1 レポートを開き、チャートを選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックします。
- 3 「表示形式」タブを選択します。
- 4 「グリッド線」ドロップダウン・リストで、次のいずれかを選択します。
 - 水平グリッド線を表示するには、「横方向」を選択します。
 - 垂直グリッド線を表示するには、「縦方向」を選択します。
 - 垂直と水平の両方のグリッド線を表示するには、「両方」を選択します。
 - グリッド線を表示しない場合は、「なし」を選択します。
- 5 「オプション:」グリッド線のスタイルを指定するには、「グリッド線のスタイル」をクリックし、ドロップダウン・リストから、「実線」、「点線」、「破線」、「一点鎖線」または「棒」のいずれかを選択します。
- 6 「オプション:」グリッド線の色を指定するには、「グリッド線の色」をクリックし、カラー・パレットで色を選択します。
- 7 「オプション:」グリッド線の背景色を指定するには、「グリッドの背景」をクリックし、ドロップダウンのカラー・パレットで色を選択します。

データ・セットのスタイルの定義

チャート内のデータ・セットのスタイルを定義できます。レポート内の各データ・セットのパターンおよび色を定義できます。指定された網掛けおよびパターンは、チャート内の値を区別するため、それぞれのデータ・セットに適用されます。

▶ データ・セットのスタイルを定義するには:

- 1 レポートを開き、チャートを選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックします。
- 3 「要素のスタイル」タブを選択します。
- 4 データ・セットを選択します。
- 5 選択したデータ・セット用の塗りつぶしのパターンを選択します。
- 6 「色 1」と「色 2」のドロップダウン・リストで、パターンに使用する 2 色を選択します。

注： 選択した2色を入れ替えるには、色の切替えアイコンをクリックします。

- 7 データ・セットに適用する線スタイル、ライン・マーカのスタイル、マーカ・サイズおよび線の幅を選択します。
- 8 「OK」をクリックします。

チャートのサイズの変更と移動

チャートのサイズを変更したり、レポートの別の場所にチャートを移動したりできます。

▶ チャートのサイズを変更するには:

- 1 チャート・オブジェクトをクリックして、チャートを選択します。
- 2 チャートの周りに表示されるハンドルをクリックし、チャートが適切なサイズになるまでドラッグします。

▶ チャートを移動するには:

- 1 チャートの内側をクリックし、チャート・オブジェクトを選択します。
- 2 マウスの左ボタンを押したまま、チャートをレポートの別の場所にドラッグします。

チャートのタイトルとラベルのフォーマット

チャートでは、チャート凡例のタイトル、チャートのタイトル、チャートの軸のタイトル、および軸のラベルの指定およびフォーマットを行うことができます。また、指定したタイトルおよび軸のフォント、枠線および背景をフォーマットできます。チャートのタイトルおよびラベルは、「チャートのフォーマット」ダイアログ・ボックスで指定します。

チャートのタイトルとラベルの定義の詳細は、次のトピックを参照してください。

- [85 ページの「チャート凡例のタイトルの定義」](#)
- [86 ページの「チャートのタイトルの定義」](#)
- [87 ページの「チャートの軸のタイトルの定義」](#)
- [88 ページの「軸のラベルの定義」](#)



チャート凡例のタイトルの定義

凡例を定義して、チャートで使用されるデータ・セットの識別と説明を行います。フォントおよび背景のオプションと枠線の色を指定できます。また、チャートの境界内の凡例の配置場所も指定できます。

ラベルを繰り返し表示しないようにすることもできます。それによって、参照するグリッドから設定を継承できます。繰り返しのラベルは、非表示にしなかった場合にチャート内で繰り返される軸のラベルです。

注： チャート凡例のオプションは、すべてのタイプのチャートで設定できます。

▶ チャート凡例のオプションを指定するには:

- 1 レポートを開き、チャートを選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックします。
- 3 「凡例」タブを選択し、凡例のフォーマットと配置のオプションを表示します。
- 4 「凡例の配置」チェック・ボックスを選択して、チャートの境界に対してチャート凡例の垂直および水平位置を選択します。垂直の配置のオプションには、「上」、「中央」、「下」があります。水平の配置のオプションには、「左」、「中央」、「右」があります。
- 5 凡例の枠線と背景をフォーマットするには、「枠線と背景」アイコン  をクリックします。
- 6 「凡例タイトル」テキスト・ボックスに、凡例のタイトルを入力します。
- 7 「フォント」ボタン  をクリックして、凡例のタイトルとラベルのフォント・オプション(フォント、フォント・サイズ、文字飾り、角度)を設定し、「OK」をクリックします。
- 8 X軸のラベルを繰り返し表示しないようにするには、「繰り返しのラベルを抑制」の「グリッドから設定を継承」、「オン」または「オフ」を選択します。
- 9 「OK」をクリックします。


チャートのタイトルの定義



チャートの外観を定義するには、タイトルを指定し、そのフォントと背景オプションを選択します。

▶ チャートのタイトルを定義するには:

- 1 レポートを開き、チャートを選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックします。
- 3 「表示形式」タブを選択します。
- 4 「チャートのタイトル」テキスト・ボックスに、チャートのタイトルを入力します。

ヒント： 凡例、軸、またはチャートのタイトルを定義する際、タイトル内で \n を使用して複数行のタイトルを印刷できます。凡例、軸、またはチャートのタイトル内では、\ 's を使用して所有格のアポストロフィを示すことができます。これらのコマンドを組み合わせると、複数行にまたがるタイトルでアポストロフィを使用できます。

- 5 「オプション:」 「フォント」ボタン  をクリックし、フォントのオプションを設定して、「OK」をクリックします。

- 6 「オプション:」 「枠線と背景」 アイコン  をクリックし、チャートのタイトルの枠線と背景のオプションを指定して、「OK」 をクリックします。
- 7 チャートの周りに枠線を付けるには、「チャートの枠線」 チェック・ボックスを選択します。
- 8 「オプション:」 「枠線と背景」 アイコン  をクリックし、チャートの枠線について枠線と背景のオプションを指定して、「OK」 をクリックします。
- 9 「OK」 をクリックします。

チャートの軸のタイトルの定義



メタデータのタイトルおよびプライマリ軸とセカンダリ軸のタイトルを指定して、チャートの軸に表示されるデータを識別できます。また、フォント・サイズ、色、フォントの角度などのフォントのオプションも指定できます。同じフォーマットのオプションを使用して、メタデータにラベルを付けることができます。

また、フォント・サイズ、色、フォントの角度などのフォントのオプションも指定できます。同じフォーマットのオプションを使用して、メタデータにラベルを付けることができます。

各軸のタイトルの色、枠線および背景のオプションを指定できます。

注： 軸のオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、複合チャートでのみ設定できます。

▶ チャートの軸のタイトルを定義するには:



- 1 レポートを開き、チャートを選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」 プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」 ボタンをクリックします。
- 3 「軸」 タブを選択して、軸のフォーマット・オプションを表示し、次の1つ以上のアクションを行います。
 - 「メタデータのタイトル」 テキスト・ボックスに横軸のタイトルを入力します。
 - 「プライマリ軸のタイトル」 テキスト・ボックスに、縦のプライマリ軸のタイトルを入力します。タイトルはチャートの左側に表示されます。
 - 「セカンダリ軸のタイトル」 テキスト・ボックスに、縦のセカンダリ軸のタイトルを入力します。このタイトルはチャートの右側に表示されます。
- 4 「フォント」 ボタン  をクリックし、フォントのオプションを設定して、「OK」 をクリックします。
- 5 「枠線と背景」 アイコン  をクリックし、軸のタイトルの枠線と背景のオプションを指定して、「OK」 をクリックします。
- 6 「OK」 をクリックします。

軸のラベルの定義

チャートのプライマリ軸とセカンダリ軸のラベルを定義して、フォーマットできます。複合チャートの場合は、セカンダリ軸のラベルを指定してフォーマットできます。メタデータのラベルも表示してフォーマットできます。

注： プライマリ軸またはセカンダリ軸のラベルで、軸に表示される値の範囲を指定します。

▶ 軸のラベルを定義するには:

- 1 レポートを開き、チャートを選択します。
- 2 「チャートのプロパティ」プロパティ・シートの「チャートのフォーマット」ボタンをクリックします。
- 3 「軸」タブを選択し、次の1つ以上のアクションを行います。
 - プライマリ軸でデフォルトの範囲の値を使用するには、「**プライマリ軸のラベル**」チェック・ボックスを選択します。
 - プライマリ軸の値の範囲(最小値、最大値、間隔)を入力するには、「**プライマリ軸のラベル**」チェック・ボックスと「**カスタム範囲**」チェック・ボックスを選択します。
- 4 「フォント」ボタン  をクリックし、データ・ラベルのフォントのオプションを設定して、「OK」をクリックします。
- 5 「枠線と背景」アイコン  をクリックし、データ・ラベルの枠線と背景のオプションを指定して、「OK」をクリックします。
- 6 メタデータのラベルを標準の形式で表示するには、「**メタデータ・ラベルの表示**」チェック・ボックスを選択します。

注： Financial Reporting では、ラベルは、デフォルトで互い違いに表示されるように設定されているので、レポートの軸にデータが均等に配置されません。

- 7 「フォント」ボタン **A** をクリックし、メタデータ・ラベルのフォントのオプションを設定して、「OK」をクリックします。

チャートの表示

Reporting Studio および Financial Reporting でレンダリングされたチャートは、印刷と印刷プレビューを実行できます。Adobe SVG ビューアをインストールしている場合、次の出力では高い品質でレンダリングされます。

- Financial Reporting で PDF を表示する場合。
- Reporting Studio で PDF をエクスポートする場合。

注： Adobe SVG ビューアを使用する際の高い品質のチャート出力は、PDF 生成に Adobe Distiller を使用している場合にのみサポートされます。

Adobe SVG ビューアのダウンロードの詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation Start Here ドキュメントを参照してください。

5

レポートの作成

この章の内容

レポート・オブジェクトの追加	91
テキスト・オブジェクトの追加	94
グリッドの追加	96
イメージの挿入	100
チャートの挿入	102
ヘッダーとフッターの作成.....	103
レポート・オブジェクトの位置設定.....	104
レポート・オブジェクトのサイズ変更.....	105
レポート・オブジェクトの保存	106
レポートのオブジェクトの除去	107
ヘッダーとフッターの設計.....	107
タイトル・ページの作成.....	108
レポート・オブジェクトの前への改ページの挿入.....	108
レポートの要約の表示.....	108
サーバー情報の表示	109

レポートを作成するには、レポート・オブジェクトをデザインに追加し、レポート・オブジェクトのプロパティを定義して、レポート・デザインを作成します。レポート・オブジェクトには、テキスト・ボックス、グリッド、イメージおよびチャートが含まれます。レポートを作成するときは空白のデザイン領域から始めます。必要に応じて、空白のレポートを変更できます。

レポート・オブジェクトの追加

レポート・オブジェクトは、レポートのデザイン領域内でテキスト・ボックス、グリッド、チャートまたはイメージとして定義されます。レポートにレポート・オブジェクトを追加するには、レポートのレイアウトおよびオブジェクトのプロパティの指定、データ・コンテンツの選択を行います。あらかじめリポジトリに保管されているレポート・オブジェクトを挿入することもできます。レポート・オブジェクトは複数のレポートで使用できます。

レポート・オブジェクトの追加後、フォーマットのオプションなどのプロパティを割り当てることができます。フォーマットのオプションには、フォント、配置、間隔、網掛け、位置設定などがあります。

▶ レポート・オブジェクトを追加するには:

- 1 「ファイル」、「新規」、「レポート」の順に選択します。
- 2 23 ページの「レポート・オブジェクト」の説明に従って、レポート・オブジェクトをレポートに追加します。
- 3 「ファイル」、「保存」の順に選択して、レポートを保存します。

リンク付きオブジェクトとローカル・オブジェクトの使用法

レポート・オブジェクトはリポジトリに保存でき、他のレポートのリソースとして利用できます。レポート・オブジェクトは、リンク付きオブジェクトまたはローカル(リンクなし)オブジェクトとして他のレポートに挿入し、そのまま、またはカスタマイズして使用できます。

オブジェクトをソース・オブジェクトにリンクすると、時間と労力を節約できます。1つのソース・オブジェクトを更新すると、このソース・オブジェクトにリンクしているすべてのレポートが更新されます。

リンクを設定するかどうかは、次の操作を行うときに指定できます。

- レポート・オブジェクトをリポジトリに保存
- オブジェクトをリポジトリからレポートに挿入。保存されたオブジェクトをリンク付きオブジェクトとしてリポジトリから挿入した場合、レポートにコピーした後にリンクを消去できます。ただし、このアクションを元に戻すことはできません。

リンク付きオブジェクト

リンク付きオブジェクトを使用すると、オブジェクトをレポートおよびリポジトリに保存できます。レポート内のオブジェクトをリポジトリ内のソース・オブジェクトにリンクすると、ソース・オブジェクトに加えた変更をレポート内に存在するオブジェクトに反映できます。

ソース・オブジェクトをレポートに挿入して変更を加え、保存するときにソース・オブジェクトにリンクすると、ソース・オブジェクトと、他のレポートでそのオブジェクトにリンクされているすべてのオブジェクトに変更が反映されます。リンク付きのレポート・オブジェクトの作成例は、95 ページの「テキスト・オブジェクトの保存」を参照してください。

たとえば、レポートにテキスト・オブジェクト `Company_Logo` をリポジトリから挿入したとします。ソース・オブジェクトへのリンクを指定し、`Company_Logo` 内のテキストを変更してオブジェクトを保存します。修正された `Company_Logo` テキスト・オブジェクトによってリポジトリ内のソース・オブジェクトが上書きされ、新しいレポートまたは `Company_Logo` ソース・オブジェクトにリンクされている既存のレポートにも、変更されたテキストが反映されます。

次の表に、リポジトリにリンクして、レポートに含めることができるオブジェクトと、Financial Reporting の各オブジェクト・タイプの手順が記載されている場所を示します。

表 16 リンク付きオブジェクトの使用方法

オブジェクト	ソース・オブジェクトにリンクする手順
グリッド	「オブジェクトの保存」ダイアログ・ボックスからソース・オブジェクトにリンクできます。詳細は、99 ページの「グリッド・オブジェクトの保存」を参照してください。
行と列のテンプレート	「オブジェクトの保存」ダイアログ・ボックスからソース・オブジェクトにリンクできます。リンクすると、「行と列のテンプレートのプロパティ」プロパティ・シートに「ソース・オブジェクトにリンク」が表示されます。
チャート	「オブジェクトの保存」ダイアログ・ボックスからソース・オブジェクトにリンクできます。詳細は、102 ページの「チャートの挿入」を参照してください。
テキスト・ボックス	「オブジェクトの保存」ダイアログ・ボックスからソース・オブジェクトにリンクできます。詳細は、95 ページの「テキスト・オブジェクトの保存」を参照してください。
イメージ	「オブジェクトの保存」ダイアログ・ボックスからソース・オブジェクトにリンクできます。詳細は、101 ページの「イメージ・オブジェクトの保存」を参照してください。

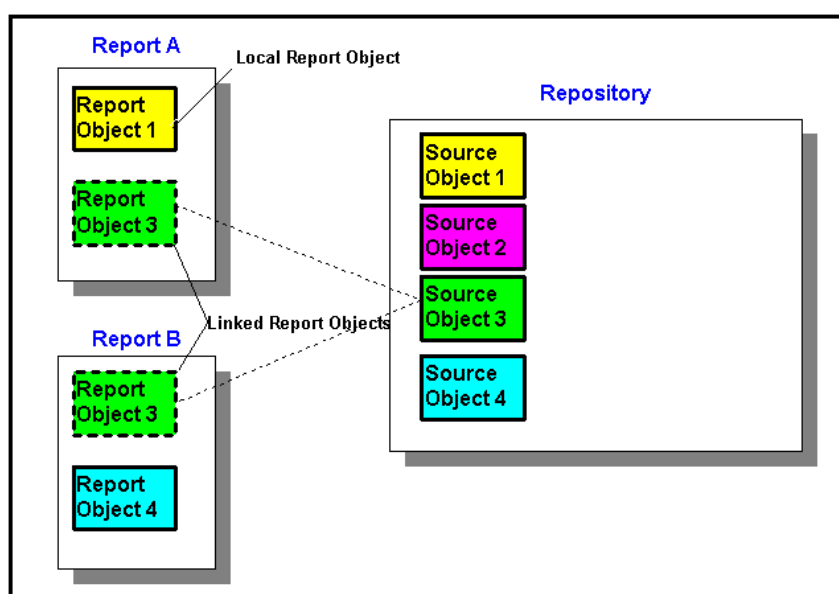
Financial Reporting 内のローカル・オブジェクト

リポジトリのオブジェクトをソース・オブジェクトにリンクしないでレポートに保存すると、ローカル・オブジェクト(現在のレポートのオブジェクト)はリポジトリに保存済のオブジェクトとリンクされません。ローカル・オブジェクトに加えられた変更はリポジトリに保存されているオブジェクトに影響せず、リポジトリのオブジェクトに加えられた変更もレポートのローカル・オブジェクトに影響しません。

このようにしてレポートに挿入したレポート・オブジェクトのコピーは、個々の要件に合わせてカスタマイズできます。

次の図に、レポートにあるリンク付きオブジェクトとローカル・オブジェクトの動作の違いを示します。

図 10 リンク付きレポート・オブジェクトとローカル・レポート・オブジェクト



Report A では、Report Object 1 はローカル・オブジェクトとしてリポジトリからコピーされています。ローカル・レポート・オブジェクトに加えられた変更はソース・オブジェクトに反映されません。Report Object 3 はリポジトリ内のソース・オブジェクトにリンクされています。Report Object 3 に加えられた変更は、保存時にソース・オブジェクトおよび Report B の Report Object 3 など、そのソース・オブジェクトにリンクされている他のレポートに反映されます。

テキスト・オブジェクトの追加

テキスト・オブジェクトは、テキストまたはテキストの関数を含むことができるレポート・オブジェクトです。たとえば、ラベル、説明、テキスト・ボックス内の現在の日付を取得する関数などを入力できます。テキストの関数の詳細は、[226 ページの「テキスト関数」](#)を参照してください。テキストは複数の段落に分けて入力できます。テキストが含まれている領域は、他のレポート・オブジェクトと同様に、移動、サイズ変更、位置の変更を行うことができます。

新しいテキスト・オブジェクトを作成するか、既存のテキスト・オブジェクトをレポートに挿入します。新しいテキスト・オブジェクトは空の領域であり、エディタやワード・プロセッサからテキスト、テキスト関数またはリッチ・テキストを入力できます。テキスト・オブジェクトはリポジトリに保管され、多数のレポートに挿入できます。たとえば、すべてのレポート・デザインに、同じテキスト・オブジェクトを追加することもできます。

▶ テキスト・オブジェクトを追加するには:

- 1 「ファイル」を選択してから「開く」を選択します。
- 2 レポートを開き、「挿入」、「テキスト」の順に選択します。
- 3 テキスト・ボックスの左上角になる場所をクリックし、そのままドラッグします。ボックスが適切なサイズになったらマウスのボタンを離します。
- 4 挿入したテキスト・オブジェクトをクリックし、テキストを直接入力します。

▶ リポジトリに保存されているテキスト・ボックスを挿入するには:

- 1 「ファイル」を選択してから「開く」を選択します。
- 2 レポートを開き、「挿入」、「保存したオブジェクト」の順に選択します。
- 3 「タイプ」ドロップダウン・リストで「テキスト」を選択します。
- 4 テキスト・オブジェクトを探すディレクトリを選択し、使用するテキスト・オブジェクトを選択します。
- 5 次のいずれかのアクションを行います:
 - テキスト・オブジェクトをリンク付きオブジェクトとして使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。
 - テキスト・オブジェクトをリンクなしのオブジェクトとして使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスの選択を解除します。これがデフォルトのオプションです。
- 6 「挿入」をクリックします。

テキスト・オブジェクトの変更

テキスト・オブジェクトのプロパティを変更できます。変更とは、テキスト・オブジェクトへの関数の挿入、テキスト・ボックスの垂直方向または水平方向の位置の変更、またはテキストの自動サイズ調整の関数の選択を行うことです。テキストの自動サイズ調整の関数を選択すると、テキスト・オブジェクトに含まれるすべてのテキストを表示できます。また、「前に改ページ」チェック・ボックスを選択すると、レポートをプレビューまたは印刷する際に、次のページの先頭にテキスト・ボックスを表示できます。現在のテキスト・オブジェクトをリポジトリのソース・オブジェクトにリンクすることもできます。

注： 「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスは、テキスト・オブジェクトをリポジトリに保存するときに「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスを選択した場合にのみ使用可能です。

▶ テキスト・オブジェクトを変更するには:

- 1 テキスト・オブジェクトを選択します。
- 2 「テキストのプロパティ」シートを使用して、オブジェクトのプロパティを変更します。テキストを変更するには、「フォーマット」、「フォント」の順に選択します。

ヒント： テキスト・オブジェクトのサイズを変更するには、ハンドルをドラッグします。テキスト・オブジェクトを移動するには、テキスト・オブジェクトの枠線の内側をドラッグします。

テキスト・オブジェクトの保存

テキスト・オブジェクトを保存するときには、テキスト・オブジェクトとリポジトリ内のソース・オブジェクト間のリンクを作成できます。テキスト・オブジェクトはリポジトリに保存して、レポートを構築するときに再使用できます。リポジトリに保存したテキスト・オブジェクトは、リンク付きオブジェクトまたはリンクのないオブジェクトとしてレポートに挿入できます。

注： リンク付きオブジェクトへの変更は、デザインを保存して閉じても保存されません。

▶ テキスト・オブジェクトをリポジトリに保存するには:

- 1 テキスト・オブジェクトをクリックし、「ファイル」、「オブジェクトの保存」の順に選択します。
- 2 フォルダを選択するか、または作成します。
- 3 次のアクションを行います。
 1. 「名前」テキスト・ボックスに、レポートのテキスト・オブジェクトの名前を入力します。大文字と小文字、スペースおよび数字を使用できます。\\ / %, ? + < > | ' " *などの特殊文字は使用できません。

2. 「説明」テキスト・ボックスに、テキスト・オブジェクトの説明を入力します。

4 次のいずれかのアクションを行います:

- レポート内のテキスト・オブジェクトからリポジトリ内のソース・オブジェクトへのリンクを作成するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。
- レポート内のテキスト・オブジェクトからリポジトリ内の保存済のオブジェクトへのリンクを作成せずに保存するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。

注: リンク付きオブジェクトの詳細は、92 ページの「リンク付きオブジェクトとローカル・オブジェクトの使用方法」を参照してください。

5 「保存」をクリックして、テキスト・オブジェクトをリポジトリに保存します。テキスト・オブジェクトを保存した場合、指定したオブジェクトのみが保存され、レポート・デザイン全体は保存されません。

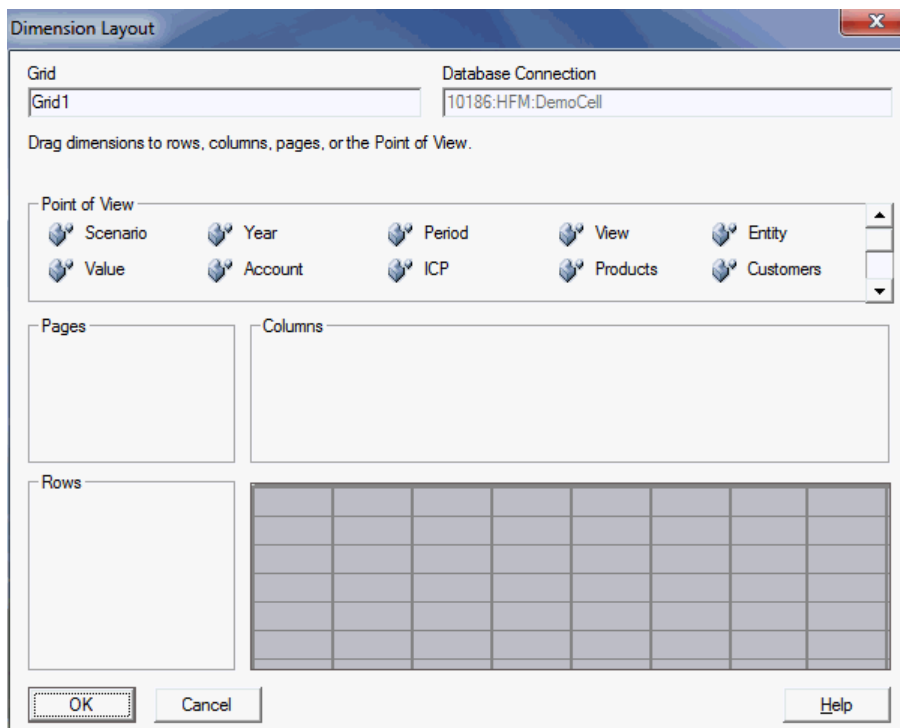
グリッドの追加

グリッドは、外部データベース接続からのデータを格納できるテーブルです。グリッドをレポートに追加して、次元のレイアウトを定義し、メンバーを選択して、グリッドをフォーマットできます。また、既存のグリッドを挿入して、あらかじめフォーマットされたグリッド・デザインを再使用できます。グリッドのコンテンツは、テキスト、次元、メンバーおよび式を使用して定義できます。グリッドは非表示にすることもできます。たとえば、レポート内にチャートを表示し、チャートに関連付けられているグリッドは表示しない場合があります。

グリッドの次元レイアウトを定義するには、データベース接続を指定し、使用可能な次元を視点(POV)フレームから行、列およびページ・フレームにドラッグします。行、列またはページ・フレームに配置されない次元は、そのグリッドのユーザーの POV バーに表示されます。行、列またはページには、複数の次元を重ねて配置できます。たとえば、シナリオと時間の次元を同じ軸に配置し、ある期間の実際のデータと予算のデータを表示する場合などです。

次の図に、「次元レイアウト」ダイアログ・ボックスを示します。このダイアログ・ボックスで、次元を視点(POV)フレームからページ、行または列のフレームにドラッグして、グリッドの次元レイアウトを定義します。

図 11 「次元レイアウト」ダイアログ・ボックス



注： グリッドの選択したデータベース接続に属性次元が含まれている場合は、視点(POV)フレームの上に表示されます。次元同様、属性次元は視点(POV)、行、列、ページのフレームにドラッグできます。

次の表に、「次元レイアウト」ダイアログ・ボックスに表示されるアイテムを示します。

表 17 「次元レイアウト」ダイアログ・ボックス・アイテム

アイテム	説明
グリッド	グリッド名。システムのデフォルトの名前を受け入れるか、または新しいグリッド名を入力できます。このオプションは、グリッドがリポジトリ内のソース・グリッドにリンクされていない場合にのみ使用可能です。
属性次元	解析を使用可能にする次元のタイプで、基本次元のメンバーの属性または特質に基づきます。属性次元は、このフレームから視点(POV)、ページ、行または列のフレームにドラッグできます。属性次元は Essbase に対してのみサポートされます。
視点 (POV)	グリッドの視点(POV)を定義する次元。視点(POV)によって、グリッド内で取得するデータが識別されます。次元は、このフレームからページ、行または列のフレームにドラッグできます。
ページ	グリッドの 3 番目の軸。ページ軸で使用する次元を、属性次元フレームや視点(POV)フレームからこのフレームにドラッグできます。
列	グリッドまたはテーブルの情報の縦方向の表示。列で使用する次元をこのフレームにドラッグできます。
行	グリッドまたはテーブルの情報の横方向の表示。行の軸で使用する次元を属性次元フレームや視点(POV)フレームからこのフレームにドラッグできます。

次元レイアウトを定義した後、各次元で使用するメンバーを選択できます。詳細は、[48 ページの「データの行と列のメンバーの割当て」](#) および [49 ページの「ページ軸のメンバーの割当て」](#) を参照してください。

新しいグリッドを追加すると、デフォルトの名前がグリッドに割り当てられます。グリッドの名前は、「次元レイアウト」ダイアログ・ボックスで変更するか、保存時に変更できます。割り当てられるデフォルトの名前は Gridn で、n はシステムによって割り当てられる識別番号です。たとえば、6 番目にシステムによって名前を付けられ、レポートに保存されたグリッドを保存すると、デフォルトの名前は Grid6 になります。グリッド名は、関数やチャートによるグリッドの参照に使用されます。たとえば、グリッドからデータをグラフィカルに表示するチャートを設計した場合、チャートのプロパティはグリッドを名前で参照する必要があります。

▶ レポートに新しいグリッドを追加するには:

- 1 レポートを開き、「挿入」、「グリッド」の順に選択します。
- 2 グリッドの左上角になる場所をクリックし、そのままドラッグします。グリッドが適切なサイズになったらマウスのボタンを離します。
- 3 「データベース接続の選択」ダイアログ・ボックスで、「データベース接続」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。「次元レイアウト」ウィンドウが表示されます。
- 5 「属性次元」フレーム、および存在する場合は「視点(POV)」フレームから、ページ、行または列フレームに次元アイコンをドラッグし、「OK」をクリックします。

注： 行、列またはページ・フレームに、複数の次元を置くことができます。

▶ 既存のグリッドをレポートに挿入するには:

- 1 レポートを開き、「挿入」、「保存したオブジェクト」の順に選択します。
- 2 「タイプ」ドロップダウン・リストで「グリッド」を選択します。
- 3 グリッド・オブジェクトを探すディレクトリを選択し、使用するグリッド・オブジェクトを選択します。
- 4 次のいずれかのアクションを行います:
 - グリッド・オブジェクトをリンク付きオブジェクトとして使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。
 - グリッド・オブジェクトをリンクなしオブジェクトとして使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。これはデフォルトです。

注： リンク付きオブジェクトの詳細は、[92 ページの「リンク付きオブジェクトとローカル・オブジェクトの使用方法」](#) を参照してください。

- 5 「挿入」をクリックします。

グリッド・オブジェクトのプロパティの変更

「グリッドのプロパティ」シートを使用してグリッド・オブジェクトをカスタマイズできます。シートには、選択したグリッドを変更するための「全般」、「抑制」および「位置」という3つの主要なカテゴリがあります。「全般」を使用して、見出しプリファレンスおよびグリッド・オプションを定義できます。「抑制」は、グリッドまたはグリッドのセル内の値を非表示にするために使用します。「位置」は、グリッド上のオブジェクトの縦方向または横方向の位置の変更を使用します。次の手順は、グリッド・オブジェクトのプロパティの変更方法を示しています。

▶ グリッド・オブジェクトのプロパティを変更するには:

- 1 レポートを開き、変更するオブジェクトを選択します。
- 2 「グリッドのプロパティ」シートで、プロパティを変更します。
- 3 「オプション:」 「グリッドのプロパティ」シートの「次元レイアウト」ボタンをクリックして、グリッドの軸の次元を変更します。リンク付きグリッドの場合は、「グリッド」フィールドにグリッドの名前およびリポジトリ内のグリッドのパスが表示されます。

ヒント: グリッド・オブジェクトのサイズを変更するには、ハンドルをドラッグします。グリッド・オブジェクトを移動するには、グリッドのタイトル・バーをドラッグします。

グリッド・オブジェクトの保存

グリッド・オブジェクトを保存するとき、そのグリッド・オブジェクトとリポジトリ内のソース・オブジェクト間のリンクを作成できます。リポジトリにオブジェクトを保存した場合は、他のレポートにリンクして再使用できます。

注: ここで説明している手順に従うには、設計者またはシステム管理者のセキュリティ権限が必要です。

▶ グリッド・オブジェクトをリポジトリに保存するには:

- 1 グリッドをクリックし、「ファイル」、「オブジェクトの保存」の順に選択します。
- 2 グリッドの保管先フォルダを選択するか、新しいフォルダを作成します。
- 3 「名前」テキスト・ボックスに、グリッド名を入力します。大文字と小文字、スペースおよび数字を使用できます。\`\/% , ? + < > | ' " *` などの特殊文字は使用できません。
- 4 「説明」テキスト・ボックスに、グリッドの説明を入力します。
- 5 次のいずれかのアクションを行います:
 - レポート内のグリッド・オブジェクトからリポジトリ内のソース・オブジェクトへのリンクを作成するには、「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスを選択します。
 - レポート内のグリッド・オブジェクトからリポジトリ内の保存されたソース・オブジェクトへのリンクを作成せずにグリッド・オブジェクトを保存

するには、「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスの選択を解除します。

注： リンク付きオブジェクトの詳細は、[92 ページの「リンク付きオブジェクトとローカル・オブジェクトの使用法」](#)を参照してください。

- 6 「保存」をクリックして、グリッド・オブジェクトをリポジトリに保存します。グリッド・オブジェクトを保存した場合、指定したオブジェクトのみが保存され、レポート・デザイン全体は保存されません。

イメージの挿入

イメージ・オブジェクトは、レポート内で使用できるグラフィックまたはピクチャです。次のイメージ・フォーマットが使用できます。

- ビットマップ: .bmp および .dib
- Graphics Interchange Format (GIF): .gif
- Joint Photographic Experts Group (JPEG): .jpg
- アイコン: .ico および .cur

イメージは、レポートのヘッダー、フッターまたは本文に追加できます。イメージ・ファイルを持つイメージ・フレームをレポートに追加した後に、イメージ・オブジェクトをフォーマットできます。イメージのフォーマットの詳細は、[214 ページの「イメージのフォーマット」](#)を参照してください。

Financial Reporting 以外のファイル・システムに保管されているイメージ・ファイルをイメージ・フレームに挿入したり、Studio エクスプローラに保存されているイメージ・オブジェクト全体を挿入したりできます。

注： イメージ・オブジェクトは、レポートとともに保存されます。そのため、イメージ・オブジェクトのサイズによってアプリケーションの速度に影響する場合があります。

▶ Studio エクスプローラ以外に保存されている新しいイメージ・オブジェクトを挿入するには:

- 1 レポートを開き、「挿入」、「イメージ」の順に選択します。
- 2 イメージ・フレームの左上角になる場所をクリックし、そのままドラッグします。フレームが適切なサイズになったらマウスのボタンを離します。
- 3 「ファイルのタイプ」ドロップダウン・リストから、イメージのフォーマットを選択します。
- 4 Financial Reporting の「bin」ディレクトリ(デフォルト)からイメージ・ファイルを選択するか、「検索」ドロップダウン・リストをクリックして、任意のファイル・システムにあるイメージ・ファイルを見つけます。
- 5 イメージ・ファイルを選択して「開く」をクリックします。
- 6 「イメージのプロパティ」シートで、イメージを変更します。

注： リポジトリにイメージを追加したり、リンク付きオブジェクトとして保存したりするには、「ファイル」、「オブジェクトの保存」の順に選択します。詳細は、[イメージ・オブジェクトの保存](#)を参照してください。

▶ リポジトリに保存されているイメージ・オブジェクトを挿入するには:

- 1 レポートを開き、「挿入」、「保存したオブジェクト」の順に選択します。
- 2 「タイプ」ドロップダウン・リストから、「イメージ」を選択します。
- 3 挿入するイメージ・オブジェクトを選択します。
- 4 次のいずれかのアクションを行います:
 - イメージ・オブジェクトをリンク付きオブジェクトとして使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。
 - イメージ・オブジェクトをリンクなしオブジェクトとして使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。これはデフォルトです。

注： リンク付きオブジェクトの詳細は、[92 ページの「リンク付きオブジェクトとローカル・オブジェクトの使用方法」](#)を参照してください。

- 5 「挿入」をクリックします。

イメージ・オブジェクトの保存

イメージ・オブジェクトを保存するとき、イメージ・オブジェクトとリポジトリ内のソース・オブジェクト間のリンクを作成できます。レポート・オブジェクトをソース・オブジェクトにリンクすることで、時間と労力が節約されます。1つのソース・オブジェクトを更新すると、このソース・オブジェクトにリンクしているすべてのレポートが更新されます。

▶ イメージ・オブジェクトをリポジトリに保存するには:

- 1 イメージを選択し、「ファイル」、「オブジェクトの保存」の順に選択します。
- 2 イメージの名前と保存場所を指定します。
- 3 次のいずれかのアクションを行います:
 - レポート・デザイン内のイメージ・オブジェクトからリポジトリ内のソース・オブジェクトへのリンクを作成するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。
 - レポート・デザイン内のイメージ・オブジェクトからリポジトリ内に保存されているオブジェクトへのリンクを作成せずに保存するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。
- 4 「保存」をクリックして、イメージ・オブジェクトをリポジトリに保存します。レポート内のイメージ・オブジェクトを保存した場合は、指定されたオブジェクトのみが保存され、レポート・デザイン全体は保存されません。

チャートの挿入

チャートを使用すると、グリッドのデータをレポートに表示できます。チャートをレポートに挿入すると、現在のレポート上で指定されたグリッドのデータがチャートによって取得されます。挿入できるチャートは、棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフおよび複合チャート(棒グラフと折れ線グラフ)です。

各タイプのチャートの詳細は、[69 ページの「チャートについて」](#)を参照してください。チャートの設計の詳細は、[第4章「チャートのカスタマイズ」](#)を参照してください。

▶ 新しいチャート・オブジェクトを挿入するには:

- 1 レポートを開き、「挿入」、「チャート」の順に選択します。
- 2 チャートの左上角になる場所をクリックし、そのままドラッグします。ボックスが適切なサイズになったらマウスのボタンを離します。
- 3 「チャートのプロパティ」シートで、チャートのプロパティを変更します。

▶ リポジトリに保存されているチャート・オブジェクトを挿入するには:

- 1 レポートを開き、「挿入」、「保存したオブジェクト」の順に選択します。
- 2 「タイプ」ドロップダウン・リストから、「チャート」を選択します。
- 3 挿入するチャート・オブジェクトを選択します。
- 4 次のいずれかのアクションを行います:
 - チャート・オブジェクトをリンク付きオブジェクトとして使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。
 - チャート・オブジェクトをリンクなしオブジェクトとして使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。これはデフォルトです。

注: リンク付きオブジェクトの詳細は、[92 ページの「リンク付きオブジェクトとローカル・オブジェクトの使用方法」](#)を参照してください。

- 5 「挿入」をクリックします。

チャート・オブジェクトの保存

チャート・オブジェクトを保存するとき、チャート・オブジェクトとリポジトリ内のソース・オブジェクト間のリンクを作成できます。レポート・オブジェクトをソース・オブジェクトにリンクすることで、時間と労力が節約されます。1つのソース・オブジェクトを更新すると、このソース・オブジェクトにリンクしているすべてのレポートが更新されます。

▶ チャート・オブジェクトをリポジトリに保存するには:

- 1 チャートを選択し、「ファイル」、「オブジェクトの保存」の順に選択します。
- 2 チャートの名前と保存場所を指定します。
- 3 次のいずれかのアクションを行います:

- レポート・デザイン内のチャート・オブジェクトからリポジトリ内のソース・オブジェクトへのリンクを作成するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。
 - レポート・デザイン内のチャート・オブジェクトからリポジトリ内に保存されているオブジェクトへのリンクを作成せずに保存するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。
- 4 「保存」をクリックして、チャート・オブジェクトをリポジトリに保存します。レポート内のチャート・オブジェクトを保存した場合、指定したオブジェクトのみが保存され、レポート・デザイン全体は保存されません。

ヘッダーとフッターの作成

レポートでは、カスタム・ヘッダーおよびカスタム・フッターを設計できます。ヘッダーおよびフッターの高さの単位として、インチまたはセンチを使用します。ヘッダーは、上部の余白のすぐ下に、フッターは、下部の余白のすぐ上に置かれます。ヘッダーとフッターは、説明やグラフィックを追加したり、GetCell、Date、Pageなどのテキスト関数を挿入したりするために使用できます。詳細は、[107 ページの「ヘッダーとフッターの設計」](#)を参照してください。

▶ ヘッダーとフッターを作成するには:

- 1 レポート・ページの未使用領域をクリックし、「レポートのプロパティ」シートにアクセスします。
- 2 「ヘッダーの高さ」テキスト・ボックスで、次のいずれかのアクションを行います。
 - レポートにヘッダーを含める場合は、ヘッダーの高さを入力します。
ヘッダーおよびフッターの高さを指定すると、「ページ設定」ダイアログ・ボックスで指定したページ・サイズと上下の余白に合わせて、余白の内側に自動的に配置されます。詳細は、[215 ページの「ページ設定の変更」](#)を参照してください。
 - レポートにヘッダーを含めない場合は、ゼロ(0)を入力します。
- 3 「フッターの高さ」テキスト・ボックスで、次のいずれかのアクションを行います。
 - レポートにフッターを含める場合は、フッターの高さを入力します。
ヘッダーおよびフッターの高さを指定すると、「ページ設定」ダイアログ・ボックスで指定したページ・サイズと上下の余白に合わせて、余白の内側に自動的に配置されます。
 - レポートにフッターを含めない場合は、ゼロ(0)を入力します。
- 4 「注釈として表示」 - 「セル・テキスト」: Financial Management および Planning で、注釈にセル・テキストを表示する場合に選択します。
- 5 「注釈として表示」 - 「プランニング・ユニットの注釈」: Planning で、注釈にプランニング・ユニットの注釈を表示する場合に選択します。
- 6 「注釈として表示」 - 「ドキュメントの添付」: Oracle Hyperion Financial Management で、注釈にドキュメントの添付ファイルを表示する場合に選択します。

余白、用紙サイズまたは表示サイズの指定の詳細は、[215 ページの「ページ設定の変更」](#)を参照してください。

レポート・オブジェクトの位置設定

レポート・オブジェクトの位置設定とは、レポート・デザイナのワークスペース内の希望する位置にオブジェクトを配置することです。たとえば、テキスト・ボックスをレポートの左上に配置し、グリッドをレポートの中央に配置できます。オブジェクトの配置の仕方によって、オンライン・レポートおよび印刷ページが影響を受けます。レポート・オブジェクトは、位置のプロパティの値を指定するか、またはルーラーを使用して手動で配置します。

オブジェクトを位置設定する機能により、レポート・オブジェクトに含まれるデータ量に応じてレポート・オブジェクトのサイズを変更できるので、レポートの外観に大きく影響します。レポート・オブジェクトは、上または左にある他のレポート・オブジェクトとの相対的な位置を設定できます。たとえば、特定のレポート・オブジェクトの上にあるレポート・オブジェクトのサイズを増減すると、下にあるレポート・オブジェクトは、他のレポート・オブジェクトとの距離を同じに保つために、必要に応じて移動します。

オブジェクトの相対的な配置を指定しないと、そのオブジェクトの上または左にあるオブジェクトのサイズが変わっても、元のオブジェクトが現在の位置に印刷されます。

オブジェクトは重ねて整理できますが、重ね合せはレポートのレイアウト時に選択します。重ねることのできるオブジェクトには、テキスト・ボックス、グリッド、チャートおよびイメージがあります。オブジェクトが重なっている場合は、レポート・オブジェクトを背面(別のオブジェクトの後ろ)または前面(別のオブジェクトの前)に移動できます。

注： オブジェクトを重ねる機能は、設計の利便性のみを考えたものです。重なりが含まれるレポートを印刷するとき、デザイナで表示されるとおりに印刷されない場合は、レポート内のオブジェクトを再調整する必要があります。

重なった複数のオブジェクトをレポート・デザイナで操作する場合は、オブジェクトのレイアウトに無関係にレポートを印刷できます。たとえば、テキスト・ボックスの一部がチャートに重なっていたり、チャートのレイヤーが、互いの上部に配置されているというような場合があります。レポートにオブジェクトがどのように配置されていても、レポートを印刷できます。

▶ レポート・オブジェクトの位置を設定するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 次の1つ以上のアクションを行って、レポート・オブジェクトを位置を設定します。
 - グリッドの位置を設定するには、グリッドを選択し、「グリッドのプロパティ」シートの「位置」のカテゴリを選択します。「横方向」および「縦方向」ドロップダウン・リストで、レポート上でのグリッドの横および縦の位置を選択します。

- チャートの位置を設定するには、チャートを選択し、「チャートのプロパティ」シートの「横方向」および「縦方向」ドロップダウン・リストで、レポート上でのチャートの横および縦の位置を選択します。
- テキスト・ボックスの位置を設定するには、テキスト・ボックスを選択し、「テキストのプロパティ」シートの「横方向」および「縦方向」ドロップダウン・リストで、レポート上でのテキスト・ボックスの横および縦の位置を選択します。
- イメージの位置を設定するには、イメージを選択し、「イメージのプロパティ」シートの「横方向」および「縦方向」ドロップダウン・リストで、レポート上でのイメージの横および縦の位置を選択します。
- 重なり合ったオブジェクトの1つを、他のオブジェクトの前面に移動するには、オブジェクトを選択し、マウスを右クリックして、「前面へ移動」を選択します。
- 重なり合ったオブジェクトの1つを、他のオブジェクトの背面に移動するには、オブジェクトを選択し、マウスを右クリックして、「背面へ移動」を選択します。

ヒント： グリッドおよびチャート・オブジェクトの位置を手動で設定するには、ヘッダー領域の内側をクリックして、希望する位置にドラッグします。テキストおよびイメージ・オブジェクトの位置を手動で設定するには、オブジェクトをクリックして、希望する位置にドラッグします。

注： テキスト・オブジェクトをクリックしたときにオブジェクトが少し移動し、「中央」などの一部の位置設定が変わる場合があります。これを修正するには、テキスト・オブジェクトの位置を再度適用します。

レポート・オブジェクトのサイズ変更

レポートをプレビューまたは印刷するときは、レポート・オブジェクトのサイズを変更して、最大限に拡大して表示したり指定した高さで表示したりできます。また、すべての結果データを収めるためにより大きい領域が必要な場合にテキスト・ボックスおよびグリッドのサイズを自動的に増やすように設定できます。レポート・オブジェクトのサイズを変更してもオブジェクトのコンテンツのサイズは変更されませんが、コンテンツを囲むスペースが変わります。たとえば、グリッドの枠線のハンドルをドラッグして、グリッドの左にスペースを用意できます。グリッドを表示すると、グリッドの左の領域は空白のままになっています。

注： オンライン・レポートのテキスト・ボックスやグリッドを小さくしすぎて、コンテンツ全体を表示しきれなくなると、オブジェクトの枠線にスクロール・バーが表示されます。

▶ レポート・オブジェクトのサイズを変更するには:

1 レポートを開きます。

2 レポート・オブジェクトのサイズを変更するには、次のいずれかを行います。

- テキスト・ボックスのサイズを変更するには、テキスト・オブジェクトを選択し、「テキストのプロパティ」シートで「自動サイズ調整」を選択します。レポートをプレビューまたは印刷するとき、テキスト領域が最大に拡大します。

注： テキストには 27 行という制限があります。テキストのすべての行を表示するには、「自動サイズ調整」の選択を解除します。

- グリッドを縦方向および横方向に拡張できるようにするには、グリッドを選択し、「グリッドのプロパティ」シートの「全般」を選択します。「自動サイズ調整」を選択します。

ヒント： レポート・オブジェクトのサイズを手動で調整するには、レポート・オブジェクトのハンドルをドラッグします。レポート・デザインのワークスペースのガイドラインおよびルーラーを使用すると、レポート・オブジェクトのサイズを簡単に調整できます。

レポート・オブジェクトの保存

レポート・オブジェクトを保存するときには、そのソース・オブジェクトとリポジトリ内のソース・オブジェクト間のリンクを作成できます。レポート・オブジェクトをリポジトリに保存すると、同じものを再利用できます。これによって時間を節約でき、レポートの作成時にアクセスして使用するオブジェクトのライブラリを構築できます。

▶ レポート・オブジェクトを保存するには:

- 1 レポート・オブジェクトをクリックし、「ファイル」、「オブジェクトの保存」の順に選択します。
- 2 フォルダを選択するか、または新しいフォルダを作成します。
- 3 「名前」テキスト・ボックスに、レポート・オブジェクトの名前を入力します。大文字と小文字、スペースおよび数字を使用できます。\`\ / % , ? + < > | ' " *` などの特殊文字は使用できません。
- 4 「説明」テキスト・ボックスに、レポート・オブジェクトの説明を入力します。
- 5 次のいずれかのアクションを行って、ローカルのレポート・オブジェクトをリポジトリに保存します。
 - レポート内のローカル・オブジェクトからリポジトリ内のソース・オブジェクトへのリンクを作成するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。
 - レポート・デザイン内のローカル・オブジェクトからリポジトリ内に保存されたオブジェクトへのリンクを作成せずに保存するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。
- 6 レポート・オブジェクトをリポジトリに保存するには、「保存」をクリックします。レポート内のレポート・オブジェクトを保存した場合、指定したオブジェクトのみが保存され、レポート・デザイン全体は保存されません。

レポートのオブジェクトの除去

リンク付きレポート・オブジェクトをレポートから除去した場合、オブジェクトはレポートから除去されるだけで、リポジトリからは除去されません。ソース・レポート・オブジェクトは、他のレポートでそのまま使用できます。サーバーからのレポート・オブジェクトの除去の詳細は、[第12章「エクスプローラのリポジトリの管理」](#)を参照してください。

- ▶ レポートからレポート・オブジェクトを除去するには、レポート・オブジェクトを選択し、「**編集**」、「**削除**」の順にクリックします。

ヘッダーとフッターの設計

ヘッダーとフッターは、レポートの各ページの上と下に表示され、右揃え、左揃え、中央揃えに配置できます。ヘッダーとフッターには、テキスト、イメージおよびレポート名などのテキストを取得する式を含めることができます。また、ヘッダーまたはフッターにページ番号を含めることができます。

- ▶ ヘッダーとフッターを設計するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 レポート・オブジェクト以外の場所をクリックし、「レポートのプロパティ」シートを表示します。
- 3 ヘッダーとフッターに入っているオブジェクトをすべて除去し、次のいずれかまたは両方のアクションを行います。
 - ヘッダーの高さを指定するには、「**ヘッダーの高さ**」テキスト・ボックスにインチまたはセンチ単位の値を入力します。
 - フッターの高さを指定するには、「**フッターの高さ**」テキスト・ボックスに値を入力します。

ヒント: ヘッダーまたはフッターを使用しない場合は、ヘッダーまたはフッターの高さにゼロ(0)を指定します。空白のレポート・レイアウトのヘッダーとフッターの高さのデフォルトはゼロ(0)です。

- 4 次のいずれかのアクションを行います:
 - ヘッダーとフッターにテキストを挿入するには:
 - 1 「**挿入**」、「**テキスト**」の順に選択します。
 - 2 ヘッダーまたはフッター内で、テキスト・ボックスの左上角になる場所をクリックし、そのままドラッグします。ボックスが適切なサイズになったらマウスのボタンを離します。
 - 3 テキスト・ボックスの内側をクリックします。次に、テキスト・ボックスにテキストを正確に入力するか、ヘッダーまたはフッターの情報を動的に取得する式を指定します。式を指定したり、ページや日付などの関数およびレポートの説明を追加したりする場合は、「**テキストのプロパティ**」シートの「**関数の挿入**」ボタンをクリックします。
 - ヘッダーとフッターにイメージを挿入するには:

4. 「挿入」、「イメージ」の順に選択します。
 5. ヘッダーまたはフッター内で、イメージの左上角になる場所をクリックし、そのままドラッグします。ボックスが適切なサイズになったらマウスのボタンを離します。
- 5 「テキストのプロパティ」シートまたは「イメージのプロパティ」シートで、プロパティを設定します。

タイトル・ページの作成

タイトル・ページを作成すると、ユーザーが定義したテキストを含んでいる新しいページがレポートの先頭に挿入されます。

▶ タイトル・ページを作成するには:

- 1 タイトル・ページを追加するレポートを開き、レポート・デザイナのワークスペースの上部にテキスト・ボックスを追加します。テキスト・ボックスを追加する手順の詳細は、[94 ページの「テキスト・オブジェクトの追加」](#)を参照してください。
- 2 テキスト・ボックスの下にあるレポート・オブジェクトを選択し、そのオブジェクトのプロパティ・シートで、「前に改ページ」チェック・ボックスを選択します。
- 3 「テキストのプロパティ」シートで、タイトル・ページのテキストを設計します。
- 4 「ファイル」、「印刷プレビュー」の順に選択して、タイトル・ページを表示します。

レポート・オブジェクトの前への改ページの挿入

レポート・オブジェクトを次のページに移動するには、レポート・オブジェクトの前に改ページを挿入します。

▶ レポート・オブジェクトの前に改ページを挿入するには:

- 1 レポートを開き、その前に改ページを挿入するレポート・オブジェクトを選択します。
- 2 レポート・オブジェクトのプロパティ・シートで、「前に改ページ」「」チェック・ボックスを選択します。

レポートの要約の表示

レポートの要約には、レポートの名前、説明および作成者が表示されます。最終変更者と、レポートが最後に変更された日時も表示されます。

レポートを保存すると、要約情報が保存されます。次の表に、レポートの要約に表示できるオプションを示します。

表 18 レポートの要約の表示オプション

オプション	説明
名前	レポートの名前
説明	レポートの説明、変更可能
作成者	レポートを作成したユーザー
作成日	レポートが作成された日時
最終更新者	レポートを最後に変更したユーザー
最終更新日	レポートが最後に変更された日時
オブジェクト・タイプ	表示されているオブジェクトのタイプ
場所	オブジェクトが保存されている場所
データベース接続	このレポート・オブジェクトで使用されているデータベース接続を識別します

▶ レポートの要約を表示するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 「ファイル」、「要約」の順に選択します。

サーバー情報の表示

サーバー情報を表示して、サーバーのアクティビティを監視します。サーバー情報は、レポート・サーバーの様々な統計情報から構成されています。次の表に、レポート・サーバーの統計情報を示します。

表 19 レポート・サーバーの統計情報

統計情報	説明
現在実行中のレポート	レポート・サーバーで現在実行しているレポートの合計数。
このセッションの合計要求数	レポート・サーバーが起動してから、処理を要求したレポートの合計数。
合計メモリ(バイト)	レポート・サーバーの仮想マシンで使用されるメモリの容量。
空きメモリ(バイト)	レポート・サーバーの仮想マシンで使用可能な残りのメモリの容量。 注： メモリは通常、仮想マシンに動的に割り当てられます。メモリの容量が少なくなると、システムによって追加のメモリが割り当てられ、サーバーで使用可能な空きメモリの容量が減ります。
スレッド - 実行中のレポート	レポートの実行に使用される Java サブプロセス。スレッドは、必要に応じて、追加の要求を処理するために自動的に追加されます。デフォルト値は 10 ですが、JConsole.exe ファイルで変更できます。JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。

▶ サーバー情報を表示するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 「ファイル」、「レポート・サーバー情報」の順に選択します。
- 3 「閉じる」をクリックして、「レポート・サーバー情報」ダイアログ・ボックスを閉じます。

6

グリッドのカスタマイズ

この章の内容

グリッドへの行と列の挿入.....	112
グリッドでの切り取り、コピー、貼付け.....	113
グリッドの行見出しと列見出しの指定.....	114
行と列のテンプレートについて.....	116
行と列のテンプレートの作成.....	120
行と列のテンプレートの挿入.....	122
行と列のテンプレートのリンクの解除.....	123
行と列のテンプレートの変更.....	124
データ・クエリー最適化オプションの設定.....	124
Financial Management のライン・アイテムの詳細の表示.....	126
Planning のサポート詳細の表示.....	126
グリッド POV の定義.....	128
グリッド POV の設定.....	129
改ページの挿入.....	130
ページ軸の見出しの定義.....	131
グリッドのデータベース接続の変更.....	133
グリッドへの複数のデータベース接続の割当て.....	133
データ行とデータ列の自動計算の追加.....	134
式の行や列の定義.....	139
式バーの使用方法.....	147
プロパティ・シートの機能へのアクセス.....	152
セル・レベルでの計算.....	152
テキスト関数を使用した情報の表示.....	153
グリッド・ヘッダーの固定.....	154

データ行および列を計算して、グリッドをカスタマイズできます。関数を使用して、レポート・データを詳細に設定したり、レポートが作成された日付などの動的データを追加したりできます。グリッド内または複数のグリッド間で、行または列を切り取ったりコピーしたりして貼り付けることもできます。

グリッドのカスタマイズを始める前に、少なくとも1つのグリッドを挿入し、その次元レイアウトを定義する必要があります。レポートをカスタマイズするには、レポートにテキスト・ボックスまたはグリッドを挿入する必要があります。詳細は、91ページの「レポート・オブジェクトの追加」を参照してください。

グリッドへの行と列の挿入

行や列をグリッドに挿入して、グリッドにデータを追加します。次の表に、グリッドに挿入できる行や列のタイプを示します。

表 20 行と列のタイプ

タイプ	説明
データ	データの行や列には、データベース接続によって取得された次元のメンバーが含まれます。データの行や列のメンバーは、デフォルトで次元の最上位メンバーです。 注： グリッドのデータの行、列またはセルには、#という記号が付きます。
式	式の行や列には、指定された式に基づく値が表示されます。式の行や列は、一般にデータの行や列で合計、平均および差異を計算するときに使用します。 注： グリッドの式の行、列またはセルには、=#という記号が付きます。
テキスト	テキストの行や列には、主に、セルに入力したテキストまたはテキスト関数によって動的に追加されたテキストが含まれます。 注： テキストの行、列またはセルがグリッドに追加されても、記号は付きません。テキストが入力されるまで、最初は空白になっています。

デフォルトでは、グリッドをレポートに追加すると、データ行、アンカー行、データ列およびアンカー列の各コンポーネントのいずれかが含まれます。アンカー行やアンカー列は、行または列の最後に配置される空白の行または列です。グリッド内に行や列を1つ以上追加したり、アンカー行やアンカー列を使用して新しい行や列を追加したりすることができます。

ヒント： レポートに追加したグリッドのフォーマットを設定するには、[183 ページの「グリッドのフォーマット」](#)に記載されているフォーマット情報を参照してください。

グリッドの境界のサイズは、行や列を追加したときと変わりません。グリッドのサイズを変更する方法の詳細は、[105 ページの「レポート・オブジェクトのサイズ変更」](#)を参照してください。

▶ 行や列をグリッドに挿入するには:

- 1 セル、行または列を選択します。「挿入」、「行」または「列」の順に選択し、さらに「データ」、「式」または「テキスト」の順に選択します。新しい行は、選択した行の上に挿入されます。新しい列は、選択した列の左側に挿入されます。

ヒント： 複数の行や列を挿入する場合は、挿入する行または列と同じ数の行または列をグリッドで選択します。

- 2 グリッドの最後に行や列を追加するには、グリッド、アンカー行またはアンカー列を選択し、次のいずれかのアクションを行います。

- 行を追加する場合は、「挿入」、「行」の順に選択し、さらに「データ」、「式」または「テキスト」の順に選択します。
- 列を追加する場合は、「挿入」、「列」の順に選択し、さらに「データ」、「式」または「テキスト」の順に選択します。

- 3 行や列に、データ、式またはテキストを入力するには、次のいずれかのアクションを行います。
- データの行や列の場合は、行または列の見出しをダブルクリックし、行または列に含める次元メンバーを選択します。詳細は、48 ページの「データの行と列のメンバーの割当て」を参照してください。
 - 式の行や列の場合は、行または列の見出しを選択し、式バーで式を作成します。
 - テキストの行や列の場合は、行または列に直接テキストを入力します。テキストの行や列のフォーマットを設定する方法の詳細は、181 ページの「テキスト・ボックスのフォーマット」を参照してください。

注： 行や列を削除するには、削除する行または列を選択し、「編集」、「削除」の順に選択します。

グリッドでの切取り、コピー、貼付け

レポートの同じグリッド内または2つの異なるグリッド間で行と列および式の行と列をコピーして貼り付けることができます。行と列および式の行と列を切り取って貼り付ける場合は、同じグリッド内でのみ可能です。

注： 式の行や列を切り取る場合は、行または列全体を切り取る必要があります。

▶ グリッドで行や列を切り取る、コピーする、貼り付けるには:

- 1 Reporting Studio を開きます。
- 2 「ファイル」、「新規」、「レポート」の順に選択して空白のレポートを開くか、または既存のレポートを選択します。
- 3 グリッドを作成します。
- 4 行または列を選択し、次のいずれかのアクションを行います。
 - 行または列を切り取って、情報を Windows のクリップボードに置くには、「編集」、「切取り」の順に選択します。
 - 行または列をコピーして、情報を Windows のクリップボードに置くには、「編集」、「コピー」の順に選択します。
- 5 貼付け先の行または列をクリックします。
- 6 選択した情報を貼付け先の行または列に貼り付けるには、「編集」、「貼付け」の順に選択します。

ヒント： 連続した複数の行または列を選択するには、[Shift]キーを押しながら複数の行または列をクリックします。

注： 列は、選択した貼付け先の列の左側に貼り付けられます。行は、選択した貼付け先の行の上に貼り付けられます。貼り付けると、列または行が挿入されますが、貼付け先の行または列のデータは上書きされません。

7 「ファイル」、「保存」の順に選択して、レポートを保存します。

グリッドの行見出しと列見出しの指定

グリッドの行見出しと列見出しを定義すると、グリッド全体の行見出しと列見出しに表示する情報を指定できます。行見出しと列見出しには、次のメンバー・レベルのいずれかを指定できます。

- メンバー名。見出しにメンバー名が表示されます。
- 別名または説明。見出しに別名または説明が表示されます。
- メンバー名と、別名または説明。見出しにメンバー名と、別名または説明が表示されます。

注： 別名または説明を指定するかどうかは、データベース接続のタイプによって異なります。Oracle Essbase データベース接続または Planning 詳細データベース接続によってレポートを作成する場合は、「別名」を選択します。Financial Management データベース接続によってレポートを作成する場合は、「説明」を選択します。

行見出しと列見出しを指定するときは、列に対して行見出しを配置する位置を定義する必要があります。たとえば、列 A の前に行見出しを配置できます。

注： ソートする列の前に行見出しを配置することはできません。

セグメント内で同じメンバーの見出しが繰り返されないように抑制することもできます。見出しを抑制すると、繰り返し表示されるメンバーの見出しの最初のインスタンスのみが表示されます。それ以降に繰り返されるメンバーの見出しは非表示になります。

Financial Management データベース接続を介したエンティティ次元を使用している場合は、関連するプロパティ・シートを使用して行、列またはグリッドの「エンティティのショート名」チェック・ボックスを選択できます。このオプションを選択すると、通常は表示されるエンティティの親の部分を除去して、レポートにエンティティのショート名を表示できます。

Financial Management を使用したエンティティの標準の表示は親.子という形式になります。関連するプロパティ・シートで「エンティティのショート名」を選択すると、エンティティの表示は、親が除去されて、子として表示されます。たとえば、通常は UnitedStates.Connecticut と表示されるエンティティの場合、「エンティティのショート名」チェック・ボックスを選択すると、Connecticut と表示されます。

使用する別名テーブルを選択することもできます。Oracle Essbase データベース接続または Planning 詳細データベース接続では、別名テーブルを選択できます。グリッド・レベルでは別名を指定できませんが、行または列に別名を表示する場合は、グリッド・レベルで選択した別名テーブルが表示されます。

グリッドに指定した見出しのプロパティは、適用外として指定しないかぎり、すべての行および列に適用されます。

▶ グリッドの行見出しと列見出しを定義するには:

- 1 レポートを開き、グリッドを選択します。
- 2 「メンバー・ラベル」で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「メンバー名」は、見出しにメンバー名を表示します。
 - 「別名: デフォルト」は、Oracle Essbase データベース接続または Planning 詳細データベース接続からメンバーの別名を表示します。または「説明」は、Financial Management データベース接続からメンバーの説明を表示します。
 - 「両方」は、見出しにメンバー名と、別名または説明を表示します。

注: プロパティ・シートに表示されるオプションは、データベース接続のタイプによって異なります。たとえば、データベース接続のタイプとして Financial Management を使用している場合は、「説明」オプションが表示されます。データベース接続のタイプとして Oracle Essbase または Planning 詳細を使用していない場合、「別名: デフォルト」オプションは表示されません。

- 3 列を選択します。行見出しは、選択した列の左側に配置されます。列は、列 A、列 B、列 C のようにアルファベット順に表示されます。
- 4 「オプション:」 Financial Management グリッドにエンティティのショート名を表示するには、「エンティティのショート名」チェック・ボックスを選択します。
- 5 「オプション:」セグメント内で同じメンバーの見出しが繰り返し表示されないようにするには、「繰り返しを抑制」チェック・ボックスを選択します。
- 6 「オプション:」別名を表示するときに使用する別名テーブルを選択します。デフォルトでは、このオプションは、データベース接続のタイプに応じたデフォルトの別名テーブルに設定されます。

注: グリッドに挿入したテキストを横向きまたは縦向きに配置できます。詳細は、182 ページの「テキスト・ボックス内のテキストの配置」を参照してください。

グリッドの行見出しと列見出しの上書き

行見出しと列見出しを定義すると、グリッドに設定した見出しのプロパティを上書きできます。行や列に次のいずれかのタイプの見出しを指定できます。

- メンバー・ラベル
 - メンバー名。見出しにメンバー名が表示されます。
 - 別名または説明。見出しに別名または説明が表示されます。
 - メンバー名と、別名または説明。見出しにメンバー名と、別名または説明が表示されます。
- カスタム見出し
 - カスタマイズしたテキスト。見出しにユーザー定義のテキストが表示されます。

- テキスト関数。テキスト関数を使用して、見出しに表示するデータを取得します。

セグメント内で同じメンバーの見出しが繰り返されないように抑制することもできます。見出しを抑制すると、繰り返し表示されるメンバーの見出しの最初のインスタンスのみが表示されます。それ以降に繰り返されるメンバーの見出しは非表示になります。

▶ グリッドの行見出しと列見出しを上書きするには:

1 レポートを開き、グリッドの式の行または列を選択します。


2 次のいずれかの操作を行います。

- 「メンバー・ラベル」を選択し、次のメンバー・ラベル・オプションのいずれかを選択します。
 - 「メンバー名」は、見出しにメンバー名を表示します。
 - 「別名: デフォルト」は、Oracle Essbase または Planning 詳細データベース接続からメンバーの別名を表示します。または「説明」は、Financial Management データベース接続からメンバーの説明を表示します。
 - 「両方」は、見出しにメンバー名と、別名または説明を表示します。

注: プロパティ・シートに表示されるオプションは、データベース接続によって異なります。たとえば、データベース接続として Financial Management を使用している場合は、「説明」オプションが表示されます。この場合、「別名: デフォルト」オプションは表示されません。

- 「カスタム見出し」を選択し、次のいずれか、または両方の操作を行います。
 - 見出しに表示するユーザー定義のテキストを入力します。

ヒント: 列見出しのテキストを改行する場合は、キーボードの改行キーを使用します。

- テキスト関数を入力するか、「関数の挿入」ボタンをクリックして、見出しに表示するデータを取得するテキスト関数を選択します。

注: 行または列のプロパティ・シートに「繰り返しを抑制」オプションを表示するには、行または列全体を選択する必要があります。

3 「オプション:」 Financial Management グリッドにエンティティのショート名を表示するには、「エンティティのショート名」チェック・ボックスを選択します。

行と列のテンプレートについて

行と列のテンプレートを使用すると、連続した一連の行または列を選択して、リポジトリにオブジェクトとして保存し、1つ以上のレポートで再利用できます。

行と列のテンプレートを使用するには、次の操作を行う必要があります。

- 行と列のテンプレートの作成
- 行と列のテンプレートの挿入
- 行と列のテンプレートのリンクの解除
- 行と列のテンプレートの変更

行と列のテンプレートは、1つ以上の行または列の定義から構成されています。これらの行または列の定義には、次のコンポーネントが含まれている可能性があります。

- データベース接続、次元、メンバー選択
- 式の行と式の列
- 展開機能
- 見出し(カスタマイズしたフォーマットを含む)
- テキストの行と列(見出しのセルのテキストのみが保存されます)
- セルのフォーマット
- 基本の抑制(#Missing、#Zero、#Error)

行と列のテンプレートを作成すると、次のものが破棄されます。

- セルの式
- セカンダリ・データベース接続の指定
- データ・セル領域のテキスト(見出しのセルのテキストは保持されます)
- 条件付きフォーマット
- 関連コンテンツ
- 条件付き抑制

作成した行と列のテンプレートは、リポジトリに保存できます。ただし、次の制限があります。

- 式は、テンプレートを構成する行や列に含まれている行と列を参照する必要があります。
- 行と列のテンプレートに含まれない式は、行と列のテンプレートを構成する列や行、またはその一部の列や行を参照することはできません。

注： 行と列のテンプレートを作成するには、その前にセル・フォーマットの継承を設定する必要があります。「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスを使用して、セルのフォーマットを設定できます。詳細は、[193ページの「セルのフォーマットの継承」](#)を参照してください。行と列のテンプレートでフォーマット設定を継承するとき、「行と列のテンプレートのプロパティ」シートの「フォーマットの継承元」オプションを使用する必要があります。このプロパティ・シートには、抑制、フォーマット、行の高さ、列の幅など、継承できるオプションが示されます。

注： レポートに複数のテンプレートが含まれており、そのうちの1つのテンプレートに対してリポジトリからの移動、名前変更または削除が行われたか、テンプレートのデータ・ソースが変更されたために、そのテンプレートを取得できない場合、既存のテンプレートへのリンクは壊れた状態になります。壊れたリンクに関する警告は表示されません。ただし、ログ(FRWebApp.log、FRReportServer.log または FRClient.log)を表示することによって、孤立したリンクを確認できます。

行と列のテンプレートのフォーマットの継承

リンクされている行と列のテンプレートで継承が使用されている場合、フォーマットのオプションは動的で、レポートごとに異なります。リンクされている行または列のテンプレートがグリッド内で使用される場合、フォーマットの継承は、行テンプレートの上または列テンプレートの左にある最初に使用可能なテンプレート以外の行に自動的にリセットされます。行または列のテンプレートのフォーマットの一貫性を保つ場合、または継承のフォーマットと行または列のテンプレートのフォーマットに一貫性がない場合は、次のアクションを実行できます。

- 表示するフォーマットが含まれている非表示のテキスト行またはテキスト列を、行または列のテンプレートに挿入し、プロパティ・シートでフォーマットの継承元をその非表示の行または列に設定します。
- フォーマットを継承せずに、「フォーマット」ダイアログ・ボックスで行または列のテンプレートのフォーマットを設定します。

プロパティ値

次の表に、行と列のテンプレートを作成するときに保存、継承、破棄されるプロパティの値を示します。

表 21 保存または継承されるプロパティ値(ユーザーが設定するオプション)

プロパティ値	説明
行と列のテンプレートのデータベース接続	行または列ごとに保存
見出し - 繰返しを抑制	行または列ごとに保存
ライン・アイテムの詳細を表示	行または列ごとに保存
見出し	行または列ごとに保存
展開を許可	行または列ごとに保存
計算式	行または列ごとに保存
常に非表示	行または列ごとに保存
正数のフォーマット	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
負数のフォーマット	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
小数点以下の桁数	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション

プロパティ値	説明
スケール値	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
上の枠線	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
右の枠線	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
下の枠線	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
左の枠線	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
網掛け	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
水平方向の配置	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
垂直方向の配置	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
インデント	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
フォント	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
フォント・スタイル	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
フォント・サイズ	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
文字飾り	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
値の置換	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション
フォーマットの継承元	セルごとに保存またはセルごとに継承 - ユーザー・オプション 注： 参照が行と列のテンプレートへの内部参照の場合、行と列のテンプレートが挿入されるときに適用されます。参照が外部参照の場合、この参照は破棄され、「行と列のテンプレートのプロパティ」シートの「フォーマットの継承元」の設定が適用されます。詳細は、 116 ページの「行と列のテンプレートについて」 を参照してください。
行の高さ/列の幅	行または列ごとに保存されるか、別の行や列から継承されて、行と列のテンプレートにあるすべての行や列に適用されます(ユーザーが設定するオプション)。
抑制	行または列ごとに保存されるか、別の行や列から継承されて、行と列のテンプレートにあるすべての行や列に適用されます(ユーザーが設定するオプション)。
前に改ページ	行または列ごとに保存されます。

表 22 破棄されるプロパティ値

プロパティ値	説明
テキスト・セルのテキスト	破棄 - 見出しのセルのテキストは保持されます
セルの式	破棄
調査	破棄
条件付きフォーマット	破棄
見出し以外のセルのテキスト	破棄
計算の順序	破棄 - グリッド外部とは無関係

プロパティ値	説明
セカンダリ・データベース接続	エラー。詳細は、 121 ページの手順 9.2 を参照してください。
式にある外部参照(テキストまたは数値)	エラー

行と列のテンプレートの作成

行と列のテンプレートは、1つのグリッドの行と列に基づいて作成します。テンプレートに含める行と列を検討するときは、今後使用するのに適したメンバー、式およびフォーマットを含んでいる行と列を選択します。その後、行と列のテンプレートをインポートして、他のグリッドで使用できます。

注： テンプレートを更新すると、そのテンプレートへのリンクを含んでいるすべてのグリッドが更新されます。

ヒント： 行と列のテンプレートには、データ行またはデータ列が少なくとも1つ含まれている必要があります。たとえば、テキストや式の行または列だけでテンプレートを構成することはできません。

▶ 行と列のテンプレートを作成するには:

- 1 グリッドを含んでいるレポートを開くか、新しいグリッドを作成して、テンプレート用の行や列を入れます。
- 2 テンプレートに含める行または列のセットを選択します。

注： 行または列の全体を選択する必要があります。

- 3 「ファイル」、「オブジェクトの保存」の順に選択して、オブジェクトをリポジトリに保存します。

「オブジェクトの保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 4 「名前」テキスト・ボックスに、行と列のテンプレートの固有の名前(売上テンプレートなど)を入力します。
- 5 「オプション:」 「説明」テキスト・ボックスに簡単な説明を入力します。この説明は、リポジトリの「説明」の下に表示されます。
- 6 「タイプ」ドロップダウン・リストでは、デフォルトで「行と列のテンプレート」が選択されています。
- 7 「オプション:」 行と列のテンプレートを現在のグリッドでリンク・オブジェクトとして保存するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。現在のグリッドへのリンクを含めずに行と列のテンプレートをグリッドに保存するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。

注： グリッドのすべての行と列を行と列のテンプレートに含めるよう選択されている場合は、グリッドでこのオブジェクトをリンクできないので、「ソース・オブジェクトにリンク」は使用できません。「選択した行に基づいてリンクされた行と列のテンプレートを作成できません。グリッドには、行と列のテンプレートの一部ではないデータ行が少なくとも1つ必要です。」というエラー・メッセージが表示されます。

8 「保存」をクリックしてグリッドに戻ります。行と列のテンプレートを、リンク・オブジェクトとして保存する場合は、次のいずれかの操作を行います：

- 空白のデータ行またはデータ列をグリッドに挿入し、行や列のテンプレートから除外する
- テンプレートから行または列の1つを選択解除する

注： グリッドには、リンクされた行と列のテンプレートに割り当てられていない行または列が少なくとも1つ含まれている必要があります。

9 「保存」をクリックします。行と列のテンプレートが検証され、サポートされていないプロパティがないかどうか確認されます。行と列のテンプレートのコンテンツによって、次のダイアログ・ボックスが1つ以上表示される場合があります。

1. 行と列のテンプレートに、外部参照(テンプレート用に選択した行や列以外のセルへの参照など)を含む式がある場合は、行と列のテンプレートを保存する前に、その式を変更するよう促すメッセージが表示されます。

注： セルの式は破棄できるので、このようなセルの式を含む行と列のテンプレートも保存できます。詳細は、[121 ページの手順 9.3](#) を参照してください。

2. 行と列のテンプレートにセカンダリ・データベース接続が指定されている場合は、引き続きテンプレートを保存するように促すダイアログ・ボックスが表示されます。テンプレートを保存すると、行と列のテンプレートに指定したセカンダリ・データベース接続は破棄されます。行と列のテンプレートには、プライマリ・データベース接続が使用されます。
3. サポートされていないプロパティが見つかると、テンプレートを保存する前に、破棄されるプロパティのリストが「情報」ダイアログ・ボックスに表示されます。たとえば、行と列のテンプレートにセルの式が含まれている場合、式を含めずにテンプレートを保存するか、またはテンプレートを保存しないかを選択できます。

10 破棄されるプロパティを確認し、次のいずれかの操作を行います：

- サポートされていないプロパティを含んでいるテンプレートを保存する場合は、「はい」をクリックし、次の手順に進みます。

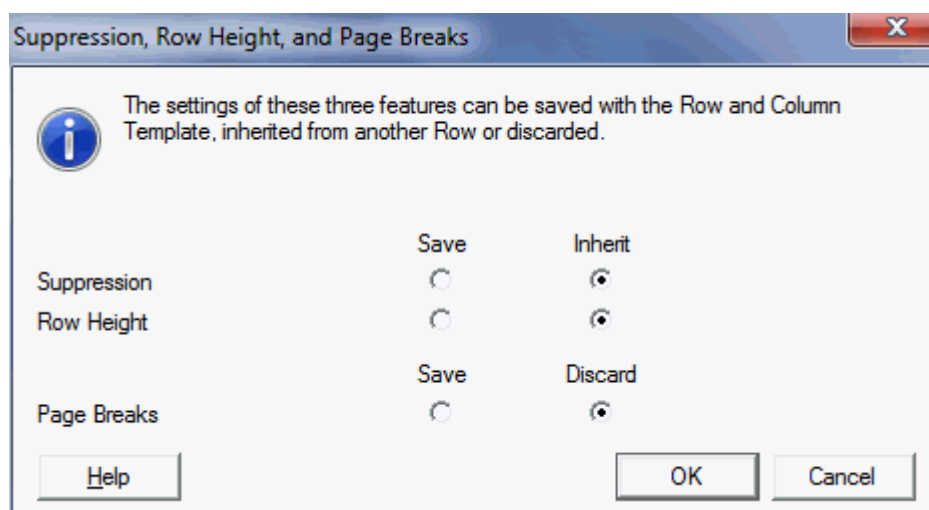
注： 「はい」を選択すると、グリッドは完全に変更されます。メッセージ・ボックスに表示されたアイテムは、グリッドから破棄されます。

- 行と列を変更せずに(テンプレートは保存されません)グリッドに戻る場合は、「いいえ」をクリックします。

11 「抑制、行の高さおよび改ページ」のダイアログ・ボックスを使用して、行の設定を保存、継承または破棄するオプションを選択します。これらの選択には、次の定義が適用されます。

- **抑制** - 選択した行と列の内部にあるどの抑制設定(ゼロの場合、欠落の場合、エラーの場合)でも保存または継承できます。
- **行の高さ** - テンプレート用に行を1つでも選択した場合は、行の高さのどのような設定でも保存または継承できます。行の高さを変更するには、選択した行や列内で「行のプロパティ」シートを開き、「行の高さ」テキスト・ボックスで値を選択するか、数値を直接入力します。
- **列の幅** - テンプレート用に列を1つでも選択した場合は、列の幅のどのような設定でも保存または継承できます。列の幅を変更するには、選択した行や列内で「列のプロパティ」シートを開き、「列の幅」テキスト・ボックスで値を選択するか、数値を直接入力します。
- **改ページ** - 選択した行や列内にある、どのような改ページ設定でも保存または破棄できます。

図 12 抑制、行の高さおよび改ページのダイアログ・ボックス



注： このダイアログ・ボックスに表示されるオプションは、グリッドで選択したものによって異なります。

12 「OK」をクリックします。

行と列のテンプレートの挿入

行と列のテンプレートをオブジェクトとしてリポジトリに保存したら、互換性のあるグリッドに挿入できます。行または列のテンプレートをレポートに挿入すると、テンプレートの外部にある式は、必要に応じて調整されます。グリッド内の式のみが更新されます。テンプレートを含むグリッドを参照する、テキスト・オブジェクトや他のグリッドの外部式は更新されません。

▶ 行と列のテンプレートを挿入するには:

- 1 レポートを開き、行と列のテンプレートを挿入する場所の隣の行または列を選択します。

注： 行のテンプレートは、選択した行の下に挿入されます。列のテンプレートは、選択したセルの左側に挿入されます。

- 2 「挿入」、「保存したオブジェクト」の順に選択します。「保存したオブジェクトの挿入」ダイアログ・ボックスが開き、エクスプローラのリポジトリが表示されます。
- 3 挿入する行と列のテンプレートを選択します。
- 4 行と列のテンプレートをオブジェクトとしてリポジトリにリンクする、またはリンクを解除するには、次のいずれかのアクションを行います。
 - リポジトリでレポートとテンプレートの間リンクを作成するには、「ソース・オブジェクトにリンク」を選択します。行と列のテンプレートを現在のグリッドにリンクすることで、リポジトリに保存されている行と列のテンプレートへの動的接続がグリッドで維持されます。

注： グリッド内でリンクされているテンプレートは、フォーマットの継承によってのみ変更できます。詳細は、[193 ページの「セルのフォーマットの継承」](#)を参照してください。

- エクスプローラのリポジトリでソース・オブジェクトへの動的リンクを維持しないでレポートでテンプレートを使用するには、「ソース・オブジェクトにリンク」の選択を解除します。詳細は、[123 ページの「行と列のテンプレートのリンクの解除」](#)を参照してください。
- 5 「挿入」をクリックします。

注： レポートのグリッドで、行と列のテンプレートの見出しのセルは黄色で表示されます。動的リンクは、「行と列のテンプレートのプロパティ」シートに表示されます。

行と列のテンプレートのリンクの解除

行と列のテンプレートをグリッドに挿入した後、そのリンクを解除することもできます。リンクを解除すると、リポジトリで動的に接続された行と列のテンプレートの複製ではなく、構造的なテンプレートとして、行と列のテンプレートを使用できます。

行と列のテンプレートのリンクを解除すると、テンプレート内の行と列は、リンクされていない通常の行と列に変わります。

▶ 行と列のテンプレートのリンクを解除するには:

- 1 行と列のテンプレートを挿入したグリッドを含んでいるレポートを開きます。
- 2 リンクを解除する行と列のテンプレートを選択します。
- 3 「行と列のテンプレートのプロパティ」シートで、「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスの選択を解除します。
- 4 このオブジェクトのリンクを解除するかどうかを確認するダイアログ・ボックスが表示されたら、「はい」をクリックします。

行と列のテンプレートの変更

行と列のテンプレートは、次のいずれかの方法を使用して変更できます。

- 新しい行と列のテンプレートを作成し、リポジトリにある行と列のテンプレートと同じ名前前で保存します。詳細は、[120 ページの「行と列のテンプレートの作成」](#)を参照してください。
- 既存の行と列のテンプレートとグリッドのリンクを解除し、必要な変更を加えて、リポジトリにあったテンプレートと同じ名前と同じフォルダに保存します。

注： どちらの方法でも、リポジトリにあった元の行と列のテンプレートは置換されます。

▶ リンクを解除して行と列のテンプレートを変更するには:

- 1 レポートを開き、グリッドを作成します。
- 2 行と列のテンプレートをリポジトリから選択してリンクを解除し、行と列をグリッドに挿入します。詳細は、[123 ページの「行と列のテンプレートのリンクの解除」](#)を参照してください。

注： テンプレートのリンクを解除すると、独立したテンプレートになり、テンプレートを構成していた行と列がグリッドに挿入されます。

- 3 必要に応じて、行と列を変更します。
- 4 行と列のテンプレートを、置換する行と列のテンプレートと同じ名前と同じフォルダを使用して、リポジトリに保存します。
- 5 「OK」をクリックして、元の行と列のテンプレートを置換することを確認します。

データ・クエリー最適化オプションの設定

グリッドで作業しているときに、データ・クエリーの最適化オプションを設定して、指定したデータ・クエリーの効率を最適化できます。

データ・クエリーは多次元データベース接続から1つ以上の値を抽出するので、データ・クエリー最適化設定を使用すると、このプロセスの処理速度を向上するのに役立ちます。たとえば、サーバーで非表示オプションを指定し、Oracle EssbaseのSPARSE コマンドを含めるかどうかを指定できます。このコマンドは、次元メンバーのすべての組合せにデータが存在する可能性が低い場合に使用します。たとえば、データの交差が空である場合、次元は疎です。

注： 最適化オプションを適用する際は、MDX(多次元式)を使用してグリッド・ベースまたはレポート・スクリプトのEssbase データ・ソースをクエリーできます。

▶ データ・クエリーの最適化オプションを設定するには:

- 1 グリッドを含んでいるレポートを開くか作成します。

2 「タスク」、「データ・クエリー最適化設定」の順に選択します。

注：「データ・クエリー最適化設定」ダイアログ・ボックスに表示されるオプションは、使用しているデータベース接続のタイプによって異なります。たとえば、Oracle Essbase SPARSE コマンド・オプションは、Oracle Essbase が接続先データベースの場合にのみ表示されます。

注： 行を抑制する機能は、どのデータ・ソース(Financial Management、Planning および Oracle Essbase)にも適用できます。このダイアログ・ボックスの他のすべてのオプションは、Oracle Essbase にのみ適用されます。

3 行を抑制するサーバーを指定するには、「次の行を抑制」フレームで次のいずれかのオプションを選択します。

- データベース接続サーバー
- レポート・サーバー

4 レポートのクエリーに MDX (多次元式)またはレポート・スクリプトのどちらを使用するかを指定できます。「Essbase クエリーで MDX を使用」チェック・ボックスでは、次のいずれかの操作を実行します：

1. レポート・スクリプト・クエリーを使用するには、チェック・ボックスを選択解除します。これにより、グリッドのドリル・スルーの表示設定が使用不可になります。
2. Essbase データ・ソースのクエリーに MDX を使用する場合は、チェック・ボックスを選択して(デフォルト)、クエリーの実行方法を次から選択します：
 1. 「WITH MEMBER を使用してクエリーを組み合わせる」(デフォルト)。この方法では、MDX WITH MEMBER 構文を使用して MDX クエリーを単一のクエリーに結合します。クエリーの数を最小限にすると、パフォーマンスが向上します。
 2. 「別々のクエリーを使用」。この方法では、メンバー選択関数("Descendants of"や"Children of"など)を備えた各行に対して別々の MDX クエリーが発行されます。

5 Oracle Essbase の SPARSE コマンドを含めるかどうかを指定するには、「SPARSE コマンド」「」フレームで次のいずれかのオプションを選択します。

- 含む
- 除外

注： SPARSE コマンドのオプションは、Oracle Essbase をデータベース接続のデータ・ソースとして使用している場合のみ表示されます。

6 「オプション:」ここでの設定を最適化のデフォルトにする場合は、「デフォルトに設定」をクリックします。

7 「OK」をクリックして、設定を適用します。

8 「オプション:」設定を適用せずにレポート・デザイナのグリッドに戻る場合は、「取消し」をクリックします。

Financial Management のライン・アイテムの詳細の表示

Financial Management データベース接続を使用している場合、Financial Management ユーザーは勘定科目次元でのみ行のライン・アイテムの詳細を表示するかどうかを選択できます。また、ライン・アイテムの詳細の場所として、ライン・アイテムの詳細の親メンバーの前または後を選択することもできます。ライン・アイテムの詳細を表示するには、すべての次元をレベル 0 のメンバーに設定する必要があります。

▶ Financial Management のライン・アイテムの詳細を表示するには:

- 1 レポートを開き、グリッドの行を選択します。
- 2 「行のプロパティ」シートで、「ライン・アイテムの詳細を表示」を選択します。
- 3 オプション: 「グリッドのプロパティ」シートで、「位置」カテゴリを選択し、「ライン・アイテムの詳細の位置」ボックスで次のいずれかの操作を行います。
 - ライン・アイテムの詳細を親メンバーの前に表示するには、「メンバーの前」をクリックします。
 - ライン・アイテムの詳細を親メンバーの後に表示するには、「メンバーの後」をクリックします。これはデフォルトです。

Planning のサポート詳細の表示

Planning 詳細データベース接続を使用していて、行を選択すると、メンバーのサポート詳細を表示できます。選択した行の 1 つ以上のセルにサポート詳細がある場合は、サポート詳細を表示するための追加の行が挿入されます。さらに、サポート詳細の行の中で改ページを使用できるかどうかを制御できます。

▶ Planning 詳細データベース接続のサポート詳細を表示するには:

- 1 レポートを開き、グリッドで、サポート詳細があるメンバーを含んでいる行を選択します。
- 2 「行のプロパティ」シートで、「サポート詳細の表示」を選択します。
- 3 サポート詳細の行の中で改ページを使用できるようにするかどうかを指定します。
 - サポート詳細の行の中で改ページを使用できるようにする場合は、「改ページの挿入」チェック・ボックスを選択します。
 - 親メンバーとサポート詳細を同じページに表示するには、「改ページの挿入」チェック・ボックスの選択を解除します。サポート詳細が現在のページ内に入らない場合は、親メンバーとサポート詳細が次のページに移動します。

注: サポート詳細が複数のページにわたる場合は、デフォルトで「改ページの挿入」が選択され、改ページが使用されます。

4 オプション: サポート詳細を親メンバーの前または後に配置するには、「グリッドのプロパティ」シートで「位置」カテゴリを選択し、「サポート詳細の位置」ボックスのオプションを選択します。

- サポート詳細を親メンバーの前に表示する場合は、「メンバーの前」をクリックします。
- サポート詳細を親メンバーの後に表示するには、「メンバーの後」をクリックします。これはデフォルトです。

5 オプション: サポート詳細の中で世代ごとにインデントするには:

1. サポート詳細を表示するメンバーの見出しのセルを選択します。
2. 「フォーマット」、「セル」の順に選択し、「配置」タブを選択します。
3. 「世代ごとのインデントの幅」ボックスで、サポート詳細リストで世代ごとに右にインデントする幅として正数を選択します。または、サポート詳細リストで世代ごとに逆方向(左)にインデントする幅として負数を選択します。

注: このプロパティは、行の見出しのセルにのみ適用されます。データベース接続のタイプが **Planning** 詳細であり、「サポート詳細の表示」が選択されている場合にのみ使用できます。フォーマット方法の詳細は、[第 10 章「レポートのフォーマット」](#) を参照してください。

6 「オプション:」 サポート詳細に追加のフォーマットを適用するには、条件付きフォーマットを使用します。サポート詳細には、次の 2 つのオプションが役立ちます。

- サポート詳細。サポート詳細が実行時にセルから取得される場合に、サポート詳細のフォーマットを設定できます。
- 相対的な世代。サポート詳細の様々な世代のフォーマットを個別に設定できます。たとえば、取得されたメンバーの階層に 4 世代のサポート詳細が含まれている場合、フォーマットに第 3 世代を指定できます。この条件は、次の例のようになります。

注: すべてのタイプのデータベース接続で相対的な世代を使用するには、複数のレベルのメンバーを戻すメンバーの関係を選択している必要があります。たとえば、「...の子(含む)」、「...の子孫」、「...の子孫(含む)」、「...の親(含む)」、「...の祖先」、「...の祖先(含む)」、「すべてのメンバー」などです。Planning 詳細では、サポート詳細が有効になっている場合、メンバーまたは動的メンバーで相対的な世代を使用できます。

Condition 1: If

Supporting Detail Is True And

Relative Generation (of) Market = 3

注： 詳細は、198 ページの「条件付きフォーマットについて」を参照してください。

グリッド POV の定義

グリッド POV を使用すると、設計者は行、列またはページの交差に次元を配置しなくても、グリッドに次元のメンバーを指定できます。グリッド POV に対して次元を指定したら、設計者は次のように、参照者がメンバーを選択する方法を決定します。

- 任意のメンバー。どの次元のメンバーでも選択できます。
- リストにあるメンバー。参照者は設計者があらかじめ定義したメンバー・リストから選択できます。
- なし、メンバー選択をロック。参照者は次元のメンバーを選択できません。

注： レポートのパフォーマンスを向上するには、グリッド全体で行、列またはページ軸に1つのメンバーのみを選択した状態で次元を使用しないでください。セルの数が増える可能性はありませんが、クエリ全体のオーバーヘッドが増大します。変数である次元、または1つのメンバーに設定されている次元は、POV 内に保持してください。変数のメンバーの場合はユーザー POV を指定し、固定メンバーの場合は、グリッド POV を指定します。グリッドの各データベース接続のルールとして、次元がグリッド軸(行、列またはページ)に対して設定されている場合は、その次元に選択されたメンバーを使用します。次元がグリッド POV に対して設定されている場合は、グリッド POV 次元に選択されたメンバーを使用します。ユーザー POV 次元に選択されたメンバーを使用します。

グリッド POV バーの表示と非表示の切替え

レポート設計者は、グリッド POV バーの表示と非表示を切り替えることができます。グリッド POV を非表示にすると、レポートを表示するときにグリッド POV を変更できなくなります。デフォルトでは、グリッド POV バーは非表示になっています。ただし、POV バーが非表示になっている場合でも、レポートの実行時に値を操作することはできます。

注： グリッドの POV は HTML ビューでのみ表示され、PDF ビューでは表示されません。HTML ビューではレポートは対話型なので、グリッドの POV メンバーを変更できますが、PDF ビューは静的ドキュメントであるため、グリッドの POV は変更できません。

▶ グリッド POV バーの表示と非表示を切り替えるには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 グリッド POV バーを表示または非表示にするグリッドを選択します。
- 3 「グリッドのプロパティ」シートで、次のいずれかのタスクを実行します:

- グリッド POV を表示するには、「グリッド POV」チェック・ボックスを選択します。
- グリッド POV を非表示にするには、「グリッド POV」チェック・ボックスの選択を解除します。

ヒント： または、グリッドを選択してその内側を右クリックし、「グリッド POV」を選択することもできます。

グリッド POV のメンバーの選択

グリッド POV バーで、行、列またはページ軸で使用されていない次元のメンバーを選択できます。POV バーで定義されたメンバーは、グリッドにデータを取得するための基準を完全に満たしています。各 POV 次元には、メンバーを 1 つ含めることができます。

注： Oracle Essbase データベース接続と Planning データベース接続の場合は、エンド・ユーザーに予期しない問題が発生する可能性があるため、セキュリティが設定されている次元をグリッド POV に含めないでください。

▶ グリッド POV のメンバーを選択するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 グリッド POV を表示するには、「グリッドのプロパティ」シートの「グリッド POV」を選択します。
- 3 グリッド POV で、次元をクリックして「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスを表示します。
- 4 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、各次元は別々のタブに表示されます。タブに表示された次元を選択し、関連付けられたメンバーを選択します。各タブですべての次元にこの手順を繰り返します。
- 5 グリッド POV に次元があるレポートに関連コンテンツがリンクしている際にグリッド POV のメンバーを変更するには、「関連コンテンツのリンク中にメンバーが変更されました」を選択します。
- 6 「OK」をクリックします。選択したメンバーがグリッド POV に表示されます。


グリッド POV の設定

設計者はグリッド POV を設定して、レポートを表示または印刷するエンド・ユーザーが使用できるメンバーを制御または制限できます。

詳細は、[第 3 章「レポート・デザイナのメンバーの選択」](#)を参照してください。

▶ グリッド POV を設定するには:

- 1 グリッド POV の次元に使用するメンバーが選択されたレポートを開きます。
- 2 グリッドを右クリックし、「グリッド POV の設定」を選択します。

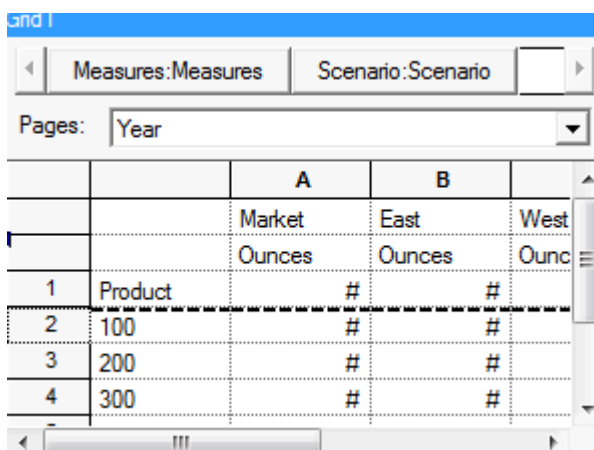
- 3 ダイアログ・ボックスに表示された各次元について、エンド・ユーザーがメンバーを選択できるかどうかを指定できます。
 - 「任意のメンバー」 - すべてのメンバーを選択できます。
 - 「リストにあるメンバー」 - 指定したメンバーのみを選択できます。「選択リスト」列の  をクリックします。「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 「なし、メンバー選択をロック(特定の次元)」 - メンバーは選択できません。
- 4 「エンド・ユーザーが選択可能」列が「リストにあるメンバー」に設定されている場合、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択し、「OK」をクリックします。メンバーの選択の詳細は、[第3章「レポート・デザイナーのメンバーの選択」](#)を参照してください。
- 5 次元名とメンバー名を表示するには、「次元名の表示」チェック・ボックスと「メンバー名の表示」チェック・ボックスを選択します。
- 6 別名を表示するには、「別名の表示」チェック・ボックスを選択します。
- 7 「OK」をクリックします。

改ページの挿入

「行プロパティ」シートおよび「列プロパティ」シートからグリッドの行または列の前に改ページを挿入できます。これにより、必要なライン・アイテムのまとまりを維持したまま、グリッド内の特定の場所でレポート・データを区切ることができます。

改ページは太い破線で示されます。次の図は、行2の前に挿入された改ページを示しています。改ページは、選択した行の上または選択した列の左側に挿入されます。

図 13 改ページが挿入されたグリッド



		A	B	
		Market	East	West
		Ounces	Ounces	Ounc
1	Product	#	#	#
2	100	#	#	#
3	200	#	#	#
4	300	#	#	#

▶ 改ページを挿入するには:

- 1 レポートを開き、グリッドを選択します。

2 改ページを挿入する行または列を選択(ハイライト)します。

注： レポートの1列目の前や1行目の上に改ページを挿入することはできません。

3 「行プロパティ」シートまたは「列プロパティ」シートで、「前に改ページ」オプションを選択します。

注： 「ページ設定」で「ページ長に合わせる」を選択している場合は、行に改ページを適用できません。「ページ幅に合わせる」を選択している場合は、列に改ページを適用できません。「ページ設定」の詳細は、[第14章「ブックとスナップショット・ブックの操作」](#)を参照してください。

4 次のいずれかのアクションを行います：

- 行を選択し、グリッドのその行より下の部分を新しいページの先頭に配置する場合は、「**上端**」を選択します。列を選択し、グリッドのその列より右の部分を新しいページの左余白に合わせて配置する場合は、「**左端**」を選択します。
- 現在の位置と同じ位置にグリッドを配置する場合は、「**同じ位置**」を選択します。たとえば、グリッドをページの下半分に配置し、「**同じ位置**」を選択した状態で改ページを挿入すると、グリッドのその行より下の部分は、2ページ目の下半分に表示されます。

ページ軸の見出しの定義

ページ軸の見出しには、ページ・メンバーが変わるたびにメンバー名が印刷されます。ページ軸のメンバーには、固有のカスタム見出しを設定できます。

ページ次元の見出しを印刷する方法の詳細は、[179 ページの「ページ次元の見出しの印刷」](#)を参照してください。

次のオプションを使用して、ページ次元の見出しの印刷方法を指定します：

表 23 ページ次元の見出しを設定するオプション

オプション	説明
新規ページ、上端	次のページの上端に新しいページが印刷されます。グリッドにリンクされたチャートがあり、ページのメンバーが変わるたびにチャートとグリッドを隣り合わせて印刷する必要がある場合に、このオプションを使用します。
新規ページ、同じ位置	指定したグリッドの場所でページが印刷されます。このオプションは、次のような状況で使用します。 <ul style="list-style-type: none">● グリッドに横方向または縦方向、あるいはその両方の配置プロパティが設定されており、各ページの同じ位置にグリッドを印刷する場合。たとえば、グリッドの位置を「中央」に設定すると、各ページの中央に印刷されます。● グリッドにリンクされたチャートがあり、ページのメンバーが変わるたびにチャートとグリッドを隣り合わせて印刷する必要がある場合。
同じページ	前のページの数値データに続けて新しいページを印刷します。 <p>注： グリッドにリンクされたチャートがある場合、チャートは1回印刷されます。ページのメンバーが変わってもチャートは印刷されません。</p>


▶ ページ次元の見出しを定義するには:

- 1 レポートを開き、グリッドの「ページ」ボックスを選択します。
- 2 「ページのプロパティ」シートの「見出し」領域で、「次元を選択します」。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - 「メンバー・ラベル」を選択し、次のメンバー・ラベル・オプションのいずれかを選択します。
 - 「メンバー名」は、見出しにメンバー名を表示します。
 - 「別名: デフォルト」は、Oracle Essbase または Planning 詳細データベース接続からメンバーの別名を表示します。または「説明」は、Financial Management データベース接続からメンバーの説明を表示します。
 - 「両方」は、見出しにメンバー名と、別名または説明を表示します。

注: プロパティ・シートに表示されるオプションは、データベース接続によって異なります。たとえば、データベース接続として Financial Management を使用している場合は、「説明」オプションが表示されます。この場合、「別名: デフォルト」オプションは表示されません。

- 「カスタム見出し」を選択し、次のいずれか、または両方の操作を行います。
 - 見出しに表示するユーザー定義のテキストを入力します。

ヒント: 列見出しのテキストを改行する場合は、キーボードの改行キーを使用します。

- テキスト関数を入力するか、「関数の挿入」ボタンをクリックして、見出しに表示されるデータを取得するテキスト関数を指定します。

注: 行見出しや列見出しにテキスト関数を追加する方法の詳細は、[153 ページの「テキスト関数を使用した情報の表示」](#)を参照してください。

- 4 「オプション」: フォーマットのオプションを設定するには、「フォーマット」ボタンをクリックします。
- 5 見出しの高さを指定します。
- 6 「ページの印刷位置」で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 新規ページ - 上端
 - 新規ページ - 同じ位置
 - 同じページ

注: 「ページの印刷位置」オプションの定義については、[表 23](#)を参照してください。

グリッドのデータベース接続の変更

グリッドのデータベース接続は、ワークスペースで行います。グリッドのデータベース接続を変更すると、別のソースから取得したデータが表示されます。新しいデータベースの次元名がデフォルトのデータベースと異なる可能性があるため、管理者はデータ構造の整合性を維持するためにマッピング・スキーマを準備する必要があります。指定したデータベース接続の構造が現在のデータベース接続の構造と異なる場合は、レポートにデータを入力できません。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide の Financial Reporting データベース接続の変更に関する項を参照してください。


グリッドへの複数のデータベース接続の割当て

データ行またはデータ列ごとに異なるデータベース接続からデータを取得して、そのデータベース接続を定義できます。

グリッドの行または列で、データベース接続についてグリッドで選択したメンバーを維持できます。グリッドの行または列に割り当てられているすべての次元をマッピングする必要があります。視点(POV)の次元は、マッピングする必要がありません。

注： データベース接続は、同じタイプ(両方とも Essbase データベース接続、両方とも Financial Management データベース接続など)にする必要があります。1つのグリッドで異なるタイプの複数のデータ・ソース(Financial Management、Planning、Essbase)はサポートされません。異なるデータベース・タイプからデータを取得するには、2番目のグリッドをレポートに追加します。2番目のグリッドでは、異なるデータベース・タイプの接続からデータが取得されます。最初のグリッドでは、式を使用して2番目のグリッドのデータを参照します。テキスト関数を使用して式の正しいメンバー名を表示し、レポートの2番目のグリッドを非表示にします。

▶ グリッドに同じタイプの複数のデータベース接続を割り当てるには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 グリッドで、データベース接続を変更するデータの1つ以上の行または列を選択します。
- 3 「行プロパティ」シートまたは「列プロパティ」シートで、「データベース接続の選択」ボタンをクリックします。
- 4 「データベース接続の選択」ダイアログ・ボックスの「データベース接続」ドロップダウン・リストでデータベース接続を選択し、「OK」をクリックします。

注： 同じタイプの別のデータベース接続を作成する場合は、別のデータ行またはデータ列を選択して「データベース接続」ボタンを再度クリックします。

- 5 「次元のマッピング」ダイアログ・ボックスで、デフォルトのデータベース接続の次元と選択したデータベース接続の次元をマッピングします。マッピングを行うには、左側の列の各次元について、右側の列のプルダウン・リストから次元を選択します。
- 6 「オプション」:新しいデータベース接続で使用する別名テーブルを選択します。
- 7 「OK」をクリックします。

データ行とデータ列の自動計算の追加

グリッドのデータ行とデータ列に自動計算を追加できます。たとえば、展開され、複数の次元を含む行または列の合計を計算する場合があります。

データ行またはデータ列に自動計算を定義すると、計算結果を含む行または列が実行時に挿入されます。この計算は、行または列のすべてのメンバーに対して行われ、レポートの印刷またはプレビュー時に表示されます。

適用できるフォーマットのオプションがいくつかあります。自動計算ごとに、計算された行または列の見出しとグループ見出しを指定できます。メンバーに基づいて計算行または列の位置を指定したり、計算行やグループ見出しの前後に空白の行を挿入することもできます。計算行の中および計算行の後に改ページを指定することもできます。

自動計算行に適用できるフォーマットのオプションがいくつかありますが、自動計算関数で計算するセル、行、列によっては、適用できないものがあります。

行や列の各次元またはメンバーで行う計算を定義するには、次の関数を使用します。

- 平均 - 実行時に、この次元のセグメントにある値の平均を求めます(数値以外は無視されます)。
- すべての平均 - 実行時に、この次元のセグメントにある値の平均を求めます(数値以外はゼロとみなされます)。
- カウント - 実行時に、この次元のセグメントにある値の個数を求めます(数値以外は無視されます)。
- すべてのカウント - 実行時に、この次元のセグメントにある値の個数を求めます(数値以外はゼロとみなされます)。
- 最大 - 実行時に、この次元のセグメントにある値の最大値を求めます。
- 最小 - 実行時に、この次元のセグメントにある値の最小値を求めます。
- 積 - 実行時に、この次元のセグメントにあるすべての数値または参照された値を掛け合せます。
- 合計 - 実行時に、この次元のセグメントにある値を合計します。

計算を行わずにフォーマットのオプションを使用できます。これにより、合計などの計算を行わずに、メンバーのグループを維持できます。

- 計算なし - 選択したセル、行または列で計算を行いません。ただし、自動計算で指定されたフォーマットは維持されます。「計算なし」は、自動計算の行、列またはセル、あるいは計算なしの行、列またはセルに適用できます。

注： メンバーにエラーがある場合や、データがない場合は、前の計算の小計にそのメンバーの値が含まれていますが、値はゼロとみなされます。

次の図に、自動計算が適用されたグリッドの例を示します。レポートの表示内容を目的に合ったものにするため、グリッドで Sales、Qtr1 および Qtr2 の列と Scenario および Product の行が非表示になっています。

Grid1				
				A
				Scenario
				Product
1	Sales	Qtr1, Qtr2	East, West	#

▶ データ行やデータ列の自動計算を定義するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 複数のメンバーを含んでいる行また列の見出しのセルを選択します。
- 3 「見出し行プロパティ」シートまたは「見出し列プロパティ」シートで、「自動計算」、「設定」の順に選択します。「自動計算行の挿入」または「自動計算列の挿入」ダイアログ・ボックスが表示されます。

次の2つの図は、レポート例の設定を示しています。

Insert an Auto Calculation Row

Calculation

- Average
- Average All
- Count
- Count All
- Maximum
- Minimum
- Product
- Total
- No Calculation

Headings

- Group Heading [↗](#)
- <<MemberName("Grid1",current,"Measures")>>

Auto Calculation Heading [↗](#)

Grand Total

Insert Blank Row

- Above Group Heading
- Below Group Heading
- Above Auto Calculation
- Below Auto Calculation

Row Height: 18

- Allow Page Breaks Within
- Allow Page Break After Auto Calculation

Note: Formatting may be applied through Conditional Formatting.

OK Cancel Help

Insert an Auto Calculation Row

Calculation

- Average
- Average All
- Count
- Count All
- Maximum
- Minimum
- Product
- Total
- No Calculation

Headings

- Group Heading [↗](#)
- <<MemberName("Grid1",current,"Year")>>
- <<MemberName("Grid1",current,"Measures")>>

Auto Calculation Heading [↗](#)

Sub Total

Insert Blank Row

- Above Group Heading
- Below Group Heading
- Above Auto Calculation
- Below Auto Calculation


Row Height: 18

- Allow Page Breaks Within
- Allow Page Break After Auto Calculation

Note: Formatting may be applied through Conditional Formatting.

OK Cancel Help


- 4 「計算」領域で、実行する計算の関数を選択します。自動計算のフォーマットのみを追加する場合は、「計算なし」を選択します。
- 5 「オプション:」 計算行、計算列、グループ行またはグループ列に見出しを追加するには、「見出し」領域で次のいずれかのアクションを行います。

- 「グループ見出し」チェック・ボックスを選択し、行または列を説明するカスタム見出しを入力します。見出しに式を挿入するには、「関数」ボタン  をクリックします。詳細は、153 ページの「テキスト関数を使用した情報の表示」を参照してください。

注： MemberName 関数を使用する場合は、行、列またはページのパラメータを「current」に設定する必要があります。

注： 周囲のデータが非表示になっている場合は、ヘッダーは抑制されません。

ヒント： 「グリッドのプロパティ」シートの「全般」カテゴリで、「繰返しを抑制」チェック・ボックスを選択すると、同じ見出しが繰返し表示される場合に、2 回目以降を非表示にすることができます。

- 「自動計算の見出し」テキスト・ボックスに、計算行または計算列を表すカスタム見出しを入力します。見出しに式を挿入するには、「関数」ボタン  をクリックします。詳細は、153 ページの「テキスト関数を使用した情報の表示」を参照してください。

6 「オプション」：計算行、計算列またはグループ見出しの前後に空白の行または列を挿入するには、「空白行の挿入」または「空白列の挿入」で適切なチェック・ボックスを選択します。

7 挿入した行または列の高さや幅を変更するには、「行の高さ」テキスト・ボックスまたは「列の幅」テキスト・ボックスに値を入力します。

ヒント： 行または列の展開されたメンバーの前後に自動計算行または自動計算列を挿入するかどうかを指定できます。指定するには、「グリッドのプロパティ」シートを表示して、「位置」カテゴリを選択します。

8 自動計算行内で改ページを使用できるようにするには、「改ページの挿入」を選択します。このオプションが選択されていない場合、見出しのセルと行はまとめて表示されます。行が長すぎてページに入らない場合、見出しのセルと行は次のページに移動します。自動計算行が 1 ページより長い場合は、デフォルトで「改ページの挿入」オプションが選択されます。

9 計算行の後ろで改ページを使用できるようにするには、「自動計算後に改ページ」チェック・ボックスを選択します。

10 「OK」をクリックします。

11 レポートを表示するには、「ファイル」、「印刷プレビュー」の順に選択します。レポートの例は、[図 14](#) と類似したものになります。

注： 同じレポートに条件付きフォーマットを適用した例については、[図 15](#) を参照してください。

図 14 自動計算を適用したレポートの例

Sales	
Qtr1 Sales	
East	20,621
West	31,674
SubTotal	52,295
Qtr2 Sales	
East	22,449
West	33,572
SubTotal	56,021
GrandTotal	108,316

自動計算されたデータの行と列のフォーマット

条件付きフォーマット機能を使用すると、下線、太字、インデントなどの追加のフォーマットを自動計算の行と列に適用できます。条件付きフォーマット機能には、自動計算のために設計された次の2つの条件があります。

- 自動計算 - 自動計算されたセルと見出しにフォーマットを適用します。
- 自動計算のグループ見出し - セクション見出しにフォーマットを適用します。

条件付きフォーマットの詳細は、[201 ページの「グリッドへの条件付きフォーマットの適用」](#)を参照してください。

図 15 に、フォント、配置、枠線および網掛けの設定を指定する条件付きフォーマットを使用するレポート例を示します。East と West の見出しセルと計算済データ・セルを選択して、次の条件がレポート例に適用されています。

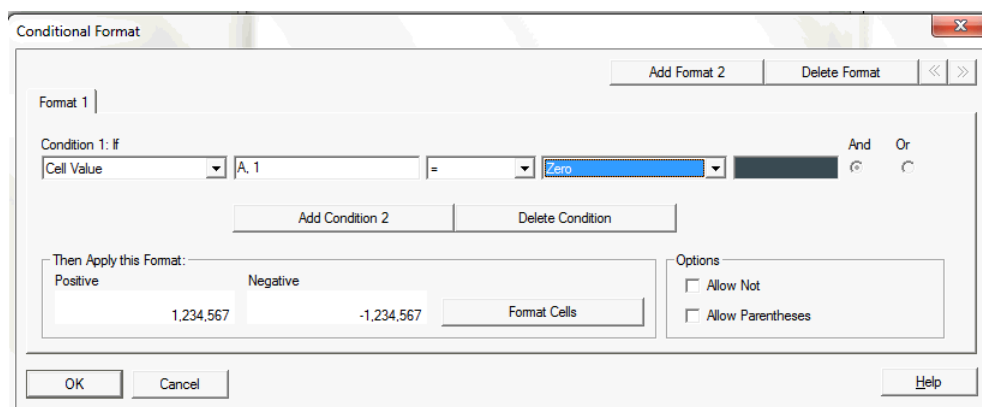
- フォーマット 1: IF (Year の自動計算が True のときに、セルをフォーマット(上に二重線の境界、Ariel フォント、太字、サイズ 12)
- フォーマット 2: IF (Market の自動計算が True のときに、セルをフォーマット(上に一重線の枠線)
- フォーマット 3: IF (Market の自動計算のグループ見出しが True のときに、セルをフォーマット(中央に配置、斜体)
- フォーマット 4: IF (Year の自動計算のグループ見出しが True のときに、セルをフォーマット(太字、サイズ 12、青)

図 15 条件付きフォーマットを適用したレポートの印刷プレビュー

Sales	
<i>Qtr1 Sales</i>	
East	20,621
West	31,674
<hr/>	
SubTotal	52,295
<i>Qtr2 Sales</i>	
East	22,449
West	33,572
<hr/>	
SubTotal	56,021
<hr/> <hr/>	
Grand Total	108,316

- ▶ 計算されたデータの行や列にフォーマットを適用するには:
- 1 レポートを開きます。
 - 2 自動計算を設定しているセルを選択(複数可)します。
 - 3 「フォーマット」、「条件付きフォーマット」の順に選択します。
 - 4 「条件 1:if」の下にあるプロパティのドロップダウン・リストで「自動計算」または「自動計算のグループ見出し」を選択してから条件を入力します。

図 16 自動計算されたセルに適用する条件付きフォーマット



- 5 「セルのフォーマット」ボタンをクリックし、計算済セルにフォーマットを適用します。
- 6 「OK」をクリックして、計算済セルに指定したフォーマットを受け入れます。フォーマットの詳細は、[183 ページの「グリッドのフォーマット」](#)を参照してください。

注： 条件付きフォーマットを使用して計算済セルのフォーマットを確立できません。詳細は、[201 ページの「グリッドへの条件付きフォーマットの適用」](#)を参照してください。

7 レポートを表示するには、「ファイル」、「印刷プレビュー」の順に選択します。レポートの例は、[図 15](#) と類似したものになります。

式の行や列の定義

式は、グリッド参照、算術関数および算術演算子の組合せで構成されます。グリッド参照は、計算で現在のグリッドまたは別のグリッドからの値を使用します。グリッドの式の行、式の列、式のセル、または式のセルの範囲で算術式を定義できます。たとえば、1 つ以上の行を追加する式を作成できます。あるいは、2 つの行を乗算し、3 番目の行を追加して結果を表示できます。式で使用できる算術関数のリストの詳細は、[220 ページの「算術関数」](#)を参照してください。

注： デフォルトでは、データなし(#MISSING)のセルは、IfNonNumber プロパティを使用して異なる値を指定しないかぎり、式でゼロ(0)とみなされません。除算を使用する式では、ERROR が戻されます。

注： Financial Management データベース接続を使用した場合は、JConsole.exe ファイルの MissingValuesAreZeroInFormulas (以前は MissingValuesAreZeroInFormulasInHFM) オプションの設定によって結果が異なります。JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。プロパティを(1)に設定すると、#Missing 値はゼロとみなされます。しかし、プロパティをゼロ(0)に設定すると、#Missing 値はデータなしとみなされ、#missing 値または#error 値が戻されます。デフォルトの設定は(1)です。

算術プロパティを指定するには、ドット表記を使用します。ドット表記は、グリッドのプロパティまたは別のプロパティを指定する構文です。プロパティ名の後ろにピリオド(.)を使用してプロパティを指定します。

次に式の行や列を定義する構文を示します:

```
gridname  
.  
row\column[  
x  
]  
.property
```

引数	説明
gridname	グリッドの名前。グリッド名にはスペースを含めることはできません。グリッド参照の詳細は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

引数	説明
x%	行、列、番号およびプロパティ。

たとえば、`mygrid1.row[3].sum` は、`mygrid1` の行 3 のすべての要素を合計します。

注： 完全なグリッド名表記を使用する場合は、行、列またはセルも指定する必要があります。

次の例は、列 C の合計を戻します。

```
mygrid2
.column[C].sum
```

現在のグリッド、行、列またはセルへの参照は省略できます。次の例は、現在のグリッドの行 5 と列 B の交差にあるセルの絶対値を戻します：

```
ABS([
5,B
])
```

▶ 式の行や列を定義するには：

- 1 レポートを開きます。
- 2 グリッドの行または列を選択します。
- 3 「挿入」、「行」、「式」の順に選択するか、「挿入」、「列」、「式」の順に選択します。
- 4 式の行または列、あるいはセルの範囲を選択します。
- 5 計算式バーのドロップダウン・メニューで関数を選択します。算術関数の一覧は、[220 ページの「算術関数」](#)を参照してください。
- 6 「式」テキスト・ボックスにカーソルを移動して、式の残りを入力します。
- 7 必要に応じて、手順 4 から 6 を繰り返して式を作成します。
- 8 式の結果を表示するには、「ファイル」、「印刷プレビュー」の順に選択します。

式の行と列の見出しの定義

行または列の見出しを定義できます。デフォルトで、式は行または列の見出しとして表示されます。行または列のカスタム見出しを作成することもできます。

- ▶ 式の行と列に見出しを定義するには、見出しのセルを選択して、「行のプロパティ」または「列のプロパティ」シートの「見出し」領域で、次のいずれかを行います。
- 「式の表示」オプションを選択します。これはデフォルトです。

- 「カスタム見出し」 ボタンをクリックします。「カスタム見出し」 テキスト・ボックス領域にテキストを入力します。

注： 「カスタム見出し」 に、テキスト関数を挿入することもできます。

行または列の展開

デザイナーでレポートを設計するときに、行、列およびセルで、計算された行、列またはセルを参照できます。

行または列の構文は、次のとおりです。

```

AXIS
[
Segment
(
Range
) ] .
Property

```

セルの構文は、次のとおりです：

```

CELL
[
Row

Segment
(
Range
) ,
Column

Segment
(
Range
) ] .
Property

```

参照	定義
AXIS	指定された行および列のテンプレートによって識別される、展開セルを含む行または列。デフォルトの設定は行です。たとえば、[3]は行 3 を参照し、[C]は列 C を参照します。列の式で、参照[3].sum は行 3 の合計として計算されます。 オプション。
CELL	指定された行および列のテンプレートの座標によってそれぞれ指定された展開セルの交差。たとえば、参照[2,C]は行 2 が列 C と交わる 1 つのセルを指します。 オプション。

参照	定義
セグメント	<p>デザイナーで行 ID および列 ID を表す値。参照されるセグメントは、設計時の行または列を参照し、ビューアでは展開される場合があります。表示時の行および列は、展開された行および列です。行 ID には数字、列 ID には文字を使用します。</p> <p>注意: 展開された式の行を使用する場合、デフォルトのセグメントは行です。展開された式の列を使用する場合、デフォルトのセグメントは列です。たとえば、行[5]は展開された行 5 を参照します。セグメントの使用の詳細は、142 ページの「セグメント引数の表記」を参照してください。</p> <p>オプション。</p>
範囲	<p>関数の計算で使用される展開セル。</p> <p>範囲は、表示時の展開された行および列を参照します。抑制された後に計算が実行されます。計算の後にソートが実行されます。ソートと非表示の詳細は、208 ページの「条件付き抑制」および196 ページの「行、列、ページのソート」を参照してください。</p> <p>展開された行または列の範囲を参照するには、コロンを使用します。たとえば、(3:6)は行 3、4、5 および 6 を示します。範囲の使用の詳細は、144 ページの「範囲引数の表記」を参照してください。</p> <p>オプション。</p>
プロパティ	<p>行、列またはセルの集約に適用される関数。プロパティの使用の詳細は、223 ページの「プロパティ引数」を参照してください。</p> <p>オプション。</p>

セグメント引数の表記

セグメント引数は、デザイナーで行 ID または列 ID を表す値です。参照されるセグメントは、設計時の行または列を参照し、ビューアでは展開される場合があります。表示時の行および列は、展開された行および列です。行 ID には数字、列 ID には文字を使用します。標準の式で 1 つ以上のセグメントを参照できます。次の表に、標準の式で複数のセグメントを表す際に使用される表記のタイプを説明します。

表 24 セグメントの表記

タイプ	表記	説明	例
単一セグメント	[]	単一の(設計時の)セグメント	この式はセグメント 2 を指します: row[2] 注: この表記法は、旧リリースでサポートされています。
非連続セグメント	[:]	複数の独立した行や列のセグメントを示します。	次の式はセグメント行 2、5、7、8、10 を指します: row[2;5;7;8;10] 注: 行や列の参照を区切るには、カンマではなく、セミコロンを使用します。
セグメントの範囲	[:]	行または列のセグメントの範囲を示します。	次の式はセグメント行 2、3、4、5 を指します: row[2:5]

上の表記法を組み合わせで使用できます。

例:

次の例は、セグメント行 1、3、5、6、7、8、9、10、12、13、14、15、17 を示します。

```
row[1; 3; 5:10; 12:15; 17]
```

例:

次の例は、セグメントの行 4 と 20 を参照していますが、グリッドに 15 行しかない場合は、行 4 のみが式で計算する対象になります。

```
row[4; 20]
```

開始セグメントを終了セグメントより大きくすると、システムの内部で、2 つの値が入れ替わります。

例:

次に、セグメントがシステムの内部で入れ替えられる例を示します。

```
row[6:3] becomes row[3:6]
```

同じセグメントに対して複数の参照を使用できます。これにより、同じセグメントが式で複数回使用されます。

例:

次の例は、行 5 を 2 回、合計に加えています。

```
row[2;3;  
5  
;7;  
5  
].sum
```

例:

次の例では、行セグメント 2、3、4、5、6、7 を参照し、もう一度セグメント 5 を参照します。この平均を求める計算では、セグメント 5 が 2 回含まれます。

```
row[2:7;5].avg
```

テキスト・セグメントは無視されます。

例:

次の例では、行セグメント 3 がテキスト行の場合は無視されます。

```
row[1:5]
```

範囲引数の表記

範囲関数は、抑制された後に実行される計算で、表示時の展開された行および列を参照します。計算が完了した後にソートが実行されます。次の表に、展開された範囲の表記を示します。

表 25 範囲の表記法

タイプ	表記	説明	例
なし		範囲引数は、オプションです。	<code>row[2]</code> は、行セグメント 2 で展開されるすべての行を指します。 注： この表記法は、旧リリースと互換性があります。
単一の範囲	<code>[segment (range)]</code>	展開された単一の行または列を参照します。	次の例は、セグメント 2 の展開された行 5 を示します。 <code>row[2(5)]</code>
連続した範囲の参照	<code>[:]</code>	展開された行または列の範囲を参照します。	次の式は、行セグメント 2 で展開される行 5、6、7、8、9、10 を指します。 <code>row[2(5:10)]</code>
連続していない範囲の参照	<code>[,]</code>	連続していない複数の展開された行または列を参照します。	次の例は、行セグメント 2 の展開された行 5、7、8 および 10 を示します。 <code>row[2(5,7,8,10)]</code>

上の範囲の表記法を組み合わせて使用できます。

例:

次の例は、設計時の行 2 の展開された行 5 から 10 を示します。

```
row[2(5:10)]
```

注： たとえば、行セグメント 2 が 15 行に展開される場合は、展開された行 5 から 10 のみに関数の計算の対象になります。

例:

次の例は、設計時の列 A の展開された列 C から E を示します。

```
column[A(C:E)]
```

例:

次の例は、設計時の行 2 の展開された行 1、3、5、6、7、8、9、10、12、13、14、15 および 17 を示します。

```
row[2(1,3, 5:10, 12:15, 17)]
```


注： グリッドに抑制プロパティが含まれる場合、展開された行および列が抑制される場合があります。データの抑制の詳細は、[208 ページの「条件付き抑制」](#)を参照してください。

範囲引数がセグメントで展開される行の最大数より多い数を参照する場合、最大数を超える行が無視されます。

例:

次の例では、展開された行 6 から 10 が識別されますが、セグメント 1 には 3 つの展開された行しか含まれていません。この場合、関数の対象は展開された行 6 から 8 のみになります。

```
row[1(6:10)]
```

引数で指定した範囲に展開される行がない場合は、軸の参照全体が無視されます。

例:

次の例では、セグメント 3 の展開される行が 10 行しかない場合は、行 23 の参照が無視されます。

```
row[3(23)]
```

例:

範囲の開始行または開始列を終了行または終了列より大きくすると、システムの内部で列や行が入れ替わります。

例:

次に、範囲が入れ替わる例を示します。

```
row[1(7:5)] becomes row[1(5:7)]
```

同じ展開された行または列に対して複数の参照を使用できます。ただし、複数の参照を使用すると、同じ行または列が式に 2 回含まれる場合があります。

例:

次の例は、展開された行 5 を 2 回、合計に加えています。

```
row[2(3,  
5  
,7,  
5  
)].sum
```

例:

次の例は、展開された行 3、4、5、6、7 を参照し、さらに行 5 をもう一度参照しています。したがって、平均値を求める計算に、行 5 が 2 回含まれています。

```
row[2(3:7,5)].ave
```

範囲と複数のセグメントの指定

引数とセグメントの範囲を指定する構文は、次のとおりです。

```
AXIS  
[  
Segment Start  
:  
Segment End  
(  
Range Start  
:  
Range End  
)]
```

開始セグメントと終了セグメントで、複数のセグメントを指定します。

例:

次の例は、行セグメント 1、2、3、4 の展開された行 5、6、7 を示します。

```
row[1:4(5:7)]
```

例:

次の例は、行セグメント 1、2、3、4 の展開された行 5、7、9 を示します。

```
row[1:4(5,7,9)]
```

セグメント引数で、軸に存在しないセグメントを参照している場合は、そのセグメントが無視されます。これには、抑制の行または列も含まれます。

例:

次の例は、行セグメント 1 の展開された行 4、6、7、8、9、10、行セグメント 3 の展開された行 4、5、6、および行セグメント 7 の展開されたすべての行を示します。

```
row[1(4, 6:10); 3(4:6); 7]
```

計算の反復

すべてのグリッドとセルに対する計算の最大繰返し回数

(MaximumCalculationIterations)を指定して、JConsole.exe ファイルにある式の参照内の依存関係を解決できます。JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参

照してください。グリッドの計算プロセスでは、参照の優先順位により、セルを複数回評価する場合があります。これは通常、他のグリッドを参照するグリッドで生じます。最大繰返し回数プロパティは、式のセルを未解決とマークする前に評価する回数を示します。最大繰返し回数プロパティを設定することで、循環参照のセルが無制限に評価されるのを防止できます。循環参照は、1つのセルが別のセルを参照し、さらに参照先のセルが参照元のセルを参照する場合に生じます。循環参照がないのに、計算のセルで#Error が戻される場合は、最大繰返し回数プロパティの値を増加できます。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

式バーの使用方法

式バーは、Financial Reporting でグリッドを設定するときに、式の管理やメンバーの選択を行う場所です。

注： 選択した関数を入力してメンバーを動的に選択できます。式バーで利用できる関数のリストの詳細は、表 12 を参照し、式バーで使えない関数のリストの詳細は、表 13 を参照してください。

式バーには、式のエントリ用のテキスト・ボックスと、式を作成する際に選択する関数のドロップ・ダウン・リスト・ボックスが含まれています。グリッドのメンバーを選択すると、式バーでメンバー選択がアクティブになります。

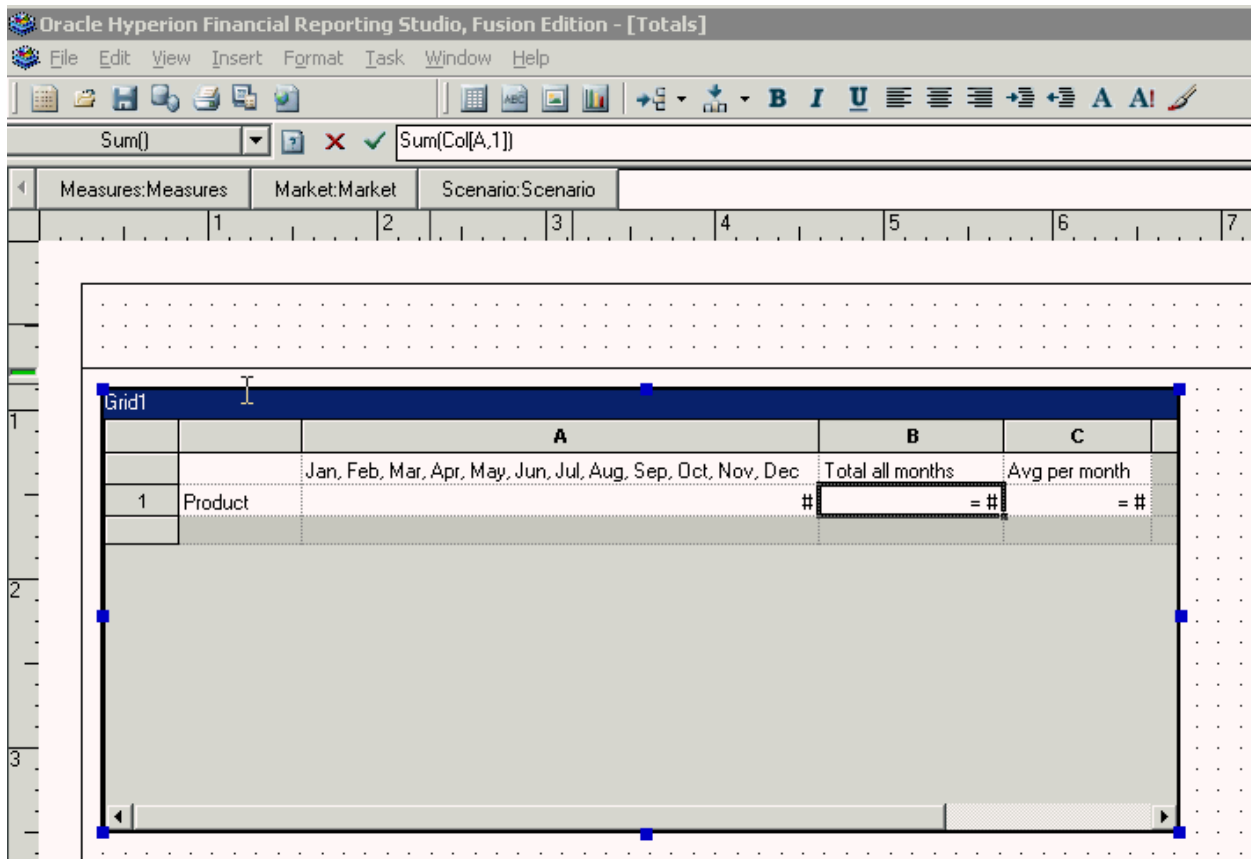
式バーは、その機能に簡単にアクセスできるように、ツールバーの下に表示されます。グリッドを使用していないときも式バーは表示されますが使用できません。

Financial Reporting の式バーの機能と外観は、Excel の式バーに似ています。式バーを使用すると、グリッドで次のタスクを実行できます：

- セル、列、行の式を定義、編集、削除する
- 列や行のメンバー選択を変更する

式を含むレポートの例

式バーを使用して、データの合計や平均を求める式や、選択したその他の関数を実行する式を作成できます。たとえば、ある年のデータを合計する行の式を作成する場合、式バーを使用して、結果を戻す関数と次元を選択します。次の図に例を示します。



- Product(商品)次元の月次合計。
- すべての月の合計。Sum 関数で計算します。
- 1 か月当たりの平均。Avg 関数で計算します。

注： Total 列と Average 列のタイトルを作成するには、カスタム見出しを使用します。この詳細は、[第 5 章「レポートの作成」](#)を参照してください。

この例を作成するには、デザイナーで行に Product があり列に Year があるグリッドを作成します。Year をダブルクリックすると、メンバー選択ウィンドウが表示されます。選択したペインに 12 か月すべての月を配置し、Year を除去します。「OK」をクリックします。

メンバーを選択したら、年間の合計および月間の平均を求める 2 つの式の列を挿入します。

この例では、Year メンバーの月の外側にある最初の式の列には Sum 関数が含まれます。この関数は、各月の値を合計します。すべての月が 1 つのセルのみで定義されているので、参照はそのセルの位置になります。式は、式バーで作成します。

`Sum(Cell [A,1])`

2 番目の式の列は、Year メンバーの月の平均を計算します。1 年には 12 か月あるので、Avg 関数は月間のすべての合計を足した合計を 12 で割ります。式を次に示します。

`Average(Cell [A,1])`

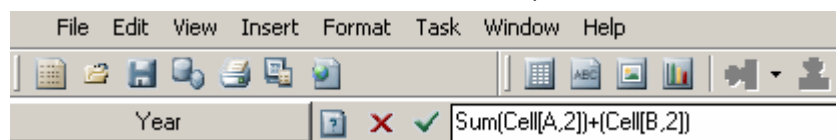
一般に、グリッドでデータを計算する式を指定するには、行や列の式を指定する方法とセルの式を指定する方法の2つがあります。

- 行/列: 行または列の各セルに対し、行全体または列全体に1つの式を適用します。式を定義するには、式の行または列ヘッダーをクリックして行全体または列全体をハイライトし、式バーに式を入力します。行/列の式を適用すると、パフォーマンスが向上します。
- セル: 式の行または式の列のセルだけに1つの式を適用します。式を定義するには、セルをクリックし、プロパティ・シートから「カスタム式を使用」を選択して、式バーに式を入力します。セルが式の行および式の列と交差する場合、セルの式として行の式または列の式を使用できます。詳細は、[152 ページの「セル・レベルでの計算」](#)を参照してください。

このため、行または列の各セルで式が繰り返される場合は、行/列の式を使用します。各セルで異なる式が実行される場合は、セルの式を使用します。

▶ 式バーにアクセスするには:

- 1 レポートを開くか、作成します。
- 2 グリッドで次元の見出しまたは式の行/列を選択して式バーを使用可能にします。



式バーを使用した式の作成

式を入力できるセル、行または列を選択して、独自の式を適用できます。

たとえば、前述のカスタム式は、セル A,2 の値とセル B,2 の値を加算します。

ヒント: 式を作成するときは、次のことに注意してください。

- 可能なかぎり、セルの式ではなく行や列の式を使用します。
- 可能なかぎり、関数ではなく参照プロパティを使用します。行、列またはセルの参照は、それに関連付けられたプロパティを持つことができます。たとえば、行参照 [1:5].sum では、Sum 関数 Sum([1:5]) と同じ結果が生成されます。しかし、最初の式は参照プロパティとして使用されるので、より迅速に実行されます。
- 可能なかぎり、軸の相互参照ではなく、セル参照を使用するようにします。
- 必要な場合にのみカッコを使用します。カッコを間違えて使用すると、計算エンジンの評価ルーチンで、不必要な評価が繰り返されることがあります。

▶ 式バーを使用して式を作成するには:

- 1 レポートを開くか、作成します。
- 2 グリッドを挿入します。

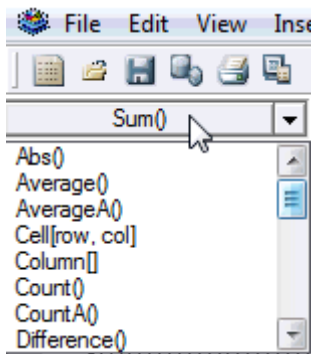
- 3 式の間または式の列を挿入し、式のセルを選択します。また、式を選択して、列全体または行全体に式を適用することもできます。


注： 行または列の式内で式のセルを使用する場合は、行および列だけではなく、セル(交差)を正確に参照する必要があります。

- 4 次のいずれかの方法で、セルの式を作成します。

- 式バーに式を直接入力します。
- 次に示す式バーのドロップ・ダウン・リストを使用して、式に使用する関数を選択します。式の作成方法の手順は、[139 ページの「式の間や列の定義」](#)を参照してください。使用可能な算術関数の説明は、[220 ページの「算術関数」](#)を参照してください。

ヒント： 式バーを使用するときに、「ヘルプ」ボタンをクリックすると、関数のヘルプにアクセスできます。




- 5 式バーのチェックマーク・アイコン  をクリックし、式を検証します。

式バーを使用した式の編集

式バーを使用して、グリッドのセル内の式を変更できます。式の構文は、レポートの目的に応じて変更される可能性が高いので、式を簡単に編集できる必要があります。

▶ 式バーを使用して式を編集するには:


- 1 グリッドを含むレポートを開きます。
- 2 式を含むか、式を使用する式のセル、式の間または式の列を選択します。関連する式が式バーに表示されます。
- 3 式バーで式を変更します。関数のドロップ・ダウン・リストを使用して式を選択できます。
- 4 式バーのチェックマーク・アイコン  をクリックして、式を検証します。
検証された式が式バーに表示されます。

式の削除

使用しなくなった式を削除できます。

▶ 式を削除するには:

- 1 式の行または列を選択します。
- 2 メニュー・バーから、「編集」、「削除」の順に選択します。

注: 「削除」ボタン  では式は削除されず、式の編集時に変更が取り消されます。

式バーを使用したメンバー選択の変更

グリッドのメンバーを操作するとき、式バーを使用して、選択されているメンバーを変更できます。

次に、メンバー選択の名前を変更している例を示します。

注: 式バーに入力するメンバー名の大文字と小文字は区別されません。

最初に、グリッドの見出しセルを選択します。次元が式バーのボタンに表示されます。次に、式バーを使用して、選択した次元のメンバー関数を動的に入力できます。

注: メンバー関数はデータの見出しセルに動的に入力できます。メンバー関数と構文の詳細は、[53 ページの「関数を使用したメンバーの割当て」](#)を参照してください。

▶ 式バーを使用してメンバー選択を変更するには:

- 1 レポートを開くか、作成します。
- 2 グリッドのデータ行または列の見出しセルを選択します。
- 3 式バーの次元ボタンをクリックし、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、メンバーを選択または除去します。

新しいメンバーがグリッドに表示されます。メンバー選択の使用の詳細は、[第3章「レポート・デザインのメンバーの選択」](#)を参照してください。

注: グリッドでメンバーを選択すると、式バーの次元ボタンがアクティブになります。現在の次元内に存在するメンバーを指定する必要があります。

- 式バーのテキスト・ボックスでメンバー名を変更します。
- 式バーを使用して次元のメンバー関数を動的に入力します。メンバー関数の構文の詳細は、[表 12](#)を参照してください。

注： Sum(Productの子(含む))のように、メンバー関数を数値関数と組み合わせることはできません。

4 をクリックして入力したメンバーを受け入れます。

グリッドが、新しいメンバー/メンバー関数のデータを取得するように設定されます。

プロパティ・シートの機能へのアクセス

レポート・コンポーネントを選択すると、対応するプロパティ・シートがデザイン領域の右側に表示されます。別のコンポーネントを選択すると、カテゴリとプロパティ・シート機能が変わります。たとえば、セルを選択すると、「セルのプロパティ」シートが表示されます。プロパティ・シートを使用して、選択したコンポーネントに変更を加えることができます。

一般的に、プロパティ・シートでは、現在選択されているレポート・コンポーネントの様々なオプションを設定できます。詳細は、[第2章「Financial Reporting スタート・ガイド」](#)を参照してください。

セル・レベルでの計算

式の行または式の列のセルには式を含めることができます。式の行または式の列にあるセルにカスタムのセル・レベルの式を作成できます。式のセルを選択すると、「セルのプロパティ」シートで計算のプリファレンスを選択できます。

- 式の行と式の列の交差にあるセルでは、行の式、列の式、新しいカスタム式のどれに基づいて計算するかを選択できます。
- 式の行にあるセルでは、行の式と新しいカスタム式のどちらに基づいて計算するかを選択できます。
- 式の列にあるセルでは、列の式と新しいカスタム式のどちらに基づいて計算するかを選択できます。

次の表に、%差異を表示する計算済セルの例を示します。セル D4 は、1月の合計と2月の合計の間の%差異(具体的には、 $((356-350)/350) * 100 = 1.71\%$)を表示します。カスタム式をセル D4 に配置すると、セル・レベルの式により目的の結果が戻されます。正しい結果を取得するために必要な式は、 $(([B]-[A])/[A]) * 100$ です。

表 26 セル・レベルの計算の例

		A	B	C	D
	商品群	1月	2月	差異	%差異
1	コーラ	100	105	5	5.00%
2	ルート・ビール	200	203	3	3.00%
3	ワイン	50	48	(2)	(4.00%)
4	[1].sum	350	356	6	1.71%

▶ セル・レベルで計算するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 式を入力するセル(複数可)を選択します。
- 3 「セルのプロパティ」シートの「計算の順序」で、次のいずれかを行います。
 - 行の計算をセルに適用する場合は、「**行の式を使用**」を選択します。
 - 列の計算をセルに適用する場合は、「**列の式を使用**」を選択します。
 - 新しい式を追加する場合は、「**カスタム式を使用**」を選択し、次のアクションを行います。
 1. 式バーに移動し、関数のドロップダウン・リストで関数を選択します。
 2. テキスト・ボックスにカーソルを移動して、式を完成します。
 3. 式の結果を表示するには、「ファイル」、「印刷プレビュー」の順に選択します。

注: 式の行または式の列にある複数の連続する式のセルを選択して、計算の順序を変更できます。

テキスト関数を使用した情報の表示


レポートの情報を表示するには、テキスト関数を使用します。レポートの説明、グリッドのデータベースの情報、データベース接続にあるデータなど、レポートに関する様々な情報を表示できます。

テキスト・ボックス、データ行、データ列、式の行、式の列、またはページの見出しでテキスト関数を使用できます。式を2重の山カッコ(<<および>>)で囲んで、異なるテキスト関数を区別します。テキスト関数のフォントは、通常のテキストのようにフォーマットできます。テキスト関数とその構文は、[226 ページの「テキスト関数」](#)で定義されています。

注: テキスト関数の山カッコを含む関数全体のフォントのプロパティを、テキスト・ボックスのテキストと同じように設定する必要があります。

▶ テキスト関数を使用して情報を表示するには:

- 1 レポートを開き、次のいずれかを行います。
 - テキスト・ボックスを選択します。
 - 見出しセルを選択し、プロパティ・シートで「カスタム見出し」を選択します。
 - グリッドで「ページ」ドロップダウン・リストを選択し、プロパティ・シートで「カスタム見出し」を選択します。
- 2 「関数の挿入」ボタンをクリックします。「関数の挿入」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 関数を選択するには、次のいずれかのアクションを行います:

- 「使用可能な関数」リストで関数をダブルクリックし、「選択した関数」リストに追加します。
 - 「使用可能な関数」リストで関数を選択し、「追加」ボタンをクリックして、「選択した関数」リストに追加します。
- 4 必要に応じて、「関数の選択」で関数のパラメータを変更し、「OK」をクリックします。

注： レポート設計者には、グリッドまたはテキスト・オブジェクトに表示されるテキスト関数のエラー・メッセージを使用可能または使用不可にするオプションがあります。デフォルト設定では、エラー・メッセージが表示されます。この機能を使用不可にするには、「グリッドのプロパティ」シートまたは「テキストのプロパティ」シートの「テキスト関数のエラーの表示」オプションの選択を解除します。

- 5 レポートを実行し、関数で生成されたデータを表示するには、「ファイル」、「印刷プレビュー」の順に選択します。

グリッド・ヘッダーの固定

ワークスペースで HTML レポートをスクロールしたときに行と列の見出しラベルを表示するグリッドを選択できます。

▶ グリッドの行見出しと列見出しを固定するには:

- 1 行見出しと列見出しを固定するグリッドを選択します。
- 2 「グリッドのプロパティ - 全般」カテゴリで「グリッド・ヘッダーを固定」を選択します。
- 3 行および列のロックを解除するには、グリッドを選択し、「グリッド・ヘッダーを固定」の選択を解除します。

注： ワークスペース領域全体でレポートを表示する場合、Reporting Studio でグリッドのサイズを大きくする必要があります。

グリッド・ヘッダーを固定したときのブラウザの動作

Internet Explorer および Firefox を使用した場合の動作です:

- スクロール:Internet Explorer では、行見出しと列見出しがロックされています。Firefox では、列見出しのみがロックされています。
- グリッドの高さと幅:デザイナーによって設定された高さや幅は、Internet Explorer および Firefox の両方の HTML プレビューで表示可能です。スクロールバーは、表示されない行または列がある場合のみ表示されます。「グリッド・ヘッダーを固定」を選択すると、自動サイズ調整プロパティが無視されます。
- 水平スクロール:グリッドの幅がデザインの幅を超える場合、水平スクロールバーが表示されます。ただし、水平スクロールバーの動作は、2つのブラウザ

で異なります。Internet Explorer では、行見出しが常に表示されるように調整されます。Firefox では、水平スクロールバーで見出しを含むすべての列がスクロールされます。

- **垂直スクロールバーの位置:**Internet Explorer では、垂直スクロールバーがテーブルの右端に表示されます。Firefox では、スクロールバーは、最後の列見出しの下に表示され、最後の列に割り込みます。この動作に対応するには、最後の列の上にスクロールバーが重ならないように、グリッドに列を追加します。
- **スクロールの速度:**Firefox では、スクロールが組み込まれており、Internet Explorer のように JavaScript を必要としないので、スクロールの速度は速くなります。

7

ユーザーのPOVの定義

この章の内容

レポート・デザイナーでのユーザーの POV の設定	157
レポート・デザイナーでのユーザーの POV のメンバーの選択	158

レポートの各データ値は、Oracle Essbase、Planning Detail または Financial Management データベース接続の各次元のメンバーの交差から派生します。設計者は Financial Reporting を使用して、これらの次元をレポート・グリッドまたはユーザーの POV に配置できます。レポート参照者はユーザーの POV の次元に選択されたメンバーを変更できます。これで、レポート参照者はそのニーズに合わせてレポートをカスタマイズできるようになります。ユーザーの POV はブックでも使用できます。ブックの POV でメンバーとしてユーザーの POV を選択する詳細は、[第 14 章「ブックとスナップショット・ブックの操作」](#)を参照してください。

レポートでは、ユーザーの POV の次元に指定されたメンバーは、ユーザーの POV のその次元を持つすべてのグリッドで使用されます。たとえば、Scenario 次元に Budget メンバーを選択した場合、データを取得するときはユーザーの POV のシナリオを持つレポートのすべてのグリッドで Budget が使用されます。すべての次元がグリッドに配置されている場合、ユーザーの POV は表示されません。

ユーザーの POV バーには、次の次元が表示されます。


- 行、列またはページで現在定義されていない次元
- 現在の POV に設定されている行、列またはページの次元
- グリッドの POV で選択されているメンバーがない次元
- 「次元レイアウト」ダイアログ・ボックスの「視点(POV)」領域にドラッグした属性次元

レポート・デザイナーでのユーザーの POV の設定

レポートを設計するときに、データベース接続のユーザーの POV を設定できます。これにより、そのタイプのデータベース接続のユーザーの POV で使用可能なメンバーが制限されます。指定されたユーザーの POV の設定は、そのタイプのデータベース接続を使用するすべてのグリッドに適用されます。メンバー選択の詳細は、[第 3 章「レポート・デザイナーのメンバーの選択」](#)を参照してください。レポート・デザイナーのワークスペースのユーザー POV の設定の詳細は、Oracle

Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

▶ レポート・デザイナーでユーザーの POV を設定するには:

- 1 POV を設定するグリッドを含んだレポートを開きます。
- 2 「タスク」、「ユーザーの POV の設定」の順に選択します。
- 3 「エンド・ユーザーが選択可能」列で次元に「任意のメンバー」または「リストにあるメンバー」を選択します。
- 4 「エンド・ユーザーが選択可能」列を「リストにあるメンバー」に設定した場合は、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 5 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスでメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

注： メンバーの選択の詳細は、第3章「レポート・デザイナーのメンバーの選択」を参照してください。

- 6 次元名とメンバー名を表示するには、「次元名の表示」チェック・ボックスと「メンバー名の表示」チェック・ボックスを選択します。
- 7 別名を表示するには、「別名の表示」チェック・ボックスを選択して、「別名テーブルから」ドロップダウン・リストで別名テーブルを選択します。

注： Financial Management データベース接続の場合は、「別名の表示」ではなく、「説明の表示」が表示されます。

- 8 「OK」をクリックします。

レポート・デザイナーでのユーザーの POV のメンバーの選択

ユーザーおよびグリッドの POV により、レポート参照者は次元のメンバーを選択して、レポートをカスタマイズできます。次のルールが適用されます:

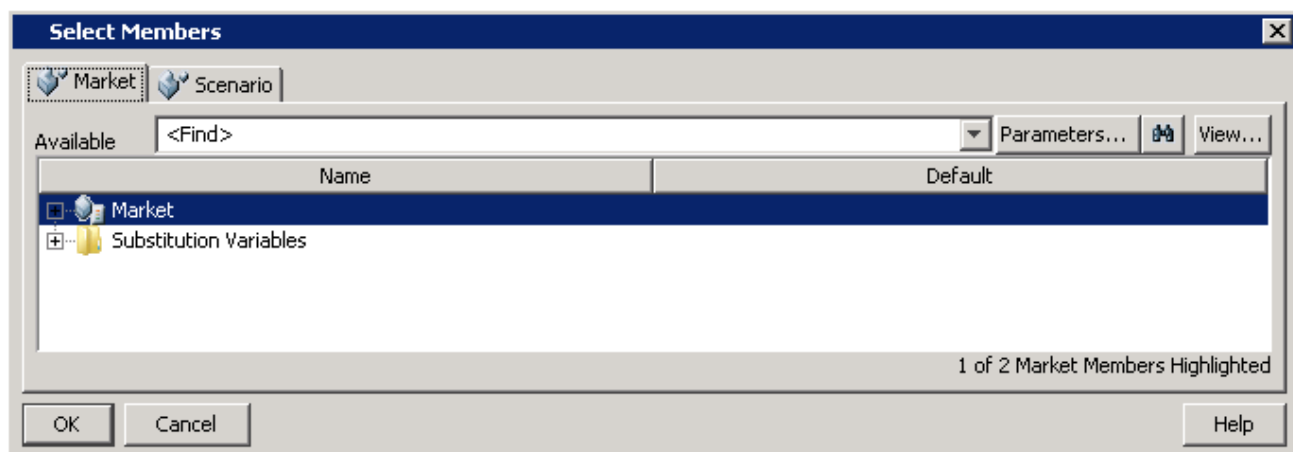
- POV の1つの次元につき、1つのメンバーのみを選択できます。
- 次元のデフォルトのメンバーは最上位メンバーです。
- 属性次元には、「なし」を指定できます。この場合、属性次元はレポートで使用されません。

▶ ユーザーの POV のメンバーを選択するには:

- 1 ユーザーの POV に表示される次元が含まれているレポートを開きます。
- 2 ユーザーの POV で、メンバーを選択する次元をクリックします。「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 このレポートで実行するメンバーを選択し、「OK」をクリックします。メンバーがユーザーの POV に表示されます。

- 4 オプション: レポートで属性次元を使用市内場合は「なし」を選択します。

図 17 ユーザーの POV のメンバーの選択



8

レポートの詳細データとドキュメントの表示

この章の内容

レポートの詳細データにアクセスするための展開機能の設定	162
行と列を展開する位置	162
レポートへのセル・ドキュメントの添付	162
セル・ドキュメントの印刷	165
関連コンテンツへのリンクの設定	166
関連コンテンツへのリンクの除去	170
関連コンテンツのプロパティの変更	171
Smart View for Office の使用方法	173

ここでは、展開機能と関連コンテンツについて、次のトピックとタスクに分けて説明します。

展開機能と関連コンテンツを使用すると、設計者はレポートでデータの詳細なレベルを指定できます。エンド・ユーザーが同じレポート内にある詳細データを表示できるようにするには展開機能を使用し、リンクされたレポート内にある詳細データを表示できるようにするには関連コンテンツを使用して、レポートを設計します。

たとえば、市場を構成する東部、西部、北部、南部などの各地域を表示して、市場次元の詳細なデータを表示するとします。

- **展開機能の使用。** 要約行および列の展開機能を使用可能にして、同じレポートの詳細データの表示を設定できます。展開機能でレポートを設定した場合、エンド・ユーザーは要約レベルの行または列を選択して、同じレポートの関連する詳細データを表示できます。
- **関連コンテンツの使用。** セル、行または列ラベル、グリッド全体、チャート、イメージおよびテキスト・ボックスを選択し、Financial Reporting、Web Analysis および URL のオブジェクトにリンクを設定できます。関連コンテンツでレポートを設定すると、ユーザーは別のアプリケーションのドキュメントに移動できます。

レポートの設計中に展開機能と関連コンテンツを使用可能にしたレポートを表示するには、「ファイル」、「Web プレビュー」の順に選択します。

注： レポート設計者は、展開機能と関連コンテンツをレポート・デザイナのワークスペースに表示するために、レポートをレポート・タイプとして保存する必要があります。スナップショットとして保存されたレポートにはこの機能はありません。

レポートの詳細データにアクセスするための展開機能の設定

エンド・ユーザーの要求によりグリッドの詳細行と詳細列を表示するようにレポートを設計できます。これを行うには、メンバー間に親子の関係を持つ次元を展開できるようにします。たとえば、時間次元を展開できるようにすると、ユーザーは四半期を表示する行を月に展開できます。

ユーザーは、表示されたレポートで要約データの入った行や列を選択して、詳細データの行や列を表示します。

▶ 同じレポートの詳細データへのアクセスを設定するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 展開を使用可能にする行または列の見出しを選択します。
- 3 見出し行または見出し列のプロパティ・シートの「展開を許可」チェック・ボックスを選択します。

注: Oracle Essbase で基本レベル・メンバーとしてハイブリッド・データを使用できる場合、展開のための矢印が基本レベル・メンバーの横に表示され、ハイブリッド・データに展開できます。ライン・アイテムの詳細またはサポート詳細を含む行、またはライン・アイテムの詳細を含む行を含む列では、展開を実行できません。

- 4 次元をダブルクリックして、展開するメンバーを選択します。メンバーの選択の詳細は、[第3章「レポート・デザイナのメンバーの選択」](#)を参照してください。

行と列を展開する位置

次元の要約レベルの行または列を展開したときに、その行または列の前と後ろのどちらに展開したアイテムを表示するかを指定できます。

▶ 行および列を展開する位置を設定するには:

- 1 レポートを開きます。
- 2 展開する位置を指定するグリッドをクリックします。
- 3 「グリッドのプロパティ」シートで、「位置」カテゴリを選択します。
- 4 「展開する位置」ボックスで、次のいずれかの操作を行います。
 - 要約レベルの行または列の後ろに展開するには、「親の後」をクリックします。これはデフォルトです。
 - 要約レベルの行または列の前に展開するには、「親の前」をクリックします。

レポートへのセル・ドキュメントの添付

データ・ソースで添付されたセル・ドキュメントにアクセスして、レポートに印刷できます。添付されたドキュメント(Microsoft Word、Excel、PowerPoint のドキュ

メント、PDF、または.txt ドキュメント)は、PDF またはスナップショット・レポートの最後に印刷されます。関連するコンテンツからセルにドリルダウンすると、HTML クライアントでドキュメントにアクセスできます。また、プロパティ・シートで ListOfCellDocuments オプションを選択すると、添付されたセル・ドキュメントに関する情報がリストされているレポートのテキスト・オブジェクトまたはテキスト・セルに、脚注を挿入できます。

グリッドのレポートにセル・ドキュメントを含めるには、ドキュメントが Oracle Essbase (リンク・レポート・オブジェクト)または Financial Management (セルの添付文書)に存在する必要があります。データ・セルは、RetrieveCellDocument オプションを使用して選択する必要があります。すべてのセル・ドキュメントには、ドキュメントが添付されるデータ・セルに関連付けられた POV が含まれます。

注： Oracle Essbase では、リンク・レポート・オブジェクトは Excel アドインを使用して添付されます。Financial Management では、セル・ドキュメントは Financial Management Web クライアントを使用して添付されます。詳細は、各製品のドキュメントを参照してください。

データ・セルには、複数のセル・ドキュメントを含めることができます。Financial Management または Oracle Essbase データ・ソースのセル・ドキュメントがデータ・セルに含まれる場合、指定されたセルの POV に基づいて、設計者はこれらのドキュメントを抽出できます。セル・ドキュメントは、ブックやスナップショット・ブックに含まれるレポートに添付できます。

サポートされている Microsoft Office ファイル・タイプ

最新のサポート情報の動作保証マトリックス - http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html (Business Intelligence 内)を参照してください。

- Microsoft Word ファイル(*.doc、*.docx、*.rtf)
- Microsoft Excel ファイル(*.xls、*.xlsx)
- Microsoft PowerPoint ファイル(*.ppt、*.pptx)
- PDF ファイル(*.pdf)
- テキスト・ファイル(*.txt)

印刷と印刷プレビューのオプション

次の表に、Reporting Studio と Financial Reporting のセル・ドキュメントの出力を示します。

レポートの出力タイプ	サポート	コメント
Reporting Studio の「印刷」と「印刷プレビュー」	なし	<ul style="list-style-type: none"> ● 「印刷」コマンドと「印刷プレビュー」コマンドでは、セル・ドキュメントは印刷されません。 ● ListOfCellDocuments 関数で、FileName パラメータと Description パラメータの値は戻されますが、PageNumber パラメータの値は戻されません。
Financial Reporting の「PDF にエクスポート」:ワークスペース	Microsoft Office ファイル・タイプ、PDF および.txt ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ● PDF ファイルが生成されます。サポートされているファイル・タイプのみが含まれます。サポートされていないセル・ドキュメントは PDF に含まれません。無視されたドキュメントは FRPrintSrv.log ファイルにログ出力されます。 ● ListOfCellDocuments 関数は、サポートされていないドキュメントを含むすべてのセル・ドキュメントの FileName パラメータと Description パラメータを戻します。PageNumber パラメータは、サポートされている Microsoft Office ドキュメントでのみ表示されます。
Financial Reporting の「PDF プレビュー」:ワークスペース	Microsoft Office ファイル・タイプ、PDF および.txt ファイル。	<ul style="list-style-type: none"> ● PDF ファイルは、ワークスペースに表示されます。 ● PDF ファイルが生成されます。サポートされているファイル・タイプのみが含まれます。サポートされていないセル・ドキュメントは PDF に含まれません。無視されたドキュメントは FRPrintSrv.log ファイルにログ出力されます。 ● ListOfCellDocuments 関数は、サポートされていないドキュメントを含むすべてのセル・ドキュメントの FileName パラメータと Description パラメータを戻します。PageNumber パラメータは、サポートされている Microsoft Office ドキュメントでのみ表示されます。
Financial Reporting の「HTML プレビュー」:ワークスペース	すべてのタイプのファイル	<ul style="list-style-type: none"> ● HTML プレビュー内のすべてのセル・ドキュメントはハイパーリンクです。セル・ドキュメントのハイパーリンクをクリックすると、「関連コンテンツ」ダイアログが表示されます。対応するデータ・セルに関連付けられているすべてのセル・ドキュメントが表示されます。 ● 「関連コンテンツ」ダイアログ・ボックスのドキュメントをクリックすると、ブラウザの「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示され、ここでセル・ドキュメントを開いたり、保存したりできます。「開く」を選択すると、セル・ドキュメントが新しいブラウザで表示されます。セル・ドキュメントに関連付けられたファイル・タイプをユーザーのコンピュータにインストールする必要があります。 ● セル・ドキュメントがブラウザの別のウィンドウで自動的に開きます(ただし、ユーザーのブラウザの設定によって異なります)。 ● ListOfCellDocuments 関数で、FileName パラメータと Description パラメータの値は戻されますが、PageNumber パラメータの値は戻されません。

セル・ドキュメントのコンテンツの印刷プレビューを表示する場合は、Reporting Studio で、まずレポートをスナップショットとして保存する必要があります。

セル・ドキュメントを含むレポートは、Reporting Studio でスナップショット出力として保存できます。「保存」オプションを使用して、リポジトリ内にスナップショットとしてレポートを保存できます。セル・ドキュメントはレポートの最後に添付されます。

ワークスペースで、PDF または HTML 出力としてセル・ドキュメントを含むレポートを表示できます。

- PDF 出力。「エクスポート」オプションを使用してリポジトリの外にある PDF ファイルにレポートを保存します。セル・ドキュメントはレポートの最後に添付されます。
- HTML 出力。「保存」または「名前を付けて保存」オプションを使用してリポジトリにレポートを保存できます。セル・ドキュメントはレポートへのハイパーリンクとともに保管されます。

▶ セル・ドキュメントを添付するには:

- 1 Oracle Hyperion Financial Reporting Studio で、データベース接続の Financial Management または Oracle Essbase のデータ・ソースを使用するレポートを作成するか、既存のレポートを選択します。
- 2 グリッドでデータ型のセルを選択します。「セルのプロパティ」シートで、「セル・ドキュメントの取得」チェック・ボックスを選択します。

注： パフォーマンスを最適化するために、レポートに含める添付ファイルを含むセルの「セル・ドキュメントの取得」チェック・ボックスのみを選択してください。

- 3 選択したセルにセル・ドキュメントが添付されている場合は、印刷するときにレポートに添付されます。

考慮事項

セルの添付ファイルを使用する場合は、次のことに注意してください。

- サポートされている正しいファイル拡張子を使用します。
- ファイルが壊れていたり、ADM プロバイダに正しくアップロード(Financial Management クライアントまたは Oracle Essbase の Excel アドインを使用)できなかった場合は、印刷されません。
- マクロを含むか、ユーザー入力が必要な UI コンポーネントをトリガする Microsoft ファイルはサポートされていません。ユーザー入力が必要なダイアログの起動を含むファイルが開くと、マクロを含む一部の Microsoft ファイルで操作が実行されます。ダイアログを表示するファイルまたはユーザー入力が必要な UI コンポーネントは印刷できない場合があります。また、PDF の生成プロセスの完了が中断される場合もあります。サーバーの管理者は、タスク・マネージャを使用してアプリケーションを終了し、印刷アクティビティを再開する必要があります。アプリケーションは SYSTEM アカウントで起動されるので、ログイン・アカウントでプロセスが開始された場合、アプリケーションが表示されない場合があります。
- 印刷用に登録されていない拡張子のファイルは、印刷されません。

セル・ドキュメントの印刷

「ページ設定」ダイアログ・ボックスの「ページ」タブを使用して、連続したページ番号を持つセル・ドキュメントを印刷できます。最初のセル・ドキュメントの開始ページは、レポートの長さによって決まります。各ドキュメントは新しいペー

ジに印刷されます。セル・ドキュメントに連続した番号を印刷しない場合、ページ番号は各ドキュメントの設定に戻ります。

セル・ドキュメントの印刷オプションの設定の詳細は、[215 ページの「ページ設定の変更」](#)を参照してください。

注： 実際の印刷が開始される前に、テキスト・ファイルが Word テンプレートに挿入されます。テンプレートのカスタマイズの詳細は、[第 15 章「Financial Reporting の管理情報」](#)を参照してください。

注： Financial Management では、添付用のファイルをセルにアップロードすると、ファイル名は 20 文字に切り詰められて表示されます。ドキュメント名は変更できます。ファイル名の拡張子(.doc、.xls など)を保持してください。

添付されているセル・ドキュメントのリストの印刷

ListOfCellDocuments テキスト関数を使用して、すべてのセル・ドキュメントと、レポートで取得された説明や開始ページ番号などの属性のリストを表示できます。関数は、テキスト・オブジェクト、テキスト・セルまたはテキスト・セル見出しに挿入できます。

関連コンテンツへのリンクの設定

関連コンテンツを使用すると、設計者は Oracle Hyperion Interactive Reporting や Oracle Hyperion Web Analysis のドキュメント、およびカスタム URL のリンクのみでなく、Financial Reporting のドキュメントにもリンクを設定できます。ワークスペースにおいて HTML でレポートを表示している場合、ユーザーは関連コンテンツ・リンクへドリルして、リンクされたレポートまたは URL を実行できます。関連コンテンツは、動的およびスナップショットのレポートやブックでサポートされています。

関連コンテンツの適用

この領域に関連コンテンツを適用できます:

- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management に関連コンテンツを適用する手順: データ・ソースのデータが、FDM ソース・データから ERP (Oracle Applications 用の統合アダプタ)によってロードされた Financial Management、Essbase または Planning データ・ソースに接続する Financial Reporting レポートを作成する必要があります。次に、Financial Reporting レポートで、FDM のソース・データにドリルするデータ・セル/行/列に関連コンテンツ・リンクを作成します。Workspace でレポートを実行すると、HTML ビューアにレポートが表示され、「関連コンテンツ」セルが下線付きで表示されます。リンクをクリックすると、ソース・データを参照可能な Oracle Hyperion Financial Data Quality Management のランディング・ページにドリルダウンできます。

- 関連コンテンツは、グリッド・オブジェクト(データ・セル、テキスト・セル、式のセル、見出しセル)、テキスト・オブジェクト、イメージ・オブジェクトまたはチャート・オブジェクト内の任意のセルに指定できます。関連コンテンツがテキスト・セル以外のセルである場合、関連コンテンツ・リンクに含まれる POV は、そのセルの明白なメンバーに制限されます。グリッド内の関連コンテンツの結果の例は、[169 ページの「グリッド・セルに指定されている場合の関連コンテンツの結果の例」](#)を参照してください。
- 関連コンテンツは、「条件付きフォーマット」ダイアログを使用して、任意のグリッド・オブジェクト・セルに条件付きで指定できます。「セルのフォーマット」ダイアログの「置換」タブで、関連コンテンツ・リンクを指定できます。たとえば、次のような条件を入力できます: `if Market member name is "East", link to ReportABC; if Market member name is "West", link to ReportXYZ`。[201 ページの「グリッドへの条件付きフォーマットの適用」](#)を参照してください
- 関連コンテンツは、イメージ、チャートおよびテキスト・オブジェクトに指定できます。リンクはオブジェクト全体に適用されます。関連コンテンツのあるチャートやイメージをマウスでクリックして、関連コンテンツ・リンクをポイントできます。関連コンテンツのあるテキスト・オブジェクトの場合は、テキスト・コンテンツ全体がハイパーリンクとしてマークされます。クリックすると、関連コンテンツ・リンクに移動します。
- セル・ドキュメントが原因でデータ・セルに関連コンテンツ・リンクがあり、そのセルが`<<GetCell()>>`または`<<CellText()>>`関数を介して参照されている場合、`<<GetCell()>>`または`<<CellText()>>`の値にも関連コンテンツ・リンクが含まれます。セル・ドキュメントにおける関連コンテンツ・リンクの動作は、Financial Reporting レポートに設定されている関連コンテンツ・リンクと同じです。`<<CellText()>>`の詳細は、[242 ページの「CellText」](#)を参照してください。
- テキスト・オブジェクトおよびグリッド・オブジェクトのテキスト・セル内の URL 文字列は、[Link]という、その URL へのハイパーリンクで置き換えられます。URL が変換されるためには、URL が `http`、`https` または `ftp` で開始されている必要があります。たとえば、`This is a link to Google http://www.google.com` と入力した場合、結果は `This is a link to Google [Link]` になります。

注： テキスト・オブジェクトおよびグリッド・オブジェクトのテキスト・セルは、`<<CellText()>>`および`<<Annotation()>>`関数の評価後に評価されます。そのため、セル・テキストまたは注釈関数に URL が含まれる場合、その URL は必要に応じてハイパーリンクに処理されます。

- セル・ドキュメントの取得機能では、データソース、Financial Management および Essbase からのドキュメントの添付がサポートされています。
- グリッドの関連コンテンツを選択したら、その関連コンテンツ・リンクの次元の説明も指定できます。テキスト情報は、ブックの目次およびナビゲーション・パス(ブレッドクラム)に表示されます。説明は、「関連コンテンツの追加」ダイアログ・ボックスの`<<Value()>>`関数を使用して定義します。[171 ページの「関連コンテンツのプロパティの変更」](#)を参照してください。

別のレポートまたはハイパーリンク経由の URL にアクセスできるレポートを設計できます。レポート・デザインのリポート・セル、テキスト・セル、式のセルまたは見出しセルから複数のリンクを作成できます。Shared Services または RelatedContentURLS プロパティを使用して登録されている場合は、Reporting and Analysis サーバーからレポートへのリンクを作成できます。JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。エンド・ユーザーは、関連コンテンツ・リンクを含む Workspace の Financial Reporting レポートの HTML プレビュー内でセルをクリックし、「関連コンテンツ」メニューからリンク・レポートを選択できます。

レポートで関連コンテンツを使用すると、レポートの視点(POV)がレポートの選択したセルに設定されます。たとえば、Canada 列の Gross Margin 行が選択されている場合、リンク・レポートが表示される前に、勘定項目の POV が Gross Margin に設定され、エンティティの POV が Canada に設定されます。

注： 関連コンテンツでブックにリンクする場合は、POV のコンテキストは渡されません。

行または列内のデータ・セルの関連コンテンツを定義できます。セルのグループに対して同じレポートを指定するには、グリッドで目的のセルを選択し、関連コンテンツを定義します。また、選択した関連コンテンツのタイプに基づいて、ラベル、URL、デフォルトの表示オプションなどのプロパティを変更できます。


関連コンテンツを選択すると、オブジェクト・レベルのセキュリティが適用されません。これにより、各リポジトリのコンテンツ全体で任意のレポートを選択できるようになります。ただし、レポートの表示を要求すると、オブジェクト・レベルのセキュリティが適用されます。

▶ 関連コンテンツへのリンクを作成するには:

- 1 関連コンテンツを指定するレポートを選択します。
- 2 関連コンテンツへのリンクを作成する行、列、セル・オブジェクト、グリッド、チャート、イメージまたはテキスト・オブジェクトを選択します。
- 3 プロパティ・シートで「関連コンテンツの追加」チェック・ボックスを選択し、「設定」ボタンをクリックします。「関連コンテンツの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Reporting and Analysis サーバーの各リポジトリが、ツリー・ビューのノードとしてリストされます。リモート・サーバーは、JConsole.exe ファイルに設定可能な RelatedContentURLS プロパティから取得されます。JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピック、または Shared Services を参照してください。



- 4 関連コンテンツ用のフォルダにリンクできます。これにより、エンド・ユーザーはフォルダのコンテンツを選択したり、フォルダのコンテンツを展開してレポートを選択したりできます。選択するには、次のいずれかのアクションを行います。
 - フォルダを選択するには、「使用可能」リストでフォルダをハイライトし、矢印ボタンをクリックして、フォルダを「選択済関連コンテンツ」領域に移動します。

- レポート・オブジェクトを選択するには、ノードの横にあるプラス符号(+)をクリックしてフォルダを展開します。次に、レポート・オブジェクトをハイライトし、「追加」ボタンをクリックして、そのレポートを「選択済関連コンテンツ」領域に移動します。
- 5 選択したレポート・オブジェクトのプロパティを変更します。これは、リンクを追加するとき、または追加した後に行えます。
- レポート・オブジェクトを選択する際にプロパティを変更するには、「Hyperion のソースからコンテンツを追加する場合に「プロパティ」ダイアログを表示します。」チェック・ボックスを選択します。リンクするレポート・オブジェクトを選択すると、「関連コンテンツのプロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - レポート・オブジェクトを選択した後にプロパティを変更するには、「選択済関連コンテンツ」リストでレポート・オブジェクトをハイライトし、「プロパティ」ボタンをクリックします。
プロパティの変更の詳細は、171 ページの「[関連コンテンツのプロパティの変更](#)」を参照してください。
 - Financial Reporting の「関連コンテンツ」ダイアログに、すべてのリポジトリ・オブジェクト・タイプを表示するには、「オブジェクト・タイプの表示」を選択します。このオプションを選択しない場合は、Financial Reporting のオブジェクトのみが表示されます。

注： このオプションにより、ブック機能が簡略化されます

- 6 必要に応じて、他のフォルダやレポートも同様に追加します。

注： リンクのプロパティの変更の詳細は、171 ページの「[関連コンテンツのプロパティの変更](#)」を参照してください。

- 7 「選択済関連コンテンツ」リスト内のレポート・オブジェクトの位置を変更するには、オブジェクトを選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして、レポート・オブジェクトを上下に移動します。
- 8 「OK」をクリックします。

グリッド・セルに指定されている場合の関連コンテンツの結果の例

次のレポート・イメージでは、すべてのセルに関連コンテンツがあります。Measure および Market は POV に、Product 別名は行に、Year および Scenario は列 1 と 2 に

あります。列 3 は式列で、列 4 はテキスト列です。

<u>Measures:Market:</u>			
<u>Profit</u>	<u>East</u>		
	<u>First Qtr</u>	<u>Second Qtr</u>	<u>Formula B - A</u>
	<u>Actual</u>	<u>Actual</u>	
<u>Colas</u>	<u>2,747</u>	<u>3,352</u>	<u>605</u>
<u>Root Beer</u>	<u>562</u>	<u>610</u>	<u>48</u>
<u>Cream Soda</u>	<u>591</u>	<u>922</u>	<u>331</u>
<u>Fruit Soda</u>	<u>1,480</u>	<u>1,615</u>	<u>135</u>

[Click to Show PDF](#)

[Link to rc900](#)

- 行見出し(Colas、Root Beer、Cream Soda および Fruit Soda)で関連コンテンツを実行すると、関連コンテンツ・リンクに含まれる POV には、Year と Scenario を除くすべての次元が含まれます。どのメンバーが必要であるかが不明なため、行見出しをクリックしても、Year または Scenario メンバーは指定できません。
- 式セルから関連コンテンツを実行すると、Product、Measures および Market が含まれます。Year および Scenario は含まれません。
- 式見出しセル(式 B-A)から関連コンテンツを実行すると、POV から Measure および Market のみが含まれます。
- "Link to rc900"というテキスト・セルから関連コンテンツを実行すると、POV から Measure および Market のみが含まれます。
- "Click to Show PDF"というテキスト・セルから関連コンテンツを実行すると、Product、Measures および Market が含まれます。Year および Scenario は含まれません。

リポジトリの複数のレポートやグリッドの関連コンテンツ・サーバーの変更


別のサーバーからコンテンツを移行した後、ワークスペースを使用してリポジトリで選択したレポート、グリッドまたはその両方のサーバーを変更するには、新しい URL または代替変数を指定します。たとえば、開発サーバーにあるレポートとグリッドを本番サーバーに移動する場合、関連コンテンツ・サーバーを変更します。

リポジトリの関連コンテンツ・サーバーを変更する方法の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

関連コンテンツへのリンクの除去

エンド・ユーザーが関連コンテンツにアクセスできないようにするには、レポートから関連コンテンツへのリンクを除去します。

▶ 関連コンテンツへのリンクを除去するには:

- 1 関連コンテンツへのリンクが含まれているレポートを選択します。
- 2 関連コンテンツのリンクを除去する行、列またはデータ・セルを選択します。
- 3 プロパティ・シートで「関連コンテンツの追加」チェック・ボックスを選択し、「設定」ボタンをクリックします。「関連コンテンツの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4 「選択済関連コンテンツ」リストで、リンクを除去するレポート・オブジェクトをハイライトし、「除去」ボタン  をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。

関連コンテンツのプロパティの変更

選択したレポート・オブジェクトのプロパティを変更できます。選択したレポート・オブジェクトのタイプに基づいて、ラベルや URL などのプロパティを変更し、デフォルトの表示オプションを設定できます。

▶ リンクされたオブジェクトのプロパティを変更するには:

- 1 「関連コンテンツの追加」ダイアログ・ボックスで関連コンテンツへのリンクを作成します。リンクの作成の詳細は、[166 ページの「関連コンテンツの適用」](#)を参照してください。
- 2 「関連コンテンツの追加」ダイアログ・ボックスの「選択済関連コンテンツ」リストで、レポート・オブジェクトを選択して、「プロパティ」ボタンをクリックし、「関連コンテンツのプロパティ」ダイアログ・ボックスを表示します。

「関連コンテンツのプロパティ」ダイアログ・ボックス

編集用に表示される「関連コンテンツのプロパティ」ダイアログ・ボックスのアイテムは、選択したレポート・タイプに応じて異なります。たとえば、Financial Reporting では、レポート、スナップショット、ブックおよびスナップショット・ブックに対してすべての表示オプションが表示されます。しかし、カスタム・リンクでは、ラベルと URL フィールドのみが表示されます。

次のアイテムを編集できます:

- ラベル - レポート・オブジェクト・リンクの名前を変更できます。 <<Value()>> テキスト関数を適用して、関連コンテンツ・リンクの次元値の説明を指定できます。[172 ページの「関連コンテンツ・リンクの説明の指定」](#)を参照してください。
- URL タブ - リンクされたオブジェクトの URL を示します。必要に応じて変更できます。
- 表示オプション:
 - 「出力」リスト。Financial Reporting では、エンドユーザーが表示可能なフォーマット(HTML および PDF)を選択します。Web Analysis では、レポー

トから Java クライアントまたはワークスペース、あるいはその両方にアクセスできるかどうかを選択します。

- 「デフォルト」リスト。プライマリ選択としてレポート名にリンクするフォーマットを選択します。選択されていないフォーマットは、セカンダリ選択としてリストされます。

▶ 「デフォルトとして保存」をクリックして現在の選択内容を更新します。

関連コンテンツ・リンクの説明の指定

ブックの html 出力で、目次やナビゲーション・パス(ブレッドクラム)にある関連コンテンツの結果の説明を表示することが必要な場合があります。「関連コンテンツのプロパティ」ダイアログの「ラベル」フィールドにテキスト関数<<Value()>>を指定して、表示する関連コンテンツの結果を指定できます。例として次のイメージを使用します。POV には Measure と Market、行には Product (別名を表示)、1 列目に Year (カスタム見出しテキスト付き)、レポート結果の 2 列目に Scenario があります。関連コンテンツ・リンクの説明が

rc900<<Value(Product)>><<Value(Year)>><<Value(Market)>>の場合、ブックの目次およびナビゲーション・パスの関連コンテンツの結果には次の内容が表示されます:

<u>Measures:Market:</u>				
<u>Profit East</u>				
	<u>First Qtr</u>	<u>Second Qtr</u>	<u>Formula B - A</u>	
	<u>Actual</u>	<u>Actual</u>		
<u>Colas</u>	2,747	3,352	605	Click to Show PDF
<u>Root Beer</u>	562	610	48	
<u>Cream Soda</u>	591	922	331	
<u>Fruit Soda</u>	1,480	1,615	135	Link to rc900

- セル 3,B (値は 922)をクリックすると、次のテキストが表示されます: rc900 CreamSoda, Second Qtr, East。
- セル 1,A (値は 2,747)をクリックすると、次のテキストが表示されます: rc900 Colas, First Qtr, East。
- "Fruit Soda"見出しセルをクリックすると、次のテキストが表示されます: rc900 Fruit Soda, East (不明であるため Year は含まれていません)。

注: 該当する次元の見出し値が表示されますが、メンバー名である必要はありません。たとえば、100 ではなく Cola が表示され、Qtr1 ではなく First Qtr が表示されます。

注: <<Value()>>関数で指定された次元が関連コンテンツ・リンクの POV に含まれていない場合、<<Value()>>のテキストは空の文字列("")に置き換えられます。

Smart View for Office の使用方法

Smart View によって、Financial Reporting で共通の Microsoft Office インタフェースが使用できます

一元化されたインタフェースでは、複数の Hyperion 製品を同時に使用でき、Microsoft Office との統合が強化されています。Smart View の実装により、次のワークスペース機能が提供されます:

- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページを Excel、Word または PowerPoint にエクスポートする。
- Financial Management と Oracle Essbase の機能を Excel、Word および PowerPoint のコンテンツで表示する。
- 新しい Hyperion Smart View リリースへのアップグレードを通知する。
- 機能の使用の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

この章の内容

プレビュー時のプロンプトへの応答	175
現在のユーザーの POV 設定のプレビュー	176
プレビュー・プリファレンスの設定	176
Web ブラウザでのレポートのプレビュー	177
Reporting Studio でのレポートのプレビュー	177
レポートの印刷	177
レポート・デザイナーでの印刷について	178

Reporting Studio またはワークスペースの Web ブラウザから、レポートおよびスナップショット・レポートをプレビューして印刷できます。レポートをプレビューまたは印刷するとき、データは新しいデータ、計算およびフォーマットでリフレッシュされます。

スナップショット・レポートには、レポートをスナップショットとして保存した時点で取得されたデータが含まれます。スナップショット・レポートのデータはそのまま保持されます。つまり、スナップショットを前回保存した後で行われたデータベース接続に対する変更は、プレビューまたは印刷時に反映されません。

注： 表示および印刷のオプションがワークスペースにあります。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

プレビュー時のプロンプトへの応答

レポートをプロンプトを使用して設計した場合、これらのプロンプトは、レポートをプレビューすると表示されます。プロンプト・リストからメンバーを選択して、プロンプトに応答し、要求された情報を指定する必要があります。プロンプトを手動で編集することもできます。プロンプトに別名が含まれている場合は、メンバー名に変換してエイリアス名を編集できます。プロンプトの定義方法の詳細は、[第3章「レポート・デザイナーのメンバーの選択」](#)を参照してください。

▶ プレビュー時にプロンプトに応答するには:

- 1 Studio エクスプローラで、プロンプトを含むレポートを開きます。
- 2 「プロンプトに応答」ダイアログ・ボックスの「選択」列で、次のいずれかのアクションを行います。

- メンバーが既知の場合は、それぞれのプロンプトのテキスト・ボックスにメンバー名を入力します。テキスト・ボックスを使用できない場合、プロンプトには別名が含まれています。テキスト・ボックスを編集するには、「**メンバー名の編集**」チェック・ボックスを選択します。プロンプトに複数のメンバーを指定した場合、これらのメンバーをカンマで区切る必要があります。

注：「メンバー名の編集」チェック・ボックスを選択すると、テキスト・ボックスに別名ではなくメンバー名が表示されます。そのエイリアスに関連付けられているメンバー名を編集します。

- 「**メンバー選択に移動**」ボタンをクリックします。「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスが表示されます。デフォルトのメンバーは、右側のパネルの選択された領域にリストされます。ダイアログの中央パネルにある「**選択した項目に追加**」の矢印と「**選択した項目から除去**」の矢印をクリックして、パネル間でメンバーを移動します。

メンバーの定義方法の詳細は、[第3章「レポート・デザイナのメンバーの選択」](#)を参照してください。

- 3 「OK」をクリックします。
- 4 「オプション:」プロンプトに加えた変更を元に戻すには、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスの「リセット」をクリックします。
- 5 「実行」をクリックします。レポートまたはブックが表示されます。

現在のユーザーの POV 設定のプレビュー

ワークスペースで、ユーザーはレポートを実行する前にユーザーの POV をプレビューし、ユーザーの POV を変更できます。たとえば、出力が表示された後ではなく、レポートを実行する前に、ユーザーの POV のメンバーが適切であるかどうかを確認できるので、時間を節約できます。

レポートまたはブックのユーザーの POV 設定をワークスペースからプレビューする方法の詳細は、[Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide](#) を参照してください。

プレビュー・プリファレンスの設定

ワークスペースを使用すると、プレビュー・プリファレンスを設定できます。レポートまたはブックの表示方法をあらかじめ設定できます。レポートまたはブックを開く際のデフォルトの設定は、「PDF プレビュー」または「HTML プレビュー」です。このオプションの詳細は、[Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide](#) を参照してください。

Web ブラウザでのレポートのプレビュー

Studio エクスプローラまたはデザイナーの Web プレビュー機能を使用すると、ワークスペースで Web ブラウザを使用してレポートをプレビューできます。

- ▶ Web ブラウザでレポートをプレビューするには、レポートの任意のタイプを開き、ツールバーの「Web プレビュー」ボタンをクリックします。ワークスペースには、HTML プレビュー、PDF プレビューおよび印刷オプションが表示されます。

ワークスペースによるレポートおよびブックの表示方法の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

Reporting Studio でのレポートのプレビュー

変更内容を保存または印刷する前に、レポートをプレビューしてコンテンツを表示できます。ズーム・イン、ズーム・アウト、レポートのスクロールまたは印刷を行うことができます。レポートをプレビューすると、レポート内のデータがリフレッシュされます。スナップショット・レポート内のデータはリフレッシュされません。

ワークスペースから Web ブラウザを使用してブックをプレビューできます。ブックおよびレポートのプレビュー方法の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

- ▶ レポートをプレビューするには:
 - 1 Studio エクスプローラで、レポートまたはスナップショットをハイライトします。
 - 2 「ファイル」、「PDF プレビュー」の順に選択します。
レポートは Adobe Reader で PDF 形式で起動します。
 - 3 Adobe Reader を使用して PDF ドキュメントを移動し、終了時に Adobe Reader を閉じます。

レポートの印刷

レポートの任意のタイプを印刷できます。動的レポートを印刷する場合は、データがリフレッシュされます。スナップショット・レポート内のデータはリフレッシュされません。エクスプローラまたはデザイン領域のレポートを印刷できます。

ブックとスナップショット・ブックは、ワークスペースから印刷されます。ブックおよびスナップショット・ブックの印刷方法の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

- ▶ レポートを印刷するには:
 - 1 Studio エクスプローラでレポートを開きます。
表示されるプロンプトに回答し、必要に応じて変更を加えます。

2 「ファイル」>「印刷」を選択します。

レポート・デザイナーでの印刷について

次のトピックでは、レポート・オブジェクトがページに印刷される方法について説明します。レポート・オブジェクトをレポート内の任意の場所に配置できます。ただし、印刷した結果は、レポート・プロパティおよびデータによって決まります。

注： オブジェクトが重なっているレポートを印刷するとき、オブジェクトがデザイナーで表示されるとおりに印刷されない場合は、レポート内のオブジェクトを再調整する必要があります。詳細は、[第5章「レポートの作成」](#)を参照してください。

ここでは、Reporting Studio でのレポートの設計について、次の項に分けて説明します。

- [178 ページの「位置設定」](#)
- [179 ページの「テキスト・ボックスの印刷」](#)
- [179 ページの「グリッドの印刷」](#)
- [179 ページの「ページ次元の見出しの印刷」](#)
- [180 ページの「ページのメンバーの印刷」](#)
- [180 ページの「ヘッダーとフッターの印刷」](#)

位置設定

自動サイズ調整されたレポート・オブジェクトの相対的な位置を設定できます。この高度な位置設定メカニズムにより、レポート・オブジェクトを相互に相対的に配置する方法を正確に制御できます。レポート内に自動サイズ調整されるレポート・オブジェクトがない場合、相対位置調整は無視されます。

1つのレポート・オブジェクトの位置を相対的に設定すると、デザイン内のすべてのレポート・オブジェクトが移動し、自動サイズ調整されるレポート・オブジェクトと固定サイズのレポート・オブジェクトとの距離が同じに保たれます。

たとえば、GridA は自動サイズ調整され、水平位置が中央に設定されるため、GridA はページの中央に印刷されます。ChartA は、GridA にリンクされており、垂直位置が「相対」に設定され、GridA の下端から 1 インチに配置されています。ChartA は、Grid A の下端から 1 インチの位置に印刷されます。

ChartA の配置を相対的に設定しないと、ChartA はグリッド・レイアウトの絶対座標の位置に印刷されるので、GridA と重なる可能性があります。

注： レポートに変更を行った場合、垂直位置と水平位置は維持されません。

テキスト・ボックスの印刷

テキスト・ボックスのプロパティの自動サイズ調整を設定できます。レポートを印刷すると、テキスト・ボックスに入力されるすべてのテキストに合わせてテキスト・ボックスの高さが増加または減少されます。テキスト・ボックスの幅は変更されません。

注： 自動サイズ調整されるテキスト・ボックスに表示される最大行数は 27 行です。テキストのすべての行を表示するには、「自動サイズ調整」の選択を解除します。

自動サイズ調整プロパティを設定しないと、レポートが次のように印刷されます。

- テキスト・ボックスの幅と高さが、グリッドのサイズに合せられます。
- テキスト・ボックスに収まらないテキストが切り捨てられます。

グリッドの印刷

グリッドの自動サイズ調整プロパティを設定できます。自動サイズ調整プロパティが設定されている場合に、グリッドを印刷すると、グリッド内のすべてのデータに合わせて、グリッドの高さと幅が調整されます。

自動サイズ調整プロパティを設定しない場合、グリッドは指定された高さで印刷されます。行または列がページに収まらない場合、後続のページに印刷されます。最初に列が必要なページ数を使用して印刷され、次に行が印刷されます。

グリッドの位置設定プロパティを使用してページにグリッドを配置できます。グリッドをページの右側または一番下に手動で位置設定しても、グリッドがレポートの右側または一番下に印刷されるとは限りません。

自動サイズ調整するように設定されたグリッドが、1 ページに収まらない場合、後続のページに印刷されます。最初に列が次のページの左のマージンから印刷され、次に行が次のページの一番上から印刷されます。

ページ次元の見出しの印刷

「ページのプロパティ」シートを使用してグリッドのページ次元の見出しを指定できます。レポートを印刷すると、ページ次元の見出しは、ページのメンバーが変わるたびに印刷されます。

次に、ページ次元の見出しが印刷される方法を示します。

- テキストは、グリッドの左端に揃えて印刷されます。
- テキストの高さが自動サイズ調整され、幅はグリッドの幅に設定されます。
- ページのメンバーが変わるたびに、見出しがグリッドの 1 行目の上に印刷されます。

ページのメンバーの印刷

レポートを印刷すると、ページのメンバーが変わるたびに新しいページが生成されます。「ページのプロパティ」シートを使用すると、次のいずれかのオプションを使用してページを印刷する方法を指定できます。

- 新規ページ - 上端: 新しいページはページの一番上に印刷されます。たとえば、グリッドにリンクされたチャートがあり、ページのメンバーが変わるたびにチャートとグリッドを並べて印刷する場合に、このオプションを使用します。
- 新規ページ - 同じ位置: 新しいページは指定されたグリッド位置に印刷されます。このオプションは、次のような場合に使用されます。
 - グリッドに横方向または縦方向、あるいはその両方の配置プロパティが設定されており、各ページの同じ位置にグリッドを印刷する場合。たとえば、グリッドの位置を中央に設定した場合、グリッドは各ページの中央に印刷されます。
 - チャートがグリッドにリンクされていて、ページのメンバーが変わるたびにチャートとグリッドを並べて印刷する場合。
- 同じページ: 前のページのデータに続けて新しいページが印刷されます。

注: グリッドにリンクされているチャートは、ページのメンバーが変わるたびに印刷されるのではなく、一度のみ印刷されます。

ヘッダーとフッターの印刷

自動サイズ調整されたテキスト・ボックスをヘッダーに配置できます。ただし、テキスト・ボックスの高さがヘッダーを超える場合、ヘッダーの枠の外に印刷されます。

自動サイズ調整されたテキスト・ボックスをフッターに配置できます。ただし、テキスト・ボックスの高さがフッターを超える場合、テキストが切り詰められます。

注: ページの上端や下端の近くにあるオブジェクトが、ヘッダーやフッターに重なる可能性があります。

この章の内容

テキスト・ボックスのフォーマット.....	181
条件付きフォーマットについて.....	198
条件付き抑制.....	208
イメージのフォーマット.....	214
ページ設定の変更.....	215

レポートをフォーマットすると、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどのレポート・コンポーネントのレポート内での表示方法を指定できます。たとえば、フォントを指定したり、枠線を追加したりできます。レポートをフォーマットする場合は、コンポーネントのプロパティを定義します。適用したフォーマットは、レポートの印刷時やオンラインでの表示に影響を与えます。

注： 各オブジェクトにはデフォルトのフォーマットのプロパティがあります。レポートをフォーマットしない場合は、デフォルトのフォーマットのプロパティを使用できます。

重なり合ったオブジェクトを含む、レポート・オブジェクトの一般情報は、[第5章「レポートの作成」](#)を参照してください。チャートのフォーマットの詳細は、[第4章「チャートのカスタマイズ」](#)を参照してください。

テキスト・ボックスのフォーマット

ここでは、テキスト・ボックス内のテキストのフォーマットについて、次の項に分けて説明します。

- [181 ページの「テキスト・ボックスのフォントの指定」](#)
- [182 ページの「テキスト・ボックス内のテキストの配置」](#)
- [183 ページの「テキスト・ボックスの枠線と網掛けの設定」](#)

テキスト・ボックスのフォントの指定

テキスト・ボックスに表示されるテキストのフォントを変更できます。

▶ フォントを指定するには:

- 1 レポートを開き、テキスト・ボックス内のテキストを選択します。
- 2 「フォーマット」、「フォント」の順に選択します。
- 3 フォント、スタイル、サイズ、および色を指定します。
- 4 選択されているテキスト上に取消し線を配置するには、「取消し線」を選択します。
- 5 選択されているテキストの下に線を配置するには、「下線」を選択します。
- 6 「OK」をクリックします。

テキスト・ボックス内のテキストの配置

テキスト・ボックス内のテキストの横方向の配置を設定できます。インデントのオプションを使用して、テキスト・ボックス内のテキストのマージンを増加または減少することもできます。

次の表に、テキストの配置とインデントのオプションを示します。

表 27 テキストの配置とインデントのオプション

設定	タスク
配置	「左」、「中央」、または「右」を選択すると、テキスト・ボックス内のテキストの横方向の配置を指定できます。たとえば、「中央」を選択すると、テキスト・ボックスの中央にテキストが配置されます。
インデント	左揃えのテキストを右にインデントする文字数を選択します。 注： インデントは、左揃えのテキストのみで設定できます。

▶ テキスト・ボックス内でテキストを配置するには:

- 1 レポートを開き、テキスト・ボックスを作成するか、既存のテキスト・ボックスを選択します。
- 2 「テキストのプロパティ」プロパティ・シートで、「レポート上のオブジェクトの位置」の「横方向」ドロップダウン・リストで次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「なし」を選択すると、テキストの上または左側のレポート・オブジェクトのサイズが変更されても、テキストは現在の位置に印刷されます。
 - 「相対」を選択すると、印刷時のテキストは、左側にあるレポート・オブジェクトに対して相対的な位置に配置されます。
 - 「左」を選択すると、レポートの左側にテキスト・ボックスを配置します。
 - 「中央」を選択すると、レポートの中央にテキスト・ボックスを配置します。
 - 「右」を選択すると、レポートの右側にテキスト・ボックスを配置します。
- 3 「レポート上のオブジェクトの位置」の「縦方向」ドロップダウン・リストで次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「なし」を選択すると、テキストの上または左側のレポート・オブジェクトのサイズが変更されても、テキストは現在の位置に印刷されます。

- 「**相対**」を選択すると、印刷時のテキストは、その上にあるレポート・オブジェクトに対して相対的な位置に配置されます。
- 「**上**」を選択すると、テキスト・ボックスをレポートの一番上に配置します。
- 「**中央**」を選択すると、テキスト・ボックスをレポートの中央に配置します。
- 「**下**」を選択すると、テキスト・ボックスをレポートの一番下に配置します。

テキスト・ボックスの枠線と網掛けの設定

テキスト・ボックスには、枠線を付けたり、網掛けを設定したりできます。

▶ 枠線または網掛け、あるいはその両方をテキスト・ボックスに設定するには:

1 レポートを開き、テキスト・ボックスを選択します。

2 「テキストのプロパティ」シートで次の手順に従います:

- テキスト・ボックスの周りに枠線を付けるには、「**枠線の表示**」チェック・ボックスを選択します。
- テキスト・ボックスに網掛けを追加するには、「**網掛け**」ドロップダウン・リストから網掛けを選択します。

グリッドのフォーマット

Reporting Studio には、グリッドで作業する際の様々なフォーマットのオプションが用意されています。デザイナーのグリッドをフォーマットするには次の機能を使用できます。

- 184 ページの「[グリッドの拡大表示](#)」
- 184 ページの「[グリッド内の数値のフォーマット](#)」
- 186 ページの「[グリッド内でのテキストの配置](#)」
- 188 ページの「[フォントのオプションの変更](#)」
- 190 ページの「[枠線と網掛けの設定](#)」
- 191 ページの「[テキストの置換](#)」
- 193 ページの「[セルのフォーマットの継承](#)」
- 194 ページの「[セルのフォーマットのコピー](#)」
- 195 ページの「[行、列、グリッドの非表示](#)」
- 196 ページの「[行、列、ページのソート](#)」
- 201 ページの「[グリッドへの条件付きフォーマットの適用](#)」

グリッドの拡大表示

グリッドの表示をレポート・デザイナのワークスペースのサイズに拡大できます。この機能は、多数の行および列のあるグリッドで特に便利です。拡大表示することで、より簡単にセルを探せます。

▶ グリッドを拡大表示するには:

- 1 グリッドのタイトル・バーを右クリックします。
- 2 「ズーム」を選択します。
- 3 元の表示に戻すには、グリッドのタイトル・バーを右クリックし、「ズーム」の選択を解除します。

フォーマットのヒント

セルのフォーマットは、行/列のフォーマットおよびグリッドのフォーマットより優先されます。セルのフォーマットを使用すると、行/列のフォーマットおよびグリッドのフォーマットに例外を設定できます。行/列のフォーマットは、グリッドのフォーマットより優先されます。行/列のフォーマットを使用すると、グリッドのフォーマットに例外を設定できます。したがって、レポートをフォーマットする場合は、最初にグリッドをフォーマットし、次に行/列の異なるフォーマット、最後に特定のセルのフォーマットという順番で設定します。

注: 条件付きフォーマットは、他のすべてのフォーマットより優先され、グリッド、行/列、またはセルのレベルで設定されていたフォーマットのかわりに使用されます。たとえば、セルの色を変更する条件付きフォーマットを使用する場合に、小数点以下の桁数の標準フォーマットを維持するには、セルの色の変更と小数点以下の桁数の両方を条件付きフォーマットを使用して指定する必要があります。

グリッド内の数値のフォーマット

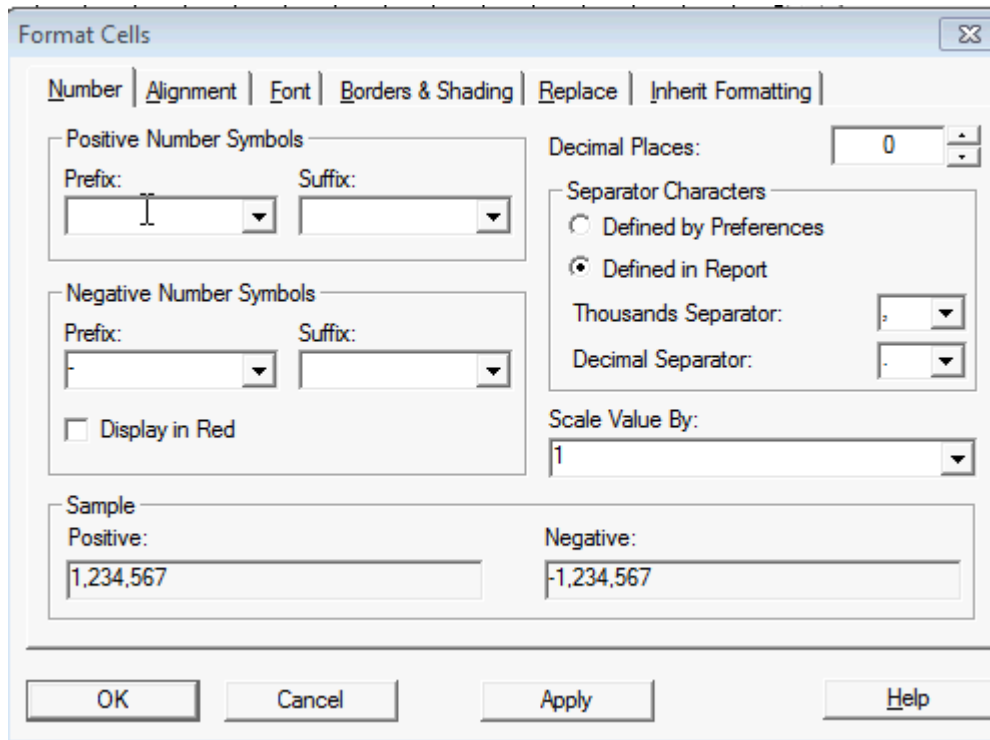
グリッド内での数値の表示方法をフォーマットできます。次のオプションは、グリッド全体、またはセル、行、列に個別に適用できます。

- 正数の符号(接頭辞と接尾辞)
- 負数の符号(接頭辞と接尾辞、および負数を赤で表示するオプション)
- 桁区切りと小数点。ユーザーのプリファレンスで設定することも、グリッドの特定のセルで明示的に定義することもできます。

▶ グリッドの数値をフォーマットするには:

- 1 レポート・デザイナでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 セルを選択します。
- 3 「フォーマット」、「セル」の順に選択します。
- 4 「数値」タブを選択します。

図 18 「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスの「数値」タブ



注：「数値」タブの下端にある「サンプル」セクションに、選択した数値フォーマット・オプションを適用した結果が表示されます。

- 5 「オプション」：正数に接頭辞または接尾辞を指定するには、「接頭辞」または「接尾辞」ドロップダウン・リストで符号を選択するか、「接頭辞」または「接尾辞」フィールドにユーザー定義の符号を入力します。接頭辞符号は、各正の値の左側に配置されます。接尾辞符号は、各正の値の右側に配置されます。

注： 接頭辞または接尾辞を使用すると、勘定科目メンバーの符号を別の行または列に挿入せずに逆転できます。条件付きフォーマットを使用している場合は、勘定科目行を指定し、条件を設定します。その後、「正の符号」の「接頭辞」フィールドに負の符号(-)を入力し、「OK」を2回クリックします。負の符号(-)がその行の数値の前に表示されます。

- 6 「オプション」：負数に「接頭辞」または「接尾辞」を指定するには、「接頭辞」または「接尾辞」ドロップダウン・リスト・ボックスで符号を選択するか、「接頭辞」または「接尾辞」フィールドにユーザー定義の符号を入力します。接頭辞符号は、各負の値の左側に配置されます。接尾辞符号は、各正の値の右側に配置されます。
- 7 「オプション」：負の値を赤で表示するには、「赤で表示」オプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- 8 「小数点以下の桁数」ドロップダウン・リスト・ボックスで数値に表示する小数点以下の桁数を選択します。デフォルト範囲は、0 から 9 までです。
- 9 桁区切りと小数点オプションの次のいずれかを選択します。
 - **プリファレンスで定義：**ユーザーの「プリファレンス」ダイアログ・ボックスで指定されている記号を使用する場合。使用する記号を指定できます。

- **レポートで定義:** 現在のレポートで使用する桁区切りと小数点を指定する場合。
 - 3桁ごとに数値を区切る文字は、「**3桁ごとの区切り文字**」ドロップダウン・リストで選択します。たとえば、カンマ(,)を選択して値を「1,000」と表示するか、ピリオド(.)を選択して値を「1.000」と表示できます。オプションには、カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、スペースがあります。また、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、ドロップダウン・リストの記号とは別の記号を指定することもできます。オプションには、カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、スペースがあります。また、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、ドロップダウンの記号とは別の記号を指定することもできます。
 - 1,000.06のように小数点に使用する文字は、「**小数点**」ドロップダウン・リスト・ボックスで選択します。オプションには、カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、スペースがあります。また、フィールドをハイライトし、別の記号を入力して、ドロップダウンの記号とは別の記号を指定することもできます。
- 10 「**スケール値**」ドロップダウン・リスト・ボックスのオプションを選択するか、数値を入力すると、スケールの乗算に使用する値を指定できます。デフォルトのスケール・オプションは1で、値をスケールしません。.001を選択すると、値2,000は2と表示されます。オプションには、パーセント、十、百、千、万、十万、百万、十億があります。また、ドロップダウン・ボックスで値を指定することもできます。
- 11 「**適用**」をクリックして、選択したセルに指定した数値のフォーマットを適用します。
- 12 「**OK**」をクリックして、数値のフォーマット設定を保存し、ダイアログ・ボックスを終了します。

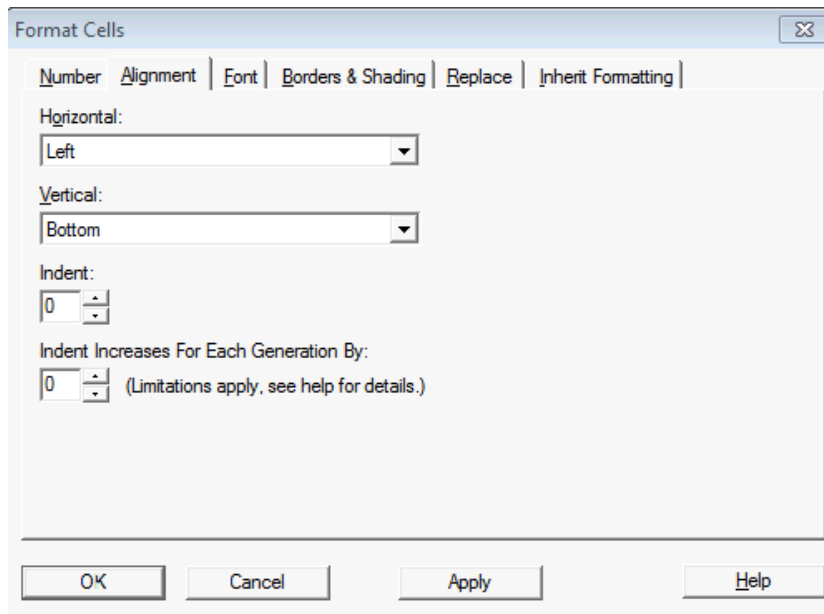
グリッド内でのテキストの配置

選択したセルにあるテキストの配置とインデントのオプションを指定できます。配置のオプションには、横方向と縦方向の配置があります。また、選択したセルのマージンからテキストをインデントする文字数を指定することもできます。

▶ グリッド内のテキストを配置するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 フォーマットするセルを選択します。
- 3 「**フォーマット**」、「**セル**」の順に選択して、「**セルのフォーマット**」ダイアログ・ボックスにアクセスします。
- 4 「**配置**」タブを選択して、選択したセルの配置を指定します。

図 19 「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスの「配置」タブ



- 5 「横方向」ドロップダウン・リストで配置オプションを選択します。オプションは、「左」、「中央」、および「右」です。
- 6 「縦方向」ドロップダウン・リストで配置オプションを選択します。オプションは、「上」、「中央」、および「下」です。
- 7 見出しとその関連テキスト、データ、または式のセルを行内でインデントするには、「インデント」の値ボックスで、セルの左マージンから値をインデントする文字数を選択します。

注： このコントロールは、「横方向」ドロップダウン・リストで「左」を選択した場合にのみ使用可能です。

8 選択したメンバーの世代ごとに行見出しをインデントするには:

1. 目的の見出しセルのある行が「世代ごとのインデントの幅」値ボックスで選択されていることを確認します。

注： フォーマットのプロパティで負数を使用すると、逆インデント(右から左へ)を指定できます。

2. テキストをインデントする文字数を選択します。この数値が「インデント」値ボックスの数値に加えられます。たとえば、「インデント」に2、「世代ごとのインデントの幅」に4がそれぞれ指定されている場合、出力は次のようになります。

値	結果
East Hartford (2+4+4+4=14)	120
West Hartford (2+4+4+4=14)	130
Hartford (2+4+4=10)	250
Springdale (2+4+4+4=14)	140

値	結果
Glenbrook (2+4+4+4=14)	112
Stamford (2+4+4=10)	252
CT (2+4=6)	502
NY (2+4=6)	406
East (2)	908

注： Planning Details で詳細なアイテムを表示するには、「サポート詳細の表示」を選択する必要があります。また、Planning Details を含むすべてデータベース接続で、複数のレベルのメンバーを戻すメンバーの関係を選択する必要があります。たとえば、「...の子(含む)」、「...の子孫」、「...の子孫(含む)」、「...の親(含む)」、「...の祖先」、「...の祖先(含む)」、「すべてのメンバー」などです。このコントロールは、「横方向」ドロップダウン・リストで「左」を選択した場合にのみ使用可能です。

9 「適用」をクリックして、テキストの配置のオプションをセルに適用します。

10 「OK」をクリックして、指定したテキストの配列オプションを確認し、ダイアログ・ボックスを終了します。

フォントのオプションの変更

選択したセルのテキストにフォント、フォント・スタイル、フォント・サイズ、フォントの色、取消し線、下線を指定できます。テキストのプレビューが、フォントのオプションを変更するダイアログ・ボックスに表示されます。

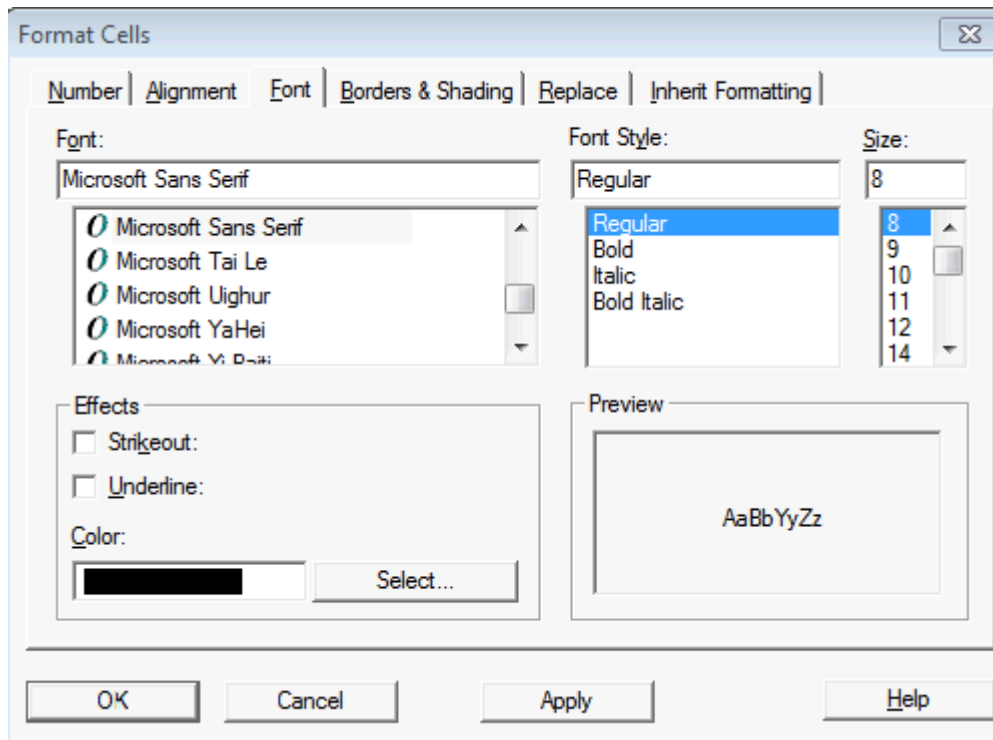
▶ フォントのオプションを変更するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 フォーマットするセルを選択します。
- 3 「フォーマット」、「セル」の順に選択して、「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスにアクセスします。
- 4 「フォント」タブを選択し、次の1つ以上のアクションを行います。
 - 「フォント」リスト・ボックスでフォントを選択します。
 - 「フォント・スタイル」リスト・ボックスでフォント・スタイルを選択します。オプションは、「標準」、「太字」、「斜体」、「太字斜体」です。
 - 「サイズ」リスト・ボックスでフォント・サイズを選択します。
 - 取消し線を適用するには、「効果」セクションにある「取消し線」チェック・ボックスを選択します。たとえば、「小計」という語句のあるセルに取消し線を適用すると、小計と表示されます。

- テキストに下線を追加するには、「効果」セクションにある「**下線**」チェック・ボックスを選択します。たとえば、「小計」という語句のあるセルに下線を適用すると、小計と表示されます。
- 選択したセルに適用する色を選択するには、「効果」セクションの「**選択**」ボタンをクリックします。

「基本の色」パレットまたは「カスタムの色」パレットから色を選択できます。カスタムの色を定義するには、[189 ページの「カスタム色の作成」](#)を参照してください。

図 20 「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスの「フォント」タブ



- 5 「適用」をクリックして、選択したフォントのオプションを適用します。
- 6 「OK」をクリックして、指定したフォントのオプションを確認し、ダイアログ・ボックスを終了します。

カスタム色の作成

Financial Reporting には、レポートや他のアーティファクトのテキスト用の基本色のパレットが用意されています。Financial Reporting では、カスタムの色を定義して、このパレットに追加できます。

注： カスタムの色は Studio セッション間で保存されません。

▶ カスタムの色を定義するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。

- 2 フォーマットするセルを選択します。
- 3 「フォーマット」、「セル」の順に選択して、「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスにアクセスします。
- 4 「フォント」タブを選択し、「効果」セクションで「選択」をクリックすると「色」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 5 「カスタム色の定義」を選択し、色相、彩度、明度および赤、緑、青の割合を指定します。

色のプロパティを指定すると、「色/実線」ボックスに色の現在の状態が表示されます。

- 6 終了したら「カスタム色に追加」を選択し、「色」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックしてから「セルのフォーマット」ダイアログでもう一度「OK」をクリックして、色の定義を保存します。







色の定義を破棄するには、「色」および「セルのフォーマット」のダイアログ・ボックスで「取消し」をクリックします。

枠線と網掛けの設定

レポートのグリッド内で選択したセル、行または列に枠線や網掛けを適用して強調できます。枠線のスタイルを指定して、選択した領域の任意の辺に適用できます。また、選択した領域に適用する網掛けの色を選択することもできます。

次の表に、セルの枠線の配置を表すボタンを示します。

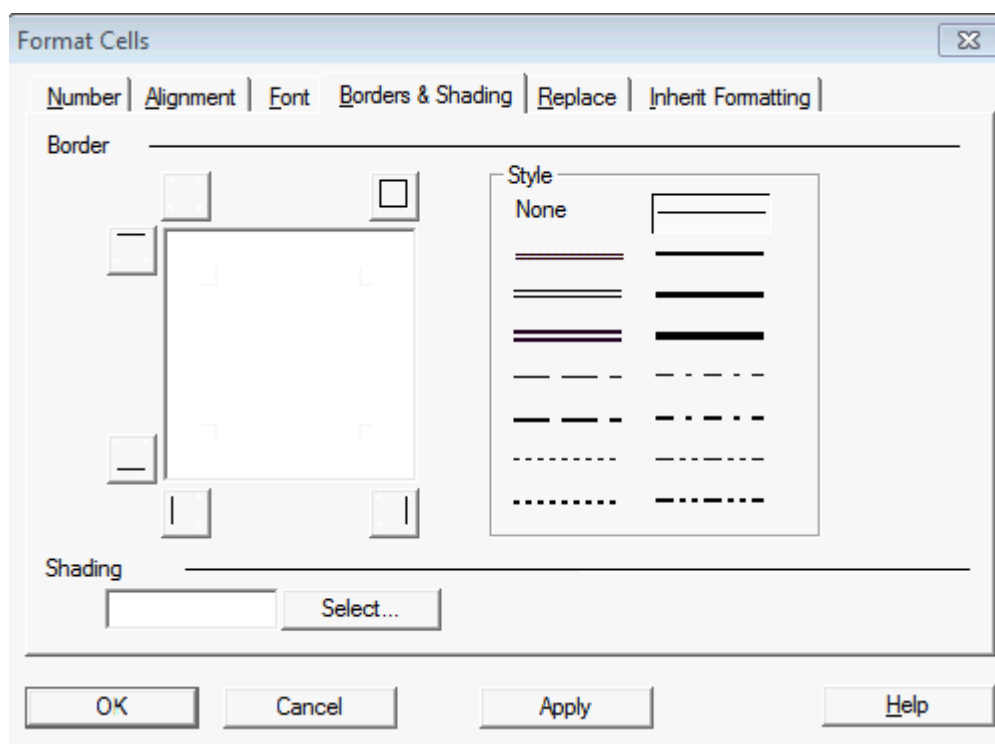
表 28 枠線の配置のオプション

ボタン	タスク
	選択したグリッド、セル、行または列の枠線を削除します。
	選択したグリッド、セル、行または列の周りに枠線を引きます。
	選択したグリッド、セル、行または列の上の枠線を引きます。
	選択したグリッド、セル、行または列の下の枠線を引きます。
	選択したグリッド、セル、行または列の左の枠線を引きます。
	選択したグリッド、セル、行または列の右の枠線を引きます。

- ▶ グリッド内のセルに枠線または網掛けを設定するには:

 - 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
 - 2 グリッド、またはグリッド内の1つ以上のセル、行、列からフォーマットするアイテムを選択します。
 - 3 「フォーマット」、「セル」の順に選択して、「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスにアクセスします。
 - 4 「枠線と網掛け」タブを選択します。

図 21 「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスの「枠線と網掛け」タブ



- 5 枠線のオプションを指定するには:
 - 1 「スタイル」ボックスで、枠線に使用する線スタイルをクリックします。
 - 2 1つ以上の枠線の配置ボタンをクリックします。枠線の配置ボタンの詳細は、表 28 を参照してください。
- 6 網掛けを追加するには、「選択」ボタンをクリックし、網掛けに適用する色を選択します。
- 7 「適用」をクリックして、選択した枠線と網掛けのオプションを適用します。
- 8 「OK」をクリックして、選択した枠線と網掛けのオプションを確認し、ダイアログ・ボックスを終了します。

テキストの置換

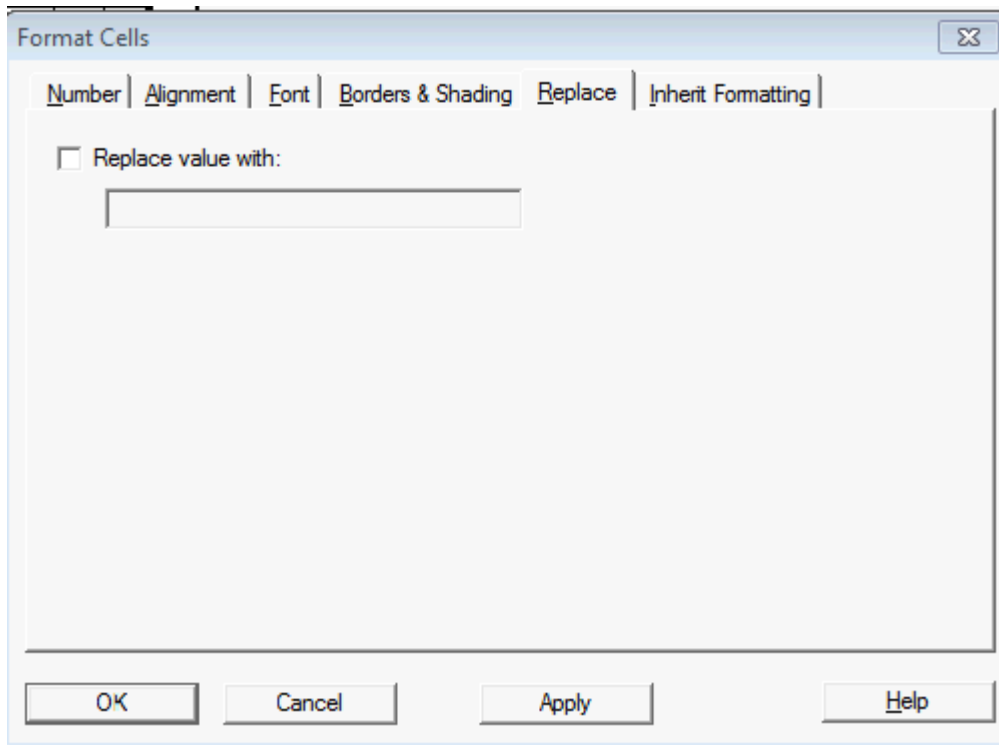
グリッド内のセルの作業時に、セル内の値を異なるテキストに置換できます。この機能では、選択したすべてのセルのすべてのテキストを、指定した置換用テキ

ストと置換します。また、特定の条件が満たされた場合に表示される関連コンテンツ・リンクを含めることを指定できます。

▶ グリッドのセルの値を置換するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 フォーマットするセルを選択します。
- 3 「フォーマット」、「セル」の順に選択して、「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスにアクセスします。
- 4 「置換」タブを選択します。

図 22 「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスの「置換」タブ



- 5 「置換後の値」チェック・ボックスを選択して、テキスト・ボックスを使用可能にし、置換テキストを入力します。

注: チェック・ボックスを選択し、テキスト・ボックスにテキストを入力しない場合、選択したセルはレポートに空白で表示されます。

- 6 「関連コンテンツの追加」を選択して、関連コンテンツ・リンクを指定します。関連コンテンツ・リンクは、特定の条件が満たされると表示されます。条件付きフォーマットの詳細は、[201 ページの「グリッドへの条件付きフォーマットの適用」](#)を参照してください。
- 7 設定して関連コンテンツを追加ダイアログをクリックします。このダイアログでは、関連コンテンツ・リンクを選択できます。[171 ページの「関連コンテンツのプロパティの変更」](#)を参照してください。
- 8 「適用」をクリックして、選択したセルにテキストの置換を適用します。

- 9 「OK」をクリックして、指定したテキスト文字列での置換を確認します。

セルのフォーマットの継承

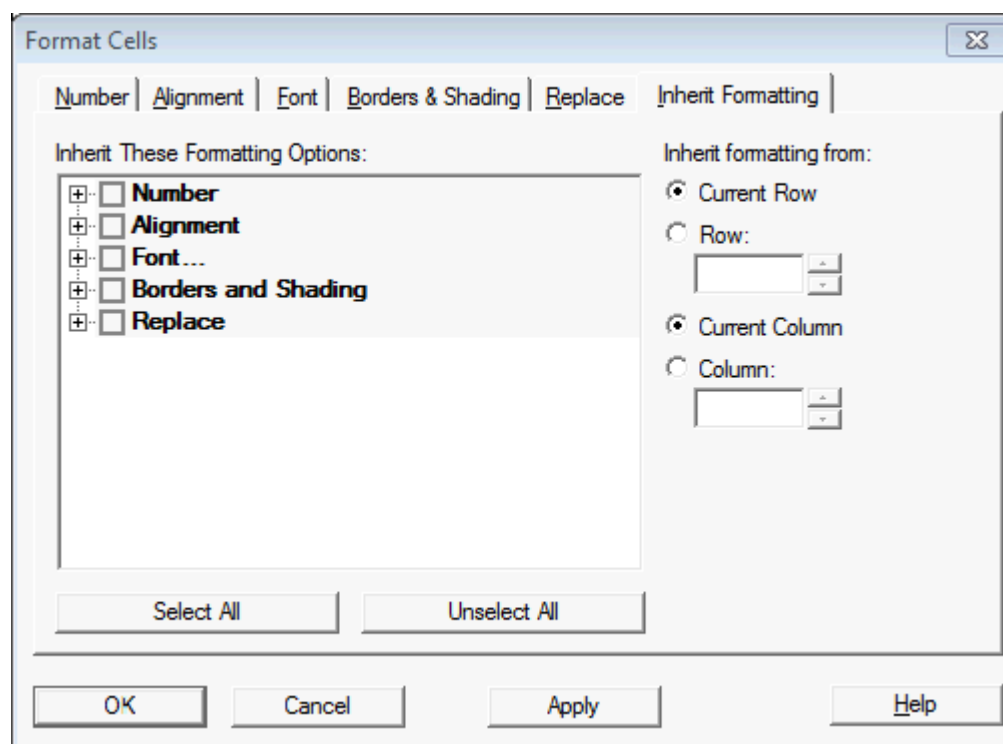
グリッド内のセルのフォーマット時に、セルのフォーマットを継承して別のセルに適用できます。グリッド内の継承できるフォーマット・オプションは、数値、配置、フォント、枠線と網掛け、および置換です。

注： 現在のグリッドの行と列のテンプレートで作業している場合は、行と列のテンプレートを保存する前にフォーマットの継承オプションを設定する必要があります。詳細は、120 ページの「行と列のテンプレートの作成」を参照してください。

▶ セルのフォーマットを継承するには:

- 1 グリッドを含むレポートを開くか、新しいグリッドを作成して行または列のフォーマットを設定します。
- 2 フォーマットの継承先のセルを選択します。
- 3 「フォーマット」、「セル」の順に選択します。
- 4 「フォーマットの継承」タブをクリックします。

図 23 「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスの「フォーマットの継承」タブ



- 5 「次のフォーマット・オプションを継承」領域で、プラス記号(+)を展開し、継承するフォーマット・オプションのボックスをクリックして選択します。継承できるフォーマット・オプションには、数値、配列、フォント、枠線と網掛け、テキストの置換があります(図 23 を参照)。

注： すべてのフォーマット・オプションを選択するには、「すべて選択」をクリックします。すべてのフォーマット・オプションの選択を解除するには、「すべて選択解除」をクリックします。

ヒント： フォーマットの継承元の行または列を指定するには、継承するオプション(数値、配置、フォント、枠線と網掛け、置換)を最初に指定しておく必要があります。

6 「フォーマットの継承元」領域で、「」上下の矢印ボタンを使用してフォーマットの継承元の行または列を選択します。次の継承オプションから選択してください:

- 現在の行と別の列を選択する

ヒント： 上矢印キーおよび下矢印キーを使用して選択します。

- 現在の列と別の行を選択する
- 別の行と別の列を選択する

注： 継承元のセルには、以前に継承が定義されていないセルのみを使用できます。たとえば、列 A をフォーマットし、列 B にそのフォーマットを継承した場合、列 B から列 C にはフォーマットを継承できません。ただし、列 A をフォーマットし、列 B および列 C を選択して、列 B と列 C に列 A のフォーマットを継承できます。

7 「適用」をクリックします。

8 「OK」をクリックします。

注： フォーマットを継承した後で継承先のセルのフォーマットを変更すると、継承は適用されなくなります。たとえば、セル A4 にセル B4 からフォント名プロパティを継承した場合にセル A4 のフォント名を変更すると、フォーマット継承は存在しなくなります。変更によって、2 つのセル間で確立されたフォーマットのリンクは破棄されます。


セルのフォーマットのコピー

フォーマット・ペインタを使用すると、1 つのセル、またはある範囲の複数のセルのフォーマットをコピーし、グリッド内の別のセルに適用できます。

注： ただし、継承したフォーマットや条件付きフォーマットは、フォーマット・ペインタではコピーできません。

▶ セルのフォーマットをコピーするには:

- 1 レポートにグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 セルまたはセルの範囲にグリッドのフォーマットを使用してフォーマットを設定します。詳細は、[183 ページの「グリッドのフォーマット」](#)を参照してください。
- 3 コピーするフォーマットを含むセルまたはセルの範囲を選択します。

- 4  をクリックします。
- 5 コピーしたフォーマットを適用するセルまたはセルの範囲を選択します。マウスを放すとフォーマットが変更されます。

行、列、グリッドの非表示

行、列、またはグリッド全体を非表示にして、印刷時またはレポートの表示時にその値が表示されないようにできます。たとえば、グリッド・データを使用したチャートがある場合、グリッドを非表示にして、レポートにチャートのみを表示できます。グリッドを非表示にすると、そのグリッドのタイトル・バーが青から灰色に変わります。

ただし、行や列のデータと計算は、適用しているフォーマットに関係なく評価されます。

▶ グリッドを非表示にするには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 グリッドを選択します。
- 3 「グリッドのプロパティ」プロパティ・シートで「抑制」カテゴリを選択します。
- 4 「グリッドを」「非表示」チェック・ボックスを選択します。

▶ 行または列を非表示にするには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 行または列を選択します。
- 3 「常に非表示」チェック・ボックスを選択します。

注: 非表示の行と列にあるデータ値を抑制時に考慮するかどうかを指定できます。このオプションの詳細は、[非表示の行や列での抑制の評価の制御](#)を参照してください。

非表示の行や列での抑制の評価の制御

抑制の評価時に、非表示の行や列にある値および計算を含めるか、無視するかを指定できます。このオプションは、行や列の「常に非表示」チェック・ボックスが選択されている場合にのみ使用可能です。

▶ 抑制時に非表示の行や列を考慮するかどうかを指定するには:

- 1 非表示の行または列を選択します。
- 2 次のいずれかのアクションを行います:
 - 値と計算を含めるには、「抑制時に行を無視」、または「抑制時に列を無視」チェック・ボックスの選択を解除します。これはデフォルトの設定です。

- 値と計算を除外するには、「抑制時に行を無視」または「抑制時に列を無視」チェック・ボックスを選択します。

注： 非表示のセルは、特別に条件付き抑制として指定されないかぎり、抑制の評価時に除外されます。詳細は、[208 ページの「条件付き抑制」](#)を参照してください。

行、列、ページのソート

グリッドにある連続する複数の行または列の範囲を特定の列または行にある値に基づいてソートできます。また、列、行およびページを、その見出しに基づいてソートすることもできます。列の範囲を選択した場合、指定された行にある値に基づいて列がソートされます。行の範囲を選択した場合、指定した列にある値に基づいて行がソートされます。ソートの基準となる列または行に複数のメンバーが含まれている場合、ソートには、最初のメンバーの値のみが使用されます。

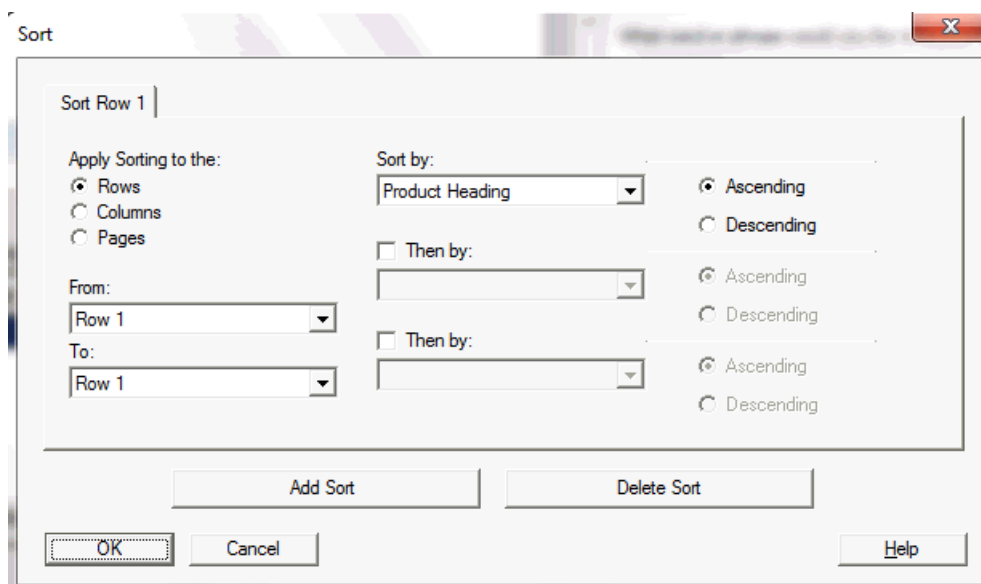
列または行のソートには、昇順または降順を使用できます。昇順でソートする場合、最小値、アルファベット順の最初の文字、または最も古い日付がソート済リストの最初に表示されます。降順でソートする場合、最大値、アルファベット順の最後の文字、または最新の日付がソート済リストの最初に表示されます。

ソートが実行できるのは、複数の列範囲または行範囲のみです。抑制の行または列はソートされません。

▶ 一定の範囲の行や列をソートするには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 グリッドのソートを設定します:
 1. グリッドを選択して、「グリッドのプロパティ」シートを表示します。
 2. 「全般」カテゴリを選択します。
 3. 「ソート」を選択し、「設定」をクリックして「ソート」ダイアログ・ボックスを表示します。

図 24 「ソート」ダイアログ・ボックス



- 3 「ソートの対象」で、「行」、「列」または「ページ」を選択します。

注：「ページ」オプションでは、「ソート基準」ドロップダウン・メニューで見出しのみを選択できます。それ以外のオプションは使用できません。

- 4 「行」または「列」では、「開始」および「終了」を選択して、ソートの対象となる列または行の範囲を選択します。

注：自動計算が使用可能になっている場合は、最も外側のレイヤーに計算に使用されたすべての行の総計があります。ソートでは、最も外側のレイヤーは無視されます。また、自動計算が設定されている複数のレイヤーをソートする場合、自動計算のあるすべての見出しレイヤーでソートする必要があります。

- 5 「ソート基準」領域で次の手順に従います：

1. 最初のドロップダウン・リストで、ソートの基準とする見出し、行、列を選択します。次に、「昇順」または「降順」からソート順を選択します。
2. オプション: 「ソート基準」領域で、次のように1つまたは2つの追加のソートを設定します。
 1. 追加のソートごとに、「次の基準」チェック・ボックスを選択します。
 2. 2番目または3番目、あるいはその両方のドロップダウン・リストで、ソートの基準にする見出し、行または列を選択します。
 3. 追加のソートごとに「昇順」または「降順」のソート順を選択します。

- 6 オプション: 追加のソートを設定するには:

1. 「ソートの追加」をクリックします。「ソート」ダイアログ・ボックスにタブが追加されます。
2. このタブで、上の手順3から5を繰り返して、ソートの設定を追加します。

- 7 オプション: ソートを削除するには:

1. 「ソートの削除」をクリックします。
2. ドロップダウン・リストで、削除するソートを選択します。

8 「OK」をクリックします。

条件付きフォーマットについて

条件付きフォーマットを使用すると、特定のフォーマットをグリッド内のセルに適用できます。たとえば、**current cell value = 0** という選択条件を定義し、この条件に一致した場合にセル・フォントの色を青に変更するフォーマットを定義します。このセルに戻された値が 0 の場合、フォントの色が青に変わります。

注： 条件付きフォーマットは、他のすべてのフォーマットより優先され、グリッド、行または列、セルのレベルで事前に設定されていたフォーマットを置換します。たとえば、セルの色を変更する条件付きフォーマットを使用する場合に、小数点以下の桁数の標準フォーマットを維持するには、セルの色の変更と小数点以下の桁数の両方を条件付きフォーマットを使用して指定する必要があります。

注： 複数のセルを選択した場合は、選択したセル範囲の左上のセルのフォーマットがデフォルトとみなされます。

条件とフォーマットを定義したら、レポートに戻ります。

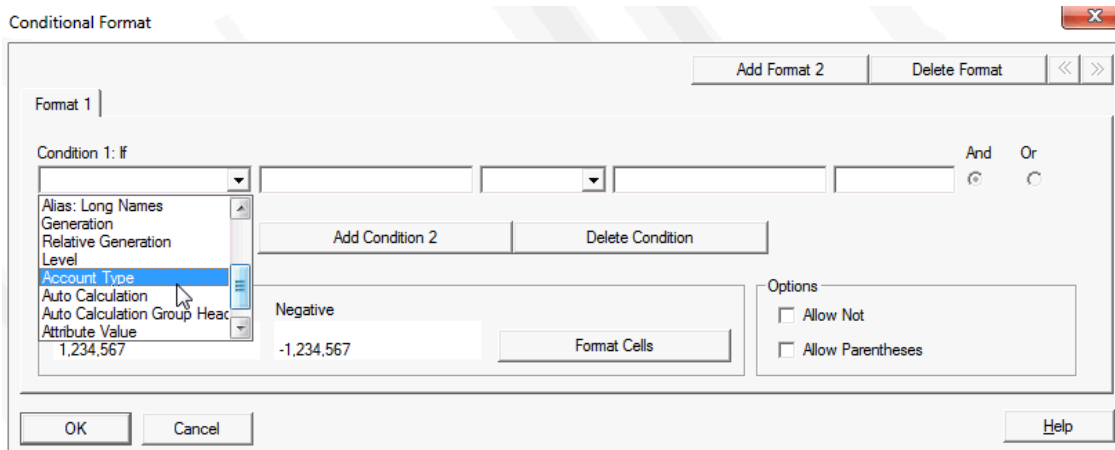
現在のグリッドが表示されます。条件付きフォーマットのあるセルは、色つきのダッシュ(下のセル D2 を参照)が表示され、条件付きのフォーマットが適用されているセルであることを示します。

Grid1													
		A	B	C	D	E	F						
		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
1	100	#	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #
2	100	#	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #
3		= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #
4	Product	#	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #	= #

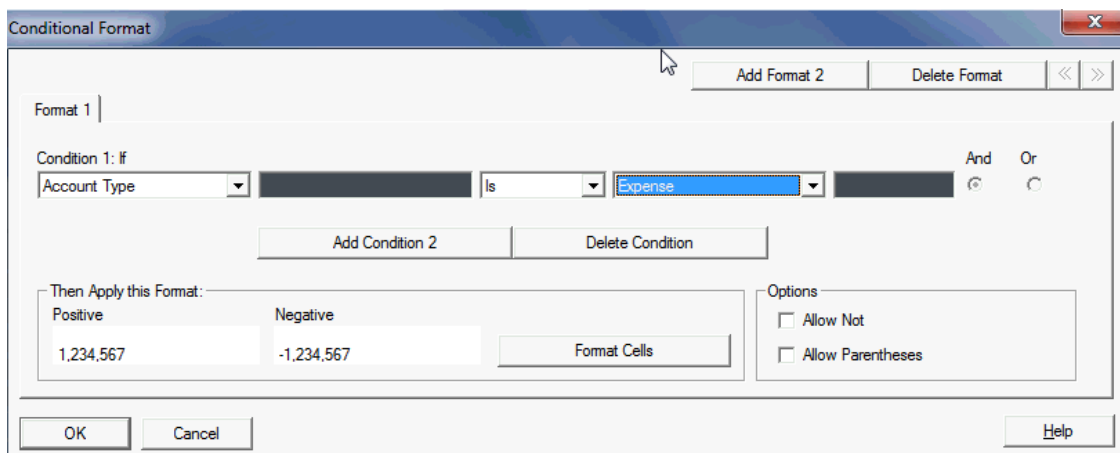
条件付きフォーマットを適用するとレポートを改善できます。たとえば、1000 より大きいすべての値に下線を適用できます。また、より複雑な条件付きフォーマットを設定することもできます。たとえば、勘定科目の種別が費用の場合に、現在の値が 1000 より大きなセルに太字を適用できます。また、製品セルの値が 1000 より小さい場合に、セルの背景色を黄緑色に設定することもできます。このようなフォーマットは、次の例で示すように、追加の条件とフォーマットを指定することで設定できます：

任意のグリッド・オブジェクト・セルの関連コンテンツに条件付きフォーマットを指定できます。たとえば、Market メンバー名が East の場合は ReportA にリンクし、Market メンバーが West の場合は ReportB にリンクさせます。関連コンテンツ・リンクは、「セルのフォーマット」ダイアログで指定できます。191 ページの「テキストの置換」を参照してください。

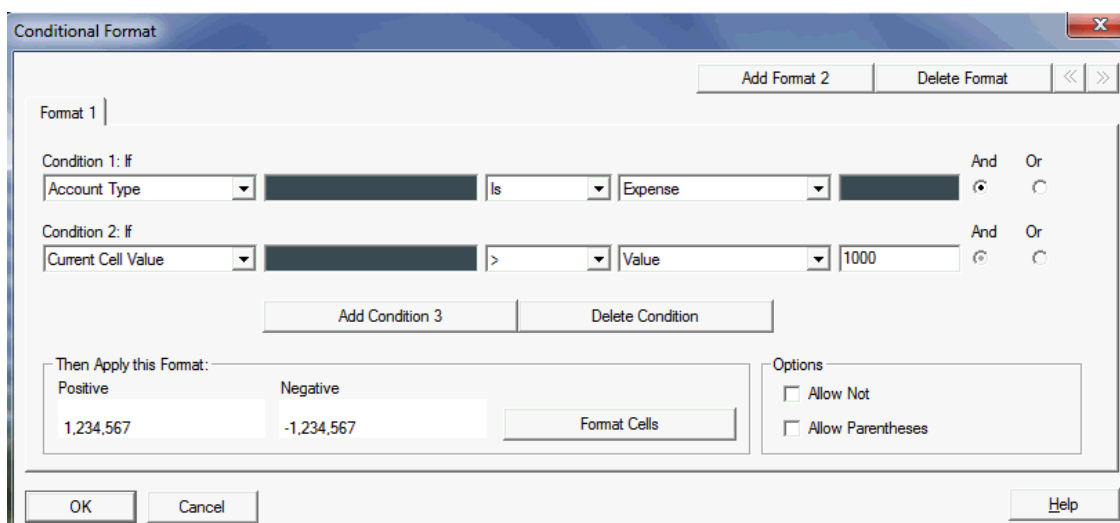
「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスの「条件 1: If」ドロップダウン・リスト・ボックスで「会計タイプ」を選択します。



次に、比較オプション・ドロップダウン・リスト・ボックスで「支出」を選択します。「セルのフォーマット」をクリックし、選択しているセルに太字のフォーマットを適用します。太字以外のフォント・プロパティはそのままにします。

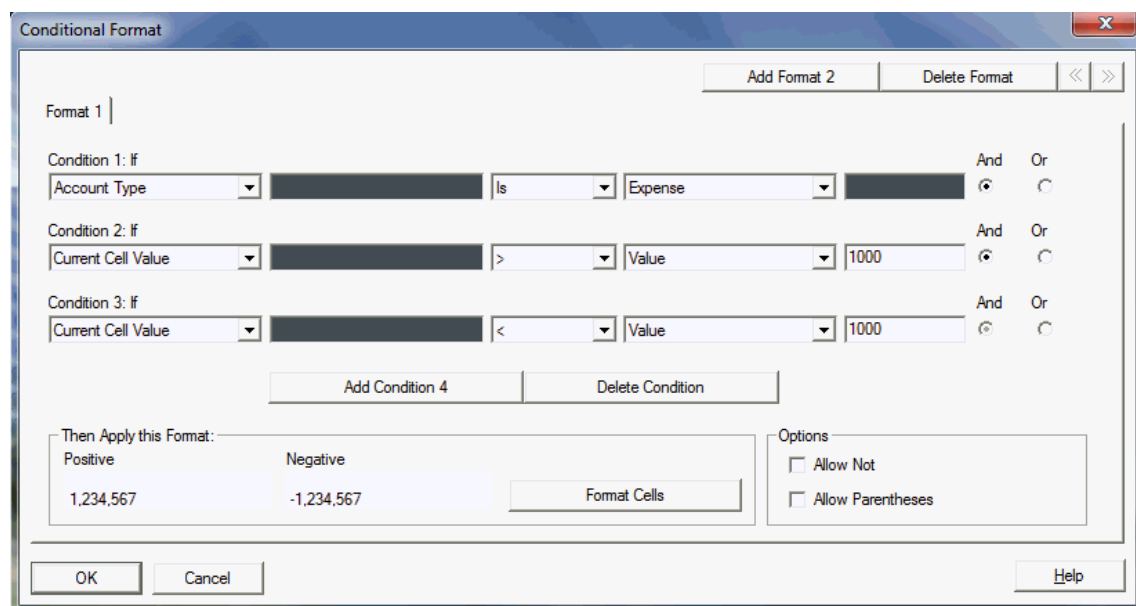


次に、選択しているセルに2番目の条件を追加します。「条件2の追加」ボタンをクリックし、「条件2: If」ステートメントを「現在のセル値」に設定します。演算子の値を「>(次より大きい)」に、比較値を「数値」に設定します。次に示すように、数値を1000に設定します。



注：「条件の削除」をクリックして、条件を削除します。

次に、「フォーマット 2 の追加」 ボタンをクリックして別のフォーマットを追加します。次のように、3つの条件を設定することで、「コーラ」のセル値が 1000 より小さいときに背景色を黄緑に変更するように設定します。



注： 条件を結合するには「AND」を、区別するには「OR」を使用します。

条件を設定すると、「オプション」の「カッコを使用」チェック・ボックスを使用できるようになります。

次のシナリオでは、次の演算が行われます。

Condition 1 and Condition 3

or

Condition 2 and Condition 3

この例では、別名にデフォルトを使用し、「コーラ」というラベルが関連付けられたセルがあり、そのセルの値が 1000 より小さい場合、背景が黄緑色に設定されます。メンバー名に「コーラ」が含まれ、セルの値が 1000 より小さい場合、背景が黄緑色に設定されます。

注： レポートのサイズによっては、条件付きフォーマットの使用がパフォーマンスに多大な影響を及ぼすことがあります。パフォーマンスは、使用される基準、および全セルへの適用など使用頻度によって変化します。これらの各要因またはその組合せがパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。データ値の比較は、最も高速で実行できます。データ値、メンバー名、メンバーの別名や説明などの基準はメタデータまたはデータ・クエリーの一部であるため、高速で実行できます。世代、レベル、計勘定科目の種類、属性値などは、基準として使用することをできるかぎり回避することをお勧めします。これらの基準は、標準のメタデータまたはデータ・クエリーの一部ではないためパフォーマンスの低下の原因となります。

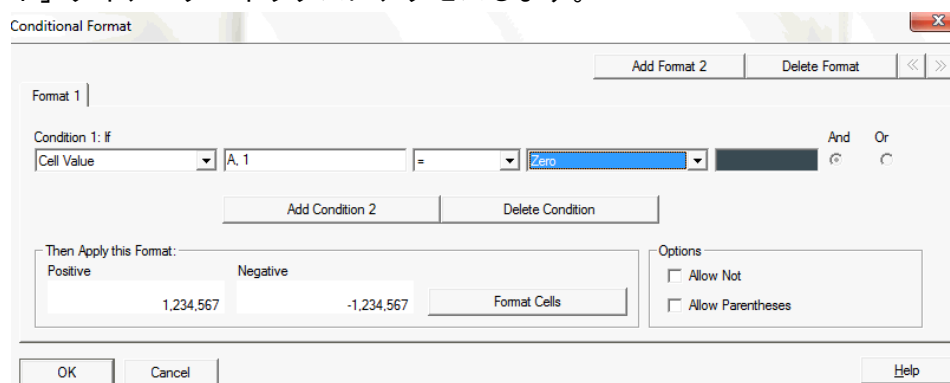
グリッドへの条件付きフォーマットの適用

条件付きフォーマットは、レポート・デザイナーでグリッドを使用して作業している場合に適用できます。まず、選択したセルに条件を設定します。次に、その条件に値が一致した場合に適用するフォーマットを指定します。

任意のグリッド・オブジェクト・セルの関連コンテンツに条件付きフォーマットを指定できます。たとえば、Market メンバー名が East の場合は ReportA にリンクし、Market メンバーが West の場合は ReportB にリンクさせます。関連コンテンツ・リンクは、「セルのフォーマット」ダイアログで指定できます。[191 ページの「テキストの置換」](#)を参照してください。

▶ 条件付きフォーマットを適用するには:

- 1 レポートにグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 条件付きフォーマットを適用するセルを選択します。
- 3 「フォーマット」、「条件付きフォーマット」の順に選択して、「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスにアクセスします。



- 4 「プロパティの選択」ドロップダウン・リスト・ボックスでプロパティを選択します。

注： 選択したプロパティによって、他のドロップダウン・リストで選択できるオプションが異なります。

次の表に、各条件付きフォーマット・プロパティと使用可能なデータ・ソースを示します。

プロパティ	使用できるデータ・ソース
セルの値	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management
行の値	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management
列の値	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management
現在のセルの値	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management
メンバー名	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management
配置	Oracle Essbase Financial Management Planning 「配置」プロパティを使用すると、複数のメンバーまたは1つのメンバー関数があるデータ・セグメントの最初または最後の行/列のフォーマットをデザイナーで設定できます。たとえば、複数メンバー行または列の一番上の行に条件を設定する場合、次の例のような条件になります。 条件1: If Position Within Row Is Top Row, then Format Cells = \$.
説明	Financial Management
別名	Oracle Essbase プランニング詳細
世代	Oracle Essbase プランニング詳細
相対的な世代	Oracle Essbase プランニング詳細
レベル	Oracle Essbase プランニング詳細

プロパティ	使用できるデータ・ソース
勘定科目の種別	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management
自動計算	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management
自動計算のグループ見出し	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management
属性値	Oracle Essbase
ライン・アイテムの詳細	Financial Management
サポート詳細	プランニング詳細
レベルの展開 - 行または列次元のレベルの展開(次元が何回展開されるか)に依存する条件を指定します。	Oracle Essbase プランニング詳細 Financial Management

5 「参照値」ドロップダウン・リスト・ボックスで、「プロパティの選択」ドロップダウン・リスト・ボックスで選択したプロパティ値に対応する値を選択します。

6 次の演算子を選択します。

- =(次と等しい)
- <>(次より小さい、または次より大きい)
- >(次より大きい)
- <(次より小さい)
- >=(次と等しいか大きい)
- <=(次と等しいか小さい)
- 等しい(次と等しい)
- 等しくない(次と等しくない)
- 次で始まる
- 次で終わる
- 次を含む
- 次である

注： 先に選択したフォーマットの対象によって使用できる演算子が異なるので、これらの演算子がすべてリストに表示されるとは限りません。

7 次の比較する値のオプションのいずれかを選択します。

- 数値 - セルに特定の値を割り当てます。

- セル値 - A, 3 などセルの位置を戻します。
- 行値 - 行の番号を戻します。
- 列値 - 列の文字を戻します。
- ゼロ - 条件にゼロ値を割り当てます。
- データなし - 選択に対するデータ値がないことを示します。
- エラー - エラーとして条件を割り当てます。
- 文字列 - 条件の文字列を定義します。
- 0、1、2 - 選択された次元のレベル数または世代数を示します。

注： 選択したプロパティによって、ドロップダウン・リストに表示されるオプションが異なります。

- 8 条件を追加するには、「フォーマット 2 の追加」ボタンをクリックします。手順 4 から手順 7 を繰り返して条件を追加します。

注： このボタンに表示される番号は、条件を追加するたびに増加します。最大値は 7 です。

- 9 現在の条件と次の条件を結合するには「And」を選択し、区別するには「Or」を選択します。

- 10 「セルのフォーマット」をクリックして、条件にフォーマットを割り当てます。詳細は、[183 ページの「グリッドのフォーマット」](#)を参照してください。

- 11 「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスの「オプション」セクションにある「NOT を使用」チェック・ボックスおよび「カッコを使用」チェック・ボックスを使用すると、条件の論理を次のように設定できます。

- 「NOT を使用」を選択すると、条件を否定できます。
- 「カッコを使用」を選択すると、計算の優先順位や条件を評価する順序を定義し、一連の条件を必要に応じて指定できます。

- 12 フォーマット 1 の条件を追加したら、次のいずれかのアクションを行います。

- レポートのグリッドに戻るには、「OK」をクリックします。
- 選択内容に別のフォーマットを追加するには、「フォーマット 2 の追加」をクリックします。詳細は、[205 ページの「条件付きフォーマットの追加」](#)を参照してください。

条件の削除

グリッド、セル、行または列に適用しない条件は削除できます。この機能を使用すると、フォーマット全体を削除せずに単一の条件のみを削除できます。フォーマットには最大 7 つの条件を含めることができます。フォーマットの削除の詳細は、[206 ページの「条件付きフォーマットの削除」](#)を参照してください。

▶ 条件を削除するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、条件付きフォーマットを適用したグリッドを含む既存のレポートを開きます。

- 2 条件付きフォーマットを適用しているグリッド、1つ以上のセル、行または列を選択します。
- 3 「フォーマット」、「条件付きフォーマット」の順に選択します。
- 4 「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスで、「フォーマットの削除」ボタンをクリックします。ドロップダウン・リストを使用して削除する条件を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。

条件付きフォーマットの追加

条件付きフォーマットを適用する場合、最大7つのフォーマットを指定できます。また、各フォーマットには、最大7つの条件を作成できます。

フォーマットを追加することで、異なる条件が満たされた場合に適用する複数のフォーマットを使用できます。1つまたは複数の条件にフォーマットを設定してから、そのセルに別のフォーマットを追加できます。

たとえば、選択されたセルに適用する行と列の数値の条件を含むフォーマットを作成します。次に、同じセルのテキストの色、網掛け、配置を指定するフォーマットを別に作成できます。

▶ フォーマットを追加するには:



- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 フォーマットするセルを選択します。
- 3 「フォーマット」、「条件付きフォーマット」の順に選択して、「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスにアクセスします。
- 4 [201 ページの「グリッドへの条件付きフォーマットの適用」](#)の説明に従って、セルに条件を追加します。
- 5 「フォーマット#の追加」をクリックします。ここで、#は、追加する次のフォーマットの番号です。
- 6 フォーマットに含める条件を指定します。
- 7 条件およびフォーマットをさらに追加するには、[手順 4](#)から[手順 6](#)を必要に応じて繰り返します。
- 8 完了したら、「OK」をクリックします。

条件付きフォーマットの順序の変更

複数のフォーマットを追加してから、選択しているセルでの条件の評価とフォーマットの適用が実行される順序を変更できます。たとえば、最初にゼロ値を含むセルに青いフォントを使用するフォーマットを指定したとします。2番目のフォーマットでは、セルの値に等しい列値、特定の値に等しい行値を指定しました。その後、選択しているセルに対して3番目のフォーマットを指定しました。

「条件付きフォーマット」ダイアログ・ボックスの右上隅にある矢印を使用すると、選択しているセルにフォーマットを適用する順序を変更できます。フォーマットは絶対的であるため、フォーマットの順序は重要です。最初のフォーマットで作成された条件が、他のフォーマットおよび条件より優先されます。

▶ 条件付きフォーマットの順序を変更するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 フォーマット適用の順序を変更するセルを選択します。
- 3 「フォーマット」、「条件付きフォーマット」の順に選択します。
- 4 205 ページの「条件付きフォーマットの追加」の説明に従って、3つのフォーマットを追加します。
- 5 順序を変更するフォーマットのタブを選択します。
- 6 次のいずれかを行います。
 - フォーマット済のタブを左に移動するには、「左へ移動」ボタン  をクリックします。
 - フォーマット済のタブを右に移動するには、「右へ移動」ボタン  をクリックします。
- 7 「OK」をクリックしてグリッドに戻ります。

条件付きフォーマットの削除

使用しなくなった条件を含むフォーマットは削除できます。たとえば、6つの条件を含むフォーマットを削除すると、フォーマットに含まれている6つの条件がすべて削除されます。

▶ フォーマットを削除するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 条件付きフォーマットを設定している数値を含むセルを選択します。

注: 条件付きフォーマットを設定しているセルは、色付きのバーで示されません。
- 3 「フォーマット」、「条件付きフォーマット」の順にクリックします。
- 4 「フォーマットの削除」をクリックします。ドロップダウン・リストから、削除するフォーマットの番号を選択します。
- 5 「OK」をクリックしてグリッドに戻ります。

行の高さと列の幅の変更

グリッドの行の高さと列の幅は変更できます。変更は、グリッド全体に適用することも、特定の行または列に適用することもできます。

▶ 行の高さや列の幅を変更するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 フォーマットする行または列を選択します。
- 3 次のいずれかのアクションを行います:
 - 行の高さを指定するには、行を選択し、「行プロパティ」プロパティ・シートの「行の高さ」フィールドに値を入力します。

ヒント: 矢印ボタンをクリックして値を増減することもできます。

- 列の幅を指定するには、列を選択し、「列プロパティ」プロパティ・シートの「列の幅」フィールドに値を入力します。

ヒント: グリッド内で行または列のハンドルを目的のサイズになるまでドラッグすることもできます。行または列を縮小しすぎて表示不可能になると、ポインタが点線になります。この場合、行または列が表示されるまでハンドルをドラッグしてください。

複数のセルのマージ

グリッドの複数のセルを1つのセルにマージできます。たとえば、複数のセルを組み合わせて、1つのデータ・セル、テキスト・セルまたは式のセルを作成できます。セルをマージすると、マージ後のセルにはマージ前に左上にあったセルの値とフォーマットが配置されます。マージしたセルを個別のセルに分割すると、分割したすべてのセルにマージ時のセルのフォーマットが継承されます。

注: テキストは、グリッドのセル内で自動的に折り返されます。PDF レポートのワークスペース内での印刷プレビュー時には、長いテキストのあるセルは、その右側のセルが空白の場合、自動的に右側にあるセルにマージされます。HTML レポートのプレビュー時には、テキスト・セルの自動マージは行われません。列の幅を広げるとともに、マージ機能を使用して、テキストの表示領域を拡大する必要があります(行の高さは、テキスト全体が表示されるように自動的に調整されます)。

▶ セルをマージするには:

- 1 グリッドを含むレポートを開きます。
- 2 マージするセルを選択します。
- 3 選択しているセルを右クリックし、「マージ」を選択します。

ヒント: 配置やフォント選択の変更など、マージされたセルのフォーマットを変更するには、「フォーマット」、「セル」の順に選択します。

▶ マージしたセルを個別のセルに分割するには:

- 1 グリッドを含むレポートを開きます。

- マージされたセルを選択します。
- 選択しているセルを右クリックし、「マージ」を選択します。分割されたすべてのセルが、マージ時のセルのフォーマットを継承します。

条件付き抑制

行、列、またはグリッドを抑制するには、次のいずれかまたは両方を行います。

- 基本オプションを使用して、If Zero、If Missing、および If Error に基づいて行、列またはグリッドを抑制します。手順は、209 ページの「条件付き抑制の基本オプションの使用」を参照してください。
- 詳細設定オプションを使用して、様々な属性に基いて、行、列またはグリッドを抑制します。たとえば、行に 100 より小さい値のセルがある場合にその行全体を抑制するように指定できます。このタイプの条件付き抑制の詳細は、210 ページの「条件付き抑制の詳細設定オプションの使用法」を参照してください。

条件付き抑制の動作

条件付き抑制を指定すると、次の処理が行われます。

- 行全体または列全体が、条件付き抑制に指定した条件を満たした場合に、その行または列全体が非表示になります。行または列の一部のセルのみが条件付き抑制の条件を満たしても、行や列は非表示にはなりません。
- 抑制されたデータは、計算に含まれません。たとえば、行 23 と行 24 を抑制した場合に、行 10 から行 30 までを合計しても、行 23 と行 24 の値はこの合計に含まれません。

注： 抑制を評価する場合、非表示にした行および列の値および計算を含むか、無視するかを選択できます。このオプションは、行や列の「常に非表示」チェック・ボックスが選択されている場合にのみ使用可能です。このオプションの詳細は、195 ページの「非表示の行や列での抑制の評価の制御」を参照してください。選択した設定にかかわらず、条件付き抑制に詳細設定オプションを使用してセルを特別に参照している場合は非表示のセルに基いて抑制を評価できます。

- 特別に参照されていない行または列の抑制の評価時には、非表示のセルは無視されます。レポートは、使用されている条件に基いて出力されます。次に、非表示の列のあるレポートの例を示します。

		A	(Hidden) B Column	C
		East	West	South
1	Cola	Missing	Missing	Missing
2	Root Beer	Missing	61	Missing
3	Diet	61	Missing	Missing

前述のレポート・デザインは、条件付き抑制の 3 つのシナリオを説明するために使用されています。

注： これらの例では、列 B が手動で非表示にされ、行 1、2、3 には条件付き抑制が設定されています。

最初の例は、欠落データを基準に抑制するかどうかを指定したときの結果を示しています。条件が非表示の列または非表示の列内の特定のセルを参照していないため、非表示の列は無視されます。

Suppress Row If: Data Values in Current Row = No Data

	East	South
Diet	61	Missing

次の例は、非表示の列 B のデータ・セルに基づいて抑制するかどうかを指定したときの結果を示しています。条件で非表示になっている列 B を指定しており、セル B2 にデータがあるため、Root Beer 行は抑制されません。

Suppress Row If: Data Values in Column B = No Data

	East	South
Root Beer	Missing	Missing
Diet	61	Missing

- 条件付き抑制を属性を基準に使用した場合、他のデータ行または列の抑制ステータスに基づいて式の行または列を抑制できます。他の行または列の抑制ステータスに基づいてテキスト行または列を抑制できます。

注： 式の行や列の値に基づいて、データの行や列を抑制することはできません。

次の表に、他の抑制されたデータ、式またはテキストの行や列を参照する場合に、抑制が有効であるかどうかを示します。

抑制する行や列のタイプ	行や列のタイプに基づく抑制		
	式	テキスト	
データ			
データ	使用可能	使用不可	使用不可
式	使用可能	使用不可	使用不可
テキスト	使用可能	使用可能	使用不可

条件付き抑制の基本オプションの使用

基本的な条件付き抑制を使用すると、If Zero、If Missing、Is Error に基づいて行または列にあるデータを抑制できます。基本的な条件付き抑制は、抑制の詳細設定オプションと組み合わせて使用できます。210 ページの「[条件付き抑制の詳細設定オプションの使用](#)」を参照してください。

▶ データを抑制するには:

- 1 レポート・デザイナーでグリッドを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。

- 2 抑制を適用するグリッド、行、または列を選択します。
- 3 「行のプロパティ」または「列のプロパティ」シートで、「基本オプション」ボタンをクリックします。

注： グリッドを選択した場合は、「グリッドのプロパティ」プロパティ・シートの「抑制」カテゴリを最初に選択します。

- 4 次の1つ以上のオプションを選択します。
 - 「ゼロの場合に抑制」を選択すると、すべてのセルの値がゼロである行または列を非表示にします。
 - 「欠落の場合に抑制」を選択すると、すべてのセルが空欄である行または列を非表示にします。
 - 「エラーの場合に抑制」を選択すると、エラーによりデータの取得または計算ができない行または列を非表示にします。
- 5 「オプション:」非表示にできない行または列内の#ZERO、#MISSING または#ERRORの値を置換するには、次の1つ以上のアクションを行います。

注： グリッドを選択して、「グリッドのプロパティ」シートの「抑制」カテゴリを選択している必要があります。

- セル内のゼロ(#ZERO)値を置換するには、「ゼロ値」テキスト・ボックスに値を入力します。
 - セル内の欠落データ(#MISSING)を置換するには、「データなし」テキスト・ボックスに値を入力します。
 - セル内のエラー・データ(#ERROR)を置換するには、「エラー」テキスト・ボックスに値を入力します。
- 6 すべてのオプションを選択し、カスタマイズされた抑制の基準を指定するには、「詳細設定オプション」を選択します。

条件付き抑制の詳細設定オプションの使用法

詳細設定オプションを使用すると、特定の属性または値に基づいてグリッド内の行または列を抑制できます。条件付き抑制は、単純にすることも、複雑にすることもできます。また、最大7つの条件を含めることができます。条件付き抑制の詳細設定は、基本抑制オプションと組み合わせて使用できます。209 ページの「[条件付き抑制の基本オプションの使用](#)」を参照してください。

条件の定義時に、Not 演算子を使用すると条件に一致しない(false を戻す)行または列を抑制できます。また、他の条件と区別するには、カッコで囲みます。条件付き抑制は、データ値または式の値に基づいて実行される場合もあります。

▶ 条件付き抑制を設定するには:

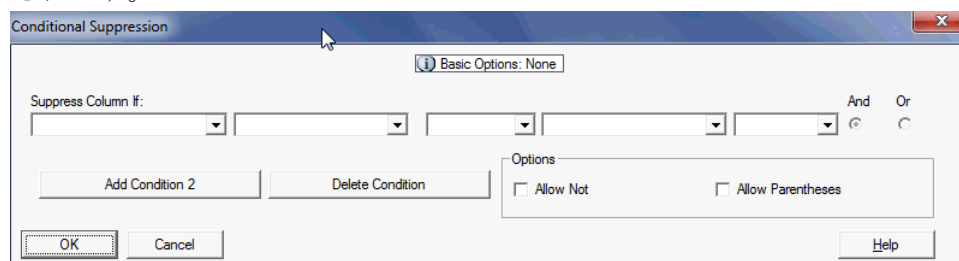
- 1 レポートを作成するか、グリッドを含む既存のレポートを開きます。
- 2 抑制を設定する行、列、またはグリッドを選択します。

- 3 プロパティ・シートで、「詳細設定オプション」、「設定」ボタンの順にクリックすると、「条件付き抑制」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注： グリッドを選択した場合は、まず、「グリッドのプロパティ」プロパティ・シートで「抑制」カテゴリを選択します。

「条件付き抑制」の抑制オプションの上部に「基本オプション」ラベルが表示されます。基本オプションでは、次のように OR 演算子が使用されます。

- 基本オプション: なし - 基本オプションは、詳細設定オプションと併用するように選択されていません。
- ゼロの場合は抑制または... - ゼロの場合に詳細設定オプションと併用されます。
- ゼロまたは欠落の場合は抑制または... - 値がゼロの場合または欠落の場合に詳細設定オプションと併用されます。
- ゼロまたはエラーの場合は抑制または... - 値がゼロの場合またはエラーの場合に詳細設定オプションと併用されます。
- ゼロ、欠落またはエラーの場合は抑制または... - 値がゼロ、欠落、またはエラーの場合に詳細設定オプションと併用されます。
- 欠落の場合は抑制または... - 欠落の場合に詳細設定オプションと併用されます。
- 欠落またはエラーの場合は抑制または... - 欠落またはエラーの場合に詳細設定オプションと併用されます。
- エラーの場合は抑制または... - エラーの場合に詳細設定オプションと併用されます。



- 4 「行を抑制する条件」または「列を抑制する条件」「」で、プロパティを選択します。

選択したプロパティによって、式のドロップダウン・リストで使用できるオプションが異なります。次の表に、各プロパティと、そのデフォルトの参照、演算子、および比較値を示します。デフォルト値は、自動的に表示され、変更することもできます。

プロパティ	使用できるデータ・ソース
行のデータ値	Oracle Essbase Financial Management プランニング詳細

プロパティ	使用できるデータ・ソース
列のデータ値	Oracle Essbase Financial Management プランニング詳細
現在の行のデータ値	Oracle Essbase Financial Management プランニング詳細
メンバー名	Oracle Essbase Financial Management プランニング詳細
説明	Financial Management
別名 - デフォルト	Oracle Essbase プランニング詳細
世代	Oracle Essbase プランニング詳細
レベル	Oracle Essbase プランニング詳細
勘定科目の種別	Oracle Essbase Financial Management プランニング詳細
自動計算	Oracle Essbase Financial Management プランニング詳細
ライン・アイテムの詳細	Financial Management
属性値	Oracle Essbase
サポート詳細	プランニング詳細

- 5 「参照値」 ドロップダウン・リスト・ボックスで、「行/列を抑制する条件」 ドロップダウン・リスト・ボックスで選択したプロパティの値に対応する値を選択します。
- 6 必要に応じて、次の演算子のいずれかを選択します。

注： 選択したプロパティによって、使用できる演算子が異なります。

- <> (次より小さい、または次より大きい)
- > (次より大きい)
- >= (次と等しいか大きい)

- < (次より小さい)
- <= (次と等しいか小さい)
- 等しくない (次と等しくない)
- 次で始まる
- 次で終わる
- 次を含む
- 次である

7 必要に応じて、次の比較オプションのいずれかを選択します。

注： 選択したプロパティによって、使用できる比較オプションが異なります。

- **数値** - セルに特定の値を割り当てます。
- **セル値** - A, 3 など、セルの位置を戻します。
- **行値** - 行の番号を戻します。
- **列値** - 列の文字を戻します。
- **ゼロ** - 条件にゼロ値を割り当てます。
- **データなし** - 選択に対するデータ値がないことを示します。
- **エラー** - エラーとして条件を割り当てます。
- **文字列** - 条件の文字列を定義します。
- **1、2、3...** - 選択した次元のレベルまたは世代の数を示します。
- **支出外** - 支出外として条件を割り当てます。
- **支出** - 支出として条件を割り当てます。
- **TRUE** - 条件に True 値を割り当てます。

8 別の条件を追加するには、「条件 2 の追加」ボタンをクリックします。

注： このボタンに表示される番号は、条件を追加するたびに増加します。最大値は 7 です。

9 現在の条件を後続の条件と組み合わせるには、次の演算子のいずれかを選択します。

- 両方の条件が一致する必要がある場合は、「**And**」を選択します。
- 組み合わせた条件のいずれかが一致する必要がある場合は、「**Or**」を選択します。

10 「オプション:」「オプション」領域で、次のいずれかの論理オプションを条件に追加できます。

- 「**NOT を使用**」を選択すると、条件が満たされない場合にのみ抑制されます。
- 「**カッコを使用**」を選択すると、計算の優先順位や条件を評価する順序を定義し、一連の条件を必要に応じて指定できます。

11 別の条件を追加するには、「条件3の追加」ボタンをクリックします。

12 「OK」をクリックすると、レポート内のグリッドに戻ります。

条件付き抑制の削除

使用しない条件付き抑制は削除できます。この機能を使用すると、最大7つの条件を1つずつ削除できます。

▶ 条件付き抑制を削除するには:

- 1 条件付き抑制を設定したグリッドを含むレポートを開きます。
- 2 条件付き抑制が適用されている行、列またはグリッドを選択します。プロパティ・シートの「詳細設定オプション」ボタンを選択します。
- 3 そのプロパティ・シートで、「設定」をクリックすると、「条件付き抑制」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注: グリッドを選択した場合は、「グリッドのプロパティ」プロパティ・シートの「抑制」カテゴリを最初に選択します。

- 4 「条件付き抑制」ダイアログ・ボックスで、「条件の削除」をクリックします。ドロップダウン・リストで削除する条件をクリックします。別の条件を削除するには、この手順を繰り返します。
- 5 「OK」をクリックします。

イメージのフォーマット

レポート内に表示されたイメージをフォーマットできます。たとえば、イメージを配置してから、そのイメージを拡大縮小したり、イメージの前に改ページを挿入したり、イメージの横方向および縦方向の配置を指定したりできます。

▶ レポート内のイメージをフォーマットするには:

- 1 レポートを開き、フォーマットするイメージを選択します。
- 2 レポート・デザイナのワークスペースのイメージの枠線に合わせてイメージを拡大または縮小するには、「イメージのプロパティ」プロパティ・シートの「パネルに合わせる」を選択します。

ヒント: イメージのサイズを手動で変更するには、ハンドルをクリックし、ドラッグします。サイズ調整のオプションが選択されていない場合、イメージの外側のボックスのサイズのみが調整されます。

- 3 「オプション」: 印刷時のイメージの横方向の位置を設定するには、「横方向」ドロップダウン・リスト・ボックスで次のいずれかを行います。
 - 印刷時のイメージを左側にあるオブジェクトに対して相対的な位置に配置するには、「相対」を選択します。
 - 印刷時のイメージをレポートの左端に配置するには、「左」を選択します。

- 印刷時のイメージをレポートの中央に配置するには、「中央」を選択します。
 - 印刷時のイメージをレポートの右端に配置するには、「右」を選択します。
 - 左側にあるレポート・オブジェクトのサイズの変化にかかわらず、印刷時のイメージを現在の位置に配置するには、「なし」を選択します。
- 4 「オプション」：印刷時のイメージの縦方向の位置を設定するには、「縦方向」ドロップダウン・リスト・ボックスで次のいずれかを行います。
- 印刷時のイメージを上オブジェクトに相対的な位置に配置するには、「相対」を選択します。
 - 印刷時のイメージをレポートの一番上に配置するには、「上」を選択します。
 - 印刷時のイメージをレポートの中央に配置するには、「中央」を選択します。
 - 印刷時のイメージをレポートの一番下に配置するには、「下」を選択します。
 - 印刷時のイメージを、上にあるオブジェクトのサイズの変化にかかわらず現在の位置に配置するには、「なし」を選択します。
- 5 印刷時のイメージを次のページの先頭に配置するには、「前に改ページ」チェック・ボックスを選択します。
- 6 イメージを移動するには、イメージをクリックしてすべての枠線をアクティブにし、別の場所にドラッグします。

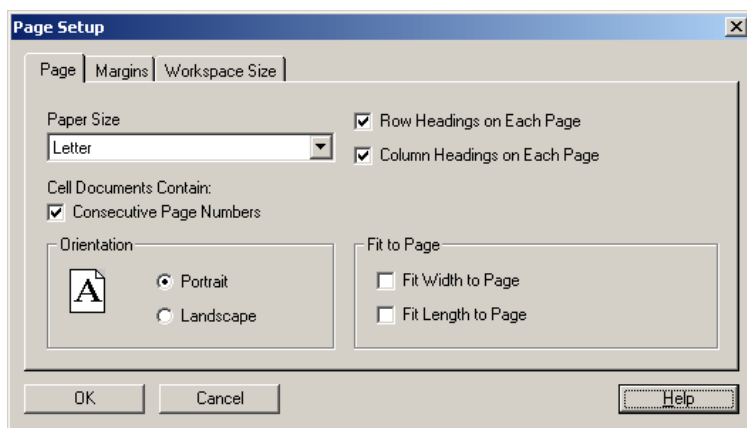
注： イメージの枠線をクリックしてドラッグすると、イメージが縦方向または横方向に引き伸ばされます。必ずイメージ全体をクリックしてドラッグしてください。

ページ設定の変更

レポートの印刷方法または表示方法を制御するページ設定を変更できます。用紙サイズ、用紙の向き、見出し表示の設定、レポートのデフォルトの幅および長さを変更したり、作業領域にカスタム・サイズを作成したりできます。また、セル・ドキュメントに連続したページ番号を印刷するか、ドキュメントごとのページ設定を印刷するかも指定できます。

▶ ページ設定を変更するには:

- 1 レポートを開き、「ファイル」、「ページ設定」の順に選択します。
- 2 「ページ」タブを選択します。



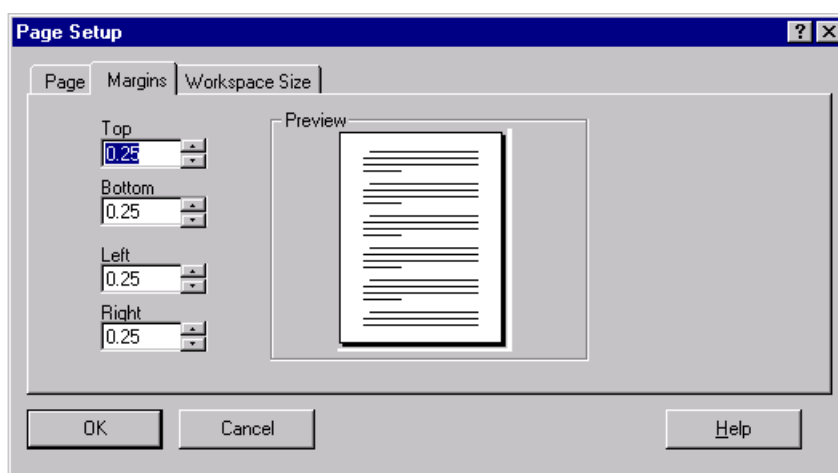
- 3 「レター」、「リーガル」、「元帳」、「A4」または「A3」を選択し、用紙サイズを指定します。
 - 4 セル・ドキュメントの添付を使用可能なレポートを印刷する場合、添付ファイルのページ番号は、レポートのページ番号を反映するように付け直すことができます。たとえば、9 ページのレポートに 5 ページの Word 文書が添付されている場合、出力される Word 文書のページ番号を 10 から 15 ページとなるように付けなおすことができます。セル・ドキュメントに連続したページ番号を印刷するには、「連続したページ番号」を選択します。セル・ドキュメントごとに指定されているページ番号を印刷するには、「連続したページ番号」の選択を解除します。セル・ドキュメントの詳細は、[162 ページの「レポートへのセル・ドキュメントの添付」](#)を参照してください。
 - 5 「縦長」または「横長」を選択して、向きを設定します。
 - 6 レポートの行見出しと列見出しの表示は、次のように設定します。
 1. レポートの各ページに行見出しを表示するには、「各ページに行見出しを表示」チェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスの選択を解除すると、行見出しは、レポートの最初のページにのみ、1 回表示されます。
 2. レポートの各ページに列見出しを表示するには、「各ページに列見出しを表示」チェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスの選択を解除すると、列見出しは、レポートの最初のページにのみ、1 回表示されます。
- 注：** デフォルトでは、各ページに行見出しと列見出しが印刷されます。
- 7 「オプション」：次のオプションを使用すると、レポートの長さまたは幅を 1 ページに収めることができます。
 - レポートの幅を調整して 1 ページに収めるには、「ページ幅に合わせる」チェック・ボックスを選択します。この設定を解除すると、デザイン・モードで指定されている元のサイズに維持されます。
 - レポートの長さを調整して 1 ページに収めるには、「ページ長に合わせる」チェック・ボックスを選択します。この設定を解除すると、デザイン・モードで指定されている元のサイズに維持されます。

注：「ページ幅に合わせる」を選択した場合、列に改ページは挿入できません。「ページ長に合わせる」を選択した場合、行に改ページは挿入できません。

8 「マージン」タブを選択し、マージンのテキスト・ボックスに値を入力します。上下左右のマージンの値を設定できます。マージンを調整するには、次のいずれかの方法を使用できます。

- 上下の矢印ボタンを使用して、レポートのマージンを 1/100 インチ単位で調節します。
- レポートのマージン設定をインチ単位で入力します。

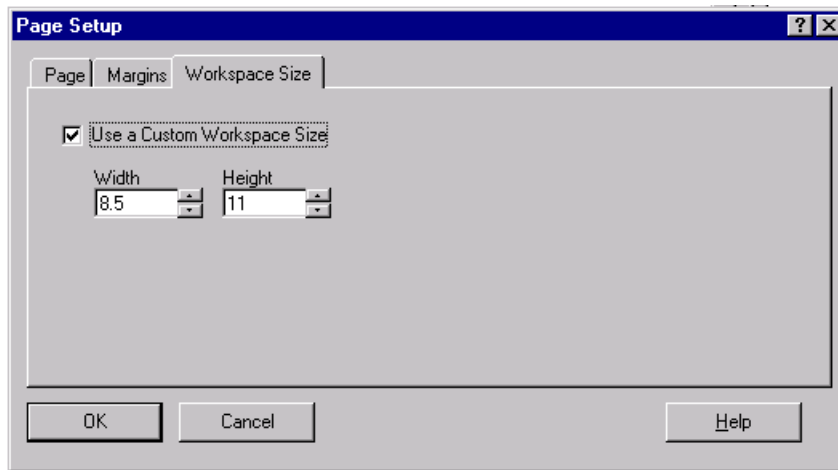
注：「マージン」タブには、指定したマージンを示すレポートのプレビューが表示されます。



9 「オプション」：「ワークスペース・サイズ」タブを選択し、「カスタム・ワークスペース・サイズを使用」チェック・ボックスを選択すると、「ページ」タブで指定した用紙サイズとは異なるサイズのワークスペースを指定できます。ワークスペース・サイズを指定するには、次のいずれかの方法を使用できます。

- 上下の矢印ボタンを使用して、レポートのワークスペースのサイズを 1/100 インチ単位で調節します。
- ワークスペースの幅と高さをインチ単位で入力します。

注：幅と高さは、どちらも 20 インチを超えることはできません。



10 「ページ設定」オプションの変更が終了したら、「OK」をクリックします。

この章の内容

算術関数	220
テキスト関数	226
関数一覧	236
CalcStatus	241
CellText	242
CountA	247
DataSource	247
Date	249
Difference	252
Eval	253
Footnote	253
GetCell	255
GetHeading	256
ListOfCellDocuments	260
IfThen、If	261
Max	265
MemberAlias	265
MemberDescription	266
MemberName	268
MemberProperty	269
MemberQualifiedName	270
Min	272
Mod	272
Page	273
PageCount	273
PercentOfTotal	274
Pi	275
PlanningAnnotations	275
ProcessManagementStatus	278
Product	279
Random	279
Rank	280
ReportAuthor	282
ReportCreated	282

ReportDesc	283
ReportFolder	283
ReportModified	284
ReportModifiedBy	285
ReportName	285
ReportRunBy	286
RetrieveValue	286
Round	286
Sqrt	287
Sum	287
Truncate / Trunc	288
Variance / Var	289
VariancePercent / VarPer	292
式での算術演算子の使用	295
式での算術オペランドの使用	296
計算の順序	297

関数を使用して式を作成します。式とは、レポートに表示するデータを生成する一連の関数と演算子です。Financial Reporting の関数は、算術関数とテキスト関数の2つのグループに分類されます。この章では、関数の使用方法について説明します。

算術関数

算術関数は、グリッドの数値またはデータを計算するために使用します。この項には、算術関数とその構文の説明が記載されています。算術関数、式、構文では、大文字と小文字は区別されません。次の表に、算術関数のリストを示します。

表 29 算術関数

算術関数	説明
Abs	数値または参照先の絶対値を返します。
Average	数値や参照先の集合の平均を返します。
AverageA	数値や参照先の集合の平均を返します。計算には、抑制されていない行または列の#Missingセルと#Errorセルが含まれます。
Count	数値や参照先の集合に含まれる値の個数を返します。
CountA	数値や参照先の集合に含まれる値の個数を返します。計算には、抑制されていない行または列の#Missingセルと#Errorセルが含まれます。
Difference	数値または参照先と、別の数値または参照先との差の絶対値を返します。
Eval	式を評価します。Eval は、式を関数の引数として埋め込むために使用します。
IfThen、If	指定した条件が真の場合と偽の場合で異なる値を返します。

算術関数	説明
Max	数値や参照先の集合の最大値を返します。
Min	数値や参照先の集合の最小値を返します。
Mod	除算した余り(モジュラス)を返します。
PercentOfTotal	数値または参照先を、別の数値または参照で割った結果を 100 倍した値を返します。
Pi	15 桁の円周率の値(3.14159265358979)を返します。
Product	すべての数値または参照先の積を返します。
Random	0.0 と 1.0 の間の乱数を返します。
Rank	指定した列または行の最大値または最小値を返します。
Round	数値を指定した桁数に切り上げまたは切り下げます。
Sqrt	数値、行、列、セルの値の平方根を返します。
Sum	数値や参照先の集合の合計を返します。
Truncate / Trunc	数値の指定した桁数を除去します。
Variance / Var	現在の勘定科目に基づいて、指定された値の差を求めます。
VariancePercent / VarPer	現在の勘定科目に基づいて、指定された値の差をパーセントで示します。

算術関数の構文は、次のとおりです。

```
FunctionName (arguments)
```

表 30 算術関数

変数	説明
FunctionName	算術関数の名前
arguments	数値、または行、列、セルの参照、あるいは埋め込まれた関数

引数

算術関数では、数値、行、列、セルの参照、埋込み関数を引数として使用します。引数には、次の 4 つのタイプがあります。

- [数値引数](#)
- [プロパティ引数](#)
- [行、列、セルの参照引数](#)
- [引数への関数の埋込み](#)

数値引数

数値引数の構文は次のとおりです:

```
(numeral1, numeral2, ... numeraln)
```

この場合、数値 1 から n は、小数および負数を含む任意の数字です。たとえば、Average(10,20,30)は、値 20 を戻します。

行、列、セルの参照引数

行、列、セルの参照引数では、グリッド内の行、列またはセルを指定します。構文は、次のとおりです。

```
FunctionName(  
GridName.GridElement[segment(range)].Property)
```

表 31 引数のコンポーネント

引数	説明
GridName	グリッドの名前。例: Difference (grid1.row[5], grid2.row[5])は、グリッド 1 の行とグリッド 2 の行の差を戻します。 オプション: GridName を指定しない場合、デフォルトは式を挿入した現在のグリッドになります。
GridElement	キーワード row、col、column、または cell のうちのいずれかです。 たとえば、Max(row[1], row[2], row[3])は、これらの 3 行の最大値を戻します。キーワード row、column、col はオプションです。セル参照には、行および列のセグメント ID を指定する必要があります。たとえば、cell[2, A]は、行 2 と列 A の交差であるセルを参照します。キーワード cell は、オプションです。たとえば、[5,B]は、行 5 と列 B の交差であるセルを参照します。セルの参照には、[row, col]構文または[col, row]構文を使用できます。 オプション。GridElement が指定されている場合、文字は列を、数字は行を示します。たとえば、Max ([1,A], [2,A], [3,A])という構文が使用できます。
segment	グリッド内の行、列またはセルの参照番号。展開される行また列に対しては、セグメントを指定する必要があります。たとえば、row[2]は、行セグメント 2 を指します。セグメントは、角カッコ[]で囲んで示します。 必須。
range	指定されたセグメントから展開される行、列またはセル。範囲が指定されている場合は、指定された範囲のみを指定して式が計算されます。たとえば、row[2(3:5)]では、展開されたセグメント 2 の 3 番目から 5 番目までの行のみが使用されます。 オプション: range が指定されていない場合、展開されるセルのすべてが使用されます。 注: セグメントが 1 行または 1 列のみの場合は、範囲引数を使用しないでください。

引数	説明
property	<p>キーワード <code>average</code>、<code>averageA</code>、<code>count</code>、<code>countA</code>、<code>max</code>、<code>min</code>、<code>product</code>、または <code>sum</code> のいずれかです。プロパティは、指定済の展開される行、列またはセルを集約するために使用されます。</p> <p>参照が引数の場合にはプロパティを指定しないことをお勧めします。プロパティを指定しないと、関数による参照の計算が最適な方法で実行されます。たとえば、次の式は、行 1 と行 2 にあるセルの平均を戻します。</p> <pre>Average(row[1], row[2])</pre> <p>一方、次の式は、最初に <code>row[1]</code> の平均を計算してから <code>row[2]</code> の平均を計算し、次にこれらの 2 つの値を足して 2 で割ります。</p> <pre>Average(row[1].average, row[2].average)</pre> <p>関数の引数として使用されていない行、列またはセル参照のデフォルトのプロパティは、<code>sum</code> プロパティです。たとえば、<code>row[2]</code> という式のデフォルトのプロパティは <code>sum</code> です。</p> <p>プロパティの詳細は、223 ページの「プロパティ引数」 を参照してください。</p> <p>オプション。</p>

セグメントのみが参照の必須コンポーネントなので、次の参照は同じになります。

```
Grid1.row[1].sum
```

```
[1]
```

`AverageA` と `CountA` の計算には、`#Missing` および `#Error` のセルも含まれます。たとえば、行 1 が、`Qtr1 = 100`、`Qtr2 = 200`、`Qtr3 = #missing`、`Qtr4 = 400` と展開するセグメント行の場合、次の関数は 4 という結果を戻します。

```
row[1].CountA
```

これ以外のすべての関数は、`#Missing` データまたは `#Error` セルを計算から除外します。たとえば、前述の `Qtr1 = 100`、`Qtr2 = 200`、`Qtr3 = #missing`、`Qtr4 = 400` と展開する行 1 で、次の例は 3 という結果を戻します。

```
row[1].Count
```

プロパティ引数

プロパティ引数は、展開される参照を 1 つの値に集計する方法の 1 つです。この集計値は、後に計算で使用されます。プロパティ引数は、集約行、列、またはセルでの計算に使用できます。次の項では、次のプロパティ引数について説明します。

- 集約プロパティ引数
- 参照プロパティ引数

集約プロパティ引数

集約行、集約列、集約セルは、それぞれ複数の行、列、セルを含んでいます。

集約プロパティ引数は、次の算術関数の構文の最後にある引数です。

```
FunctionName (GridName.GridElement [segment (range)] .  
property)
```

集約プロパティは、行、列またはセルの参照に適用します。次の表に、集約プロパティを示します。

表 32 集約プロパティ

プロパティ	説明
Average	行、列またはセルの平均を返します。計算には、#Missing 値および#Error 値は含まれません。
AverageA	行、列またはセルの平均を返します。計算には、#Missing 値および#Error 値が含まれます。
Count	行、列またはセル内の値の数を返します。計算には、#Missing 値および#Error 値は含まれません。
CountA	行、列またはセル内の値の数を返します。計算では、#Missing 値と#Error 値をゼロ(0)として処理します。
Max	行、列またはセルの最大値を返します。
Min	行、列またはセルの最小値を返します。
Product	行または列の積を返します。
Sum	行、列またはセルの合計を返します。

算術関数引数として使用される場合は、プロパティのデフォルトはその関数と同じになります。次の例では、デフォルトのプロパティは **Average** です。

```
Average(row[2])
```

算術関数引数として使用されない場合は、プロパティのデフォルトは **sum** になります。次の例では、デフォルトのプロパティは集約行の **sum** です。

```
row[2]
```

参照プロパティ引数

参照プロパティ引数は、式の参照結果の処理方法を指定します。この引数は、他のプロパティとともに使用します。

参照プロパティ引数には、IfNonNumber/IFFN があります。

IfNonNumber は、#Missing 値および#Error 値のかわりに使用する特定の数値を指定します。構文は、次のとおりです。

```
AXIS [segment (range)] . IfNonNumber (  
arg  
) . AggregateProperty
```


引数	説明
AXIS	キーワード row、column、または cell のいずれかです。 オプション。
Segment(range)	行番号、列の文字などの軸の有効な参照を示します。
IfNonNumber	軸の参照先にデータがない場合やエラーの場合の処理方法を示します。
(arg)	AxisRef の欠落データやエラー・データのかわりに使用する数値を示します。
AggregateProperty	集約関数は、集約セグメントで使用されます。AggregateProperty の詳細は、 223 ページの「集約プロパティ引数」 を参照してください。 オプション。

例:

cell[1,A] = 3 および

cell[1,B] = #Missing の場合、

式:

```
cell[1,A] / cell[1,B]
```

は、#Error を戻します。

式:

```
cell[1,A] / cell[1,B].ifNonNumber(1)
```

は、cell[1,B]を 1 に置換し、3 を戻します。

注： グリッドの#Missing や#Error のセルを抑制している場合にグリッドの行や列に IfNonNumber プロパティを含む式がある場合は、#Missing や#Error は抑制されたままになります。

注： Financial Management データベース接続を使用しているときに JConsole の MissingValuesAreZeroInFormulas (以前は MissingValuesAreZeroInFormulasInHFM) オプションが(1)に設定されている場合、#Missing 値は、IfNonNumber プロパティの設定にかかわらず 0 になります。ただし、このファイルでの設定が 0 の場合は、前述のように IfNonNumber プロパティによる置換を行います。

JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。

引数への関数の埋込み

関数の引数に、関数を埋め込むことができます。

例:

次の例では、Average 関数が Sum 関数に埋め込まれています。

```
sum(row[3:5], avg(row[4:6], 40, 50), row[7; 9], 70, 80)
```

- 行セグメント 3、4、5
- 行セグメント 4、5、6 と、数値 40 と 50 の平均
- 行セグメント 7 と 9
- 数値 70 と 80

テキスト関数

テキスト関数は、レポート名やレポートの説明などのレポート情報を戻します。テキスト関数は、グリッド内またはテキスト・オブジェクト内で使用します。テキスト関数は、次の例のようにカッコで囲んで使用します。

```
<< TextFunction (  
arguments  
) >>
```

引数と引数の間にはスペースを挿入できます。数値引数以外のすべての引数は引用符で囲まれます。

注： 日付のフォーマットに関連する引数は、大文字と小文字が区別されます。

グリッドでテキスト関数を適用するには、テキスト行や列、または見出しセルを作成してから、テキスト関数を挿入します。

テキスト関数に関する考慮事項

テキスト関数内のパラメータに英数字以外の文字が含まれている場合、引用符で囲むことをお勧めします。たとえば、<<MemberName("Grid1", NYC, New York)>> という関数内にある NYC, New York というパラメータは、<<MemberName("Grid1", "NYC, New York")>>とする必要があります。

次の表に、テキスト関数を示します。

表 33 テキスト関数

テキスト関数	説明
Annotation	特定のグリッド・オブジェクト内の注釈について要求された情報を戻します。注釈のどの情報を戻すかを定義できます。複数の構文がサポートされています。
CalcStatus	Financial Management データベース接続でセルの算出ステータスを戻します。

テキスト関数	説明
CellText	Financial Management データベース接続、Planning データベース接続または Oracle Essbase データベース接続から、テキスト・コンテンツを次のように取得します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Financial Management データベース接続の場合は、セルのテキスト・コンテンツを取得します。 ● Planning データベース接続の場合は、セルの注釈を取得します。 ● Oracle Essbase データベース接続の場合は、Oracle Essbase のセルのリンク・レポート・オブジェクト(LRO)からテキスト・コンテンツを取得します(CellText 関数は、セル・ノートのみ適用されます)。
DataSource	グリッドのサーバー名、アプリケーション名、データベース名、別名テーブルを戻します。
Date	オンライン・レポートにデータが取り込まれた日付や時刻を戻します。
Footnote	特定のレポート・オブジェクト内の脚注について要求された情報を戻します。
GetCell	グリッドのセルのデータ値を戻します。
GetHeading	グリッドの見出しのテキストを戻します。
GridDimension	現在のセルの数値インデックスまたは位置に基づいて、グリッドの軸の次元名を戻します。
HFMCurrency	Financial Management データベース接続で、セル用の通貨のプロパティ ID を戻します。
ListofCellIDDocuments	レポートで選択されたセル・ドキュメントのリストを戻します。
MemberAlias	グリッド行、列、またはページで次元に割り当てられたメンバーの別名を戻します。Oracle Essbase およびプランニング詳細のみで使用できます。
MemberDescription	グリッドの行、列、またはページの次元に割り当てられたメンバーの説明を戻します。Financial Management で使用できます。
MemberName	グリッドの行、列、またはページの次元に割り当てられたメンバーの名前を戻します。
MemberProperty	Oracle Essbase データベース接続または Planning 詳細データベース接続のテキスト・セルまたはテキスト・オブジェクト内のメンバー・プロパティの値を戻します。
MemberQualifiedName	Oracle Essbase データ・ソースで、グリッドの行、列、またはページで次元に割り当てられたメンバーの固有でない修飾名を戻します。 注： この機能は、Oracle Essbase 9.0 以降のリリースのみでサポートされています。
Page	印刷レポートでの現在のページ番号を戻します。この関数は、テキスト・オブジェクトのみで使用されます。
PageCount	印刷レポートのページ総数を戻します。この関数は、テキスト・オブジェクトのみで使用されます。
PlanningAnnotations	プランニング・ユニットに関連付けられたテキストの注釈を取得します。author、title、date、text、PlanningUnit という 5 つの属性パラメータを指定して取得する注釈を制限できます。また、戻されたすべての注釈の中から特定の注釈を指定することもできます。
ProcessManagementStatus	Financial Management データベース接続のみで使用できます。指定されたセルのステータスを戻します。

テキスト関数	説明
ReportAuthor	レポートの作成者のユーザー名を返します。
ReportCreated	現在のレポートが作成された日付を返します。
ReportDesc	現在のレポートの説明を返します。
ReportFolder	レポートが入っているフォルダのパスを返します。
ReportModified	現在のレポートの最終変更日を返します。
ReportModifiedBy	レポートを最後に保存したユーザーの名前を返します。
ReportName	現在のレポートの名前を返します。
ReportRunBy	レポートを実行しているユーザーの名前を返します。

Current(Cur)キーワード

Current キーワードを特定のテキスト関数で使用すると、重複が少なく、より動的で役立つ式を作成できます。Current キーワードは、テキスト関数内で要求されたパラメータを置換します。ハードコードされたパラメータでも同じ結果を得られますが、Current キーワードでは動的な値が結果として戻されます。たとえば、Current を複数ページのグリッドにある Page パラメータで使用すると、ページごとに該当する値を生成できます。

current および cur のいずれの形式も Current キーワードとして使用できます。Current キーワードでは、大文字と小文字は区別されません。

注： Current キーワードは、グリッドのテキスト・セルまたは見出しセルに挿入されたテキスト関数での使用のみがサポートされています。テキスト・オブジェクト内のテキスト関数では使用できません。テキスト・セルは、テキスト行またはテキスト列、あるいはその両方の交差です。見出しセルは、行、列またはページの見出しの一部です。

例 1

GetCell 関数では、パラメータの多くは、関数が挿入されている現在のセルに対して相対的である可能性があります。このため、Current キーワードがこの関数に適用できます。GetCell 関数の構文は、次のとおりです。

```
<<GetCell ( "GridName" , Row, Column, Page)>>
```

次の例では、GetCell 関数のパラメータがハード・コードされています。そのため、複数のページに関数を挿入しても、同じグリッド 1、セル 1A、ページ 1 にあるセルの値が戻されます:

```
<<GetCell ( "Grid1" , 1, A, 1)>>
```

次に示す例では、GetCell 関数で Current キーワードを使用しています。関数が挿入されているセルには、ページごとに異なる値が表示されます。Current キーワードが、グリッド名にも適用されていることに注意してください。グリッド名が変わっても、テキスト式は適正なまま維持されます。

<<GetCell (“current” , 1, current, current)>>

例 2

展開されるセルで Current キーワードを使用すると、展開されたセルに基づいた値が戻されます。

次の例では、展開されるセルで GetCell 関数が使用されています(列 A が、列「第 1 四半期」、「第 2 四半期」、「第 3 四半期」に、行 1 が行「東部」と行「西部」に展開します)。テキスト行 1 では、Column パラメータとして Current キーワードが、テキスト行 2 では、Column パラメータにハードコードされた値が使用されています。

名前	説明
	第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期
East、West	#
テキスト行 1	<<GetCell(cur, 1, cur, cur)>>
テキスト行 2	<<GetCell(current, 1, A, 1)>>

次の表に結果を示します。

名前	四半期	四半期	四半期
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期
East	5,120	4,502	7,304
West	3,405	2,300	4,462
テキスト行 1	5,120	4,502	7,304
テキスト行 2	5,120	5,120	5,120

- テキスト行 1 では、Current キーワードを列パラメータで使用しています。このキーワードは、展開される各セル(第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期)の現在の列で更新を実行します。また、Current キーワードがページ・パラメータで使用されているので、テキスト行 1 の値は、グリッドの現在のページに相当するページで更新されます。
- テキスト行 2 では、列パラメータ(A)にハードコードされた値を使用しています。この結果、すべての四半期に対して同じ値 5,120 が戻されます。列パラメータでのハードコードされた参照は、列値と行値の両方に一番左上の値を戻します。

次の表に、Current キーワードをサポートしているテキスト関数の例と使用法を示します。

表 34 Current キーワードをサポートするテキスト関数

テキスト関数	例
<pre data-bbox="159 436 909 504"><<DataSource("GridName.Axis[ID]" , InfoType e)>></pre> <p data-bbox="159 555 422 589">パラメータの適用対象:</p> <ul data-bbox="159 604 590 683" style="list-style-type: none"> ● GridName: すべてのセルでサポート ● InfoType: 適用なし 	<pre data-bbox="941 436 1388 504"><<DataSource(current, "server")>></pre> <p data-bbox="941 555 1412 589">注: 現在のグリッド名が使用されます。</p>
<pre data-bbox="295 745 829 779"><<GetCell("GridName", Row, Col, Page)>></pre> <p data-bbox="159 831 422 864">パラメータの適用対象:</p> <ul data-bbox="159 880 590 1048" style="list-style-type: none"> ● GridName: すべてのセルでサポート ● Row: すべてのセルでサポート ● Col: すべてのセルでサポート ● Page: すべてのセルでサポート 	<pre data-bbox="941 745 1404 813"><<GetCell(cur, 1, cur, current)>></pre> <pre data-bbox="941 898 1452 965"><<GetCell(cur, 1(3), cur, current)>></pre> <p data-bbox="941 1016 1468 1084">注: 行 1 の 3 番目の(展開された)行の値を表示します。</p> <pre data-bbox="941 1128 1404 1196"><<GetCell(cur, cur, A, current)>></pre> <pre data-bbox="941 1281 1452 1348"><<GetCell(cur, cur, A(B), current)>></pre> <p data-bbox="941 1400 1468 1467">注: 列 A の 2 番目の(展開された)列の値を表示します。</p>
<p data-bbox="159 1485 726 1518">データ行または列の見出しでは、次を使用します:</p> <pre data-bbox="295 1570 686 1603"><<MemberName("DimName")>></pre> <p data-bbox="159 1655 750 1688">データ以外の行や列の見出しでは、次を使用します:</p> <pre data-bbox="159 1740 766 1807"><<MemberName("GridName", Row/Col/ Page, "DimName")>></pre> <p data-bbox="159 1859 422 1892">パラメータの適用対象:</p> <ul data-bbox="159 1908 478 1942" style="list-style-type: none"> ● DimName: 見出しセルのみ 	<pre data-bbox="1077 1525 1420 1559"><<MemberName(current)>></pre> <pre data-bbox="941 1711 1292 1800"><<MemberName("current", Row/Col/Page , "current")>></pre> <p data-bbox="941 1859 1476 2004">注: 見出しセルがある次元に相当するデータ行、列、またはページのメンバー名を戻します。このパラメータは、<<MemberDimension>>関数で、グリッドのカスタム見出しを作成するために使用できます。</p>

テキスト関数	例
<p>データ行または列の見出しでは、次を使用します:</p> <p>Oracle Essbase の場合:</p> <pre data-bbox="347 349 751 376"><<MemberAlias("DimName")>></pre> <p>Financial Management の場合:</p> <p>注: 次の構文は、Oracle Fusion General Ledger 製品では使用できません。</p> <pre data-bbox="347 595 839 622"><<MemberDescription("DimName")>></pre> <pre data-bbox="347 712 735 739"><<MemberDesc("DimName")>></pre> <p>データ以外の行や列の見出しでは、次を使用します:</p> <pre data-bbox="209 882 831 936"><<MemberAlias("GridName", Row/Col/ Page, "DimName")>></pre> <p>パラメータの適用対象:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DimName: 見出しセルのみ 	<pre data-bbox="1129 271 1430 297"><<MemberAlias(cur)>></pre> <pre data-bbox="991 394 1517 448"><<MemberDescription(current)>></pre> <pre data-bbox="1129 544 1414 571"><<MemberDesc(cur)>></pre> <pre data-bbox="991 725 1342 819"><<MemberAlias("current", Row/Col/ Page, "current")>></pre> <p>注: 見出しセルがある次元に相当するデータ行、列、またはページの説明(HFM)または別名(Oracle Essbase)を戻します。このパラメータは、<<MemberName>>関数で、テキスト・ボックス・オブジェクト内のカスタマイズされたテキスト、グリッドのカスタム見出しを作成するために使用できます。</p>
<pre data-bbox="347 1155 730 1249"><<CalcStatus("GridName", Row, Col, Page)>></pre> <p>注: current キーワードを使用できるパラメータは太字でハイライトされます。</p>	<pre data-bbox="1129 1155 1485 1276"><<CellText("GridName", Row, Column, Page)>></pre> <pre data-bbox="1129 1373 1485 1494"><<CellText("GridName", Row, Column, Page, MemberOverride)>></pre>

テキスト関数	例
<pre data-bbox="300 253 671 344"><<GridDimension("GridName", "Axis", index)>></pre> <pre data-bbox="300 443 683 535"><<HFMCurrency("GridName", Row, Col, Page)>></pre> <p data-bbox="161 591 906 651">注： current キーワードを使用できるパラメータは太字でハイライトされます。</p>	<pre data-bbox="1082 253 1289 344"><<MemberAlias("DimName")>></pre> <pre data-bbox="1082 443 1374 797"><<MemberAlias(" GridName ", " DimName ")>> <<MemberAlias(" GridName ", Row Col Page , " DimName ")>></pre> <pre data-bbox="1082 896 1289 987"><<MemberDesc(" DimName ")>></pre> <pre data-bbox="1082 1086 1289 1234"><<MemberDesc(" GridName ", " DimName ")>></pre> <pre data-bbox="1082 1332 1289 1559"><<MemberDesc(" GridName ", Row Col Page , " DimName ")>></pre> <pre data-bbox="1082 1657 1289 1738"><<MemberName(" DimName ")>></pre> <pre data-bbox="1082 1836 1289 1995"><<MemberName(" GridName ", " DimName ")>></pre>


```
<<MemberName ("
GridName
",
Row | Col | Page
, "
DimName
")>>
```

```
<<MemberQualifiedName ("
DimName
")>>
```

```
<<MemberQualifiedName ("
GridName
", "
DimName
")>>
```

```
<<MemberQualifiedName ("
GridName
",
Row | Col | Page
, "
DimName
")>>
```

```
<<MemberProperty (
DimensionName
, Property)>>
```

```
<<MemberProperty ("
GridName
",
DimensionName
, Property)>>
```

```
<<MemberProperty ("
GridName
",
Row | Col | Page
,
DimensionName
, Property)>>
```

テキスト関数	例
	<p>注： 次の値は、Oracle Fusion General Ledger では使用できません。</p> <pre data-bbox="1082 320 1422 607"> <<PlanningAnnotations(" GridName ", Row , Column , Page , Attributes)>> </pre> <pre data-bbox="1082 703 1422 990"> <<PlanningAnnotations(" GridName ", Row , Column , Page , Attributes, Range)>> </pre>
<pre data-bbox="300 1095 695 1382"> <<ProcessManagementStatus(" GridName ", Row , Column , Page)>> </pre> <p>注： current キーワードを使用できるパラメータは太字でハイライトされます。</p>	
<pre data-bbox="300 1570 636 1659"> <<ListOfCellDocuments(" GridName ", Information)>> </pre> <p>注： current キーワードを使用できるパラメータは太字でハイライトされます。</p>	

テキスト関数	例
<pre data-bbox="300 253 963 282"><<GridDimension("GridName" , " Axis" , Index)>></pre> <p data-bbox="209 338 344 367">パラメータ:</p> <ul data-bbox="209 389 639 506" style="list-style-type: none"> ● GridName: すべてのセルでサポート ● Axis: 見出しセルのみ ● Index: 見出しセルのみ 	<pre data-bbox="1123 253 1517 315"><<GridDimension(cur, "Page", 1)>></pre> <pre data-bbox="1123 405 1517 468"><<GridDimension(cur, cur, cur)>></pre> <p data-bbox="991 524 1522 584">注: 見出しセルに対応する次元名が表示されます。</p>
<pre data-bbox="325 645 963 674"><<GetHeading("GridName" , Page, Ref, Offset)>></pre> <pre data-bbox="225 763 852 826"><<GetHeading("GridName" , Page, Ref, "Delim")>></pre> <p data-bbox="209 882 472 911">パラメータの適用対象:</p> <ul data-bbox="209 934 959 1171" style="list-style-type: none"> ● GridName: すべてのセルでサポート ● Page: すべてのセルでサポート ● Ref: すべてのセルでサポートされているが、見出しセルでは使用できない* ● Offset: 見出しセルのみ ● Delim: 適用なし 	<pre data-bbox="995 645 1501 707"><<GetHeading(cur, cur, A, " - ")>></pre> <pre data-bbox="995 797 1501 860"><<GetHeading(cur, cur, 1, " - ")>></pre> <p data-bbox="991 916 1522 976">注: 上の例では、現在のページの列 A と行 1 のすべての見出しが表示されます。</p> <pre data-bbox="995 1021 1501 1084"><<GetHeading(cur, cur, A, cur)>></pre> <p data-bbox="991 1140 1522 1200">注: 式を含む見出しセルの位置に対応する次元の列 A の見出しが表示されます。</p> <pre data-bbox="995 1256 1453 1319"><<GetHeading(cur, cur, cur, " - ")>></pre> <p data-bbox="991 1375 1522 1525">注: 行のテキスト・セルで使用した場合、現在の列にあるすべての見出しが「-」で区切られて戻されます。この結果を使用すると、手動で改ページを実行した場合に、列見出しを繰り返すことができます。</p>

*参照パラメータでの Current キーワードの使用には制限があります。GetHeading 関数がカスタム見出しとして行または列に挿入されている場合には、Current キーワードは使用できません。これは、循環参照が生成されるためです。Current キーワードは、グリッドの見出し領域にないテキスト行またはテキスト列の一部であるセル内の 3 番目のパラメータとして使用できます。たとえば、行 3 がテキスト行であるセル A3 で式<<GetHeading(cur,cur,cur,1)>>を追加すると、列 A の最初の見出しが戻されます。GetHeading 関数は、見出しセル内で使用できます。しかし、参照パラメータには Current キーワードは使用できません。たとえば、列 B の見出しセル内に<<GetHeading(cur, cur, A, cur)>>を入力すると、列 A の見出しが戻されます。

関数一覧

Abs

Abs は、数値、行、列、またはセルの絶対値を戻す算術関数です。数値の絶対値は、負の符号のない数値です。正数が正数のまま維持される一方、負数は正数に変化します。関数の構文は、次のとおりです:

Abs

```
(  
argument  
)
```

ここで、argument は、次のいずれかです:

引数	説明
数値	数値。たとえば、Abs (-20) は、値 20 を戻します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement [segment (range)].Property です。 この構文の定義は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例:

次の式は、引数に数値を取り、30 という値を戻します。

```
Abs ( -30 )
```

次の例は、行 1 の値の絶対値を戻します。

```
Abs (row[1])
```

次の例は、列 E の合計の絶対値を戻します。

```
Abs ( column[E].sum )
```

次の例は、グリッド 1 のセグメント 3 の展開された行 1-3 を参照します。

```
Abs ( Grid1.row[3(1:3)])
```

Annotation

Annotation は、グリッド・オブジェクト内の注釈について要求された情報を戻します。注釈のどの情報を戻すかを定義できます。構文は、次のとおりです。

- <<Annotation("GridName" , Row, Col, Page, Attributes, Reference, Attachments)>>
- <<Annotation("GridName" , Row, Col, Page)>>
- <<Annotation("GridName" , Row, Col, Page, Attributes)>>
- <<Annotation("GridName" , Row, Col, Page, Attributes, Reference)>>
- <<Annotation("GridName" , Row, Col, Page, Attributes, Attachments)>>
- <Annotation("GridName" , AllRows, AllCols, Page, Attributes, Attachments)>>

この場合:

- GridName は、注釈のあるグリッドの名前です。グリッドのテキスト・セルまたはカスタム見出しに属性が使用されている場合、current キーワードの使用がサポートされています。
- Row は、グリッド上の行番号です。グリッドのテキスト・セルまたはカスタム見出しに属性が使用されている場合、current キーワードの使用がサポートされています。

注： すべての行を選択するには、"row"をキーワード"AllRows"で置き換えます。

- Col は、グリッドの列の参照(文字)です。グリッドのテキスト・セルまたはカスタム見出しに属性が使用されている場合、current キーワードの使用がサポートされています。

注： すべての列を選択するには、"Col"をキーワード"AllCols"で置き換えます。

- Page は、グリッド内のページ番号です。グリッドのテキスト・セルまたはカスタム見出しに属性が使用されている場合、current キーワードの使用がサポートされています。
- Attributes (オプション)は、注釈から戻す情報を指定します。キーワード「All」(デフォルト値)またはキーワード Title & Description & Author & Date & Category のいずれか、またはその組合せを取ります。属性のキーワードの出力順序は自由に設定できます。各属性は、アンパサンド(&)で区切る必要があります。
- Reference (オプション)は、どの注釈を戻すかを示す次のキーワードです。
 - All (デフォルト)は、最初の注釈とすべての結果を戻します。
 - Top <n>は、最初の注釈と最初の<n>個の結果を戻します。

- Bottom <n>は、最初の注釈と最後の<n>個の結果を戻します。最初の注釈は常に表示されるので、個数<n>には、最初の注釈は含まれません。
- BottomOnly <n>は、最後の<n>個の結果を戻します。最初の注釈は、<n>が4以下の場合に表示されますが、<n>が5以上の場合には表示されません。
- First は、最初の注釈のみを戻します。
- Replies は、すべての結果を戻します。最初の注釈は表示されません。
- Attachments (オプション)は、ブール(true/false)値です。この値は、注釈に関連付けられた添付ファイルをレポートとともに印刷するかどうかを次のように示します。
 - True の場合は、レポートの最後に添付ファイルを印刷します。
 - False の場合は、添付ファイルを印刷しません。

「例」

次に、有効な Annotation 関数の例を示します。

- <<Annotation("Grid1", cur, A, cur, All, All, true)>>
- <<Annotation("Grid1", cur, A, cur, Title & Description & Author & Date & Category, Top 10, true)>>
- <<Annotation("Grid10", 284, AB, cur, Title & Description & Date & Category, Bottom 10, false)>>
- <<Annotation("Grid1", cur, A, cur, Title & Description & Author, BottomOnly 4, false)>>
- <<Annotation("Grid Name", 1, A, 1, All)>>
- <<Annotation("Grid Name","AllRows", "AllCols", 1, All)>>
- <<Annotation("Grid Name", 1, A, 1, All, First)>>
- <<Annotation("Grid Name", 1, cur, cur, All, Replies)>>
- <<Annotation("Grid Name", 1, cur, cur)>>
- <<Annotation("Grid Name", 1, cur, cur, Desc, Replies)>>
- <<Annotation(cur, cur, A, cur, Desc)>>
- <<Annotation(cur, 3, ABC, cur, title & Desc, true)>>
- <<Annotation("folder1\folder2\Grid2", 3, A, cur, Title & Description, true)>>
- <<Annotation("current", 294, AB, cur, Title & Description, Top 19)>>
- <<Annotation(current, 39, AB, cur, Title & Description & Author, Bottom 40)>>

Average

Average は、数値、行、列またはセルの集合の平均を戻す算術関数です。Average では、平均を求めるときに#Missing および#Error のセルは除外されます。

注： 欠落している値は、その値が抑制されるかされないかにかかわらず計算には含まれません。

関数の構文は、次のとおりです。

```
Average(arguments) or Avg(arguments)
```

この場合、arguments は次の 1 つまたは複数の値です:

引数	説明
数値	数値。たとえば、Average(10, 20, 30)は、値 20 を戻します。数値には、小数と負数も使用できます。数値の詳細は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。 この構文の定義は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。 たとえば、Avg(Grid1.row[4(3:5)])は、グリッド 1、行セグメント 4、3 から 5 までの範囲の平均値を戻します。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例:

次の式は、20 という値を戻します。

```
Avg( 10, 30, 20)
```

次の例は、3 つの集約行に含まれるすべての数値の平均を戻します。

```
Average( row[1], row[6], row[8] )
```

次の例では、3 つの集約列 E、G、I の平均値を求めます。まず、各列の平均値を求め、その 3 つの値を平均します。

```
Avg(column[E].avg, column[G].avg, column[I].avg)
```

次の例は、現在のグリッドの E とグリッド 2 の E の 2 つの列の平均を計算します。この計算には、すべての展開される列が含まれます。

```
Avg( column[E], grid2.column[E] )
```

次の例は、集約行 3 の平均値を求め、その値を 100 で割ります。

```
Avg(row[3])/100
```

AverageA

AverageA は、数値、行、列またはセルの集合の平均を返す算術関数です。AverageA の計算には、#Missing および#Error のセルも含まれます。これらのセルは、平均を求める際にゼロ値として処理されます。

注： #Missing のセルと#Error のセルは、抑制されていない行または列にある場合にのみ、計算に含まれます。

関数の構文は、次のとおりです：

```
AverageA(arguments  
)  
or  
AvgA(  
arguments  
)
```

この場合、arguments は、次の 1 つ以上の引数を取ります：

引数	説明
数値	数値。たとえば、AverageA(10, 20, 30)は、値 20 を返します。数値には、小数と負数も使用できません。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は次のとおりです：GridName.GridElement[segment(range)].Property この構文の定義は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。 たとえば、AvgA(Grid1.row[4(3:5)])は、グリッド 1、行セグメント 4、3 から 5 までの範囲の平均値を返します。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例

次の例では、グリッドに値 10、20、30、および#Error のある 4 つの行があります。5 行目に次の式がある場合、この 5 行目の式は値 15 を返します：

```
AverageA([1:4])
```


CalcStatus

CalcStatus は、Financial Management データベース接続でセルの算出ステータスを戻すテキスト関数です。CalcStatus 関数は、レポート・ヘッダー、行および列で使用できます。

関数の構文は、次のとおりです。

```
<<CalcStatus(  
"  
GridName  
",  
Row  
,  
Col  
,  
Page  
)>>
```

引数	説明
GridName	Financial Management のグリッドの名前。この値は、引用符で囲まれている必要があります。
Row	グリッド内の行番号を表す数値。グリッド内の最初の行のインデックスは 1、2 番目の行のインデックスは 2、これ以降同様に続きます。
Col	グリッドの列 ID を示す文字。最初の列 ID が A、2 番目の列 ID が B、以降、順番に続きます。
Page	グリッドのページ次元インデックスを表す数値。グリッド内の最初のページ次元のインデックスは 1、2 番目のページ次元のインデックスは 2、以降、同様に続きます。

次の算出ステータス値が Financial Management から戻されます。

- OK
- OK - データなし
- OK - システムの変更
- 計算のサブルーチンが必要
- 換算が必要
- 連結が必要
- 連結が必要 - データなし
- ロック済

例

次の構文は、グリッド 1 のページ 1 の行 21、列 B のセルの算出ステータスを表示します。

```
<<CalcStatus("Grid1",21,B,1)>>
```

注： この関数は、Current キーワードをサポートしています。詳細と例は、228 ページの「[Current\(Cur\)キーワード](#)」を参照してください。

CellText

CellText は、次のデータベース接続からテキスト・コンテンツを取得するテキスト関数です。

- Financial Management のセル。
- Planning のセルの注釈。
- Oracle Essbase セルのリンク・レポート・オブジェクト(LRO) (CellText は、セル・ノート LRO のみに適用されます)。詳細は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

行、列、およびページ引数で、グリッド内の、リンクされたテキストまたはノートを含む交差を示します。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<CellText  
("GridName", Row, Column, Page  
)>>
```

CellText 関数のもう 1 つの特徴は、グリッドにセルが存在しない場合に、グリッドの通常の POV でメンバー選択を上書きできることです。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<CellText (" GridName", Row, Column, Page, MembeOverride)>>
```

詳細は、243 ページの「[CellText 関数と MemberOverride](#)」を参照してください。

引数	説明
GridName	グリッドの名前。この値は、引用符で囲まれている必要があります。
Row	グリッド内の行番号を表す数値。グリッド内の最初の行のインデックスは 1、2 番目の行のインデックスは 2、これ以降同様に続きます。
Column	グリッドの列を示す文字。グリッド内の最初の列がインデックス A、2 番目の列がインデックス B、以降、順番に続きます。
Page	グリッドのページ次元インデックスを表す数値。グリッド内の最初のページ次元のインデックスは 1、2 番目のページ次元のインデックスは 2、以降、同様に続きます。
MemberOverride	次元の文字列で、CellText POV を上書きするために使用されるメンバー選択に対応します。詳細は、243 ページの「 CellText 関数と MemberOverride 」を参照してください。
AllRows/AllCols	すべての行または列の参照を許可するキーワードです。

注： 行または列のパラメータが展開するセグメントを参照している場合は、一番左上の展開されたセルが使用されます。範囲の表記法を使用すると、任意の展開されるセルが参照できます。

例

グリッド内の特定のセルにリンクされたテキストを表示する必要があります。そのためには、まずレポートを実行し、「ファイル」、「Web プレビュー」の順に選択して表示します。グリッド名、選択されているページ次元、実行時の列と行を確認してください。

次の例は、最初のページ次元にあり、グリッドの行 21、列 B のセルにあるリンク・テキストのあるレポートを示しています。構文は、次のとおりです。

```
Note re: allocation for Y2002 <<CellText("mygrid",21,B,1)>>.
```

ヒント： 実行時の行と列を表示するには、「表示」、「Web プレビューの行と列のヘッダー」の順に選択し、「Web プレビュー」ボタンをクリックして、レポートをプレビューします。

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、Current キーワードのみをサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

AllRows/AllCols キーワードを使用した CellText 関数

- <<CellText("Grid1",3,AllCols,1)>>: ページ 1、行 3 にある任意の列のセル・テキストが含まれます。
- <<CellText("Grid1",Curr,Allcols,1)>>: ページ 1 の現在行(Curr)にある任意の列のセル・テキストが含まれます。
- <<CellText("Grid1",Curr,Allcols,Curr)>>: 現在のページの現在行(Curr)にある任意の列のセル・テキストが含まれます。
- <<CellText("Grid1",AllRows,C,1)>>: ページ 1、列 C の任意の行のセル・テキストが含まれます。
- <<CellText("Grid1",AllRows,Allcols,2)>>: ページ 2 にある任意のセルのセル・テキストが含まれます。任意のセルは、AllRows/AllCols が行と列の両方に指定されているため、任意の行/列を意味します。
- <<CellText("Grid1", AllRows, Allcols, Curr)>>: 現在のページにある任意のセルのセル・テキストが含まれます。

CellText 関数と MemberOverride

MemberOverride パラメータは、1 つ以上の次元で構成されます。フォーマットは、次のとおりです。

```
DimensionName = MemberName, DimensionName = MemberName
```

この場合:

DimensionName は、上書きする次元の名前です。

MemberName は、次元の上書きするメンバーの名前です。

次に、メンバーの上書きを指定する場合のガイドラインを説明します。

- 複数のメンバーの上書きを指定する場合は、次の例のように、各メンバーと次元を二重引用符(" ")で囲み、次元とメンバーの対をカンマ(,)またはセミコロンの(;)で区切ります。

```
"Entity"="Acme", "Period"="Q1"
```

- 1つのメンバーの上書きを指定する場合、区切り文字は必要ありません。
- 次元名とメンバー名に; , = () < >などの文字が使用されている場合は、名前全体を二重引用符(" ")で囲む必要があります。
- 1つのメンバーの上書きで、パラメータを二重引用符(" ")で囲むこともできます。たとえば、次のメンバーを上書きするステートメントで使用すると CellText 関数が適切に評価されます。

```
"Scenario=Budget"
```

次の表に、CellText 関数で MemberOverride パラメータを使用する例を示します。

表 35 MemberOverride パラメータの使用例

例	説明
<<CellText(cur, cur, A, cur)>>	元の構文を使用し、次元の上書きはありません。
<<CellText(cur, cur, A, cur, Scenario=Budget)>>	新しい構文を使用し、1つの次元を上書きします。
<<CellText("Grid Name", 1, A, current, Value = "Entity Currency")>>	メンバー名を二重引用符で囲んで、1つの次元の上書き
<<CellText("Grid Name", 1, A, cur, Value = Entity Currency)>>	メンバー名(スペースを含む)を二重引用符を使用しない
<<CellText("Grid Name", 1, A, cur, "Value=\$USD" = Entity Currency)>>	等号を含む次元名を二重引用符で囲む
<<CellText(Grid1, 1, cur, cur, Value = Entity Currency, Scenario=Actual)>>	カンマ区切りによる、2つの次元の上書き

例	説明
<pre><<CellText(Grid1, 1, cur, cur, Value = Entity Currency; Scenario=Actual)>></pre>	セミコロン区切りによる、2つの次元の上書き
<pre><<CellText("Current", 34, BB, cur, "Value"= Entity Currency, Scenario=Actual; Period = Qtr3)>></pre>	カンマおよびセミコロン区切りによる、3つの次元の上書き
<pre><<CellText(cur, 1(3), A(B), cur, 300 = ABC , "Americas, Value=(in \$USD);" = "Entity Currency (USD)" , Scenario=Actual)>></pre>	4つの次元の上書き

LabeledCellText

「LabeledCellText」は、Financial Management データベース接続から ADM ドライバを介してテキスト・コンテンツを取得します。

構文:

```
LabledCellText( "GridName" , Row, Column, Page, "Label" ,
[Attachments], [MemberOverride])
```

この場合:

- GridName - グリッドの名前。この値は、引用符で囲まれている必要があります。
- Row: - グリッドの行番号を表す数値。グリッド内の最初の行のインデックスは 1、2 番目の行のインデックスは 2、これ以降同様に続きます。ALLROWS キーワードと CUR キーワードがサポートされています。
- Column または Col: - グリッドの列を表す文字。グリッド内の最初の列がインデックス A、2 番目の列がインデックス B、以降、順番に続きます。ALLCOLS キーワードと CUR キーワードがサポートされています。
- Page: - グリッドのページ次元インデックスを表す数値。グリッド内の最初のページ次元のインデックスは 1、2 番目のページ次元のインデックスは 2、以降、同様に続きます。
- Label: - 目的のセル・テキスト(およびオプションで添付ファイル)に対応する Financial Management セル・ラベルを指定します。この値は、引用符で囲まれている必要があります。
- Attachments: - (オプション)セル・テキストに関連付けられた添付ファイルを取得するかどうかを示す TRUE 値または FALSE 値。
- MemberOverride: - (オプション)アクティブな POV を上書きする次元とそれに対応するメンバー選択のカンマで区切られた文字列。詳細は、CellText 関数と MemberOverride に関する項を参照してください。

例:

```
LabeledCellText("Grid1", CUR, A, 1, "MATURITYDATE")
```

```
LabeledCellText("Grid1", 3, CUR, 1, "RATING", TRUE)
```

```
LabeledCellText("Grid1", 3, CUR, 1, "RATING", TRUE, Year=Quarter1)
```

Count

Count は、数値、行、列またはセルの集合にある値の個数を戻す算術関数です。Count では、個数の取得時に#Missing 値および#Error 値は除外されます。関数の構文は、次のとおりです:

```
Count (arguments)
```

この場合、arguments は、次の 1 つ以上の引数を取ります:

引数	説明
数値	数値。たとえば、Count (10, 20, 30)は、値 3 を戻します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例:

次の例は、3 つの行 1、6、8 にある値の個数を戻します。

```
Count(row[1], row[6], row[8])
```

次の例は、3 つの列にある値の個数を戻します。

```
Count( column[E], column[G], column[I] )
```

次の例は、異なるグリッドにある 2 つの列の値の個数を戻します。

```
Count( grid1.column[E], grid2.column[E] )
```

次の例は、行 4 と列 D が交差するセルにある値の個数を戻します。

```
Count(cell[D,4])
```

次の例は、グリッド 5 の集約行 3 にある値の個数を戻します。

```
Count(grid5.row[3])
```

CountA

CountA は、数値、行、列またはセルの集合内の値の個数を戻す算術関数です。個数の取得時には、CountA では、抑制されていない行または列の#Missing セルおよび#Error セル内の値のみの個数を戻します。関数の構文は、次のとおりです:

```
CountA(  
arguments  
)
```

この場合、arguments は、次の 1 つ以上の引数を取ります:

引数	説明
数値	数値。たとえば、CountA(10,20,30,50) は、値 4 を戻します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、CountA(GridName.GridElement[segment(range)]).property です。詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例

次の例では、グリッドに値 10、20、30、および#Error のある 4 つの行があります。5 行目にある次の式は、これらの 4 行にある値の個数を戻します:

```
CountA([1:4])
```

次の例は、4 つの行にある値の個数を戻します。

```
CountA(row[1], row[6], row[8] row[where data yields  
#error  
])
```

DataSource

DataSource は、サーバー名、アプリケーション名、データベース、またはグリッドの別名テーブル名を戻すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。関数の構文は、次のとおりです:

```
<<DataSource ("
```

```

GridName
.
Axis [ID]
" ,
Inf
o
Type
)>>

```

引数	説明
GridName	レポート内の任意のグリッド。引用符で囲みます。必須。
Axis[]	<p>グリッドのデザイン・セグメントへのポインタ。軸は、大文字と小文字を区別しないキーワード row、col、column を取ります。次に例を示します。</p> <pre><<DataSource("Grid1.Row[1]",DB)>></pre> <p>行軸を参照します。</p> <p>オプション。この値がない場合には、グリッドのデフォルトの情報が戻されます。グリッドに複数のデータベース接続がある場合に軸[ID]を使用します。</p>
ID	<p>データベース接続情報を取得する場所を示す設計時、行番号または列文字を示します。ID が、無効または存在しない行 ID または列 ID を示している場合は、グリッドのデフォルトの設定が使用されます。また、グリッドにセカンダリ・データベース接続がない場合にも、グリッドのデフォルト設定が使用されます。次に例を示します。</p> <pre><<DataSource("Grid1.Col[A]",DB)>></pre> <p>列 A を参照しています。軸を使用する場合は、ID が必要です。</p>
InfoType	<p>次のキーワードのいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Server: サーバー名を戻します。 ● App: アプリケーション名を戻します。 ● DB: データベース名を戻します。 ● Alias: 別名テーブル名を戻します。別名を戻すには、グリッドの別名テーブルが使用可能になっている必要があります。デフォルトでは、別名テーブルは使用不可です。 ● Name: 指定されたグリッドに関連付けられているデータベース接続名を戻します。 <p>必須。</p>

注： どの引数も、大文字と小文字は区別されません。

例 1:

次の例では、DataSource 関数を使用して、データソース情報をレポートに挿入しています。

```
This report uses the <<DataSource("Grid1" , App)>>
```



```
with the <<DataSource("Grid1" ,DB)>> database

located on the <<DataSource("Grid1" ,Server)>> server

and uses the <<DataSource("Grid1" , Alias)>> alias table.
```

例 2:

次の例では、関数を挿入した見出しのデータ・ソースのデータベース名を表示します。

```
<<DataSource(cur, DB)>>
```

注： この関数は、**Current** キーワードをサポートしています。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

Date

Date は、オンライン・レポートにデータが挿入された日付と時刻、またはスナップショット・レポートが保存された日付と時刻を戻すテキスト関数です。これらの日付と時刻は、レポート・サーバーから取得され、レポート・サーバーがある国の日付と時刻に対応します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<Date (
  "format" , " TimeZoneId"
)>>
```

- ここで、**format (オプション)**は、デフォルトで日付/時刻のユーザー・プリファレンスに設定されます。有効な値は、`JavaSimpleDateFormat`、`user` または `empty ("user")` で使用される値です。
 - `user` は、EPM Workspace のプリファレンスに指定されているデフォルトの日付です。
- **TimeZoneId (オプション)**は、デフォルトでタイムゾーンのユーザー・プリファレンスに設定されます。有効な値は、Java の `TimeZone.getTimeZone()`、`user` または `server` で使用される値です。たとえば、`TimeZone.getTimeZone()` の場合、東海岸を指定するには次のように入力します: `"America/New_York"`。
 - `user` は、EPM Workspace のプリファレンスに指定されているデフォルトの日付です。
 - `server` は、サーバーのタイムゾーンです。

注： TimeZoneId パラメータを使用している場合は、format パラメータを引用符で囲む必要があります。これは、TimeZoneId が示されている場合にのみ適用します。TimeZoneId を増加させる前の既存レポートを更新する必要はありません。

次の表に、日付と時刻のフォーマットの文字をすべて示します。

注： 日付と時刻のフォーマットを指定する文字では、大文字と小文字が区別されます。

表 36 日付と時刻のフォーマット用の文字

フォーマット用の文字	意味	データ型	例
G	紀元	テキスト	AD
M	月	テキストまたは数値	7月の場合、Mでは7、MMでは07、MMMではJul、MMMMではJulyと表示されます。
d	日	数値	10
h	時(午前/午後 1-12 時)	数値	11
H	時(0-23 時)	数値	22
m	分	数値	30
s	秒	数値	25
S	ミリ秒	数値	978
E	曜日	テキスト	E: Tue EE: Tuesday
D	元旦から数えた日数	数値	189
F	月の初めから数えた曜日	数値	<<Date("dd-MMM-yy" は'MMM'の"第'F E')>>は、次のような値を戻します。 24-Dec-02 は Dec の第 4 Tue
w	元旦から数えた週の数	数値	27
W	月の初めから数えた週	数値	2
a	午前または午後	テキスト	PM
k	時(1-24 時)	数値	23
K	時(午前/午後 0-11 時)	数値	午後 3 時 37 分の場合は、3 を戻します。
z	タイム・ゾーン	テキスト	太平洋標準時
y	年	数値	2002,02
'	リテラル・テキスト	テキスト	<<Date("yyyy'年の'D'日目")>>は、「2002 年の 105 日目」となります。

フォーマット用の文字	意味	データ型	例
''	2つ続けた一重引用符で、1つの一重引用符を示す	テキスト	<p><<Date("k:mm 'O'Clock' a")>>は、「6:15 O'Clock PM」となります。</p> <p>注： O'Clockのように、一重引用符やアポストロフィを表示するには、一重引用符を2つ続けて使用します(O"Clock)。</p>

フォーマット用の文字の個数によって、正確なフォーマットが決まります。

- テキストでは、パターンを示す文字が4文字未満の場合は、短縮形または略号を使用することを意味します。
- 4文字以上は、完全な形式を使用することを意味します。
- MとMMは、月の数字を使用することを意味します。
- MMMは、月の3文字の短縮形(英語)を使用することを意味します。
- MMMMは、月の完全な名前(英語)を使用することを意味します。

たとえば、4月24日の場合は、次のようになります。

<<Date("dd-M-yy")>>は、24-4-02となります。

<<Date("dd-MM-yy")>>は、24-04-02となります。

<<Date("dd-MMM-yy")>>は、24-Apr-02となります。

<<Date("dd-MMMM-yy")>>は、24-April-02となります。

数字の場合は、数字のパターンを示す文字の個数は最小の桁数を示します。それより桁数の短い数字には足りない桁にゼロが挿入されます。年は特別な例です。"yy"では年数の最後の2桁が表示され、"yyyy"では4桁で年が表示されます。

たとえば、2月の場合は、次のように表示されます。

<<Date("MM-yyyy")>>は、02-2002となります。

すべて大文字で示されたアルファベット、またはすべて小文字で示されたアルファベットは、フォーマット用の特別な文字であるかどうかにかかわらず、パターンとしてみなされます。

リテラル・テキストを挿入する場合は、一重引用符で囲む必要があります。一重引用符(アポストロフィ)をリテラル・テキストで使用する場合は、テキスト全体を一重引用符で囲んだ上で、アポストロフィのかわりに一重引用符を2つ続けて使用します。

たとえば、4 o'clock と出力するためのフォーマットは、次のとおりです。

```
<<Date("hh 'o''clock' ")>>
```

例:

次の表に、一般的な日付と時刻のフォーマットのオプションをいくつか示します。テキストが使用できるレポート内の場所にこれらの文字列を挿入できます。

日付フォーマット	結果
<<Date("d/M/yy")>>	23/3/02
<<Date("d-MMM-yy")>>	23-Mar-02
<<Date("EEEE, MMMM dd, yyyy")>>	Tuesday, March 23, 2002
<<Date("h:mm:ss a")>>	12:52:05 PM
<<Date("h:mm:ss a zzzz")>>	12:52:05 PM 東部標準時
<<Date("EEEE, MMMM dd, yyyy G '時刻:' h:mm:ss a zzzz")>>	Tuesday, March 23, 2002 AD 時刻: 12:52:05 PM 東部標準時
<<Date("hh 'o'clock' a, zzzz")>>	12 O' Clock PM, 東部標準時 注： テキスト内に1つの一重引用符が表示されるようにするには、一重引用符を2つ続けて入力する必要があります。

Difference

Difference は、数値、行または列から別の数値、行または列を減算した差異の絶対値を返す算術関数です。この関数は、Variance とも呼ばれます。関数の構文は、次のとおりです:

Difference(引数 1, 引数 2)

ここで、引数 2 は、引数 1 から減算されます。これらの引数は、次の 1 つ以上の値を取ります。

引数	説明
数値	数値。たとえば、Difference (3, 5) は、絶対値 2 を返します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列または参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。 詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。 次の例は、グリッド 1 の行とグリッド 2 の行の差を返します。 Difference(grid1.row[1], grid2.row[6])
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

注： Difference 関数は、引数 2 から引数 1 を差し引いた値の絶対値を返します。引数のマイナス符号は、負数を示します。

例:

次の例は、絶対値 8 を返します。

```
Difference(3, -5)
```

次の例は、2つの集約列の差を戻します。

```
Difference( column[E], column[G] )
```

次の例は、グリッド1の列とグリッド2の列の差を戻します。

```
Difference(grid1.column[E], grid2.column[E])
```

注： テキスト・ラベルには、"Difference"と"Variance"のいずれでも入力できます。

Eval

Eval は、式を評価する算術関数です。Eval を埋込み関数の引数として使用して1つの式に複数の式を結合できます。関数の構文は、次のとおりです：

Eval(式)

この場合、expression は、次の引数の1つ以上を使用して表されます：

引数	説明
数値	数値。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列または参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、 <code>GridName.GridElement[segment(range)].Property</code> です。 詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。
演算子	サポートされている算術演算子(+、-、*、/、^、%など)。

例

次の例は、行1を行2で割り、その値を4桁に四捨五入します。

```
Round(Eval([1]/[2]),4)
```

Footnote

Footnote テキスト関数。テキスト・オブジェクトでのみ使用できます。特定のレポート・オブジェクト内の脚注に関して要求された情報を戻します。この関数は、指定されたオブジェクトにある任意の脚注、または、最初のパラメータが"all"に設定されている場合、レポート内のすべてのオブジェクトを出力します。グリッドが参照されている場合、そのグリッド上のすべての脚注が出力されます。まず、部分的な POV 脚注が出力され(各脚注ごとに一度)、続いて、完全な POV 脚注が出力されます。完全な POV 脚注は、ページごとに左上から右下の順序でセルの位置に基づいて出力されます。複数の構文がサポートされています。

関数の構文は、次のとおりです。

Footnote("ObjectName" , Attributes, Reference, Attachments)

Footnote("ObjectName")

Footnote("ObjectName" , Attributes)

Footnote("ObjectName" , Attributes, Reference)

Footnote("ObjectName" , Attributes, Attachments)

引数	説明
ObjectName	脚注のあるレポート・オブジェクトの名前。all が使用されている場合、この関数は、レポート内のすべてのオブジェクトにあるすべての脚注を戻します。ObjectName パラメータは、グリッド・オブジェクトの名前の変更時に更新されます。
Attributes (オプション)	脚注から戻される情報を指定します。属性には、次のキーワードを含めることができます。 <ul style="list-style-type: none">● All (デフォルト値)● Title & Description (Desc) & Author & Date & Category の属性キーワードのいずれかまたは複数の組合せ。 これらの属性キーワードは、出力の優先順位で並べ替えることもできます。各属性は、アンパサンド(&)で区切られている必要があります。
Reference	どの注釈を戻すかを指定します。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">● All (デフォルト値) - 最初の注釈とすべての応答を表示します。● Top <n> - 最初の注釈と最初の応答を表示します。最初の注釈は常に表示されるので、n 個の注釈に最初の注釈は含まれません。● Bottom - 最初の注釈と Bottom <n> で指定された最終の番号の応答を表示します。最初の注釈は常に表示されるので、Bottom の数値に最初の注釈は含まれません。● BottomOnly <n> - 最後の応答のみを表示します。BottomOnly <n> の n で指定された個数より応答数が少ない場合以外、最初の注釈は表示されません。たとえば、注釈に 5 つの応答がある場合、BottomOnly 5 で最初の注釈は表示されません。ただし、注釈が 4 つの場合は、最初の注釈が表示されます。● First は、最初の注釈のみを表示します。● Replies は、最初の注釈を除くすべての応答を表示します。
Attachments (オプション)	次のように、添付ファイルを脚注とともに出力するかどうかを示すブール(true/false)値。 <ul style="list-style-type: none">● True - 添付ファイルは、レポート出力時にその末尾に出力されます。● False (デフォルト値) - 添付ファイルは出力されません。

例

```
<<Footnote("Grid1", All, All, true)>>
```

```
<<Footnote(All, All, All, true)>>
```

```
<<Footnote(All, All, Bottom 2, true)>>
```

```
<<Footnote(All, All, BottomOnly 20, true)>>
```

```
<<Footnote(All, All, First, true)>>
```

```
<<Footnote(All, All, Replies, true)>>
```

```

<<Footnote("Grid1", Title & Description & Author & Date & Category, All, true)>>
<<Footnote("Text1", Title & Description & Date & Category, Top 10, false)>>
<<Footnote("Image1", Title & Description & Author, Bottom 4, false)>>
<<Footnote("Text1", Title&Description&Author, BottomOnly 12)>>
<<Footnote("Image1", Title&Description&Author, First)>>
<<Footnote("Grid2", Title&Description&Author, Replies)>>
<<Footnote("Grid Name")>>
<<Footnote(all, All)>>
<<Footnote(cur, Description)>>
<<Footnote(cur, title & Description, true)>>
<<Footnote(cur, title & Author & Description, false)>>
<<Footnote("folder1\folder 2\Grid1", title & Description&Category, Top20)>>
<<Footnote("folder1\folder 2\Grid1", title & Description&Category, Bottom 2)>>
<<Footnote("folder1\folder 2\Chart2", title & Description, Top 20, False)>>
<<Footnote("current", title & Description, All)>>
<<Footnote("current", title & Description, first)>>
<<Footnote(All, Title&Description&author, Top 40, true)>>

```

GetCell

GetCell は、グリッドのデータ値を戻すテキスト関数です。行、列およびページの引数でグリッドを示します。

注： Planning を含むセルを参照する場合は、GetCell は数値のかわりに文字列値を戻します。

関数の構文は、次のとおりです：

```
<<GetCell("GridName", Row, Column, Page)>>
```

引数	説明
GridName	グリッドの名前または Current キーワード。
Row	グリッド内の行番号を表す数値。グリッド内の最初の行がインデックス 1、2 番目の行がインデックス 2、以降、順番に続きます。Current キーワードを使用することもできます。
Column	グリッドの列を示す文字。グリッド内の最初の列がインデックス A、2 番目の列がインデックス B、以降、順番に続きます。
Page	グリッドのページ次元インデックスを表す数値。グリッド内の最初のページ次元がインデックス 1、2 番目のページ次元がインデックス 2、以降、順番に続きます。

注： `Current` キーワードは、これらのすべてのパラメータに使用できます。`Current` キーワードをパラメータで使用すると、関数がさらに動的になります。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

注： 行または列のパラメータが展開するセグメントを参照している場合は、一番左上の展開されたセルが使用されます。範囲の表記法を使用すると、任意の展開されるセルが参照できます。

例

複数の四半期の純利益の総計を示すグリッドを設定します。この値をレポートの要旨を含むテキスト・ボックスに表示する必要があります。

次の例に、最初のページ次元にあるグリッドの行 21、列 B にある値がセルに表示されたレポートの例を示します。構文は、次のとおりです。

```
The grand total for the period was <<GetCell("mygrid",21,B,1)>>.
```

ヒント： 結果時の行と列を表示するには、「表示」、「Web プレビューの行と列のヘッダー」の順に選択し、「Web プレビュー」ボタンをクリックしてレポートをワークスペースでプレビューします。

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、`Current` キーワードのみをサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

GetHeading

`GetHeading` は、指定したグリッドのテキスト見出しを取得するテキスト関数です。

この関数には、次の 2 つの構文があります。

```
<<GetHeading("GridName", Page, Reference, Offset)>>
```

```
<<GetHeading("GridName", Page, Reference, "Delimiter")>>
```

引数	説明
GridName	抽出する見出しを含むグリッドの名前。 <code>Current</code> キーワードを使用することもできます。
Page	見出しを含むページを示す数値。 <code>Current</code> キーワードを使用することもできます。
Reference	参照は、取得する見出しの表示時の参照です。 <code>Current</code> キーワードを使用することもできます。参照構文の詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
Offset	オフセットは、複数の次元のある行見出しまたは列見出しで使用されます。この数字が見出し内の次元を表します。数値オフセットは、1 つの次元見出しを戻します。たとえば、3 つの次元のある行見出しで、1 を指定すると(左から右の順序で)最初の次元、2 を指定すると 2 番目の次元、3 を指定すると 3 番目の次元が戻されます。

引数	説明
"Delimiter"	"Delimiter"は、行または列のすべての見出しを区切る引用符で囲まれた文字列です。区切り記号を使用すると、指定した区切り記号で区切られた参照内のすべての見出しが取得できます。

例:

GetHeading 関数で、次のグリッドの列見出しと行見出しを戻します。

		A (A)	A (B)	A (C)
		Actual	Actual	Actual
		Jan	Feb	Mar
1 (1)	Georgia	112	67	73
1 (2)	East	5,864	3,322	3,789
1 (3)	Market	15,904	9,277	10,640

次の表に、上のサンプル・グリッドで使用した関数と、その結果を示します。

GetHeading 関数の例	戻される値
GetHeading("Grid1",1,A,2)	1 月
GetHeading("Grid1",1,A(B),2)	2 月
GetHeading("Grid1",1,A(C),"-")	実績 - 3 月
GetHeading("Grid1",1,1,1)	Georgia
GetHeading("Grid1",1,1(2),1)	East
GetHeading("Grid1",1,1(2),2)	<error> (無効な参照です。)
GetHeading("Grid1",1,1(3)," - ")	Market

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、Current キーワードのみをサポートします。詳細と例は、228 ページの「Current(Cur)キーワード」を参照してください。

GridDimension

GridDimension 関数は、グリッドのページ、列または行軸の次元名を戻すテキスト関数です。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<GridDimension("
GridName
"
,
"
Axis
"
,
index
)>>
```

引数	説明
GridName	引用符で囲まれた、レポート内のグリッドの名前。Current キーワードを使用することもできます。
Axis	次元が配置されているページ、列、または行を示すグリッド軸。キーワードを使用する必要があります。Current キーワードを使用することもできます。
index	特定の軸上の次元のオフセットまたはインデックスを示す数値。軸上の最初の次元がインデックス 1、2 番目の次元がインデックス 2、以降、順番に続きます。 注： ページ、行、列の見出しセルのみで、Current キーワードを使用できます。

例

行、列およびページの各軸に複数の次元がある mygrid という名前の共有グリッドを作成します。行軸にある最初の次元の名前をテキスト・ボックスに表示する必要があります。将来この次元は変更される可能性があるため、テキスト・ボックス内で GridDimension 関数を使用します。テキスト・ボックスに次のように入力します。

```
This report is based on the <<GridDimension("mygrid","Row",1)>> dimension.
```

注： 詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

HFMCurrency

HFMCurrency は、Financial Management データベース接続でセル用の通貨のプロパティの ID を戻すテキスト関数です。

関数の構文は、次のとおりです。

```
<<HFMCurrency(
"
GridName
",
Row
```

```

,
Col
,
Page
)>>

```

引数	説明
GridName	Financial Management のグリッドの名前。この値は、引用符で囲まれている必要があります。
Row	グリッドの行インデックスを示す数値。グリッド内の最初の行のインデックスは 1、2 番目の行のインデックスは 2、これ以降同様に続きます。
Col	グリッドの列を示す文字。グリッド内の最初の列がインデックス A、2 番目の列がインデックス B、以降、順番に続きます。
Page	グリッドのページ次元インデックスを表す数値。グリッド内の最初のページ次元のインデックスは 1、2 番目のページ次元のインデックスは 2、以降、同様に続きます。

設計者は、プロパティ・ファイルを変更して、Financial Management から戻された文字列を別の文字列にマッピングできます。マッピングは、JConsole ファイルで定義されます。たとえば、設計者は、次の行を HFM エンティティ通貨セクションに追加できます:

注： JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。

```
EntityCurrency_USD=$
```

```
EntityCurrency_EUR=_
```

Financial Management が USD を戻した場合、ドル記号 (\$) が表示され、Financial Management が EUR を戻した場合、ユーロ記号 (€) が表示されます。プロパティ・ファイルには、前述の例とその他の例がコメントとして含まれています。

例

次の構文は、グリッド 1 のページ 1、行 21、列 B のセルの通貨のプロパティを表示します。

```
<<HFMcurrency("Grid1", 21, B, 1)>>
```

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、Current キーワードのみをサポートします。詳細と例は、228 ページの「Current(Cur)キーワード」を参照してください。

ListOfCellDocuments

ListOfCellDocuments は、Financial Management データベース接続と Oracle Essbase データベース接続のみで使用できます。

ListOfCellDocuments 関数は、設計者がレポート内のセルから取得するように事前
に選択したすべてのセル・ドキュメントおよびそのファイル属性のリストを戻す
テキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、または
テキスト・セル見出しで使用できます。

Financial Management または Oracle Essbase では、ドキュメントはレポートのデー
タ・ソース・セルに挿入されます。Financial Reporting のデザイナーで、これらのセ
ルを選択し、プロパティ・シートの「セル・ドキュメントの取得」を選択します。
セル・ドキュメントがある場合は、スナップショットまたは PDF として印刷時ま
たは保存時にレポートに添付されます。既存のセル・ドキュメントのリストを表
示するには、デザイナーで、レポートのテキスト・ボックス、テキスト・セル、ま
たはテキスト・セル見出しに ListOfCellDocuments を追加します。

関数の構文は、次のとおりです:

```
<<ListOfCellDocuments ("GridName", FileName&Description&PageNumber)>>
```

引数	説明
GridName	レポートのグリッドの名前。
FileName	セル・ドキュメントの名前を戻します。 注: Financial Management データベース接続から抽出したドキュメントの名前は、20 文字まで(ド キュメント名 16 文字、ファイル名拡張子 4 文字)に切り取られます。
Description	各セル・ドキュメントの説明を戻します。
PageNumber	レポート内のセル・ドキュメントの連続するページ番号の開始ページ番号を戻します。この番 号は、そのドキュメント上で指定されているページ番号と一致するとは限りません。 注: ページ番号は、印刷および Web プレビューのため PDF フォーマットを選択した場合にのみ 表示されます。

例:

次の例では、セル・ドキュメントの情報を印刷する 2 つのグリッドがレポートで
選択されています。グリッド 1 では、抽出されるセル・ドキュメントのファイル
名、説明、および連続するページ番号の開始ページ番号が、グリッド 2 では、ファ
イル名と開始ページ番号のみが要求されます。

```
<<ListOfCellDocuments  
( "Grid1 ", FileName&Description&PageNumber)>>
```

```
<<ListOfCellDocuments ("Grid2", FileName&PageNumber)>>
```

表示されるリストは次のようになります。グリッド 1 には 2 つの添付文書が、グ
リッド 2 には 1 つの添付文書があります。

添付文書:

April Variance High Volume Page3

注： この関数は、**Current** キーワードをサポートしています。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

IfThen、If

IfThen 関数は、条件が真であるか偽であるかに応じて異なる値を戻す条件関数です。

関数の構文は、次のとおりです。

```
IfThen
(
Condition
,
TrueParameter
,
FalseParameter
)
```

- 条件は、**true** または **false** を評価する論理式です。ブール演算子(And、Not、および Or)と同様に、完全な条件論理を使用できます。条件は、**#Missing** 値および**#Error** 値に対するテストの実行にも使用できます。有効な条件演算子のリストは、次の表を参照してください。
- **TrueParameter** と **FalseParameter** は、条件の結果に基づいて評価される任意の有効な式です。

次の表に、完全にサポートされている条件演算子の説明を示します。条件演算子によってサポートされている代替構文がある場合は、その構文がリストされています。

表 37 条件演算子

条件演算子	構文	論理
次と等しい	式 = 式	<p>左の式が右の式に等しいかどうかを調べます。</p> <p>注： この条件を評価するルーチンは、四捨五入を実行しません。四捨五入が必要な場合は、Round 関数を使用します。</p> <p>例:</p> <p>1= 4</p> <p>False を戻します</p>

条件演算子	構文	論理
次より大きい	expression > expression	左の式が右の式より大きいかどうかを調べます。 例: 1 > 4 False を返します
次以上	expression >= expression	左の式が右の式より大きい、または等しいかどうかを調べます。 注: 正しい構文は>=です。構文=>はサポートされていません。 例: 1 >= 4 False を返します
次より小さい	expression < expression	左の式が右の式より小さいかどうかを調べます。 例: 1 < 4 True を返します
次より小さい、 または 次と等しい	expression <= expression	左の式が右の式より小さい、または等しいかどうかを調べます。 注: 正しい構文は<=です。構文=<は、サポートされていません。 例: 1 <= 4 True を返します
次と等しくない	expression <> expression expression != expression	左の式が右の式に等しくないかどうかを調べます。 注: この条件を評価するルーチンは、四捨五入を実行しません。四捨五入が必要な場合は、Round 関数を使用します。 例: 1 <> 4 True を返します 1 != 4 True を返します

条件演算子	構文	論理
IsMissing	IsMissing (reference) IsMiss (reference)	参照先に#Missing の値があるかどうかを調べます。 注： 展開される行や列を参照する場合に条件が True になるためには、すべての結果セルの値が#Missing である必要があります。 例: IsMissing([1]) 行 1 の値が#Missing のときに、True を返します。
IsError	IsError (reference) IsErr (reference)	参照先に、#Error の値があるかどうかを調べます。 注： 展開される行や列を参照する場合に条件が True になるためには、すべての結果セルの値が#Error である必要があります。式行および式列のみ結果として#Error を返すことができます。 例: IsError([2]) 行 2 の値が#Error のときに、True を返します。
IsNonNumeric	IsNN (reference) IsNonNumerid (reference) IfNN (reference) IfNonNumber (reference)	参照先に、#Missing または#Error の結果が含まれているかどうかを調べます。 注： 展開される行や列を参照する場合に条件が True になるためには、すべての結果セルの値が#Error または#Missing である必要があります。 例: IsNN([3]) 行 3 の値が#Missing か#Error のときに、True を返します。
カッコ	(condition)	条件をグループ化するために使用します。多くの場合、視覚的にわかりやすくするために使用します。 例: (1 > 4) False を返します

表 38 複合条件

複合条件	構文	論理
And	(condition AND condition) (condition & condition)	2 つの条件を比較するために使用される複合条件。すべての条件が True の場合に True を返します。 例: (1 > 4 AND 5 > 2) False を返します

複合条件	構文	論理
Not	NOT (condition) ! (condition)	条件の結果を逆転(否定)します。 例: Not (1 > 4) True を戻します
Or	(condition OR condition) (condition condition)	2つの条件を比較するために使用される複合条件。いずれかの条件が True の場合に True を戻します。 例: (1 > 4 OR 5 > 2) True を戻します

条件文に関する注意事項

- Expression には、有効な式であれば任意の式を使用できます。式には、定数(整数または実数)の任意の組合せ、参照、またはそれ以外の関数を使用できます。
- Reference には、有効であれば任意の参照を使用できます。つまり、IFNN 参照プロパティを参照の一部として使用できます。
- Condition は、有効な条件であれば、複合条件 And、Not、または Or に適用される任意の条件を使用できます。これらの演算子は、埋込み条件を持つことができます。

注： And、Not、および Or 演算子は、カッコで囲まれている必要があります。詳細は、[264 ページの「複合条件」](#)を参照してください。

- 条件内の expression のいずれかが #Error 値または #Missing 値を戻す場合、If 関数は #Missing または #Error を戻します。ただし、IsMissing 条件、IsError 条件または IsNonNumeric 条件を使用している場合にはこの規則は適用されません。

複合条件

複合条件 And、Or および Not は完全にサポートされています。ただし、カッコで囲まれている必要があります。

有効な例:

```
If ( ([A] > [B] and [A] > 1000), [A], [B])
```

無効な例:


```
If ( [A] > [B] and [A] > 1000, [A], [B])
```

Max

Max 関数は、数値、行、列またはセルの集合内の最大値を返す算術関数です。関数の構文は、次のとおりです:

```
Max (arguments  
)
```

この場合 arguments は、次の表にある 1 つ以上の引数を取ります:

引数	説明
数値	数値。たとえば、Max (10, 20, 30)は、値 30 を返します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例:

次の例は、行 1、行 6、行 8 にある値の最大値を返します。

```
Max(row[1], row[6], row[8])
```

次の例は、集約行の合計の最大値を返します。

```
Max(row[1].sum, row[2].sum, row[3].sum)
```

MemberAlias

この関数は、Oracle Essbase データベース接続または Planning 詳細データベース接続のみで使用できます。

MemberAlias は、テキスト関数です。使用される構文に基づき、行、列、ページまたは POV 内の次元に割り当てられたメンバーの別名を返します。

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページの別名を返します。構文は、任意の見出しセル、テキスト・セル、またはテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポートのすべてのグリッドを参照できます。

```
<<MemberAlias( "GridName ", Row/Col/Page, "DimName ")>>
```

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページ内の別名を返します。この構文は、カスタム見出しとして指定されているグリッド内の任意の行見出し、

列見出し、ページ見出しから配置できます。カスタム見出しを指定するには、ページ、行見出しまたは列見出しをクリックし、プロパティ・シートで「**カスタム見出し**」を選択します。カスタム見出しの下にあるスペースに関数を追加できます。

```
<<MemberAlias( "DimName " )>>
```

- 次の構文は、グリッドまたはユーザーの POV の別名を戻します。この構文は、任意のテキスト・セルおよびテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポート内のすべてのグリッドおよび該当する POV を参照できます。

```
<<MemberAlias("GridName","POV DimName")>>
```

この場合:

- GridName は、グリッドの名前です。
- Row/Col/Page は、行の ID(数値)、列の ID(英字)、またはページの ID(数値)です。
- DimName は、グリッドの行、列またはページ内の次元の名前です。
- POV DimName は、グリッドまたはユーザーの POV の次元の名前です。

例:

次の例は、Grid1、列 A の製品次元に割り当てられた、「Diet Root Beer」という別名を表示します。

```
<<MemberAlias("Grid1", A, "Product")>>
```

```
<<MemberAlias(current, A, "製品")>>
```

次の例は、年次元の別名を表示します。構文は、グリッドのカスタム見出しに配置されます:

```
<<MemberAlias("Year")>>
```

```
<<MemberAlias(current)>>
```

次の例は、Grid1 に関連する POV のシナリオ次元の別名を表示します。

```
<<MemberAlias("Grid1", "Scenario")>>
```

```
<<MemberAlias(current, "Scenario")>>
```

注: この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、Current キーワードのみをサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

MemberDescription

この関数は、Financial Management データベース接続のみで使用できます。

MemberDescription は、テキスト関数です。使用される構文に基づいて、行、列、ページまたは POV の次元に割り当てられたメンバーの説明を戻します。

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページの説明を戻します。構文は、任意の見出しセル、テキスト・セル、またはテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポートのすべてのグリッドを参照できます。

```
<<MemberDescription( "GridName", 行/列/ページ, "DimName" )>>
```

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページ内の説明を戻します。この構文は、カスタム見出しとして指定されているグリッド内の任意の行見出し、列見出し、ページ見出しから配置できます。カスタム見出しを指定するには、ページ、行見出しまたは列見出しをクリックし、プロパティ・シートで「**カスタム見出し**」を選択します。カスタム見出しの下にあるスペースに関数を追加できます。

```
<<MemberDescription( "DimName" )>>
```

- 次の構文は、グリッドまたはユーザーの POV の説明を戻します。この構文は、任意のテキスト・セルおよびテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポート内のすべてのグリッドおよび該当する POV を参照できます。

```
<<MemberDescription( "GridName", "POV DimName" )>>
```

この場合:

- GridName は、グリッドの名前です。
- Row/Col/Page は、行の ID(数値)、列の ID(英字)、またはページの ID(数値)です。
- DimName は、グリッドの行、列またはページ内の次元の名前です。
- POV DimName は、グリッドまたはユーザーの POV の次元の名前です。

例:

次の例は、Grid1、列 A の製品次元に割り当てられた説明を表示します。

```
<<MemberDescription("Grid1", A, "Product")>>
```

```
<<MemberDescription(current, A, "Product")>>
```

次の例は、年次元の説明を表示します。構文は、グリッドのカスタム見出しに配置されます:

```
<<MemberDescription( "Year" )>>
```

```
<<MemberDescription(Current)>>
```

次の例は、Grid1 に関連する POV のシナリオ次元の説明を表示します。

```
<<MemberDescription( "Grid1", "Scenario" )>>
```

```
<<MemberDescription(current, "Scenario" )>>
```

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、Current キーワードのみをサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

MemberName

MemberName は、テキスト関数です。使用される構文に基づいて、行、列、ページまたは POV の次元に割り当てられたメンバーの名前を戻します。

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページの名前を戻します。構文は、任意の見出しセル、テキスト・セル、またはテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポートのすべてのグリッドを参照できます。

```
<<MemberName( "GridName" , Row/Col/Page, "DimName ")>>
```

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページにある名前を戻します。この構文は、カスタム見出しとして指定されているグリッド内の任意の行見出し、列見出し、ページ見出しから配置できます。カスタム見出しを指定するには、ページ、行見出しまたは列見出しをクリックし、プロパティ・シートで「**カスタム見出し**」を選択します。カスタム見出しの下にあるスペースに関数を追加できます。

```
<<MemberName( "DimName" )>>
```

- 次の構文は、グリッドまたはユーザーの POV の名前を戻します。この構文は、任意のテキスト・セルおよびテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポート内のすべてのグリッドおよび該当する POV を参照できます。

```
<<MemberName("GridName", "POV DimName")>>
```

この場合:

- GridName は、グリッドの名前です。
- Row/Col/Page は、行の ID(数値)、列の ID(英字)、またはページの ID(数値)です。
- DimName は、グリッドの行、列またはページ内の次元の名前です。
- POV DimName は、グリッドまたはユーザーの POV の次元の名前です。

例:

次の例は、Grid1、列 A の製品次元に割り当てられた名前を表示します。

```
<<MemberName("Grid1", A, "Product")>>
```

```
<<MemberName(current, A, "Product")>>
```

次の例は、年次元の名前を表示します。構文は、グリッドのカスタム見出しに配置されます:

```
<<MemberName( "Year" )>>
```

次の例は、Grid1 に関連する POV のシナリオ次元の名前を表示します。

```
<<MemberName("Grid1", "Scenario")>>
```

```
<<MemberName(current, "Scenario")>>
```

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、**Current** キーワードのみをサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

MemberProperty

この関数は、Planning 詳細および Oracle Essbase データベース接続で使用できます。

MemberProperty は、テキスト関数です。使用される構文に基づき、行、列、ページまたは POV 内の次元のメンバーのプロパティ値を戻します。この関数を使用すると、テキスト行またはテキスト列のメンバーのプロパティを表示できます。

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページのメンバーのプロパティを戻します。構文は、任意の見出しセル、テキスト・セル、またはテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポートのすべてのグリッドを参照できます。

```
<<MemberProperty( "GridName", Row/Col/Page, DimName, Property )>>
```

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページ内のメンバーのプロパティを戻します。この構文は、カスタム見出しとして指定されているグリッド内の任意の行見出し、列見出し、ページ見出しから配置できます。カスタム見出しを指定するには、ページ、行見出しまたは列見出しをクリックし、プロパティ・シートで「**カスタム見出し**」を選択します。カスタム見出しの下にあるスペースに関数を追加できます。

```
<<MemberProperty( "DimName", Property )>>
```

- 次の構文は、グリッドまたはユーザーの POV のメンバー・プロパティを戻します。この構文は、任意のテキスト・セルおよびテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポート内のすべてのグリッドおよび該当する POV を参照できます。

```
<<MemberProperty( "GridName", POV DimName, Property )>>
```

この場合:

- GridName は、グリッドの名前です。
- Row/Col/Page は、行の ID(数値)、列の ID(英字)、またはページの ID(数値)です。
- DimName は、グリッドの行、列またはページ内の次元の名前です。
- POV DimName は、グリッドまたはユーザーの POV の次元の名前です。
- Property は、任意のカスタム・プロパティ(属性次元)です。

例:

次の例は、Grid1、列 A の製品次元に割り当てられたメンバーのプロパティを表示します。

```
<<MemberProperty("Grid1", A, Product, Pkg Type)>>
```

```
<<MemberProperty(current, A, Product, Pkg Type)>>
```

次の例は、市場次元のメンバーのプロパティを表示します。構文は、グリッドのカスタム見出しに配置されます:

```
<<MemberProperty("Market", Population)>>
```

```
<<MemberProperty(current, Population)>>
```

次の例は、グリッド 1 に関連する POV の市場次元のメンバー・プロパティを表示します。

```
<< MemberProperty("Grid1", Market, CurrencyCategory) >>
```

```
<< MemberProperty(current, Market, CurrencyCategory)>>
```

次の例では、カスタム見出し内の製品のメンバーの別名プロパティとオンス・プロパティを取得します。この取得を実行するには、見出しを選択してから、行見出しのプロパティ・シートで「カスタム見出し」オプションを選択し、「関数」ボタンをクリックします。構文は、次のとおりです。

```
<<MemberAlias(current, current, Product)>>:
```

```
<<MemberProperty(current, current, Product, Ounces)>>
```

レポートには、次のように出力されます:

	Qtr 1
Cola : Ounces_12	5,096
Diet Cola : Ounces_12	1,359
Caffeine Free Cola : Ounces_16	593

注: この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、Current キーワードのみのサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

MemberQualifiedName

MemberQualifiedName は、Oracle Essbase データ・ソース用のテキスト関数です。使用される構文に基づいて、行、列、ページまたは POV の次元に割り当てられた一意でないメンバーの修飾名を戻します。一意でないメンバーは、複数の親の子です。

注: この機能は、Oracle Essbase 9.0 以降のリリースのみでサポートされています。

たとえば、100 という名前のメンバーが製品 1 のメンバーと製品 2 のメンバーの子である場合、100 は固有でないメンバー名です。MemberQualifiedName 関数には、レポート内の修飾名が表示されます。この例での修飾メンバー名は、[Product1].[100]および[Product2].[100]です。

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページの名前を戻します。構文は、任意の見出しセル、テキスト・セル、またはテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポートのすべてのグリッドを参照できます。

```
<<MemberQualifiedName( "GridName" , Row/Col/Page, "DimName ")>>
```

- 次の構文は、行見出し、列見出しまたはページ内の修飾名を戻します。この構文は、カスタム見出しとして指定されているグリッド内の任意の行見出し、列見出し、ページ見出しから配置できます。カスタム見出しを指定するには、ページ、行見出しまたは列見出しをクリックし、プロパティ・シートで「カスタム見出し」を選択します。カスタム見出しの下にあるスペースに関数を追加できます。

```
<<MemberQualifiedName( "DimName" )>>
```

- 次の構文は、グリッドまたはユーザーの POV の名前を戻します。この構文は、任意のテキスト・セルおよびテキスト・ボックス・オブジェクトから配置でき、現在のレポート内のすべてのグリッドおよび該当する POV を参照できます。

```
<<MemberQualifiedName(" GridName ", " POV DimName ")>>
```

この場合:

- GridName は、グリッドの名前です。
- Row/Col/Page は、行の ID(数値)、列の ID(英字)、またはページの ID(数値)です。
- DimName は、グリッドの行、列またはページ内の次元の名前です。
- POV DimName は、グリッドまたはユーザーの POV の次元の名前です。

例:

次の例は、Grid1、列 A の製品次元に割り当てられた固有ではない修飾名を表示します。

```
<<MemberQualifiedName("Grid1", A, "Product")>>
```

```
<<MemberQualifiedName(current, A, "Product")>>
```

次の例は、年次元の名前を表示します。構文は、グリッドのカスタム見出しに配置されます:

```
<<MemberQualifiedName("Year")>>
```

次の例は、グリッド 1 に関連する POV のシナリオ次元の固有ではない修飾名を表示します。

```
<<MemberQualifiedName("Grid1", "Scenario")>>
```

```
<<MemberQualifiedName(current, "Scenario")>>
```

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、**Current** キーワードのみをサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

Min

Min 関数は、数値、行、列またはセルの集合の最小値を返す算術関数です。関数の構文は、次のとおりです。

```
Min (  
arguments  
)
```

この場合、arguments は、次の 1 つ以上の引数を取ります：

引数	説明
数値	数値。たとえば、Min (10, 20, 30)は、値 10 を返します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例：

次の例は、行 1、行 6、行 8 にある値の最小値を返します。

```
Min (row[1], row[6], row[8])
```

次の例は、集約行の合計の最小値を返します。

```
Min(row[1].sum, row[2].sum, row[3].sum)
```

Mod

Mod 関数は、除算した余り(モジュラス)を返す算術関数です。関数の構文は、次のとおりです：

```
Mod ( arg1 , arg2 )
```

この場合、arg2 は除数で、arg1 と arg2 は次の引数で表されます：

引数	説明
数値	数値。たとえば、Mod (6, 4)は、値 2 を戻します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。 詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例:

次の例は、10 を 5 で割った余り 0 を戻します。

```
Mod (10,5) = 0
```

Page

Page 関数は、印刷レポートでの現在のページ番号を戻します。この関数をテキスト・オブジェクトで使用すると、印刷レポートでの現在のページを表示できます。関数の構文は、次のとおりです:

```
<<Page()>>
```

注: Page 関数は、印刷レポートのみに有効です。オンライン・レポートでは、ページ番号の表示に[[PageCount()]]を使用します。

例:

現在のページ番号が 8 の場合、次の例では、8 ページと表示されます。

```
Page <<PAGE()>>
```

注: グリッドのページ軸は、印刷するレポートのページ番号とは異なります。

PageCount

PageCount は、印刷レポートでのページの総数を戻すテキスト関数です。この関数は、テキスト・オブジェクトで使用できます。関数の構文は、次のとおりです:

```
<<PageCount()>>
```

注： PageCount 関数は、印刷レポートのみに有効です。オンライン・レポートには、ページ番号用に[[PageCount()]]が表示されます。

例:

現在のページ数が 6 の場合は、次の例では、ページ総数は 6 という結果になります。

The total number of pages is: <<PageCount()>>

PercentOfTotal

PercentOfTotal は、ある数値、行、列またはセルを、別の数値、行、列またはセルで割った値に 100 を掛けた値を戻す算術関数です。関数の構文は、次のとおりです:

```
PercentOfTotal (  
  arg1, arg2  
)
```

- ここで、arg1 は、現在高(arg2)のコンポーネントです。通常、この引数は、行または列を参照します。
- ここで、arg2 は、arg1 に対する現在高です。通常、この引数は、総計を含むセル参照です。
- arg1 は、arg2 で除算され、その結果に 100 が掛けられます。arg1 および arg2 は、次に示す 1 つ以上の引数を取ります。

引数	説明
数値	数値。たとえば、PercentofTotal (100, 20)は、値 500 を戻します。 数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。 詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

注： この関数には、2 つの引数が必要です。

例

次の例は、値 5%を戻します。

```
PercentofTotal (20, 400)
```

次の例では、列 A の各セルの値をセル A5 の「市場合計」の値で割り、100 を掛けて結果 PercentOfTotal を列 B に示します。式は、次のとおりです。

PercentOfTotal ([A], [A,5]),

次の表に、前述の例を使用した PercentOfTotal の結果を列 B に示します。

	A	B
1	販売	合計(%)
2	Mkt1	20%
3	Mkt2	40%
4	Mkt3	40%
5	市場合計	100%

ヒント： 列 B のヘッダーをクリックし、式バーを使用して式を挿入します。

Pi

Pi は、算術定数 3.14159265358979 を 15 桁で戻す算術関数です。Pi(π)は、円周の直径に対する比率です。関数の構文は、次のとおりです：

PI()

例：

次の例は、行 3 を、 π と 2 の積で割った値を戻します。

```
row[3] / (PI() * 2)
```

PlanningAnnotations

PlanningAnnotations は、Planning 詳細データベース接続からセルの PlanningUnit に関連付けられた重要な注意書きやコメントを取得するテキスト関数です。

PlanningUnits は、シナリオ、バージョンおよびエンティティの組合せで、グリッド内のセル参照を使用して Financial Reporting に表示されます。

関数の構文は、次のとおりです。

```
<<PlanningAnnotations  
("GridName", Row, Column, Page, Attributes, Range  
)>>
```

```
<<PlanningAnnotations  
("GridName", Row, Column, Page, Attributes  
)>>
```

(assumes “All” for Range paramter)

例

```
<<PlanningAnnotations( “Grid Name” , 1,a,1,All, All)>>  
<<PlanningAnnotations( “Grid Name” , 100,AB,10,All, All)>>  
<<PlanningAnnotations(cur, cur,a,cur,Text & Title & Author, Top 5)>>  
<<PlanningAnnotations(cur, 315, AB, 255, Text&Title&Author, Top 5)>>  
<<PlanningAnnotations(cur, cur A, Cur, PlanningUnit, Top 5)>>  
<<PlanningAnnotations( “cur, 123, ABC, 101, PlanningUnit, Top5)>>  
<<PlanningAnnotations( “Grid1, 1, current, cur, Title & Text, Bottom 10)>>  
<<PlanningAnnotations( “Grid1, 105, ABC, cur, Title & Text, Bottom 10)>>  
<<PlanningAnnotations( “Current” , 34, BB, cur, “All” , Top 40)>>  
<<PlanningAnnotations(cur, cur, A cur, “Text & Title & Author” , Top 5)>>  
<<PlanningAnnotations(cur, cur, A, cur, “Text&Title&Author, “bottom15” )>>  
<<PlanningAnnotations(cur, 1(3), A(B), cur, Title&Author&Date&Text, “All” )>>  
<<PlanningAnnotations(cur, 1(3), A(B), cur, “Title&Author&Date&Text, “All” )>>
```

次の表に、PlanningAnnotations 関数のパラメータを示します。

引数	説明
GridName	グリッドの名前。GridName は、必須パラメータです。
Row	グリッドの行番号を表す数値。グリッド内の最初の行のインデックスは 1、2 番目の行のインデックスは 2、これ以降同様に続きます。Row は必須パラメータです。
Column	グリッドの列を示す文字。グリッド内の最初の列がインデックス A、2 番目の列がインデックス B、以降、順番に続きます。 Column は、必須パラメータです。
Page	グリッドのページ次元インデックスを表す数値。グリッド内の最初のページ次元のインデックスは 1、2 番目のページ次元のインデックスは 2、以降、同様に続きます。Page は、必須パラメータです。
Attributes	属性パラメータには、All、Title、Author、Date、Text、PlanningUnit のいずれかの値が含まれる場合があります。PlanningUnit は、シナリオ、バージョンおよびエンティティの組合せで、GridName、行、列およびページから派生します。属性パラメータは、出力の優先順序で再調整される場合もあります。各属性は、アンパサンド(&)で区切られている必要があります。
Range	All、Top または Bottom キーワードを使用すると、すべての注釈、先頭から特定の数のみの注釈、最後から特定の数のみの注釈をそれぞれ出力できます。次に、例を示します。 <ul style="list-style-type: none">● All は、すべての注釈を戻します。● Top 5 は、先頭の 5 個の注釈を戻します。● Bottom 10 は、末尾の 10 個の注釈を戻します。● Bottom 1 は、最後の注釈を戻します。

例

たとえば、現在のページ上にあるグリッドの行 1、列 A にある注釈テキストを取得する場合を想定します。最後の 3 個の注釈、およびタイトル、作成者、日付、テキスト、およびプランニング・ユニットなどのその注釈に関連付けられたすべての属性を表示します。

- テキスト・セルに、次の構文を入力します。

```
<<PlanningAnnotations(Current, 1, A, Current, All, Bottom 3)
```

注釈は、日付を基準として降順で戻されます(上から新しい日付の順に並びます)。出力される注釈のテキストは、次のようになります。

Title: Status - Under Review

Author: John Smith

Date: Mar 25, 2003 10:32:49 AM

Planning Unit: Budget, 1st Draft, East

Text: Please review and approve

Title: Status - Not Signed Off

Author: Mary Brown

Date: Mar 21, 2003 2:59:11 PM

Planning Unit: Budget, 1st Draft, West

Text: Sorry, Try Again

Title: Status - Under Review

Author: Admin

Date: Mar 21, 2003 2:54:16 PM

Planning Unit: Budget, 1st Draft, South

Text: Please review and approve budget for 1st draft

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、**Current** キーワードのみをサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

注釈の区切りの指定

Planning 詳細ユニットの注釈を区切るデフォルトの区切り文字は、連続する全角ダッシュです。JConsole ファイルの PUA_Separator を構成して別の区切り文字を指定できます。JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。

注： この設定を変更すると、Planning 詳細データベースからプランニング・ユニットの注釈を取得するすべてのレポートに影響が及びます。

▶ 注釈を区切る別の記号を設定するには:

- 1 Financial Reporting からログオフします。
- 2 JConsole ファイルを開いて編集します。
- 3 PUASeparator に移動し、次の例のように使用する区切り記号を適切な回数入力します。
PUASeparator=
- 4 ファイルを保存して閉じます。
- 5 Report Server サービスを再開し、Oracle Hyperion Financial Reporting にログオンします。

ProcessManagementStatus

この関数は、Financial Management データベース接続のみで使用できます。

ProcessManagementStatus は、Financial Management データベース接続のセルのステータスを返すテキスト関数です。プロセス・レベルには、「開始していません」、「最初のパス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」、「サポートされていません」、および「確認レベル」の 1 から 10 があります。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、またはテキスト行見出しとテキスト列見出しで使用できます。

関数の構文は、次のとおりです。

```
<<ProcessManagementStatus (  
"  
GridName  
",  
Row  
,  
Col  
,  
Page  
)>>
```

引数	説明
GridName	Financial Management のグリッドの名前。この値は、引用符で囲まれている必要があります。
Row	グリッドの行インデックスを示す数値。グリッド内の最初の行のインデックスは 1、2 番目の行のインデックスは 2、これ以降同様に続きます。
Col	グリッドの列を示す文字。グリッド内の最初の列がインデックス A、2 番目の列がインデックス B、以降、順番に続きます。
Page	グリッドのページ次元インデックスを表す数値。グリッド内の最初のページ次元のインデックスは 1、2 番目のページ次元のインデックスは 2、以降、同様に続きます。

例 1

次の構文例では、グリッド 1 のページ 1、行 21、列 B のセルのステータスを表示します。

```
<<ProcessManagementStatus("Grid1",21,B,1)>>
```

```
<<ProcessManagementStatus(Current,21,B,1)>>
```

例 1

次の構文例は、テキスト列見出しで入力された、現在のグリッドのページ 1、列 B のすべてのセルのステータスを表示します。

```
<<ProcessManagementStatus(Current,Current,B,1)>>
```

注： この関数は、テキスト・ボックス・オブジェクト、ヘッダー、フッターなどではなくグリッド・セル内で使用された場合は、`Current` キーワードのみをサポートします。詳細と例は、[228 ページの「Current\(Cur\)キーワード」](#)を参照してください。

Product

`Product` は、すべての数値または参照の積を戻す算術関数です。関数の構文は、次のとおりです：

`Product(arguments)`

この場合、`arguments` は、次の 1 つ以上の引数を取ります：

引数	説明
数値	数値。たとえば、 <code>Product(2,20)</code> は、値 40 を戻します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、 <code>GridName.GridElement[segment(range)].Property</code> です。 この構文の定義は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例：

次の例は、40 という値を戻します。

```
Product(2,20)
```

Random

`Random` は、0.0 と 1.0 の間の乱数を戻す算術関数です。関数の構文は、次のとおりです：

```
Random()
```

例:

次の例は、0.0 と 1.0 の間の乱数を戻し、それに 1000 を掛けます。

```
Random() * 1000
```

Rank

Rank は、指定された範囲内の値に対するランク値を算出する財務関数です。Rank 関数は、Financial Reporting で処理され、データベース接続には依存しません。関数の構文は、次のとおりです。

Rank([Reference], Order)

Rank([Reference], Order, Unique)

引数	説明
Reference	<p>列を識別する文字と行を識別する数字を使用して、ランク付けするセル、行または列の範囲を示します。たとえば、列 A の行 1 から行 5 の値をランク付けするには、[A,1:5]と指定します。</p> <p>セル範囲のある.ifNN プロパティを使用して、非数値の値を持つ任意のセルに数値を割り当ててランク付けできます。たとえば、.ifNN(-1)を指定すると、値の欠落したセルすべてに値-1 を割り当てます。</p>
Order	<p>値をランク付けする順序を示します。昇順でランク付けする場合の最小値は 1 です。降順でランク付けする場合の最大値は 1 です。順序は、次のキーワードまたは値のいずれかで表します。</p> <ul style="list-style-type: none">● Ascending● Descending● Asc● Des● Desc● 1(番号 1 は"昇順"と同義)● 0(ゼロは"降順"と同義) <p>キーワードの大文字と小文字は区別されません。</p> <p>注： 順序を指定する数値やキーワードは、引用符で囲みません。</p>
Unique (オプション)	<p>オプション。参照パラメータで次のように同等の値を処理する方法を示すブール・キーワード。</p> <ul style="list-style-type: none">● false(または省略) - 同等の値には、同じランクが付けられます。ランク付けの結果が重複する場合があります。● true - 同等の値には個別のランクが付けられ、ランクは重複しません。参照パラメータの値は、出現順にランク付けされます。たとえば、行 2 と行 5 の値が同じ場合には、行 2 の値が行 5 の値より先にランク付けされます。例:を参照してください。

例

列 B の式は、列 A の行 1 から行 5 にある値を降順でランク付けします。

```
Rank([A,1:5], descending)
```


次のような結果になります。

	East	ランク
Cola	16	2
Fruit Drinks	23	1
Beer	16	2
Diet	欠落	欠落
Root Beer	0	4

2つの値が同じ場合、同じランク値が付けられます。上の例では、Cola と Beer が同じ値であるため、同じランク値が付けられます。

次の列 B の式は、数値でないものに-1 という値を割り当て、ランク付けできるようにしています。

```
Rank([A,1:5].ifNN(-1), descending)
```

次のように、欠落値のランクは5になります。

	East	ランク
Cola	16	2
Fruit Drinks	23	1
Beer	16	2
Diet	欠落	5
Root Beer	0	4

例:

次の例では、前述の例の結果に、新しく追加された一意パラメータがどのように影響するかを示します。

次の列 B の式は、非数値に-1 という値を割り当て、ランク付けできるようにしています。また、ランクはそれぞれ一意であることも示しています。

```
Rank([A,1:5].ifNN(-1), descending, true)
```

次の結果では、欠落値に5のランクが割り当てられ、コーラと同じデータ値であってもビールには3のランクが割り当てられています。

	East	ランク
Cola	16	2

	East	ランク
Fruit Drinks	23	1
Beer	16	3
Diet	欠落	5
Root Beer	0	4

ReportAuthor

ReportAuthor は、レポートの作成者であるユーザー名を返すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<ReportAuthor ()>>
```

例:

次の例は、レポートの作成者の名前を返します。

```
<<ReportAuthor ()>>
```

ReportCreated

ReportCreated は、現在のレポートの作成日付を返すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<ReportCreated(
  "format" , " TimeZoneId"
)>>
```

- ここで、format(オプション)は、日付と時刻のフォーマットを定義する引用符に囲まれた文字のリストです。日付と時刻のフォーマットの詳細は、[表 36](#)を参照してください。format は、デフォルトで日付/時刻のユーザー・プリファレンスに設定されます。有効な値は、JavaSimpleDateFormat、user または empty ("user")で使われる値です。
 - user は、EPM Workspace のプリファレンスに指定されているデフォルトの日付です。
- TimeZoneId(オプション)は、デフォルトでタイムゾーンのユーザー・プリファレンスに設定されます。有効な値は、java の TimeZone.getTimeZone()、user または server で使われる値です。たとえば、TimeZone.getTimeZone()の場合、東海岸を指定するには次のように入力します: "America/New_York"。

- user は、EPM Workspace のプリファレンスに指定されているデフォルトの日付です。
- server は、サーバーのタイムゾーンです。

注： TimeZoneId パラメータを使用している場合は、format パラメータを引用符で囲む必要があります。これは、TimeZoneId が示されている場合にのみ適用します。TimeZoneId を増加させる前の既存レポートを更新する必要はありません。

注： 日付と時刻のフォーマットを定義する文字は、大文字と小文字が区別されます。ReportCreated 関数は、レポートが保存済の場合のみに値を返します。

例：

次の例では、レポートの本文にレポートの作成日を挿入します。

```
<<ReportName()>> - 作成日 <<ReportCreated("d-MM-yy")>>
```

ReportDesc

ReportDesc は、現在のレポートの説明を返すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。レポートの説明は、レポートのプロパティです。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<ReportDesc()>>
```

例：

次の例では、レポートの本文にレポートの説明を挿入します。

```
<<ReportDesc()>>
```

注： レポートの説明は、レポートの保存時に定義できます。保存後は、リポジトリ内で説明を変更するか、「名前を付けて保存」コマンドを使用してレポートを再度保存するときに変更できます。

ReportFolder

ReportFolder は、レポートが保存されているフォルダへのパスを返すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。

関数の構文は、次のとおりです：

```
<<ReportFolder()>>
```

例：

次の例は、レポートが保存されているフォルダのパスを戻します。

```
<<ReportFolder( )>>
```

次に、ReportFolder 関数を使用するときの考慮事項を示します。

- レポートは、ルート・フォルダ以外のフォルダに配置する必要があります。ルート・フォルダはレポート・フォルダとみなされないため、空の文字列が戻されます。
- 正しい文字列を戻すには、レポートをまずフォルダに保存する必要があります。保存されていないレポートに対しては、空の文字列が戻されます。
- ReportFolder 関数を含むレポートを開いた場合は、新規フォルダに保存します。その後、そのレポートの印刷プレビューを実行すると、フォルダの元の場所が表示されます。これは、パフォーマンス上の理由によるものです。レポートを再評価するには、グリッドまたはレポート・オブジェクトを変更してから印刷プレビューを実行すると新しいフォルダの場所が表示されます。

ReportModified

ReportModified は、現在のレポートが最終変更された日付を戻すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<ReportModified("
format
")>>
```

```
<<ReportModified("format","TimeZoneId")>>
```

- ここで、format(オプション)は、日付と時刻のフォーマットを定義する引用符に囲まれた文字のリストです。日付と時刻のフォーマットの詳細は、表 36 を参照してください。format は、デフォルトで日付/時刻のユーザー・プリファレンスに設定されます。有効な値は、JavaSimpleDateFormat、user または empty ("user") で使用される値です。
 - user は、EPM Workspace のプリファレンスに指定されているデフォルトの日付です。
- TimeZoneId(オプション)は、デフォルトでタイムゾーンのユーザー・プリファレンスに設定されます。有効な値は、java の TimeZone.getTimeZone()、user または server で使用される値です。たとえば、TimeZone.getTimeZone() の場合、東海岸を指定するには次のように入力します: "America/New_York"。
 - user は、EPM Workspace のプリファレンスに指定されているデフォルトの日付です。
 - server は、サーバーのタイムゾーンです。

注： `TimeZoneId` パラメータを使用している場合は、`format` パラメータを引用符で囲む必要があります。これは、`TimeZoneId` が示されている場合にのみ適用します。`TimeZoneId` を増加させる前の既存レポートを更新する必要はありません。

注： 日付と時刻のフォーマットを定義する文字は、大文字と小文字が区別されます。`ReportModified` 関数は、レポートが保存されている場合のみに値を戻します。

例:

次の例は、レポートに「Jan.19, 2002」という日付を挿入します。これは、レポートの最終変更日です。

```
Report Modified: <<ReportModified("MMM dd, yyyy")>>
```

ReportModifiedBy

`ReportModifiedBy` は、レポートを最後に保存したユーザーの名前を戻すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<ReportModifiedBy()>>
```

例:

次の例では、レポートを最後に保存したユーザーの名前を挿入します。

```
<<ReportModifiedBy()>>
```

ReportName

`ReportName` は、現在のレポートの名前を戻すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<ReportName()>>
```

例:

次の例では、レポート名を挿入します。

```
<<ReportName()>>
```

ReportRunBy

ReportRunBy は、レポートを実行しているユーザーの名前を戻すテキスト関数です。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出し、列見出しで使用できます。関数の構文は、次のとおりです：

```
<<ReportRunBy ()>>
```

例:

次の例では、レポートを実行しているユーザーの名前を挿入します。

```
<<ReportRunBy ()>>
```

RetrieveValue

既存のレポート内の RetrieveValue 関数はサポートされなくなったため、GetCell 関数を使用するよう手動で更新する必要があります。

Round

Round は、指定された桁数で数値を切り上げまたは切り下げる算術関数です。関数の構文は、次のとおりです：

Round (arg1, integer)

ここで、arg1 は、次の 1 つ以上の引数を取ります。

引数	説明
numeric	数値。たとえば、Round(81.3987,3)は、値 81.399 を戻します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

integer は、数値を四捨五入する桁数を指定します。

- integer がゼロより大きい場合、小数点以下の指定した桁数に四捨五入されます。
- integer がゼロの場合は、最も近い整数に四捨五入されます。
- integer がゼロより小さい場合は、小数点より左側の桁数に四捨五入されます。

例:

次の例は、小数点以下 3 桁に四捨五入します。

```
Round(3594.5567,3) = 3594.557
```

次の例は、最も近い整数の桁数に四捨五入します。

```
Round(3594.5567,0) = 3595
```

次の例は、1000 の桁に四捨五入します。スケールとも呼ばれます。

```
Round(3594.5567,-3) = 4000
```

Sqrt

Sqrt は、数値、行、列またはセルの平方根を戻す算術関数です。関数の構文は、次のとおりです。

```
Sqrt  
(  
  argument  
)
```

ここで、argument は、次のいずれかの引数を取ります:

引数	説明
numeric	数値。たとえば、Sqrt(100)は、値 10 を戻します。数値には、小数と負数も使用できます。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例

次の例は、値 4 を戻します。

```
Sqrt(16)
```

Sum

Sum は、数値、または行、列、セルにある値の和を戻す算術関数です。

関数の構文は、次のとおりです。

Sum (arguments)

この場合、arguments は、次の 1 つ以上の引数を取ります:

引数	説明
numeric	数値。たとえば、Sum(10, 20, 30)は、値 60 を返します。数値には、小数と負数も使用できません。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、GridName.GridElement[segment(range)].Property です。詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

例:

次の例は、30 という値を返します。

```
sum(10, 20)
```

次の例は、3 つの行の和を返します。

```
sum(row[1], row[6], row[8])
```

次の例は、3 つの集約列の和を返します。

```
sum(column[E], column[G], column[I])
```

次の例は、異なるグリッドにある 2 つの列の和を返します。

```
sum(grid1.col[E], grid2.colmn[E])
```

Truncate / Trunc

Truncate は、指定した桁で数値を除去する算術関数です。

構文:

```
Trunc (  
  arg1, integer  
)
```

- ここで、arg1 は、次のいずれかの引数を取ります:

引数	説明
numeric	数値。たとえば、234.567。数値引数の説明は、 222 ページの「数値引数」 を参照してください。

引数	説明
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。参照の指定にはいくつかの方法があります。参照構文は、 <code>GridName.GridElement[segment(range)].Property</code> です。 詳細は、 222 ページの「行、列、セルの参照引数」 を参照してください。
関数	埋込み関数。算術関数の一覧は、 220 ページの「算術関数」 を参照してください。

- ここで、integer には、除去する桁数を指定します。
 - 正の integer は、小数点の右側の有効桁数を決定します。
 - integer にゼロ(0)を指定すると、小数点の左側にある整数を戻します。
 - 負の integer は、小数点の左側の切り捨てられた有効桁数を示します。

例:

次のステートメントでは、正の整数 2 を指定しています。小数点以下 2 桁で除去されます。

```
Trunc(234.567, 2) = 234.56
```

次のステートメントではゼロ(0)を整数値として指定しています。小数点以下の数字はすべて除去されます。

```
Trunc(234.567, 0) = 234
```

次のステートメントでは、負の整数-2 を指定しています。小数点以下と、整数の 2 桁まで除去されます。

```
Trunc(234.567, -2) = 200
```

注： セル、列または行に事前に適用されているフォーマットは、Trunc 関数を使用した場合でも維持されます。たとえば、事前に小数点以下 3 桁まで表示するようにフォーマットされているセルで Trunc 関数を使用すると、
`Trunc(234.567, 0) = 234.000` のようになります。

Variance / Var

Variance は、現在の勘定科目の種別に基づいて、指定された値の差異を評価する財務関数です。収益、フロー、資産、または残高勘定科目での正の結果は増加を示すので、結果は正数として表示されます。支出または負債の勘定科目では、正の結果は減少を示すため、負数で表示されます。

この関数は、標準の Oracle Essbase データベース接続、Planning 詳細データベース接続および Financial Management データベース接続で使用できます。

- Oracle Essbase: 支出または支出外という勘定科目の種別の次元のメンバーを使用できます。

- **Planning 詳細:** 前述のメンバー(Oracle Essbase)以外に、資産、負債、資本、収入、支出として定義されている UDA(ユーザー定義属性)の勘定科目の種別を使用できます。
- **Financial Management:** 資産、負債、収益、支出、フロー、残高、経常残高などの勘定科目の種別を使用できます。

構文:

```
Var (
  reference1, reference2
)
```

- reference1 と reference2 は、差異を計算するための、同じ勘定科目次元のメンバーの行、列またはセルの参照です。

Oracle Essbase データベース接続を使用した場合の計算結果

次の表に、Oracle Essbase の支出または支出外という勘定科目の種別のメンバーを Variance 関数で計算した結果を示します。

表 39 Variance 関数を使用した場合の計算結果

列 A	列 B	Var ([A], [B])=0	Var ([A], [B])>0	Var ([A], [B])<0
支出外	支出外	0	正の値を戻します	負の値を戻します
支出	支出	0	負の値を戻します	正の値を戻します

Planning 詳細データベース接続を使用した場合の計算結果

次の表に、Planning 詳細の UDA の勘定科目を Variance 関数で計算した結果を示します。

表 40 Variance 関数を使用した場合の計算結果

列 A	列 B	Var ([A], [B])=0	Var ([A], [B])>0	Var ([A], [B])<0
資産	資産	0	正の値を戻します	負の値を戻します
負債	負債	0	負の値を戻します	正の値を戻します
資本	資本	0	正の値を戻します	負の値を戻します
収益	収益	0	正の値を戻します	負の値を戻します
支出	支出	0	負の値を戻します	正の値を戻します

Financial Management データベース接続を使用した場合の計算結果

次の表に、Financial Management の勘定科目を Variance 関数で計算した結果を示します。

表 41 Variance 関数を使用した場合の計算結果

列 A	列 B	Var ([A], [B])=0	Var ([A], [B])>0	Var ([A], [B])<0
資産	資産	0	正の値を戻します	負の値を戻します
負債	負債	0	負の値を戻します	正の値を戻します
収益	収益	0	正の値を戻します	負の値を戻します
支出	支出	0	負の値を戻します	正の値を戻します
フロー	フロー	0	正の値を戻します	負の値を戻します
残高	残高	0	正の値を戻します	負の値を戻します
経常残高	経常残高	0	正の値を戻します	負の値を戻します

Variance 関数の仕組み

- Variance 関数は、同じ勘定科目の種別での比較を要求します。販売と支出など、2つの異なる勘定科目の種別を比較する場合、Variance 関数は、勘定科目の種別の論理を適用せず、単純な計算を実行します。例:

販売	支出	結果
-400	100	-500

- Oracle Essbase やプランニング詳細を使用している場合に、Variance 関数を勘定科目の種別以外の次元に適用すると、実行時に#Error を戻します。
- Oracle Essbase で、Variance 関数を勘定科目の種別以外の次元に適用すると、実行時に#Error を戻します。
- #Missing のセルは、IfNonNumber プロパティを指定していないかぎり、ゼロ (0)として扱われます。
- #Error のセルは、IfNonNumber プロパティを指定していないかぎり、#Error の結果を戻します。

例

Variance 関数で使用できる参照は、セル、列または行のみです。詳細は、[222 ページ](#)の「行、列、セルの参照引数」を参照してください。

構文	例
列を参照する構文の例:	Var([A],[B])
行を参照する構文の例:	Var([3],[4])
セルを参照する構文の例:	Var(Cell [3,A],[3,B])

次に、列 A(実績)と列 B(予算)の差額を計算する例を示します。

```
Var([A],[B])
```

レポートは、次のようになります。

```

Year Product Market

Actual Budget Variance

=====
Sales (Income)      400,855  373,080  27,775

COGS (Expense)     179,336  158,940 -20,396

```

関連項目

[VariancePercent / VarPer](#)

VariancePercent / VarPer

VariancePercent は、現在の勘定科目の勘定科目タイプに基づいて指定された値の差異をパーセントで評価する財務関数です。収益、フロー、資産、または残高勘定科目での正の結果は増加を示すので、結果は正数として表示されます。支出または負債の勘定科目では、正の結果は減少を示すため、負数で表示されます。

この関数は、標準の Oracle Essbase データベース接続、Planning 詳細データベース接続および Financial Management データベース接続で使用できます。

- **Oracle Essbase:** 支出または支出外という勘定科目の種別の次元のメンバーを使用できます。
- **Planning 詳細:** 前述のメンバー(Oracle Essbase)以外に、資産、負債、資本、収入、支出として定義されている UDA(ユーザー定義属性)の勘定科目の種別を使用できます。
- **Financial Management:** 資産、負債、収益、支出、フロー、残高、経常残高などの勘定科目の種別を使用できます。

構文:

```
VarPer (  
reference1, reference2  
)
```

- ここで、reference1 と reference2 は、VariancePercent 関数の結果を計算する勘定科目次元と同じ次元のメンバーである行、列またはセルへの参照です。

Oracle Essbase データベース接続を使用した場合の計算結果

次の表に、支出または支出外という Oracle Essbase 勘定科目の種別のメンバーを VariancePercent 関数で計算した結果を示します。

表 42 VariancePercent 関数を使用した場合の計算結果

列 A	列 B	VarPer ([A], [B])=0	VarPer([A], [B])>0	VarPer ([A], [B])<0
支出外	支出外	0	正の値を戻します	負の値を戻します
支出	支出	0	負の値を戻します	正の値を戻します

Planning 詳細データベース接続を使用した場合の計算結果

次の表に、Planning 詳細の UDA の勘定科目を、VariancePercent 関数で計算した結果を示します。

表 43 VariancePercent 関数を使用した場合の計算結果

列 A	列 B	VarPer ([A], [B])=0	VarPer ([A], [B])>0	VaPer ([A], [B])<0
資産	資産	0	正の値を戻します	負の値を戻します
負債	負債	0	負の値を戻します	正の値を戻します
資本	資本	0	正の値を戻します	負の値を戻します
収益	収益	0	正の値を戻します	負の値を戻します
支出	支出	0	負の値を戻します	正の値を戻します

Financial Management データベース接続を使用した場合の計算結果

次の表に、Financial Management の勘定科目を VariancePercent 関数で計算した結果を示します。

表 44 VariancePercent 関数を使用した場合の計算結果

列 A	列 B	VarPer ([A], [B])=0	VarPer ([A], [B])>0	VarPer ([A], [B])<0
資産	資産	0	正の値を返します	負の値を返します
負債	負債	0	負の値を返します	正の値を返します
収益	収益	0	正の値を返します	負の値を返します
支出	支出	0	負の値を返します	正の値を返します
フロー	フロー	0	正の値を返します	負の値を返します
残高	残高	0	正の値を返します	負の値を返します
経常残高	経常残高	0	正の値を返します	負の値を返します

VariancePercent 関数の仕組み

- VariancePercent 関数は、同じ勘定科目の種別間での比較を要求します。販売と支出など、2つの異なる勘定科目の種別間で比較すると、VariancePercent 関数は、勘定科目の種別の論理を適用せず、単純な計算を実行します。例:

販売	支出	結果
-400	100	-5

- Oracle Essbase データベース接続およびプランニング詳細データベース接続を使用している場合に、VariancePercent 関数を勘定科目の種別以外の次元に適用すると、実行時に#Error を返します。
- #Missing のセルは、IfNonNumber プロパティを指定していないかぎり、ゼロ (0) として扱われます。
- #Error のセルは、IfNonNumber プロパティを指定していないかぎり、#Error の結果を返します。

例:

VariancePercent 関数で使用できる参照は、セル、列または行のみです。詳細は、[222 ページの「行、列、セルの参照引数」](#)を参照してください。

構文	例
列を参照する構文の例:	VarPer ([A], [B])
行を参照する構文の例:	VarPer ([3], [4])
セルを参照する構文の例:	VarPer (Cell [3,A], [3,B])

次に、列 A(実績)と列 B(予算)の VariancePercent を計算する例を示します。

VarPer([A],[B])

レポートは、次のようになります。

```
Year Product Market

Actual Budget VariancePercent

=====

Sales (Income)    400,855  373,080   7%

COGS (Expense)   179,336  158,940  -13%
```

式での算術演算子の使用

演算子は、演算タスクや比較を実行するための記号です。また、列、行、セルなどの範囲を参照する場合があります。データ行やデータ列で計算を実行する式に演算子を使用します。

次の表に、標準的な式で使用できる演算子のタイプを示します。

表 45 演算子

タイプ	演算子	説明	例
算術	+	加算	[4] + [5] という行の式は、行 4 と行 5 の値を加算します。+ の後にはスペースが必要です。 <ul style="list-style-type: none">● 誤: 5+4● 正: 5 + 4● 正: 5+ -4
算術	-	減算	[4] - 3 という行の式は、行 4 の値から行 3 の値を減算します。- の後にはスペースが必要です。 <ul style="list-style-type: none">● 誤: 5-4● 正: 5 - 4● 正: 5 --4
算術	*	乗算	Abs([4]) * 150 という行の式は、行 4 の絶対値を 150 で乗算します。
算術	/	除算	[4] / [5] という行の式は、行 4 の値を行 5 の値で除算します。
算術	%	パーセンテージ	row[4].Sum*10% という行の式は、行 4 の値の和に、0.10 を乗算します。

タイプ	演算子	説明	例
算術	^	指数	[4]^6 という行の式では、行 4 の値を 6 乗します。
算術	小数点	10 進数	[4] * 5.67 という行の式では、行 4 の値を 5.67 で乗算します。
参照	[]	グリッド内の行、列またはセルを指定します。行には番号、列には文字を使用します。	Sum ([4],[12]) という行の式は、行 4 の値と行 12 の値を加算します。
単項マイナス	-	値の符号を逆転します。	-([4] / 12) という列の式では列 4 の値を 12 で除算した結果の符号を逆にします。

ヒント： Eval 関数を使用すると、関数パラメータの一部として算術演算を実行できます。算術関数 Eval の詳細は、[253 ページの「Eval」](#) を参照してください。

式に複数の演算子がある場合、演算の実行時には、式の通常の優先順位に従って演算が実行されます。詳細は、[297 ページの「計算の順序」](#) を参照してください。

式での算術オペランドの使用

オペランドは、演算子が計算に使用する値を指定します。次の表に Financial Reporting でサポートされているオペランドのタイプを示します。

表 46 オペランド

オペランドのタイプ	例
リテラル	3、0.0、27.5、65.334、-841
行や列の参照番号	[1]、[4]、[8]、[A]、[C:D]
セルの参照番号	[2, E]、[E, 2] 注： この参照は、行 2、列 E のセルを指します。
関数	Average、Min、Max
範囲	Grid1.row[3]

次の行の式では、行 3 の値に 100 を乗算しています。行の参照[3]と 100 は、いずれもオペランドです。

[3] * 100

計算の順序

式に複数の演算子がある場合、計算の順序は、通常の計算順序と同じです。

▶ 次に、複数の演算子を含む式が計算される順序を示します。

1 単項マイナス(-#)。#は、任意の数値です。

注： 単項マイナスの演算子(-)の後ろには、スペースを追加しないでください。

2 乗算(*)と除算(/)

3 減算(-#)と加算(+#)。#は、任意の数値です。

注： 減算と加算の演算子(+と-)の後ろには、必ずスペースを追加します。

たとえば、次の式を使用した標準的な行の式について説明します。

```
[10] + 3 * 4
```

この例では、行 10 の値が 8 とすると、前述の式は、通常の順序どおり計算されて、 $3 * 4 + 8 = 20$ になり、列の値 20 を戻します。

この章の内容

フォルダの作成	299
リポジトリ内のオブジェクトの複製	300
レポート・オブジェクトのフィルタ	300
リポジトリの項目の切取り、コピー、貼付け	301
データベース接続の管理	301
リポジトリのオブジェクトとレポート・オブジェクトのエクスポート	301
レポート・オブジェクトのリポジトリへのインポート	301
電子メールによるレポートへのリンクの送信	302
リポジトリのアイテムの削除	302
リポジトリ内のレポートとレポート・オブジェクトのデータベース接続の変更	302
レポートのデータベース接続の変更	303
リポジトリのオブジェクトのセキュリティの管理	303

Reporting Studio にはワークスペースと同様の機能がいくつかあります。リポジトリには Financial Reporting オブジェクト(レポート、スナップショット、グリッド、チャート、イメージ・オブジェクト、テキスト・オブジェクト、行、行と列のテンプレート)が保管されます。また、レポートの印刷と印刷プレビューを行ったり、列フィールド・ヘッダーをクリックしてアイテムをソートすることもできます。

リポジトリに保存されたアイテムは何度も使用できます。たとえば、他のレポートに基づいてレポートを設計したり、イメージ・オブジェクトなどのレポート・オブジェクトを複数のレポートで使用することもできます。

ワークスペースで使用できるすべての機能にアクセスするには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

この章は、次のトピックで構成されています:

フォルダの作成

フォルダを作成および使用すると、リポジトリ内のアイテムの整理に役立ちます。リポジトリ内での作業中や、レポートやレポート・オブジェクトを保存する際に、複数の階層にフォルダを追加できます。オブジェクトがリポジトリに追加された場合、そのオブジェクトにアクセスできるのは、デフォルトでは、そのオブジェクトの追加を行ったユーザーと管理者のみです。

他のユーザーによるオブジェクトの表示を許可するには、作成者または管理者がワークスペース内の他のユーザーまたはグループにアクセス権を割り当てる必要があります。フォルダを作成するには、レポート設計者またはグローバル管理者としての権限が必要です。

▶ リポジトリ内にフォルダを作成するには:

1 **Financial Reporting** を起動します。

リポジトリが表示されます。

2 フォルダを配置する場所をクリックします。

3 「ファイル」、「新規」、「フォルダ」の順に選択します。デフォルトのフォルダ名は、「新規フォルダ」です。

4 フォルダ名を「新しいフォルダ名の入力」テキスト・ボックスに入力します。名前には、大文字、小文字、数字およびスペースを使用できます。

5 「OK」をクリックして、フォルダをアクティブにします。

リポジトリ内のオブジェクトの複製

ワークスペースを使用してリポジトリにオブジェクトを複製します。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

レポート・オブジェクトのフィルタ

レポート、スナップショット、保存したレポート・オブジェクトなどのリポジトリ・オブジェクトをフィルタして、オブジェクトの検索に役立てることができます。検索するオブジェクトのタイプによってレポート・オブジェクトをフィルタします。リポジトリのすべてのフォルダで、一致するオブジェクト・タイプが検索され、ツリー階層にフォルダごとに表示されます。様々なフィルタの組合せを使用できます。

▶ オブジェクト・タイプごとにソートするには:

1 「表示」、「表示するアイテムのタイプ」の順に選択します。

2 リポジトリに表示するオブジェクトのタイプ(「すべて、レポート、スナップショット、ブック、スナップショット・ブック、バッチ」、「保存したレポート・オブジェクト」)を選択します。

3 「オプション:」別のオブジェクト・タイプを追加するには、手順 1 と 2 を繰り返します。

▶ リポジトリ内のすべてのオブジェクト・タイプを再度表示するには、「表示」、「表示するアイテムのタイプ」、「すべて」の順に選択します。

列見出しをクリックしても、オブジェクトをソートできます。たとえば、「変更日時」見出しをクリックするとレポートが古い順または新しい順に表示され、「名

前」見出しをクリックするとレポート・オブジェクトがアルファベット順に表示されます。

リポジトリの項目の切り取り、コピー、貼付け

ワークスペースでは、リポジトリ内のフォルダ間でレポート・オブジェクトを移動するために切り取りと貼付け機能を使用できます。切り取りと貼付け機能を使用できるかどうかは、アクセス権によって異なります。詳細は、[Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide](#) を参照してください。

データベース接続の管理

データベース接続マネージャは、ワークスペースにあります。これにより、レポート、ブック、スナップショット、スナップショット・ブック、保存したレポート・オブジェクト(行/列テンプレート、グリッド)、バッチ、スケジュール済バッチを管理できます。レポートとレポート・オブジェクトを開発環境から本番環境に移動したり、本番用サーバーの間で移動したりできます。

ワークスペースを使用してデータベース接続を管理します。データベース接続の追加、編集および削除の詳細は、[Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide](#) を参照してください。

注： Financial Reporting データベース・マネージャでは、Web Analysis データベースは管理されません。

リポジトリのオブジェクトとレポート・オブジェクトのエクスポート

ワークスペース・エクスプローラでは、保存したオブジェクト、レポート・オブジェクトおよびフォルダを、コンピュータの特定ディレクトリにエクスポートできます。エクスポート時に、エクスポートするオブジェクトのフォーマットを指定できます。オブジェクトとレポート・オブジェクトのエクスポートの詳細は、[Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide](#) を参照してください。

レポート・オブジェクトのリポジトリへのインポート

ワークスペース・エクスプローラでは、以前にファイル・システムにエクスポートしたオブジェクト、レポート、フォルダおよび圧縮ファイルをインポートできます。オブジェクトのインポートの詳細は、[Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide](#) を参照してください。

電子メールによるレポートへのリンクの送信

ワークスペース・エクスプローラを使用すると、電子メール・リンク機能を使用して、電子メールによりオブジェクトまたはフォルダの URL リンクを送信できます。Financial Reporting ユーザーは、このリンクをワークスペースで開くことができます。電子メールを送信するときに、頻繁に使用する電子メール・アドレスのリストを追加し、保管することもできます。電子メールによるレポートへのリンクの送信の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

リポジトリのアイテムの削除

不要になったアイテムをリポジトリから削除します。アクセス権を持つアイテムは完全に削除できます。

▶ リポジトリのアイテムを削除するには:

1 リポジトリのリストから、削除するアイテムを選択します。

ヒント: 「表示」、「表示するアイテムのタイプ」の順に選択すると、リポジトリをフィルタできます。レポート、スナップショット、保存したレポート・オブジェクトのいずれかのタイプを選択します。

ヒント: リポジトリで連続する複数のアイテムを選択するには、[Shift]を押します。リポジトリで連続しない複数のアイテムを選択するには、[Ctrl]を押します。

2 「編集」、「削除」の順に選択します。

3 「はい」をクリックして削除を確認します。

注: フォルダを削除する前に、その中に含まれているすべてのオブジェクトを削除する必要があります。非表示オブジェクトを含むフォルダは、十分なセキュリティ権限がないため、削除できません。

リポジトリ内のレポートとレポート・オブジェクトのデータベース接続の変更

ワークスペースを使用すると、リポジトリ内のレポートとブックのデータベース接続を変更できます。開発環境のサーバーから本番環境のサーバーに移動する場合などにデータベース接続を変更できます。データベース接続の変更の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

レポートのデータベース接続の変更

レポートのデータベース接続を Oracle Essbase から Planning 詳細へ、またはその逆に変更する場合は、データ・ソースの参照のみが変更されるので、いくつかの制限があります。変換は行われません。

- レポートのデータベース接続を Oracle Essbase から Planning 詳細に変更する場合の考慮事項のリストは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。
- データベース接続を Planning 詳細から Oracle Essbase に変更する場合の考慮事項のリストは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

リポジトリのオブジェクトのセキュリティの管理

ワークスペースを使用すると、リポジトリのオブジェクト(レポート、スナップショット・レポート、ブック、スナップショット・ブックおよびバッチ)、フォルダ、およびレポート・オブジェクト(チャート・オブジェクト、グリッド・オブジェクト、テキスト・オブジェクト、グリッド、イメージ・オブジェクトおよびグラフィック)にセキュリティを適用できます。特定ユーザーおよびグループに対してオブジェクト、フォルダおよびレポート・オブジェクトのアクセス権を制限するか、許可することで、これらのセキュリティを確保します。このため、特定の設計者またはユーザーのみが **Financial Reporting** からリポジトリのオブジェクトを表示できます。リポジトリのアクセス権が制限されているかどうかは、管理者がユーザーまたはグループに割り当てる役割と権限によって決まります。役割とアクセス権の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

管理者権限または設計者権限がある場合、ワークスペースを使用してバッチを作成、編集および保存できます。バッチ・スケジューラの機能を使用してバッチのスケジュールを設定することもできます。バッチは、レポートやブックのセットをグループ化したり処理したりするために使用します。バッチを実行して生成した出力をプリンタやリポジトリに送信でき、HTML ファイルおよび PDF ファイルとしてエクスポートできます。また、エクスポートされた出力をユーザーに電子メールで送信できます。

バッチ・エディタでバッチを定義および保存したり、リポジトリのバッチをコピーおよび削除したりできます。リポジトリからバッチを削除するには、バッチへのアクセス権が必要です。デフォルトでは、スケジュールしたユーザーのみに、リポジトリに保存されているスナップショットおよびスナップショット・ブックへのアクセス権が割り当てられます。バッチへのアクセス権があり、スケジュールされている場合はバッチの各レポートを実行できます。スケジュールしたユーザーはスケジュール時に他のユーザーおよびグループにアクセス権を割り当てることができます。

バッチには、スケジュール時に変更できるバッチの POV があります。また、バッチのプロンプト情報を指定することもできます。指定された POV およびプロンプト情報に従って、バッチに含まれている各ブックおよびレポートに指定された POV とプロンプトの値が指定されます。スケジュールを設定して、バッチをすぐに処理することも、後で処理することもできます。

バッチ処理の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

ワークスペースを使用すると、レポートとスナップショットを組み合わせてブックを作成できます。これにより、1回のセッションでこれらのレポートの出力を生成できます。また、様々なメンバーに合わせて実行する、様々なバージョンのレポートを生成するようにブックを構成できます。これらのレポートを含んでいるブックを作成することによって、すべてのレポートを一度に実行できます。このブックに含まれているレポートの印刷および表示は、個別に行うことも、ブック全体として行うこともできます。

定義してエクスプローラ・リポジトリに保存できるブックのタイプは次の2つです。

- **ブック**。レポートおよびスナップショットをブックに追加できます。レポートおよびスナップショットをブックに追加できます。ブックを実行すると、レポート内のデータはデータベースから動的に取得されます。スナップショット内のデータは静的なままです。
- **スナップショット・ブック**。ブックをスナップショット・ブックとして保存できます。すべてのレポートはその期間の静的データを含んでいるスナップショットに変換されます。レポートに含まれるデータおよび目次は、ブックをスナップショット・ブックとして保存したときに作成されます。スナップショット・ブックを表示したとき、データレベルのセキュリティは適用されません。データレベルのセキュリティは、スナップショット・ブックが作成されたときに適用され、スナップショット・ブックを保存したユーザーに対して設定されているデータ・レベル・セキュリティに基づきます。

ワークスペースを使用すると、**Financial Reporting** からブックとスナップショット・ブックに次のタスクを行うことができます。

- バッチを使用して、一連のブックをグループ化し、処理する。
- リポジトリのブックまたはスナップショット・ブックへのリンクを電子メールで送信する。
- リポジトリにあるブックのデータ・ソースを変更する。
- リポジトリのブックまたはスナップショット・ブックの正確なコピーを作成する。
- ブックまたはスナップショット・ブックを完全に削除する。
- リポジトリの外のファイル・システムからブックとスナップショット・ブックをインポートする。ブックをインポートすると、エクスポート・リポジトリ内に保存されます。その後、ブックに対してタスクを実行できます。
- ブックおよびスナップショット・ブックをエクスポートする。

前述のトピックの詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace User's Guide を参照してください。

この章の内容

非 ASCII ユーザー・アカウントのサポート	309
POV の管理	309
Financial Reporting の初期ユーザー・プリファレンスの定義.....	313
レポート・サーバーのタスク	314
Oracle Essbase ポート	317
スケジューラのコマンド・ライン・インターフェース.....	320
バッチ入力ファイルの XML タグ・リファレンス.....	323
ADM プロパティ値の最大長の増加.....	326
Microsoft Word テンプレート	327
注釈でのセル・テキスト、プランニング・ユニットの注釈、および Financial Reporting ドキュメントの表示	329

この章では、Financial Reporting の情報および管理タスクについて説明します。

非 ASCII ユーザー・アカウントのサポート

Financial Reporting Studio のログオン・ページでは、Windows のデフォルト・フォントに合わせてページの文字を表示することが要件です。そのため、たとえば、日本語のオペレーティング・システムで韓国語の文字が正しく表示されるようにするには、日本語のマシンのデフォルトのシステム・フォントを韓国語に変更する必要があります。共通のシステム・ダイアログには、デフォルト言語を使用して表示されるものがあります。これらは、フォントの元が Financial Reporting のユーザー言語ではなく、デフォルト言語である Windows ダイアログです。そのため、ユーザーが望む言語に適した外国語のオペレーティング・システムを使用するか、Windows のデフォルト言語を望ましい言語に設定することをお勧めします。

POV の管理

ユーザーの POV の管理ユーティリティは、管理者が 1 人以上のユーザーの Financial Reporting POV を作成、表示、更新および削除するときに使用するコマンド・ライン・ユーティリティです。このユーティリティは、Reporting Studio とともに、ManageUserPov.cmd として EPM_ORACLE_HOME\Products\financialreporting\bin ディレクトリにインストールされ、ManageUserPOV.properties というサンプル構成ファイルが提供されています。

ユーティリティを実行するには、EPM_ORACLE_HOME\Products
\financialreporting\bin ディレクトリでコマンド・プロンプトを開き、
ManageUserPov.cmd を実行します:

```
ManageUserPOV <Mode> <ConfigFileName>
```

ここで Mode は Import、Export または Delete (大文字と小文字を区別)です。

ここで ConfigFileName は構成ファイルの名前(デフォルト名は EPM_ORACLE_HOME
\Products\financialreporting\bin ディレクトリの
ManageUserPov.properties)です。

例: ManageUserPOV Export ManageUserPov.properties

POV ユーティリティを実行する前に、構成ファイル(ManageUserPov.properties など)、およびインポート用のインポートファイル(ManageUserPovImport.xml など)の2つのファイルをあらかじめ定義しておく必要があります。

<financialreporting>\bin ディレクトリには、サンプルファイルが提供されています。

- ManageUserPov.properties ファイル。このファイルを使用すると、レポート・サーバーの定義、管理者とデータ・ソースのログイン情報の割当て、インポートとエクスポート・ファイル名の指定、およびユーザーとデータ・ソース・フィルタ、ドライ・ランの実施、ユーザーの POV の削除の確認などの各種オプションの設定を行うことができます。詳細はサンプルの ManageUserPov.properties ファイルを参照してください。
- ManageUserPovImport.xml ファイル。ManageUserPovImport.xml などの ImportFileName。エクスポート中に作成された XML ファイルも編集してインポートできます。

インポート動作のガイドライン

- リポジトリに存在しないデータベース接続は、TYPE、SERVER、APPNAME および DBNAME 属性が提供されている場合は作成されます。有効なデータ・ソースのタイプは、Essbase、Financial Management および Planning です。
- すべての次元およびメンバーは、有効なユーザー POV のみを作成または更新するために、データ・ソースに対して検証されます。
- メンバーに対する個々のユーザーのアクセスは検証されません。管理者は、表示するためのアクセス権を持つユーザーのみにユーザー POV を割り当てる必要があります。
- ユーザー POV は、プロビジョニングされたユーザーのみに作成されます。
- 部分ユーザー POV も有効です。インポート・ファイルに指定された次元のみが更新されます。

ユーザーの POV ユーティリティの使用法

ここでは、ユーザーの POV ユーティリティの使用法について説明します。

ユーザーの POV のエクスポート

▶ すべての既存のユーザーの POV をエクスポートするには:

- 1 ManageUserPov.properties ファイルを編集し、ReportServer を指定します。
- 2 financialreporting\bin ディレクトリでコマンド・プロンプトを開き、
ManageUserPov.cmd Export ManageUserPov.Properties と入力します。
- 3 メッセージが表示されたら、管理ユーザーとパスワードを入力します。

システム内の現在のすべてのユーザーの POV を含む

ManageUserPovExport.xml ファイルが作成されます。コンソールとの対話のサンプル:

```
EPM_ORACLE_HOME\Products\financialreporting\binManageUserPov.cmd
Export ManageUserPov.properties

Please enter AdminUser : AdminUser

Please enter AdminPassword :*****

INFO : Starting Hyperion Financial Reporting ManageUserPOV Utility
INFO: Ending Hyperion Financial Reporting ManageUserPOV Utility
```

ユーザーの POV のインポート

▶ 既存のユーザーの POV を更新するには:

- 1 手順に従って、すべての既存のユーザーの POV をエクスポートします。
- 2 ManageUserPovExport.xml ファイルを開き、ファイルで必要なユーザーの POV を更新します。たとえば Market 次元でメンバー名に「East」、ユーザー・ログイン ID に「TestUser」、DATASOURCE_NAME に「Essbase Sample Basic on TestServer」を指定します。
- 3 ManageUserPov.properties ファイルを開き、次のフィルタを指定して、1つのユーザーとデータソースの更新を実行します:

```
Users = TestUser
```

```
Datasources = Essbase Sample Basic on TestServer
```

注: データソースのログイン情報が管理者のログイン情報と異なる場合、
DatasourceUser=*, DatasourcePassword=*のように、アスタリスク(*)
を指定して、これらの入力を個別に求める必要があります。

- 4 ManageUserPovImport.xml という名前でファイルを保存します。
- 5 financialreporting\bin ディレクトリでコマンド・プロンプトを開き、
ManageUserPov.cmd Import ManageUserPov.properties と入力します。
- 6 メッセージが表示されたら、管理ユーザーとパスワード、および必要に応じてデータソース・ユーザーとパスワードを入力します。

ユーザーの POV が Market の新しい値で更新されます。コンソールとの対話のサンプル:

```
C:\Hyperion\financialreporting\bin>ManageUserPov.cmd Import
ManageUserPov.properties

Please enter AdminUser : AdminUser

Please enter AdminPassword :*****

Please enter DataSourceUser : TestUser

Please enter DataSourcePassword :*****

INFO : Starting Hyperion Financial Reporting ManageUserPOV Utility
INFO : Setting POV for user: TestUser
INFO : Processing DataSource: Essbase Sample Basic on TestServer
INFO : Processing Year = Year
INFO : Processing Measures = Measures
INFO : Processing Product = Product
INFO : Processing Market = East
INFO : Processing Scenario = Scenario
INFO : Processing Caffeinated = Caffeinated
INFO : Processing Ounces = Ounces
INFO : Processing Pkg Type = Pkg Type
INFO : Processing Population = Population
INFO : Processing Intro Date = Intro Date
INFO : Processing Attribute Calculations = Attribute Calculations
INFO : Ending Hyperion Financial Reporting ManageUserPOV Utility
```

ユーザーの POV の削除

▶ 既存のユーザーの POV を削除するには:

- 1 MangleUserPov.properties ファイルを編集し、ReportServer と必要なフィルタを指定します。たとえば、Essbase Sample Basic on TestServer データソースの 1 つのユーザー TestUser の POV を削除するには、次のように指定します:

```
Users = TestUser
```

```
Datasources = Essbase Sample Basic on TestServer
```

- 2 EPM_ORACLE_HOME\Products\financialreporting\binEPM_ORACLE_HOME\Products\financialreporting\bin ディレクトリでコマンド・プロンプトを開き、ManageUserPov.cmd Delete ManageUserPov.properties と入力します。
- 3 メッセージが表示されたら、管理ユーザーとパスワードを入力します。

ユーザーの POV が削除されます。コンソールとの対話のサンプル:

```
EPM_ORACLE_HOME\Products\financialreporting\binManageUserPov.cmd
Delete ManageUserPov.properties

Please enter AdminUser : AdminUser

Please enter AdminPassword :*****

INFO : Starting Hyperion Financial Reporting ManageUserPOV Utility

This action will delete 1 POV's

Are you sure you want to proceed? Press 1 to Proceed and 0 to
Cancel : 1

INFO : Ending Hyperion Financial Reporting ManageUserPOV Utility
```

Financial Reporting の初期ユーザー・プリファレンスの定義

JConsole.exe ファイルの設定を使用すると、すべてのユーザーに対する Financial Reporting の初期ユーザー・プリファレンスを定義できます。これらの設定は、エンド・ユーザーが Workspace に初めてログインしたときに表示されます。設定は、必要に応じて「ユーザー・プリファレンス」ダイアログ・ボックスで変更できます。

JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。

定義可能な設定は、次のとおりです:

Specify a default user preference value for ruler unit.

Value can be either Inches or Centimeters.

#com.hyperion.reporting.HRPrefs.Units=

Specify a default user preference value for grid line color.

Value is in the format of #RRGGBB where RR is hex value for red, GG is hex value for green and BB is blue as specified by HTML specifications.

#com.hyperion.reporting.HRPrefs.glcolor=

Specify a default user preference value for grid line style.

Value can be either Line or Dot.

#com.hyperion.reporting.HRPrefs.glstyle=

Specify a default user preference value for grid line snapping.

Value can be either True or False.

#com.hyperion.reporting.HRPrefs.glsnap=

Specify a default user preference value for MS Office version.

#com.hyperion.reporting.HRPrefs.office_format=

Specify a default user preference value for location of User POV bar.
Value can be either above or viewpane.
#com.hyperion.reporting.HRPrefs.locationuserpov=
Specify a default user preference value for user's language.
Value can be any ISO language code for supported languages.
#com.hyperion.reporting.HRPrefs.language=
Specify a default user preference value for user's country.
Value can be any ISO country code for supported country.
#com.hyperion.reporting.HRPrefs.country=
Specify a default user preference value for view type.
Value can be html or pdf
#com.hyperion.reporting.HRPrefs.viewtype=
Specify a default user preference value for digit grouping.
Value can be , . or _
#com.hyperion.reporting.HRPrefs.digitgroup=
Specify a default user preference value for showing Preview User POV dialog.
#com.hyperion.reporting.HRPrefs.previewuserpov=
Value can be 0 or 1
Value of 1 will display Preview User POV dialog whereas 0 will not.
Specify a default user preference value for decimal symbol.
Value can be , . or _
#com.hyperion.reporting.HRPrefs.decimalsymbol=

レポート・サーバーのタスク

インストール・プロセスで、Financial Reporting サーバーの構成を実行できます。
ここでは、実行可能な他のタスクについて説明します。

計算の最大繰返し回数の指定

JConsole.exe ファイルの MaximumCalculationIterations プロパティに、すべてのグリッドとセルに対する計算の最大繰返し回数を指定して、式の参照内の依存関係を解決できます。グリッドの計算プロセスでは、参照の優先順位により、セルを複数回評価する場合があります。これは通常、他のグリッドを参照するグリッドで生じます。最大繰返し回数プロパティは、式のセルを未解決とマークする前に評価する回数を示します。最大繰返し回数プロパティを設定することで、循環参照のセルが無制限に評価されるのを防止できます。循環参照は、1つのセルが

別のセルを参照し、さらに参照先のセルが参照元のセルを参照する場合に生じま
す。

循環参照がないのに、計算のセルで#Error が戻される場合は、最大繰返し回数プ
ロパティの値を増加できます。計算のデフォルト最大繰返し回数は 5 です。この
ファイルには、必要に応じてこの値を変更する際に役立つコメントが含まれてい
ます。

注： JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace
Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してくださ
い。

ファイアウォール環境またはポート競合を解決す るための Financial Reporting TCP ポートの割当て

Financial Reporting のコンポーネントは、デフォルトで動的に割り当てられた
Transmission Control Protocol (TCP)ポートの RMI (リモート・メソッドの呼出し)に
より相互に通信します。ファイアウォールを通して通信する場合は、ファイア
ウォールによって隔てられた Financial Reporting の各コンポーネントのポートを
JConsole.exe ファイルに指定し、ファイアウォールの必要なポートを開く必要があ
ります。

また、レポート・サーバーの RDBM、レポートを実行するデータソース、および
LDAP や NTMLM での外部認証用のポートを開かなければならないこともありま
す。

注： ポートは、ファイアウォールを通して通信する必要がある Financial Reporting
の各コンポーネントのみに対してファイアウォールで開く必要があります。
Financial Reporting のコンポーネントがファイアウォールで隔てられていな
い場合は、デフォルトの動的ポート設定を使用できます。

スケジューラ・サーバーのデフォルト値は 8299 で、この値は SchedulerServer プロ
パティを変更して再起動すると変更できます。印刷サーバーのデフォルト値は 8297
で、この値は PrintServers プロパティを変更して再起動すると変更できます。一度
接続すると、すべての RMI サービスでは通信用に匿名ポートをデフォルトで使用
できます。かわりに、FR 構成内で RMIPortRangeLower および RMIPortRangeUpper
を設定することで通信用のポート範囲を構成することもできます。FR プロパティ
は、HIT レジストリに格納され、JConsole または Enterprise Manager を使用して変
更できるようになりました。JConsole.exe ファイルで RMIPortRangeUpper および
RMIPortRangeLower を使用して、ポート割当てをサーバーのファイアウォール環
境で使用するように変更できます。

注： JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace
Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してくださ
い。

注： ファイアウォールの外側からインストールされた Financial Reporting Studio から Network Address Translated サーバーに接続できない場合、回避策として `DuseHostname=true` JVM パラメータを基礎サーバーに追加し、
`policies:iiop:server_address_mode_policy:publish_hostname="true`
"パラメータを `default-domain.cfg` に追加します。

NAT を実行するデバイスからのサーバー・コンポーネントへのアクセス

次に、ネットワーク・アドレスの変換(Network Address Translation:NAT)を使用してサーバー・コンポーネントにアクセスする方法について説明します。

ネットワーク・アドレスの変換(NAT)

NAT は、ルーターなどのデバイスが2つのネットワークの間でエージェントとして動作できるようにします。1つの IP アドレスでコンピュータのグループ全体を指す必要があります。

リモート・メソッドの呼出し(RMI)

Financial Reporting では、クライアントとサーバー間の通信は、Java のリモート・メソッドの呼出し(RMI)プロトコルによって行われます。RMI サーバー・プログラムは、デフォルトで実行するコンピュータの IP アドレスを使用してクライアントと通信します。

NAT を実行するデバイスで RMI を使用する場合の問題点

Java RMI と NAT の両方を使用する環境では、Java がクライアントの要求を NAT で指定された仮装アドレスにではなく、RMI サーバーを実行しているコンピュータの IP にルーティングしようとする問題が発生します。

この問題を防ぐには、Java 仮想マシン(JVM)に2つの引数を渡します。RMI サーバー・プログラムが、NAT を行うルーターなどの別のコンピュータやデバイスの IP アドレスを使用してクライアントと通信できるようになります。

レポート・クライアントのコンピュータが、NAT で送信パケットをマスクするデバイスからレポート・サーバー・コンポーネントにアクセスする場合は、次に説明する操作を行う必要があります。

UNIX システムにおける必須の Java 引数の追加

次の手順では、ファイアウォール使用時に UNIX システムに Java の引数を追加する方法について説明します。この手順は、WebLogic Server に有効です。

WebLogic

▶ WebLogic Web サーバーの場合:

- 1 /…/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1/bin/
deploymentScripts/setCustomParamsFinancialReporting.sh をテキスト・
エディタで開いて、JAVA_OPTIONS 変数宣言に -
Djava.rmi.server.hostname=<IP or hostname of NAT device> -
Djava.rmi.server.useLocalHostname=false を追加します。
- 2 コンポーネントを起動または再起動します。

Oracle Essbase ポート

ここでは、実装に必要な操作について説明します。ただし、すでに実装が完了している場合や、使用しているシステムでは必要がない場合もあります。

Oracle Essbase ポートと接続の違い

ここでは、Financial Reporting のこのリリースを実行する場合の Oracle Essbase ポートと接続の違いについて説明します。

重要な考慮事項:

- ライセンスは、Oracle Essbase ポートごとに供与されます。
- Oracle Essbase の 100 同時ユーザーライセンスとは、100 の Oracle Essbase ポートがライセンス供与されていることを意味します。
- 各ポートの接続数には制限がありません。
- Oracle Essbase に対して開く接続数は、ライセンス供与において重要ではありません。重要なのは、Oracle Essbase ポートの数です。

ユーザーが Financial Reporting のレポートを実行すると、Oracle Essbase に対する接続が開きます。これらの接続は、パフォーマンスを最適化するためにキャッシュされます。接続がアイドル状態になると、アイドル状態の接続を閉じるプロセスが定期的に行われます。

システム管理者は、接続がアクティブでないときみなされるまでの時間 (MinimumConnectionInactiveTime、デフォルトは 5 分) と、アクティブでない接続を閉じるまでの時間 (CleanUpThreadDelay、デフォルトは 5 分) を、JConsole.exe ファイルで変更できます。

注： JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。

Financial Reporting が使用するポートの数は、次のように構成によって異なります:

- Windows の UI などのレポート・クライアントがレポートを実行する場合は、2つの Oracle Essbase 接続(レポート・クライアントとレポート・サーバーに1つずつ)が確立されます。
- レポート・クライアントとレポート・サーバーが同じコンピュータにある場合は、1つの Oracle Essbase ポートを使用して2つの Oracle Essbase 接続が確立されます。
 - レポート・クライアントは、レポートを表示しているウィンドウを閉じるまで、Oracle Essbase 接続を維持します。
 - レポート・サーバーは、開いているアイドル状態の接続を閉じるプロセスが実行されるまで、この Oracle Essbase 接続を維持します。
 - 両方の接続が閉じているときは、ポートは解放されています。
- レポート・クライアントとレポート・サーバーが別々のコンピュータにある場合は、2つの Oracle Essbase ポートを使用して2つの Oracle Essbase 接続が確立されます。
 - レポート・クライアントは、レポートを表示しているウィンドウを閉じるまで、Oracle Essbase 接続を維持します。
 - レポート・サーバーは、開いているアイドル状態の接続を閉じるプロセスが実行されるまで、この Oracle Essbase 接続を維持します。
 - レポート・クライアントの接続を閉じると、その接続のポートが解放されます。
 - Financial Reporting の接続を閉じると、その接続のポートが解放されます。

ブラウザの UI などの Reporting Studio ユーザーがレポートを実行する場合は、2つの Oracle Essbase 接続(Web サーバーとレポート・サーバーに1つずつ)が確立されます。

- Web サーバーとレポート・サーバーが同じコンピュータにある場合は、1つの Oracle Essbase ポートを使用して2つの Oracle Essbase 接続が確立されます。
 - Web サーバーは、開いているアイドル状態の接続を閉じるプロセスが実行されるまで、この Oracle Essbase 接続を維持します。
 - レポート・サーバーは、開いているアイドル状態の接続を閉じるプロセスが実行されるまで、この Oracle Essbase 接続を維持します。
 - 両方の接続が閉じているときは、ポートは解放されています。
- Web サーバーとレポート・サーバーが別々のコンピュータにある場合は、2つの Oracle Essbase ポートを使用して2つの Oracle Essbase 接続が確立されます。
 - Web サーバーは、開いているアイドル状態の接続を閉じるプロセスが実行されるまで、この Oracle Essbase 接続を維持します。
 - レポート・サーバーは、開いているアイドル状態の接続を閉じるプロセスが実行されるまで、この Oracle Essbase 接続を維持します。
 - Web サーバーの接続を閉じると、その接続のポートが解放されます。
 - レポート・サーバーの接続を閉じると、その接続のポートが解放されま

推奨構成は次のとおりです:

- レポート・サーバーと Web サーバーを同じコンピュータにインストールします。
- レポート・クライアントを他の数台のコンピュータにインストールします。この場合、レポート・クライアントを使用するユーザーにのみ 2 つの Oracle Essbase ポートを使用する必要があります。Web サーバーとレポート・サーバーが同じコンピュータにあるので、EPM Workspace のレポートを表示するために接続するすべてのユーザーは、Oracle Essbase ユーザーごとに 1 つの Oracle Essbase ポートを使用します。

現在の Oracle Essbase 接続の確認

Oracle Essbase サーバーのコマンド・ウィンドウで現在の接続を確認するには、コマンド・ウィンドウに USERS と入力します。現在の接続と現在使用中のポートが表示されます。

Oracle Essbase の構成ファイルの設定の変更

Oracle Essbase の構成ファイルで次の設定を使用すると、Oracle Essbase 接続がタイムアウトになるまでの時間が短くなります。

- `essbase.cfg` ファイルに、次の Oracle Essbase クライアント設定を追加するか、値を大きくします。
 - NETDELAY 1000
 - NETRETRYCOUNT 1000

Oracle Essbase ポートの最大数の計算

Financial Reporting に必要な Oracle Essbase ポートの最大数を計算する基本的な式は次のとおりです:

- EPM Workspace とレポート・サーバーが同じコンピュータにある場合:
Oracle Essbase ポートの数 = 2 X レポート・クライアントの数
+ EPM Workspace ユーザーの数
- EPM Workspace とレポート・サーバーが異なるコンピュータにある場合:
Oracle Essbase ポートの数 = 2 X レポート・クライアントの数
+ 2 X Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の数

注: この式は Financial Reporting 用で、アプリケーション・マネージャ、Oracle Hyperion Web Analysis、Excel のアドインなど、他の手段で Oracle Essbase に接続するユーザーには適用されません。このような潜在的なポート利用者については、個別に考慮する必要があります。Financial Reporting コンポーネントの一部として同じコンピュータ上で使用する場合、同じ Oracle Essbase ユーザー ID を使用するかぎり、他に追加のポートは利用されません。

データ・ソースの考慮事項は次のとおりです:

- 2つのデータ・ソースを使用するレポートを実行する場合は、接続数は2倍になりますが、前述のように、ポートの数は変わりません。
- 同様に、3つのデータ・ソースを使用するレポートを実行する場合も、接続数は3倍になりますが、ポートの数は変わりません。
- 2つのデータ・ソースを使用するレポートを閉じてから3つ目のデータ・ソースを使用するレポートを実行すると、接続数は増えますが、ポートの数は変わりません。

ユーザー接続は、少なくとも5分間は開いています。新規のアクティビティが発生しない場合、最大10分間はそのまま開いています。Oracle Essbaseポートの数に制限があり、多数のユーザーがFinancial Reportingにアクセスする場合は、これら両方の値を30秒(30000)まで小さくすることができます。

スケジューラのコマンド・ライン・インタフェース

スケジューラのコマンド・ライン・インタフェースは、コマンド・ラインからFinancial Reportingのバッチ入力ファイルを起動するプロセスです。外部スケジューラを使用したバッチ入力ファイルの起動プロセスや、集計の完了などの外部イベントが発生した後のバッチ入力ファイルの起動プロセスを自動化できます。

注: Financial Reporting スケジューラが正常に電子メールによる通知を送信するには、有効なSMTPメール・サーバーをJConsole.exeファイルに指定する必要があります。

バッチ入力ファイルの作成

バッチ入力ファイルでは、スケジュールを設定するバッチのオプション(スケジュールを設定するバッチ名、出力先、電子メール通知情報、POV設定など)を指定します。

▶ バッチ入力ファイルを作成するには:

- 1 「バッチ・スケジューラ」ダイアログ・ボックスで前にスケジュールしたバッチを右クリックし、「コマンド・ラインでのスケジュール用にエクスポート」を選択します。
- 2 mybatch.xmlファイルを開きます。ここで、mybatchは、バッチ入力ファイルの名前です。
- 3 必要に応じて、このファイルのタグの間にある値を編集します。よく使用する属性の詳細は、[322 ページの「属性の変更」](#)を参照してください。

コマンド・ラインからのバッチの起動

financialreporting\bin ディレクトリの ScheduleBatch.cmd コマンド・ファイルを使用して、Financial Reporting スケジューラ・サーバーに対し、バッチ入力ファイルに指定されたバッチを起動できます。

- ▶ financialreporting\bin ディレクトリにあるコマンド・ライン・プロンプトを使用してバッチを起動するには、バッチ入力ファイルの完全修飾名と、バッチをスケジュールするスケジューラ・サーバーのコンピュータ名または IP アドレスを指定してコマンドを入力します。次に例を示します。

```
ScheduleBatch  
c:\DailyReports\mybatch.xml
```

```
MySchedulerServer
```

ここで、MyBatch.xml はバッチ入力ファイルの名前で、MySchedulerServer は、スケジューラ・サーバー(通常、レポート・サーバーと同じコンピュータにあります)の名前または IP アドレスです。

これにより、指定したスケジューラ・サーバーでバッチがすぐに実行されます。

外部スケジューラを使用したバッチのスケジュール

外部スケジューラから定期的にバッチを起動できます。それには、独自のコマンド・ファイルを設定して、外部スケジューラから呼び出します。

たとえば、次のラインを含んでいる NightlyBatch.cmd ファイルを準備します。

```
call ScheduleBatch MgtSummaryBatch.xml hr_Server
```

```
call ScheduleBatch MgtDetailBatch.xml hr_Server
```

パスワードのエンコード

バッチ入力ファイルをエクスポートした場合、ユーザー名とパスワードは存在しません。バッチ入力ファイルにユーザー ID またはデータ・ソース ID を指定するには、次のファイルを使用してバッチ入力ファイル用にエンコードされたパスワードを作成します:

- Windows - EncodePassword.cmd
- UNIX - EncodePassword

注: この手順が必要です。

▶ パスワードをエンコードするには:

- 1 バッチ入力ファイルを開いて、データ・ソース・パスワードやユーザー ID パスワードを変更します。
- 2 コマンド・ラインから `EncodePassword.cmd` ファイルを実行します。
- 3 「「EncodePassword」パスワード」と入力します。ここでパスワードは新パスワードです。
- 4 生成されたエンコード済パスワードを、バッチ入力ファイルに入れます。

属性の変更

通常のバッチ入力ファイルには、変更する属性はほとんどありません。ほとんどの属性は、スケジュールしたバッチに基づいて適切に設定されています。次の表に、関連 XML タグのために変更する可能性がある属性を示します。

表 47 よく使用する属性

カテゴリ	属性	説明
全般	AUTHOR	バッチ・スケジューラの「ユーザー ID」列に表示されます。バッチで生成する XML ファイルのコメントや名前を入れるのに便利です。
電子メール	ATTACH_RESULTS	生成された PDF または HTML ファイルを電子メールに添付する場合は「Yes」、添付しない場合は「No」に指定します。
FAILURE_RECIPIENTS	スケジュール・バッチが失敗した場合の電子メールの受信者。	
FAILURE_SUBJECT	スケジュール・バッチが失敗した場合のテキスト。	
RECIPIENTS	カンマで区切られた、受信者の電子メール・アドレスのリスト。	
	SENDER	送信者の電子メール・アドレス。
	SUBJECT	電子メールの件名。
ログイン情報	DS_PASSWD	データ・ソースの暗号化されたパスワード。既存のバッチで指定するか、コマンド・ライン・ユーティリティで生成します。
DS_USER_NAME	バッチ内のレポートやブックを実行するために使用されるログイン情報を持つデータ・ソース・ユーザー。	
HR_PASSWD	暗号化された Financial Reporting ユーザーのパスワード。既存のバッチで指定するか、コマンド・ライン・ユーティリティで生成します。	
HR_USER_NAME	バッチ内のレポートやブックを実行するためのログイン情報を持つ Financial Reporting ユーザー。	

カテゴリ	属性	説明
HTML 出力と PDF 出力	HTML VALUE	バッチの HTML 出力を生成するかどうかにより、「Yes」または「No」の値を入力します。
PDF VALUE	バッチの PDF 出力を生成するかどうかによって、「Yes」または「No」を入力します。	
	HTML EXPORT_HTML_FOLDER_LABEL	HTML(値=Yes)としてエクスポートする場合は、外部ディレクトリのパスとフォルダ。
	PDF EXPORT_HTML_FOLDER_LABEL	PDF(値=Yes)としてエクスポートする場合は、外部ディレクトリのパスとフォルダ。
スナップショット出力	SAVE_AS_SNAPSHOT VALUE	リポジトリにスナップショット出力を保存するかどうかによって、「Yes」または「No」の値を入力します。
SAVE_NAME	スナップショットが保管されるフォルダ名。これは、ReportStore:\\ format で指定する必要があります。SAVE_NAME = ""の場合、スナップショット出力は元のオブジェクトとして同じフォルダに保存されます。	
USER_NAMES	スナップショット出力にアクセスできる Financial Reporting ユーザー名。カンマで区切って指定します。	
GROUP_NAMES	スナップショット出力にアクセスできる Financial Reporting グループ名。カンマで区切って指定します。Everyone というシステム定義の特別なグループには、Financial Reporting ユーザーがすべて含まれ、このグループを指定すると、すべてのユーザーがスナップショット出力にアクセスできます。	
印刷出力	PRINT NAME	PRINT VALUE 属性を「Yes」に設定した場合のプリンタ名。 注： スケジューラ・サーバーでプリンタを使用できることを確認する必要があります。
PRINT VALUE	バッチの印刷出力を生成するかどうかによって、「Yes」または「No」の値を入力します。	

注： XML ファイルの USER_POV セクションにある HIDDEN="0"は、POV にある次元を表します。従って、XML ファイルで設定される候補または値になります。この例で変更される値は「_」です。

バッチ入力ファイルの XML タグ・リファレンス

次のトピックでは、関連付けられた属性のタグおよび値の詳細なリストを示します。XML ファイルの構造は、ツリー・レベルまたはディレクトリ構造と似ています。

す。基本的には1つの親レベルのノード・タグがあり、後続のタグは子ノード・タグです。

BATCH_JOB_OBJECT - ノード・タグ

属性	説明
AUTHOR	バッチ・スケジューラの「ユーザー ID」列に表示されます。バッチで生成する XML ファイルのコメントや名前を入れるのに便利です。
BATCH_JOB_ID	バッチに割り当てられた任意の番号
BATCH_NAME	バッチの名前。例: ReportStore:\\SchdApi\Batches\TestBatch3
REPORT_SERVER_NAME	バッチのあるレポート・サーバーの名前
UNSAVED_BATCH	常に「No」に設定します。

RUN_OPTIONS - 子ノード・タグ

属性	説明
FREQUENCY	この属性の値は「1」である必要があります。
RUN_IMMEDIATELY	この属性の値は「Yes」である必要があります。

NOTIFICATION/EMAIL - 子ノード・タグ

属性	説明
ATTACH_RESULTS	生成された PDF または HTML ファイルを電子メールに添付する場合は「Yes」、添付しない場合は「No」に指定します。
RECIPIENTS	カンマで区切られた、受信者の電子メール・アドレスのリスト。
SENDER	送信者の電子メール・アドレス。
SUBJECT	電子メールの件名。

JOB_STATUS - 子ノード・タグ

これは次の例のようにコピーする必要があります: JOB_STATUS
CURRENT_STATUS=" Pending "

JOB_OBJECT - 子ノード・タグ

属性	説明
OBJECT_ID	空白のままにしておきます。

DATA_SOURCE_USER_CREDENTIALS - 子ノード・タグ

属性	説明
DS_PASSWD	データ・ソースの暗号化されたパスワード。既存のバッチで指定するか、コマンド・ライン・ユーティリティで生成します。
DS_USER_NAME	バッチ内のレポートやブックを実行するために使用されるログイン情報を持つデータ・ソース・ユーザー。

HR_USER_CREDENTIALS - 子ノード・タグ

属性	説明
HR_PASSWD	暗号化された Financial Reporting ユーザーのパスワード。既存のバッチで指定するか、コマンド・ライン・ユーティリティで生成します。
HR_USER_NAME	バッチ内のレポートやブックを実行するためのログイン情報を持つ Financial Reporting ユーザー。

OUTPUT_OPTIONS - 子ノード・タグ

この XML タグを使用すると、バッチ出力のフォーマットを選択できます。

CHILD NODE - HTML

属性	説明
HTML VALUE	バッチの HTML 出力を生成するかどうかにより、「Yes」または「No」の値を入力します。

CHILD NODE - PDF

属性	説明
PDF VALUE	バッチの PDF 出力を生成するかどうかによって、「Yes」または「No」を入力します。

CHILD NODE - SAVE_AS_SNAPSHOT

属性	説明
SAVE_AS_SNAPSHOT_VALUE	リポジトリにスナップショット出力を保存するかどうかによって、「Yes」または「No」の値を入力します。
SAVE_NAME	スナップショットが保管されるフォルダ名。これは、ReportStore:\\ format で指定する必要があります。SAVE_NAME = ""の場合、スナップショット出力は元のオブジェクトとして同じフォルダに保存されます。
USER_NAMES	スナップショット出力にアクセスできる Financial Reporting ユーザー名。カンマで区切って指定します。
GROUP_NAMES	スナップショット出力にアクセスできる Financial Reporting グループ名。カンマで区切って指定します。Everyone というシステム定義の特別なグループには、Financial Reporting ユーザーがすべて含まれ、このグループを指定すると、すべてのユーザーがスナップショット出力にアクセスできます。
SUBJECT_TOKENS	空白にするか、テキスト・ファイルから除去できます。 注： USER_NAMES または GROUP_NAMES を使用した場合は、この属性は無視されます。

CHILD NODE - PRINT

属性	説明
PRINT_NAME	PRINT VALUE 属性を「Yes」に設定した場合のプリンタ名。 注： スケジューラ・サーバーでプリンタを使用できることを確認する必要があります。
PRINT VALUE	バッチの印刷出力を生成するかどうかによって、「Yes」または「No」の値を入力します。

USER_POV - 子ノード

このノードは、オプションです。ここでユーザーの POV を指定しないと、テキスト・ファイルで指定したデータ・ソース・ユーザーの USER POV が使用されます。

注意 これはパワー・ユーザーのみが変更できます。部分的な USER POV を指定することはできません。

注： XML ファイルの USER_POV セクションにある HIDDEN="0"は、POV にある次元を表します。従って、XML ファイルで設定される候補または値になります。この例で変更される値は「_」です。

ADM プロパティ値の最大長の増加

まれに、Financial Reporting によってデータソースからメンバー情報が取得される際に、戻される情報容量が大きすぎて取得できない場合があります。これにより、

エラー・メッセージが発生したり、Financial Reporting サーバーがシャットダウンする場合があります。容量の大きい取得の例を次に示します:

- Hyperion Financial Management セル・テキスト
- Hyperion Essbase アウトライン・メンバー式

受信するエラー・メッセージは次のようになります。ここで"xxxx"は、取得される情報のサイズ(KB 単位)です。

エラー・メッセージ: プロパティ値が長すぎます "xxxx" > 4,096。ADM.Properties の MAX_PROPERTY_VALUE_LENGTH を大きくすることを検討してください。

この状況を修正するには、大きな容量の情報を取得できるように ADM.properties ファイルを調整する必要があります。

▶ ADM.properties ファイルを調整するには:

1. ADM.properties ファイルをテキスト・エディタで開きます。ファイルは通常次の場所にあります。

<HYPERION HOME>\common\ADM\<BI+ VERSION>\lib\ADM.properties

2. 「MAX_PROPERTY_VALUE_LENGTH」という行を探します。
3. デフォルト設定の 4(4k)を大きくします。たとえば、「プロパティ値が長すぎます 9503 > 4096」というエラー・メッセージが発生した場合、値を 10 にすると問題が解決します。

注: デフォルト値 4K と前述のエラー・メッセージは、プロパティ・サイズ 9503 がデフォルト値 4096 より大きいことを示しているため、10K にすることで、新しいプロパティ値のサイズは、式に対して十分なサイズになります。

Microsoft Word テンプレート

Microsoft Word テンプレートを使用すると、テキスト(.txt)ファイルを印刷できます。「印刷」を選択すると、Word 文書を印刷する既存のルーチンが使用され、テキスト・ファイルが印刷されます。印刷ジョブが終了すると、ファイルは保存されずに閉じられ、次のテキスト・ファイルのためにテンプレートが保持されます。テキスト・ファイルの印刷出力は、PDF プレビューで表示した場合のルック・アンド・フィールが維持されます。

Word テンプレート FR_TextTEmplate.doc は、Financial Reporting 印刷サーバーの \${home.reports}/bin/フォルダ内にあります。テンプレートには、カスタマイズ可能なフォーマット済コンテンツが含まれています。

テンプレート設定

デフォルトでは、Word テンプレートは次のように設定されています:

- 「<<FR_content>>」文字列は、文書の本文の唯一のコンテンツです。

- テキストのフォントは、Courier New、10 ポイントにフォーマットされています。
- 印刷オプションは縦長で、マージンは1インチです。
- フッターは、「日付と時刻の印刷」および現在のページ番号に設定されています。これらの設定は、Financial Reporting 印刷サーバーを介して印刷時にすべてのテキスト・ファイルで更新され、表示されます。

カスタマイズ可能なテンプレートの要素は次のとおりです:

- フォント、タブ、マージンなどデフォルトのフォーマットをカスタマイズできます。
- テンプレートのページ設定を制御できます。たとえば、常に横長に印刷したり、用紙サイズをA4に設定したりできます。
- ヘッダーとフッターもカスタマイズできます。たとえば、フッターにページ番号を表示できます。これはブックとレポートでPDFプレビューを生成すると、自動的に更新されます。
- テンプレートの既存のコンテンツをカスタマイズできます。たとえば、各印刷出力の終わりに標準の機密保持条項を挿入できます([テンプレートのカスタマイズ](#)を参照)。
- イメージや背景をテンプレートに追加できます。たとえば、会社のロゴなどです。

テンプレートのカスタマイズ

Word 文書の破損を防ぐために、テンプレートをカスタマイズする前にバックアップを作成します。テンプレートは Microsoft Word で開くことができます。次回テキスト・ファイルを Financial Reporting サーバーで印刷する際に、保存した変更が適用されます。印刷するテキスト・ファイルを選択すると、Financial Reporting 印刷サーバーは FR_TextTemplate.doc ファイルを開き、文字列<<FR_content>>を探します。見つかった場合、テキスト・ファイルのコンテキストはその場所に挿入され、文字列と置き換えられます。文字列が見つからない場合、テキスト・ファイルのコンテンツは、Word 文書の終わりに挿入されます。テンプレートに既存のコンテンツが存在する場合、テキスト・ファイルのデータの前に表示されます。

テンプレートには常に<<FR_content>>文字列を含めてください。これにより挿入されるテキスト・ファイルのコンテンツのフォントおよびパラグラフ設定を制御できます。コンテンツには、<<FR_content>>文字列の現在のフォーマットが継承されます。

注： 変更しても、Financial Reporting 印刷サーバーを再起動する必要はありません。

▶ テンプレートをカスタマイズするには:

- 1 Microsoft Word を開きます。
- 2 「ファイル」、「開く」の順に選択し、`${home.reports}/bin/`フォルダ(デフォルト)にある FR_TextTemplate.doc 文書に移動し、「開く」をクリックします。

- 3 フォーマットを変更するには、<<FR_content>>をハイライトし、フォーマットを変更します。
- 4 「保存」をクリックします。

注： デフォルトとは異なる場所にテンプレートを保存する場合は、JConsole.exe ファイルの TextPrintTemplate に新しい場所を指定する必要があります。JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。

注釈でのセル・テキスト、プランニング・ユニットの注釈、および Financial Reporting ドキュメントの表示

注： 現在、プランニング・ユニットの注釈は、Oracle Fusion General Ledger で使用されません。

設計者は、レポートが自動的にクエリーを行い、任意の Financial Reporting レポートに、セル・テキスト、プランニング・ユニットの注釈、またはドキュメントの添付ファイル(あるいはそのすべて)を注釈として戻すかどうかを全般的に制御できます。 .properties 設定に基づいて、レポートのプロパティ・シートには、レポートごとに機能のオン/オフを切り替えることができる一連のコントロールが表示されます。 [331 ページの「レポートのプロパティ」](#) を参照してください。 fr_global.properties のグローバル設定は次のとおりです。

- AllowCellTextAsAnnotation=true の場合、レポートのプロパティ・シートに「セル・テキスト」チェック・ボックスが表示されます(Financial Management および Planning に表示され、Essbase には表示されません)。デフォルトでは選択されていません(オフ)。
- AllowPlanningUnitAnnotationsAsAnnotations=true の場合、Planning では、レポートのプロパティ・シートに「プランニング・ユニットの注釈」チェック・ボックスが表示されます。デフォルトでは選択されていません(オフ)。
- AllowDocAttachmentsAsAnnotations=true の場合、Financial Management では、レポートのプロパティ・シートに「ドキュメントの添付」チェック・ボックスが表示されます。デフォルトでは選択されていません(オフ)。

A

プロパティ・シートのヘルプ

この付録の内容

レポートのプロパティ	331
グリッドのプロパティ	332
ページのプロパティ	335
見出し行と見出し列のプロパティ	336
行と列のプロパティ	337
セルのプロパティ	339
テキストの行と列のプロパティ	339
テキスト・セルのプロパティ	340
チャートのプロパティ	341
イメージのプロパティ	342
テキストのプロパティ	342
行と列のテンプレートのプロパティ	344

この付録では、Reporting Studio のプロパティ・シートについて説明します。この付録には次のトピックがあります。

レポートのプロパティ

レポートのプロパティを使用して、レポートのプロパティを定義します。

表 48 レポートのプロパティ・シート

アイテム	機能
説明	これは表示専用領域で、レポートを保存した後にそのレポートに関する説明が表示されます。
ヘッダーの高さ	オンライン・レポートのレイアウトのヘッダーの高さを入力します。
フッターの高さ	オンライン・レポートのレイアウトのフッターの高さを入力します。

アイテム	機能
表示される次のプロパティは、JConsole.exe ファイルの設定で使用可能になっているものおよびレポートで参照されるデータ・ソースに基づきます。JConsole の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。注釈の表示に関するプロパティの全般的な設定の詳細は、 329 ページの「注釈でのセル・テキスト、プランニング・ユニットの注釈、および Financial Reporting ドキュメントの表示」 を参照してください。	
注釈として表示: セル・テキスト	Oracle Hyperion Financial Management および Oracle Hyperion Planning では、注釈にセル・テキストを表示します。
注釈として表示: プランニング・ユニットの注釈	Planning では、注釈にプランニング・ユニットの注釈を表示します。
注釈として表示: ドキュメントの添付ファイル	Financial Management のみ、注釈にドキュメントの添付ファイルを表示する場合に選択します。

グリッドのプロパティ

グリッドのプロパティを変更するには、次のトピックを参照してください。

- [グリッドのプロパティ - 全般カテゴリ](#)
- [グリッドのプロパティ - 抑制カテゴリ](#)
- [グリッドのプロパティ - 位置カテゴリ](#)

グリッドのプロパティ - 全般カテゴリ

全般カテゴリを使用して選択したグリッドのフォーマットを設定します。

表 49 グリッドのプロパティ・シート

アイテム	機能
次元レイアウト	行、列、およびページ軸に次元を割り当てます。
データベース接続	グリッドがアクセスしているデータベースの名前を表示します。
見出し - メンバー・ラベル	次のいずれかのアクションを行います: <ul style="list-style-type: none"> ● 「メンバー名」を選択すると、メンバー名が見出しとして表示されます。 ● 「別名: ユーザー POV」を選択すると、視点が見出しとして表示されます。 ● 「別名: ロング名」を選択すると、別名が見出しとして表示されます。別名は Oracle Essbase またはプランニング詳細データベース接続で使用されます。 ● 「説明」を選択すると、説明が見出しとして表示されます。「説明」は Financial Management データ・ソースとともに使用されます。 ● 「両方」を選択すると、メンバー名と別名または説明を表示します。
見出し - 前に行見出し	行見出しを表示する前の列を選択します。たとえば、見出しを 3 列目(C)の前に配置するには、3 列目(C)を選択します。列は英字(A、B、C など)で示されます。

アイテム	機能
見出し - 繰返しを抑制	繰り返される行または列の見出しを抑制します。これを選択すると、複数の列または行に 1 列または 1 行の見出しが表示されます。選択を解除すると、列または行の見出しが列または行ごとに繰返し表示されます。
見出し - 別名テーブル	<p>このアイテムは、Oracle Essbase および Planning 詳細でのみ使用されます。</p> <p>別名を表示するときに使用する別名テーブルを選択します。デフォルトでは、このオプションは、データベース接続のデフォルトの別名テーブルに設定されます。</p> <p>注：「ユーザー POV」を別名テーブルに選択すると、Oracle Essbase と Oracle Hyperion Planning に対して任意のグリッドを実行した場合、ユーザー POV の別名テーブルが使用されます。このテーブルからメンバーの別名が戻されます。また、これは、ユーザーが特別なテーブルおよび別名の値を指定した条件付きフォーマットまたは条件付き非表示で指定した別名テーブルには影響しません。</p> <p>注：これは、条件付きフォーマットまたは条件付き非表示で指定されている別名テーブルには影響しません。この 2 つの領域で、エンド・ユーザーは特定の別名テーブルおよびこれらのテーブル内の別名値を指定します。</p>
列の幅	グリッドのすべての列に設定する幅を入力します。
行の高さ	グリッドのすべての行に設定する高さを入力します。
ソート	行または列の範囲でのソートを使用可能にします。「設定」をクリックしてソートのオプションを選択します。
自動サイズ調整	<p>表示や印刷時にすべてのデータが表示されるように、グリッドが拡張されます。グリッドのサイズを手動で制御するには、選択を解除します。自動サイズ調整の選択が解除されている場合、オンラインで表示するとレポートにスクロール・バーが表示され、印刷時には複数のページに表示されます。</p> <p>注：「グリッド・ヘッダーを固定」も選択している場合、自動サイズ調整によってワークスペース・ビューでグリッドは拡張されません。ワークスペースの領域全体にレポートを表示するには、Reporting Studio でグリッドのサイズを拡張します。</p>
グリッド・ヘッダーを固定	グリッドを選択し、「グリッド・ヘッダーを固定」を選択すると、ワークスペースで HTML レポートを表示する際に行および列の見出しが常に表示されます。ワークスペースの領域全体にレポートを表示するには、Reporting Studio でグリッドのサイズを拡張する必要があります。
グリッドの POV	グリッドの POV バーを表示します。グリッドの POV バーはグリッドのタイトル・バーの下に表示されます。
前に改ページ	グリッドの前に改ページを挿入します。グリッドは次のページに印刷されます。
ソース・オブジェクトにリンク	<p>このチェック・ボックスはグリッドをリポジトリに保存した後に使用可能になり、「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスは選択されます。選択を解除すると、リポジトリ内のソース・オブジェクトからのグリッドのリンクが解除されます。</p> <p>注意 このアクションを元に戻すことはできません。</p>
関連コンテンツの追加	関連コンテンツにリンクする行、列またはデータ・セルを選択します。「関連コンテンツの追加」を選択し、「設定」をクリックすると、ハイパーリンクで別のレポートまたは URL にアクセスできるようになります。

アイテム	機能
ドリルスルー	<p>選択すると、レポート・ビューアで関連コンテンツのリンクとして Financial Data Quality Management (FDM)のリンクへのドリルスルーを表示できます。ドリルスルーが基盤のデータ・ソースで定義されている場合、このチェック・ボックスは選択されており、リンクは関連コンテンツのリンクとして表示されます。デフォルトでは、この設定は選択されていません。</p> <p>注： スナップショット・レポートのドリルスルー・リンクは、次の制限付きでサポートされています: ドリルスルー・リンクは、ユーザーがリンク(ドリルスルー・リンク)をクリックすると解決されます。スナップショットの保存後に、ドリルスルー xml がデータ・ソースから削除されても、リンク/下線の引かれた値は引き続きレポートに表示されます。ただし、クリックしても何も実行されません。この動作は、スナップショットのデータを存続させる関連コンテンツ・リンクの考え方と同じです。</p>

グリッドのプロパティ - 抑制カテゴリ

次のプロパティを使用して、グリッドの非表示、グリッドのセルの特定の値の非表示、セルのゼロ値にかわるテキスト変数の指定を行います。

表 50 グリッドのプロパティ - 抑制カテゴリ

アイテム	機能
グリッドを非表示	グリッドを除去ではなく、非表示にします。グリッドのタイトル・バーは「設計」タブでグレーになります。
抑制	<p>条件付き抑制にするには、「基本オプション」または「詳細設定オプション」を選択します。</p> <p>「基本オプション」を選択すると、次のメソッドのいずれかに基づいてデータが抑制されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゼロの場合に抑制」を選択すると、ゼロの値がすべて抑制されます。指定した行または列のすべてのデータ値がゼロの場合、全行または全列が抑制されます。 「欠落の場合に抑制」を選択すると、データが含まれていないすべてのセルが抑制されます。指定した行または列のすべてのセルにデータがない場合は、全行または全列が抑制されます。 「エラーの場合に抑制」を選択すると、エラーにより取得または計算できないセルのデータが抑制されます。指定した行または列のすべてのデータ値にエラーが含まれている場合、全行または全列が抑制されます。 <p>「詳細設定オプション」を選択すると、特定の基準に基づいたデータが抑制されます。「設定」を選択して、基準を定義します。</p> <p>Planning データ・ソースのみ: 「欠落しているブロック」を選択すると、SuppressMissingBlocks というデータ・クエリー・レベルのフラグが、そのグリッドについて Planning に発行される ADM データ・クエリーに含まれます。このプロパティは、他の抑制プロパティとは別に動作し、行/列レベルではなくグリッド・レベルのみで使用できます。</p>
テキスト・オプション	<p>次のいずれかの領域に値を入力します:</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゼロ値」には、ゼロ値のセルを置換する値を入力します。 「データなし」には、空のセルを置換する値を入力します。 「エラー」には、エラー値のセルを置換する値を入力します。 「テキスト関数のエラーの表示」を選択すると、グリッドに配置されるテキスト関数のエラーが表示されます。これはデフォルトです。

グリッドのプロパティ - 位置カテゴリ

位置カテゴリを使用して、選択したグリッドのレポート上の位置を決めます。

表 51 グリッドのプロパティ - 位置カテゴリ

アイテム	機能
レポート上のオブジェクトの位置	<p>次のいずれかのアクションを行います:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「横方向」では、「なし」または「相対」を選択して、グリッドが他のレポート・オブジェクトに対してページにどのように印刷されるかを制御します。「左」を選択すると、グリッドはレポートの左側に配置され、「中央」を選択すると、グリッドはレポートの中央に配置され、「右」を選択すると、グリッドはレポートの右側に配置されます。 ● 「縦方向」では、「なし」または「相対」を選択して、グリッドが他のレポート・オブジェクトに対してページにどのように印刷されるかを制御します。「上」を選択すると、グリッドはレポートの上部に配置され、「中央」を選択すると、グリッドはレポートの中央に配置され、「下」を選択すると、グリッドはレポートの下部に配置されます。
展開する位置	<p>次のオプションのいずれかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「親の前」を選択すると、要約レベルの行または列の前に展開します。 ● 「親の後」を選択すると、要約レベルの行または列の後に展開します。これはデフォルトの設定です。
自動計算の位置	<p>次のオプションのいずれかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「メンバーの前」を選択すると、自動計算行をメンバーの前に表示します。 ● 「メンバーの後」を選択すると、自動計算行をメンバーの後に表示します。これはデフォルトの設定です。
サポート詳細の位置	<p>注： このコントロールは、プランニング詳細データベース接続を使用している場合のみ表示されます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「親メンバーの前」を選択すると、サポート詳細を親メンバーの前に表示します。 ● 「親メンバーの後」を選択すると、サポート詳細を親メンバーの後に表示します。これはデフォルトの設定です。

ページのプロパティ

「ページのプロパティ」を使用して、ページ・メンバーのプロパティを定義します。1つのチャートが複数のページ・メンバーを含むグリッドにリンクしている場合、「ページの印刷位置」オプションが「新規ページ - 上端」、「新規ページ - 同じ位置」、「同じページ」のいずれかに設定されている場合は、ページ・メンバーごとに新しいチャートが印刷されます。

表 52 ページのプロパティ

アイテム	機能
メンバー・ラベル	<p>メンバーのラベルを見出しとして表示する場合に選択します。メンバー・ラベルを表示するための次のメソッドのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「メンバー名」を選択すると、メンバーのラベルが見出しとして表示されます。 ● 「別名: デフォルト」を選択すると、別名が見出しとして表示されます。「別名」は Oracle Essbase およびプランニング詳細データソースとともに使用されます。 ● 「説明」を選択すると、説明が見出しとして表示されます。「説明」は Financial Management データ・ソースとともに使用されます。 ● 「両方」を選択すると、メンバー名と別名または説明が表示されます。
カスタム見出し	<p>行のカスタム見出しを定義する場合に選択します。カスタム見出しのテキストを入力します。</p>
「関数の挿入」ボタン	<p>カスタム見出しに関数を挿入する場合に選択します。</p>
エンティティのショート名	<p>グリッドのエンティティ (Financial Management のエンティティ次元のみ) のショート名を表示する場合に選択します。</p>
「フォーマット」ボタン	<p>「フォーマット」ダイアログ・ボックスが開き、行のオプションを指定できます。</p>
見出しの高さ	<p>見出し行の高さを入力します。</p>
ページの印刷位置	<p>次のオプションのいずれかを選択して、各ページ・メンバーを印刷する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「新規ページ - 上端」を選択すると、各ページ・メンバーが新規ページの上端から印刷されます。 ● 「新規ページ - 同じ位置」を選択すると、各ページ・メンバーが最初のページと同じ位置から新規ページに印刷されます。 ● 「同じページ」を選択すると、各ページ・メンバーが前のページ・メンバーに続けて印刷されます。

見出し行と見出し列のプロパティ

見出し行と見出し列のプロパティを使用して、選択したデータ行、データ列、式行、式列の見出しをフォーマットします。使用可能なプロパティは、選択したセルのタイプによって異なります。たとえば、式見出しセルでは、「式の表示」および「カスタム見出し」オプションが使用可能です。

表 53 見出し行と見出し列のプロパティ

アイテム	機能
見出し - メンバー・ラベル	<p>このオプションは、データ見出しのみに使用されます。メンバーのラベルを見出しとして表示する場合に選択し、メンバー・ラベルを表示する次のメソッドのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「メンバー名」を選択すると、メンバーのラベルが見出しとして表示されます。 ● 「別名」または「説明」を選択すると、メンバー名に対応する別名または説明が見出しとして表示されます。 ● 「両方」を選択すると、メンバー名と別名または説明が見出しとして表示されます。 <p>注： PDF ファイルに表示される際、末尾のドットがメンバー・ラベルの最後に表示され、行ヘッダーの幅を拡張します。末尾のドットの抑制については、337 ページの「行と列のプロパティ」を参照してください。</p>
見出し - 式の表示	式の行または列を表示する場合に選択します。
見出し - カスタム見出し	見出しのカスタム見出しを定義する場合に選択し、カスタム見出しのテキストを入力します。
「関数」ボタン	見出しに関数を含める場合に選択します。
エンティティのショート名	グリッドのエンティティ (Financial Management のエンティティ次元のみ) のショート名を表示する場合に選択します。
展開を許可	データの行や列をレポートで展開できるようにする場合に選択します。
自動計算	自動計算を使用可能にする場合に選択します。次に、「設定」ボタンを選択して、自動計算の行または列を挿入します。

行と列のプロパティ

行と列のプロパティを使用して、選択したデータ行、データ列、式行、式列をフォーマットします。使用可能なプロパティは、選択したセルのタイプによって異なります。

表 54 行と列のプロパティ

アイテム	機能
データベース接続	行にデータを取得するデータベース接続の名前を表示します。
行の高さ/列の幅	選択した行の高さまたは選択した列の幅を入力します。
常に非表示	レポートの表示および印刷出力時に行または列を非表示にする場合に選択します。行はレポート・デザイナーでのみ表示されます。

アイテム	機能
抑制時に行を無視/抑制時に列を無視	<p>次のいずれかのアクションを行います:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 非表示の行/列のデータを無視する場合、このオプションを選択します。抑制を評価する際、非表示の行/列のセルは評価されません。 ● 非表示の行/列のデータを含めるには、このオプションの選択を解除します。抑制を評価する際、データを含んでいる非表示の行/列のセルはすべて評価されます。 <p>注： 条件付き抑制の「詳細設定オプション」メソッドを使用すると、特定のセルを参照する場合に、非表示のセルに基づいて抑制を評価できます。</p>
抑制	<p>「なし、常に表示」を選択すると、抑制がオフになります。これはデフォルトの設定です。</p> <p>「基本オプション」を選択すると、次のメソッドのいずれかに基づいてデータが抑制されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ゼロの場合に抑制」を選択すると、ゼロの値がすべて抑制されます。指定した行または列のすべてのデータ値がゼロの場合、全行または全列が抑制されます。 ● 「欠落の場合に抑制」を選択すると、データが含まれていないすべてのセルが抑制されます。指定した行または列のすべてのセルにデータがない場合は、全行または全列が抑制されます。 ● 「エラーの場合に抑制」を選択すると、エラーにより取得または計算できないセルのデータが抑制されます。指定した行または列のすべてのデータ値にエラーが含まれている場合、全行または全列が抑制されます。 <p>「詳細設定オプション」を選択すると、特定の基準に基づいてデータが抑制されます。「設定」を選択して基準を定義します。</p> <p>Oracle Essbase データソース行でのみ使用できます。指定した列の値に基づいて上位 N 行に戻るには、行を選択し、「上」を選択して、値と列を選択します。</p>
見出し - 繰返しを抑制	<p>グリッドの繰返される行または列見出しを抑制する場合に選択します。選択すると、複数の列および行に 1 列または 1 行の見出しが表示されます。選択を解除すると、列または行の見出しが列または行ごとに繰返し表示されます。</p>
末尾のドットの抑制	<p>PDF ファイルの見出しのメンバーのラベル名の後に末尾のドットを表示するかどうかを切り替えます。</p>
サポート詳細の表示	<p>注： このコントロールは、プランニング詳細データベース接続を使用したデータ行に対してのみ表示されます。選択すると行の 1 つ以上のセルに対しサポート詳細が付けられ、サポート詳細を表示する行が追加されます。</p>
改ページの挿入	<p>注： このコントロールは、プランニング詳細データベース接続を使用したデータ行に対してのみ表示されます。「サポート詳細の表示」を選択すると使用可能になります。選択すると、改ページをサポート詳細の行内に挿入できます。選択を解除すると、メンバーとすべてのサポート詳細と一緒に保持されます。サポート詳細が長すぎてページに収まらない場合、メンバーおよびサポート詳細は次のページに移動します。</p> <p>注： 自動計算行では、「改ページの挿入」オプションは「自動計算」ダイアログ・ボックス内に配置され、特定の自動計算ごとにオプションを制御できます。詳細は、次を参照してください。</p>
単項演算子の表示	<p>注： このコントロールは、プランニング詳細データベース接続を使用したデータ行に対してのみ表示されます。「サポート詳細の表示」を選択すると使用可能になります。選択すると単項演算子(+、-、/、*)が、すべてのサポート詳細行に表示されます。</p>
ライン・アイテムの詳細を表示	<p>このオプションは、Financial Management の行のみに使用されます。レポートにライン・アイテムの詳細を含める場合に選択します。</p>

アイテム	機能
前に改ページ	<p>行の前に改ページを挿入する場合に選択し、次のアクションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行に対しては、「上端」を選択すると、新規ページの上端にグリッドの残りの部分が配置されます。列に対しては、「左端」を選択すると、新規ページの左側にグリッドの残りの部分が配置されます。 ● 「同じ位置」を選択すると、現在と同じ位置にグリッドが配置されます。たとえば、グリッドをページの下半分に配置し、「同じ位置」を選択して改ページを挿入すると、グリッドの残りの部分は、2 ページ目の下半分に表示されます。
関連コンテンツの設定	<p>「関連コンテンツの追加」を選択して、J2EE、Web Analysis、または Financial Reporting のオブジェクトへのリンクを作成します。「設定」をクリックして関連コンテンツの設定のリンクを指定します。</p>
列幅を調整	<p>セルの内容にあわせて、列見出しと行見出しの幅を変更できます。既定の設定は、列内のデータのタイプに基づいています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● データ / 式の列 - 既定の設定は「オン」です。 ● テキストの列 - 既定の設定は「オフ」です。 ● 行見出しの列 - 既定の設定は「オフ」です。

セルのプロパティ

このプロパティ・シートを使用して、式セルまたはデータ・セルのプロパティを設定します。使用可能なプロパティは、グリッドで選択したセルのタイプによって異なります。

表 55 セルのプロパティ・シート

アイテム	機能
計算の順序	<p>次のいずれかのオプションを選択して、計算の順序を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行計算をセルに適用する場合は、「行の式を使用」を選択します。 ● 列計算をセルに適用する場合は、「列の式を使用」を選択します。 ● 新しい式を追加する場合は、「カスタム式を使用」を選択します。
セル・ドキュメントの取得	<p>Oracle Essbase および Financial Management データベースのみで、この関数を選択すると、Word、Excel または PDF のドキュメントをレポートの終わりに添付したり、レポートに脚注を挿入して添付文書についての説明を追加したりできます。</p>
関連コンテンツの追加	<p>「関連コンテンツの追加」を選択して、J2EE、Web Analysis、または Financial Reporting のオブジェクトへのリンクを作成します。「設定」をクリックして関連コンテンツの設定のリンクを指定します。</p>

テキストの行と列のプロパティ

このプロパティ・シートは、選択したテキスト行や列のフォーマットに使用します。

表 56 テキストの行と列のプロパティ・シート

アイテム	機能
行の高さ/ 列の幅	選択した行の高さまたは選択した列の幅を入力します。
常に非表示	レポートの表示および印刷出力時に行または列を非表示にする場合に選択します。Oracle Hyperion Financial Reporting Studio でのみ行が表示されます。
抑制時に行 を無視/抑 制時に列を 無視	次のいずれかのアクションを行います： <ul style="list-style-type: none"> ● 非表示の行/列のデータを無視する場合に選択します。抑制を評価する際、非表示の行/列のセルは評価されません。 ● 非表示の行/列にデータを含める場合に選択を解除します。抑制を評価する際、データを含んでいる非表示の行/列のセルはすべて評価されます。 <p>注： 条件付き抑制の「詳細設定オプション」メソッドを使用すると、特定のセルを参照する場合に、非表示のセルに基づいて抑制を評価できます。</p>
抑制	「なし、常に表示」を選択すると、抑制がオフになります。これはデフォルトの設定です。 「基本オプション」を選択すると、次のメソッドのいずれかに基づいてデータが抑制されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「ゼロの場合に抑制」を選択すると、ゼロの値がすべて抑制されます。指定した行または列のすべてのデータ値がゼロの場合、全行または全列が抑制されます。 ● 「欠落の場合に抑制」を選択すると、データが含まれていないすべてのセルが抑制されます。指定した行または列のすべてのセルにデータがない場合は、全行または全列が抑制されます。 ● 「エラーの場合に非表示」を選択すると、エラーのために取得または計算できないセルのデータが非表示になります。指定した行または列のすべてのデータ値にエラーが含まれている場合、全行または全列が抑制されます。 <p>「詳細設定オプション」を選択すると、特定の基準に基づいてデータが抑制されます。「設定」を選択して基準を定義します。</p>
前に改ペー ジ	行の前に改ページを挿入する場合に選択し、次の位置のいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 行に対しては、「上端」を選択すると、新規ページの上端にグリッドの残りの部分が配置されます。列に対しては、「左端」を選択すると、新規ページの左側にグリッドの残りの部分が配置されます。 ● グリッドを現在と同じ位置に配置する場合、「同じ位置」を選択します。たとえば、グリッドをページの下半分に配置し、「同じ位置」を選択して改ページを挿入すると、グリッドの残りの部分は、2 ページ目の下半分に表示されます。
関連コンテ ンツの追加	「関連コンテンツの追加」を選択して、J2EE、Web Analysis、または Financial Reporting のオブジェクトへのリンクを作成します。「設定」をクリックして「関連コンテンツの追加」ダイアログ内でリンクを指定します。

テキスト・セルのプロパティ

このプロパティ・シートは、テキスト・セルのフォーマットに使用します。

表 57 テキスト・セルのプロパティ・シート

アイテム	機能
テキスト	テキストを入力します。
「関数の挿入」ボタン	クリックすると、「関数の挿入」ダイアログ・ボックスが開き、テキストのセルに関数を挿入できます。
関連コンテンツの追加	「関連コンテンツの追加」を選択して、J2EE、Web Analysis、または Financial Reporting のオブジェクトへのリンクを作成します。「設定」をクリックして「関連コンテンツの追加」ダイアログ内でリンクを指定します。

チャートのプロパティ

このプロパティ・シートは、チャート・タイプの指定、データ範囲の定義、および選択したチャートのフォーマットに使用します。

表 58 チャートのプロパティ・シート

アイテム	機能
チャート・タイプ	チャートのタイプを選択します。オプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、複合チャート、円グラフです。
グリッド	参照するグリッドの名前を選択します。
凡例に入れるグリッドのアイテム	次のオプションのいずれかを選択します： <ul style="list-style-type: none"> ● 「行」を選択し、一連の行を参照します。 ● 「列」を選択し、一連の列を参照します。
行と列のデータ範囲	列と行を選択して、チャートに含めるデータを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 複合チャートの場合は、棒グラフと折れ線グラフのデータ範囲を選択します。 ● 円グラフの場合は、行または列を選択します。
自動計算を含める	データ・セットの自動計算を設定する場合に選択します。
チャートのフォーマット	選択したチャートのフォーマット・オプションを指定する場合に選択します。
前に改ページ	チャートの前に改ページを挿入する場合に選択します。チャートは新規ページに印刷されます。
レポート上のオブジェクトの位置	次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 横方向(なし、相対、左、中央、右) ● 縦方向(なし、相対、上、中央、下) <p>詳細は、83 ページの「レポート上のチャートの位置」を参照してください。</p>
関連コンテンツの追加	「関連コンテンツの追加」を選択して、J2EE、Web Analysis、または Financial Reporting のオブジェクトへのリンクを作成します。「設定」をクリックして「関連コンテンツの追加」ダイアログ内でリンクを指定します。
名前	自動生成された名前を上書きするためのグリッド名を入力します。

イメージのプロパティ

このプロパティ・シートは、選択したイメージのフォーマットに使用します。

表 59 イメージのプロパティ・シート

アイテム	機能
イメージ - イメージの選択	クリックして、ファイル・システムに保存されているイメージを選択します。
イメージ - パネルに合わせる	選択したイメージのサイズ調整機能を使用可能にする場合に選択します。イメージの枠線のサイズに合わせてイメージを拡大または縮小できます。
レポート上のオブジェクトの位置 - 横方向	次のオプションのいずれかを選択して、イメージの横方向の位置を指定します。 <ul style="list-style-type: none">「なし」を選択すると、イメージの上または左側にあるレポート・オブジェクトのサイズが変更されても、イメージは現在の位置に配置されて印刷されます。「相対」を選択すると、イメージの左にあるレポート・オブジェクトを基準にしてイメージが配置されて印刷されます。「左」を選択すると、イメージはレポートの左端に配置されます。「中央」を選択すると、イメージはレポートの中央に配置されます。「右」を選択すると、イメージはレポートの右端に配置されます。
レポート上のオブジェクトの位置 - 縦方向	次のオプションのいずれかを選択して、イメージの縦方向の位置を指定します。 <ul style="list-style-type: none">「なし」を選択すると、イメージの上または左側にあるレポート・オブジェクトのサイズが変更されても、イメージは現在の位置に配置されて印刷されます。「相対」を選択すると、イメージの上にあるレポート・オブジェクトを基準にしてイメージが配置されて印刷されます。「上」を選択すると、イメージはレポートの上端に配置されます。「中央」を選択すると、イメージはレポートの中央に配置されます。「下」を選択すると、イメージはレポートの下端に配置されます。
前に改ページ	イメージの前に改ページを挿入する場合に選択します。表示または印刷時にイメージは新規ページに表示されます。
ソース・オブジェクトにリンク	このチェック・ボックスはイメージがリポジトリに保存された後に使用可能になり、「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスは選択されます。選択を解除すると、リポジトリのソース・オブジェクトからのリンクが解除されます。 注意 このアクションを元に戻すことはできません。

テキストのプロパティ

このプロパティ・シートは、テキスト・オブジェクトのプロパティの変更を使用します。

表 60 テキストのプロパティ・シート

アイテム	機能
枠線と網掛け - 枠線の表示	テキスト・ボックスに枠線を配置するために選択するか、除去するために選択解除します。

アイテム	機能
枠線と網掛け - 網掛け	クリックして、テキスト・ボックスに付ける色をドロップダウン・リストから選択します。
関数の挿入	クリックすると、関数の挿入エディタが表示され、テキスト・ボックスに関数を挿入できます。
テキスト関数のエラーの表示	テキスト・オブジェクトのテキスト関数のエラーを表示する場合に選択します。これはデフォルトです。
自動サイズ調整	レポートをプレビューまたは印刷する際、テキスト・ボックス内のテキストがすべて表示されるように、テキスト・ボックスのサイズを調整する場合に選択します。
前に改ページ	レポートをプレビューまたは印刷する際、次のページの上端にテキスト・ボックスを表示する場合に選択します。レポートを HTML に保存する場合、新規 HTML ページがテキスト・ボックスの前に作成されます。
ソース・オブジェクトにリンク	このチェック・ボックスは、テキスト・オブジェクトがリポジトリに保存された後、使用可能になり、「ソース・オブジェクトにリンク」チェック・ボックスは選択されます。チェック・ボックスの選択を解除すると、リポジトリのソース・オブジェクトからテキスト・ボックスのリンクが解除されます。 このアクションを元に戻すことはできません。
グリッドの繰返し	この機能は、定義済のページ次元が 1 つ以上あるレポートに 1 つ以上のグリッドがある場合にのみ使用可能です。このチェック・ボックスを選択して関連するグリッドを選択すると、ヘッダーおよびフッターのテキスト・ボックスと同様に、グリッドのページ次元の各メンバーのテキスト・ボックスが表示されます。 この設定が使用不可な場合、レポート本文のテキスト・ボックスは、最初のページ次元メンバー選択でのみ表示されます。使用可能な場合、各ページ次元メンバー選択のテキスト・ボックスが表示されます。さらに、MemberName などのテキスト関数をページ次元とともに使用すると、Current キーワードは適切なページ・メンバーを取得します。
レポート上のオブジェクトの位置 - 横方向	次のオプションのいずれかを選択します： <ul style="list-style-type: none"> ● 「なし」を選択すると、テキストの上または左にあるレポート・オブジェクトのサイズが変更されても、テキストは現在の位置に配置されて印刷されます。 ● 「相対」を選択すると、テキストの左にあるレポート・オブジェクトを基準にしてテキストは配置されて印刷されます。 ● 「左」を選択すると、テキスト・ボックスはレポートの左端に配置されます。 ● 「中央」を選択すると、テキスト・ボックスはレポートの中央に配置されます。 ● 「右」を選択すると、テキスト・ボックスはレポートの右端に配置されます。
レポート上のオブジェクトの位置 - 縦方向	次のオプションのいずれかを選択します： <ul style="list-style-type: none"> ● 「なし」を選択すると、テキストの上または左にあるレポート・オブジェクトのサイズが変更されても、テキストは現在の位置に配置されて印刷されます。 ● 「相対」を選択すると、テキストの上にあるレポート・オブジェクトを基準にしてテキストは配置されて印刷されます。 ● 「上」を選択すると、テキスト・ボックスはレポートの上端に配置されます。 ● 「中央」を選択すると、テキスト・ボックスはレポートの中央に配置されます。 ● 「下」を選択すると、テキスト・ボックスはレポートの下端に配置されます。
関連コンテンツの追加	「 関連コンテンツの追加 」を選択し、「 設定 」をクリックすると、ハイパーリンクで別のレポートまたは URL にアクセスできるようになります。
名前	自動生成された名前を上書きするためのテキスト名を入力します。

行と列のテンプレートのプロパティ

このプロパティ・シートは、フォーマットの継承の指定や優先度の設定、ソース・オブジェクトとテンプレートとのリンクの解除に使用します。

表 61 行と列のテンプレートのプロパティ・シート

アイテム	説明
アイテム	機能
フォーマットの継承元	グリッドの行または列を参照して、行または列のテンプレートにフォーマットを適用する場合に選択します。デフォルトの行または列が表示され、変更も可能です。
優先度	<p>このオプションは行テンプレートと列テンプレートが交差する場合にのみ使用可能です。選択した行または列のテンプレートにフォーマットおよび式の優先度を適用する場合に選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">● フォーマットの優先順位を設定する場合、交差する行テンプレートのフォーマットを適用するには「行のテンプレート」を選択し、交差する列テンプレートのフォーマットを適用するには「列のテンプレート」を選択します。● 式の優先順位を設定する場合、交差する行テンプレートの式を適用するには「行の式」を選択し、交差する列テンプレートの式を適用するには「列の式」を選択します。
ソース・オブジェクトにリンク	<p>このチェック・ボックスの選択を解除すると、リポジトリ内のソース・オブジェクトと列または行のテンプレートのリンクが解除されます。</p> <p>注意 このアクションを元に戻すことはできません。</p>



よくある質問

この付録の内容

ユーザーの POV のリストにある次元を変更しても、グリッドに影響がないのはなぜですか?.....	345
グリッドの POV がレポート・デザイナーのワークスペースに表示されないのはなぜですか?.....	346
ワークスペースを使用しているユーザーは、どのようにしてグリッドの POV に次元が設定されていることを確認できますか?	347
ユーザーの POV を変更した場合に、グリッドの行、列、またはページの軸で選択したメンバーに変更が反映されるようにするには、どのようにレポートを設計すればよいですか?	347
なぜブックの POV が必要なのですか?	347
レポート・メンバー選択とは何ですか?.....	348
レポート・メンバー選択を「レポートの POV」と呼ばないのはなぜですか?	348
なぜバッチの POV が必要なのですか?	348

この付録では、Financial Reporting に関する一般的な質問(FAQ)とその回答を示します。

ユーザーの POV のリストにある次元を変更しても、グリッドに影響がないのはなぜですか?

レポートに複数のグリッドが入っていることがよくあります。ユーザーの POV の次元を変更すると、そのうちのいくつかに影響します。

次の図で、2つのグリッドは同一に見えますが、メジャーの年の値が異なります。

図 25 1つのレポートにある複数グリッド

User POV: Product: Product Market: Market Scenario: Scenario

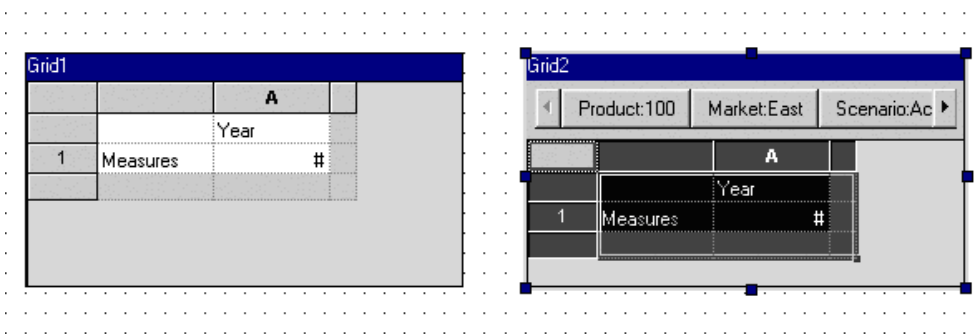
	Year
Measures	105,522
(Export to Spreadsheet)	

	Year
Measures	12,656
(Export to Spreadsheet)	

レポート・クライアントに戻ってグリッドの POV をオンにすると、製品、市場、シナリオのメンバーが Grid2 に設定されているのがわかります。つまりレポート・デザイナーのワークスペースでこれらの次元のいずれかを変更しても、Grid2 には影響がありません。

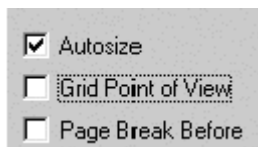
そのため、レポートを設計するとき、テキスト・ボックスまたは行か列のヘッダーにページ次元のユーザーが表示されるようにしておくといでしょう。

図 26 使用可能なグリッドの POV



グリッドの POV がレポート・デザイナーのワークスペースに表示されないのはなぜですか?

管理者がグリッドの POV を使用不可にすると、ワークスペースには表示されません。次の図では、グリッドの POV は選択されておらず、ワークスペースに表示されていません。



ワークスペースを使用しているユーザーは、どのようにしてグリッドの POV に次元が設定されていることを確認できますか？

レポートを設計する際、次元のグリッドの POV がグリッドの特定メンバーに設定されているテキスト行の脚注を使用して、グリッドを設計する必要があります。他に、次元値を行または列ヘッダーに挿入する方法もあります(次の図を例として参照)。グリッドの POV をオフにすると、列の説明(カスタム見出しを使用)には、グリッドがシナリオ次元の実績を表示していることが示されます。

図 27 ヘッダーに次元の値が表示されたレポート

User POV: Product: Product Market: Market

Grid POV: <u>Scenario</u> : Actual		
	Qtr1 Actual	Qtr2 Actual
Measures	24,703	27,107
(Export to Spreadsheet)		

ユーザーの POV を変更した場合に、グリッドの行、列、またはページの軸で選択したメンバーに変更が反映されるようにするには、どのようにレポートを設計すればよいですか？

選択した軸の CurrentPOV メンバーを使用するか、または CurrentPOV をメンバーのパラメータとして使用したメンバー選択関数を選択します。レポートが実行されると、軸値がユーザーの POV から取得されます。すべての軸値がユーザーの POV から取得され、ユーザーごとに完全に動的なレポートが作成されるように、グリッドを設計できます。

なぜブックの POV が必要なのですか？

ブックの POV を使用すると、だれでもブックを実行するたびにブックのすべてのレポートのグリッドに同じデフォルト値を同時に使用できます。これはブックのデータベース接続に固有ですが、ブックのレポートまたはレポートのグリッド・オブジェクトに固有ではありません。ブックの POV 値がブックとともに保存されると、ブックの POV を変更しても、ブックを設計したユーザーの POV には影響しません。

レポート・メンバー選択とは何ですか？

レポート・メンバー選択は、グリッドの行、列、またはページの軸に設定されていない次元の値、またはブック内の特定のレポートにあるすべてのグリッドの POV に設定された次元の値を定義します。

レポート・メンバー選択を「レポートの POV」と呼ばないのはなぜですか？

すべての POV は、次元に 1 つのメンバーを設定できます。レポート・メンバー選択は、次元に複数のメンバーを設定できます。複数のメンバー、または結果が複数のメンバーになるメンバー選択関数が 1 つの次元に設定されると、ブック内のレポートは各メンバーに対し実行されます。複数のメンバー、または結果が複数のメンバーになるメンバー選択関数が複数の次元に設定されると、ブック内のレポートはこれらのメンバーのすべての組合せに対し実行されます。レポートのページ軸のメンバーの各組合せに対しグリッドが生成されるように、ブック内のレポート・メンバー選択を使用して、メンバー・セットの各組合せに対しレポートが生成されます。

なぜバッチの POV が必要なのですか？

バッチの実行時にバッチ内のすべてのレポートのすべてのグリッドに対し同時に同じデフォルト値を使用するように、バッチをスケジュールできるからです。これは、バッチのデータベース接続に固有ですが、バッチのレポートまたはレポート内のグリッド・オブジェクトには固有ではありません。バッチの POV 値はバッチのスケジュール時にのみ保存されるので、同じバッチの異なる値を設定できます。バッチの POV への変更は、バッチを設計するユーザーの POV には影響しません。またバッチを設計するユーザーの POV への変更は、バッチの POV に影響しません。



通貨一覧

この付録では、Oracle Hyperion Financial Reporting で使用する通貨記号を一覧表示し、説明します。

注： フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、ルクセンブルグ、オランダ、スペイン、ベルギー、オーストリー、キプロス、スロベニア、マルタ、アイルランド、ポルトガルで使用されている通貨はユーロです。

表 62 通貨一覧

国	通貨名	通貨記号	ISO コード
アルゼンチン	ペソ	\$	ARS
オーストラリア	ドル	A\$	AUD
オーストリー	シリング	S	ATS
ベルギー	フラン	BEF	BEF
ブラジル	レアル	R\$	BRL
カナダ	ドル	Can\$	CAD
チリ	ペソ	Ch\$	CLP
中国	元	Y	CNY
デンマーク	クローネ	Dkr	DKK
エジプト	ポンド	£E	EGP
欧州連合	欧州連合通貨単位(ユーロ)	€	XEU
フィンランド	マルカ	mk	FIM
フランス	フラン	F	FRF
ドイツ	マルク	DM	DEM
ギリシャ	ドラクマ	Dr	GRD
香港	ドル	HK\$	HKD
インド	ルピー	Rs	INR
インドネシア	ルピア	Rp	IDR

国	通貨名	通貨記号	ISO コード
アイルランド	ポント	IR£	IEP
イスラエル	シェケル	NIS	ILS
イタリア	リラ	Lit	ITL
日本	円	¥	JPY
韓国	ウォン	W	KRW
ルクセンブルグ	フラン	LuxF	LUF
マレーシア	リングgit	RM	MYR
メキシコ	ペソ	Mex\$	MXP
オランダ	ギルダー	fl	NLG
ニュージーランド	ドル	NZ\$	NZD
ノルウェー	クローネ	NKr	NOK
フィリピン	ペソ	Php	PHP
ポーランド	ズロチ	Zl	PLN
ポルトガル	エスクード	Esc	PTE
ロシア	ルーブル	R	RUR
シンガポール	ドル	S\$	SGD
南アフリカ	ランド	R	ZAR
スペイン	ペセタ	Ptas	ESP
スウェーデン	クローナ	SEK	SEK
スイス	フラン	SwF	CHF
台湾	NT ドル	NT\$	TWD
タイ	バーツ	Bht	THB
トルコ	リラ	TL	TRL
イギリス	ポンド	£	GBP
アメリカ合衆国	ドル	\$	USD

用語集

! 「感嘆符」を参照してください。

#MISSING 「欠落データ」を参照してください。

2 パス 他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbase のプロパティです。2 パスのメンバーは、2 番目のパスの間にアウトラインから計算されます。

Calculation Manager Planning および **Financial Management** のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証、管理するために使用できる、Enterprise Performance Management Architect (EPMA) のモジュールの 1 つです。

CDF 「カスタム定義関数」を参照してください。

CDM 「カスタム定義マクロ」を参照してください。

Cookie Web サイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。

EPM Oracle インスタンス EPM System 製品のアクティブな動的コンポーネント(実行時に変更できるコンポーネント)を含むディレクトリです。EPM System コンフィグレータで構成中に、EPM Oracle インスタンス・ディレクトリの場所を定義します。

EPM Oracle ホーム EPM System 製品に必要なファイルを含むミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。EPM Oracle ホームの場所は、EPM System インストーラを使用したインストール中に指定されます。

essbase.cfg Essbase のオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集して Essbase サーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbase クライアントで使用することにより、Essbase サーバーの設定を上書きできます。

EssCell 特定の Essbase データベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase スプレッドシート・アドインのセルに入力する関数です。

ESSCMD Essbase の操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。

ESSLANG テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義する Essbase 環境変数です。「エンコード方式」も参照してください。

ESSMSH 「MaxL シェル」を参照してください。

Extensible Markup Language (XML) データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。

Extract-Transform-Load (ETL) データを抽出してアプリケーションに移行するための、データソース固有のプログラムです。

GUI グラフィカル・ユーザー・インタフェースです。

ID 外部認証におけるユーザーまたはグループの固有の ID です。

Interactive Reporting 接続ファイル(.oce) データベース API(ODBC、SQL*Net など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報を含むファイルです。管理者は、Interactive Reporting 接続(.oce)ファイルを作成して発行します。

Java アプリケーション・サーバー・クラスタ Java 仮想マシン(JVM)のアクティブ-アクティブ・アプリケーション・サーバー・クラスタです。

Java データベース接続(JDBC) Java クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL データベースのアクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

JSP Java Server Pages です。

KeyContacts ガジェット Smart Space ユーザーのグループを含み、Smart Space Collaborator へのアクセスを提供するガジェットです。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに個別の KeyContacts ガジェットを使用できます。「ガジェット」も参照してください。

LRO 「リンク・レポート・オブジェクト」を参照してください。

MaxL Essbase で使用される多次元データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。「MaxL DDL」、「MaxL DML」、および「MaxL シェル」も参照してください。

MaxL DDL Essbase で、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義言語です。

MaxL DML Essbase で、データのクエリーと抽出に使用されるデータ操作言語です。

MaxL DML の計算済メンバー 分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

MaxL Perl モジュール Essbase MaxL DDL の一部である Perl モジュール(essbase.pm)です。このモジュールを Perl パッケージに追加すると、Perl プログラムから Essbase データベースにアクセスできます。

MaxL シェル MaxL ステートメントを Essbase サーバーに渡すためのインタフェースです。MaxL シェルの実行可能ファイル(UNIX: essmsh、Windows: essmsh.exe)は、Essbase の bin ディレクトリに格納されています。

MaxL スクリプト・エディタ 管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxL スクリプトで Essbase を管理するとき、テキスト・エディタと MaxL シェルの代替として MaxL スクリプト・エディタを使用できます。

MDX(多次元式) 多次元準拠データベースでのクエリーや計算に使用される言語です。

MIME タイプ アイテムのデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより判別されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

NULL 値 データのない値です。NULL 値はゼロに等しくありません。

ODBC Open Database Connectivity の略です。データベース管理システム(database management system: DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスの方法です。

「OK」ステータス 集計ステータスの1つです。エンティティが集計済であり、階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。

OLAP メタデータ・カタログ Essbase Integration Services における、リレーショナル・データ・ソースから引き出されたデータの性質、ソース、場所および種別について説明するメタデータを含むリレーショナル・データベースです。

OLAP モデル Essbase Integration Services で、リレーショナル・データベースのテーブルおよび列から作成される論理モデル(スター・スキーマ)です。この OLAP モデルを使用して、多次元データベースの構造を生成できます。「オンライン分析プロセス(OLAP)」も参照してください。

Open Database Connectivity (ODBC) 標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。

Oracle ホーム 特定の製品に必要なインストール・ファイルが含まれるディレクトリで、ミドルウェア・ホームのディレクトリ構造内にあります。「ミドルウェア・ホーム」も参照してください。

POV(視点) 行、列、またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDM での POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、Currency 次元を POV に割り当て、Euro メンバーを選択できます。データ・フォームで POV を選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。

Production Reporting 「SQR Production Reporting」を参照してください。

PVA 「期別価額メソッド」を参照してください。

root メンバー 次元分岐における最上位のメンバーです。

Shared Services レジストリ Shared Services リポジトリの一部で、ほとんどの EPM System 製品の EPM System 配置情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を管理します。

SPF ファイル SQR Production Reporting サーバーで作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。

SQL スプレッドシート SQL クエリーの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。

SQR Production Reporting データ・アクセス、データ操作、および SQR Production Reporting ドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。

Structured Query Language リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。

TCP/IP 「Transmission Control Protocol/Internet Protocol」を参照してください。

Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) 異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IP を使用すると、LAN および WAN に接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの保管が可能です。

Unicode モードのアプリケーション 文字テキストが UTF-8 でエンコードされている Essbase アプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。

WebLogic Server ホーム WebLogic Server インスタンスに必要なインストール・ファイルが含まれるミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。WebLogic Server ホームは Oracle ホームと同等です。

WITH セクション MaxL DML で、オプションで使用できるクエリーのセクションです。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。WITH セクションでセット(カスタム・メンバー)を一度定義すると、クエリー中に複数回参照できます。

Workspace ページ 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

ws.conf Windows プラットフォーム用の構成ファイルです。

wsconf_platform UNIX プラットフォーム用の構成ファイルです。

XML 「Extensible Markup Language」を参照してください。

XOLAP アウトラインのメンバーのみを保管し、クエリー時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbase の多次元データベースです。XOLAP は、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。

Y 軸スケール 「調査」セクションに表示される、チャートの Y 軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意の Y 軸スケールを使用すること、すべての詳細チャートに同一の Y 軸スケールを使用すること、または列内のすべてのチャートに同一の Y 軸スケールを使用することが可能です。多くの場合、共通の Y 軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

Zero Administration サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツール。

アウトライン 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、集計、および算術的関係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

アウトライン同期 パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。

アクセサ データ・マイニング・アルゴリズムに関する入出力データ仕様です。

アクセス権 リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。

アクティビティ・レベルの承認 操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。

アクティブ-アクティブ高可用性システム すべての使用可能メンバーが要求に対応でき、アイドル状態のメンバーがないシステムです。通常、アクティブ-アクティブ・システムは、アクティブ-パッシブ・システムより豊富な拡張性オプションを備えています。「アクティブ-パッシブ高可用性システム」と対比してください。

アクティブ-パッシブ高可用性システム 常に要求に対応するアクティブ・メンバーと、アクティブ・メンバーに障害が発生した場合にのみアクティブ化されるパッシブ・メンバーがあるシステムです。「アクティブ-アクティブ高可用性システム」と対比してください。

アクティブ・サービス 実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。

アセンブリ EPM System 製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。

値次元 入力値、換算値、および連結の詳細を定義する次元。

アダプタ ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。

アップグレード ソフトウェアの新規リリースをデプロイし、前のデプロイメントから新規のデプロイメントにアプリケーション、データおよびプロビジョニング情報を移動するプロセスです。

宛先 1)Business Rules では、計算済の値が格納されるデータベース・ブロックです。2)Profitability and Cost Management では、割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

アドホック・レポート エンド・ユーザーが動的に作成するオンライン分析クエリーです。

アプリケーション 1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。2)必要とされる特定の分析またはレポート(あるいはその両方)に対応するために使用される、次元および次元メンバーの関連するセットです。

アプリケーション移行ユーティリティ アプリケーションとアーティファクトの移行に使用されるコマンド・ライン・ユーティリティです。

アプリケーション管理者 アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。

アプリケーション・サーバー・クラスタ 複数のアプリケーション・サーバーが緩やかに結合したグループです。これらのアプリケーション・サーバーは、信頼性と拡張性を実現するために連携して同時に実行し、ユーザーには1つのアプリケーション・サーバーのように見えます。「垂直アプリケーション・クラスタ」および「水平アプリケーション・クラスタ」も参照してください。

アプリケーションの通貨 アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。

アペンダ 宛先を意味する Log4j の用語です。

安全率 より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。

暗黙の共有 メンバーが1つ以上の子を持ち、連結されている子は1つのみである場合、親と子が値を共有します。

アーティファクト 個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです(スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reporting ドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。

移行監査レポート 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

移行スナップショット アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。

移行定義ファイル(.mdf) アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

移行ログ アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。

依存エンティティ 組織内の他のエンティティに属するエンティティです。

一意でないメンバー名 「重複メンバー名」を参照してください。

一意のメンバー名 データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。

一意メンバーのアウトライン 重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

イメージ・ブックマーク Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。

因果関係マップ 企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかが示されているマップです。因果関係マップのタブは、各戦略マップに自動的に作成されます。

インストール・アセンブリ EPM System インストーラへのプラグインを実行する製品インストール・ファイルです。

インデックス 1)疎データの組合せによりブロック・ストレージ・データベースでデータを取得する方法です。2)インデックス・ファイルを指します。

インデックス・キャッシュ インデックス・ページを含むバッファです。

インデックス項目 疎次元の交差へのポインタです。インデックス・エントリはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。

インデックス・ファイル ブロック・ストレージのデータ取得情報を保管する Essbase ファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。

インデックス・ページ インデックス・ファイルの低位区分です。インデックス・ページには、データ・ブロックを指すポインタが含まれます。

イントロスペクション データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。「スクレーピング」と対比してください。

インポート・フォーマット FDM で、ソース・ファイルの構造を定義します。これにより、ソース・データ・ファイルを FDM データのロード位置にロードできます。

疎次元 ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。「密次元」と対比してください。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。

「影響」ステータス 親エンティティに連結する子エンティティの変更を示すステータスです。

エンコード方式 テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングする方法の 1 つです。各エンコード方式には UTF--8 などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8 では大文字の A は HEX41 にマッピングされています。「コード・ページ」および「ロケール」も参照してください。

エンタープライズ・ビュー Administration Services の機能の 1 つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用して Essbase 環境を管理できます。エンタープライズ・ビューを使用すると、Essbase アーティファクトを直接操作できます。

エンティティ 部門、子会社、工場、地域、製品など、組織での財務報告単位となる組織単位を示す次元です。

エージェント アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行う Essbase サーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXE と呼ばれます。

お気に入りガジェット Reporting and Analysis ドキュメントへのリンクと URL を含むガジェットです。「ガジェット」も参照してください。

親 直接レポートする依存エンティティを 1 つ以上含むエンティティです。親は少なくとも 1 つのノードに関連しているエンティティであるため、エンティティ、ノード、および親の情報が関連付けられています。

親の調整 親に関連して子に転記される仕訳エントリです。

オンライン分析プロセス(OLAP) 複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行うことができる多次元環境です。集計された企業データをリアル・タイムで分析するユーザーが使用します。OLAP システムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析、およびモデリングが含まれます。

会社間消去 「消去」を参照してください。

会社間照合 アプリケーション内の会社間勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。会社間の受取勘定科目は、対応する会社間の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の連結合計から会社間のトランザクションを消去するために使用されます。

会社間照合レポート 会社間勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。

拡張リレーショナル・アクセス リレーショナル・データベースと Essbase 多次元データベースの統合です。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbase データベースの要約レベルのデータにマッピングされます。

確認レベル プロセス管理の確認ステータス・インディケータの 1 つです。「開始していません」、「第 1 パス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。

加重 スコアカードのアイテムに割り当てられた値です。スコアボード全体のスコアの計算において、そのアイテムの相対的な重要性を示します。スコアカードのすべてのアイテムの加重を総計すると 100% になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上の New Features Coded のメジャーに Number of Minor Defect Fixes のメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。

カスケード メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。

カスタム・カレンダー システム管理者が作成したカレンダーです。

カスタム次元 ユーザーが作成および定義する次元です。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム次元になることがあります。

カスタム定義関数(CDF) Java で開発され、MaxL により Essbase の標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase 計算関数です。「カスタム定義マクロ」も参照してください。

カスタム定義マクロ(CDM) Essbase のマクロです。Essbase 計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用する Essbase の内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。「カスタム定義関数」も参照してください。

カスタム・プロパティ ユーザーが作成した次元または次元メンバーのプロパティです。

カスタム・レポート 設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。

仮想アプリケーション・サーバー・クラスタ 同じマシン上に複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。

カタログ・ペイン アクティブ・セクションで使用可能な要素のリストが表示される領域です。クエリーがアクティブ・セクションの場合はデータベース・テーブルのリストが表示されます。ピボットがアクティブ・セクションの場合は結果列のリストが表示されます。ダッシュボードがアクティブ・セクションの場合は埋込み可能セクション、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールのリストが表示されます。

カテゴリ データ編成に使用するグループです(月など)。

株式ベータ 株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が 1% 変動するのに伴って株の収益が通常 1.2% 変動するのであれば、その株のベータ値は 1.2 です。

カレンダー ユーザー定義の期間、およびその関係です。暦年または会計年度は、Q1、Q2、Q3、および Q4 から構成されます。

為替レート・タイプ 為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、履歴レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されます。

換算 「通貨換算」を参照してください。

換算レート 「為替レート」を参照してください。

勘定科目の種別 時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の動作を決定するプロパティです。勘定科目の種別オプションには、支出、収益、資産、負債、および資本が含まれます。

勘定科目の消去 連結時に連結ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。

勘定科目のブロック 連結ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算連結プロセスで値を受け取りません。

関数 Data Relationship Management では、パラメータを受け取り、動的値を戻す導出プロパティ式の構文要素です。

感嘆符(!) 一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。

管理対象サーバー 内蔵された Java 仮想マシン(Java Virtual Machine: JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。

関連勘定科目 メイン勘定科目に関連し、同一のメイン勘定科目番号にグループ化される勘定科目です。勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

外部でトリガーされるイベント ジョブの実行をスケジュールするための、時間ベースでないイベントです。

外部認証 アプリケーションの外部に保管されたユーザー情報を使用して、Oracle EPM System 製品にログオンすることを指します。ユーザー・アカウントは EPM System により管理されますが、パスワード管理やユーザー認証は、Oracle Internet Directory (OID)や Microsoft Active Directory (MSAD)などの企業ディレクトリを使用して、外部サービスにより実行されます。

ガジェット EPM のコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysis のコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。

期別価額メソッド(PVA) 通貨換算方法の1つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。

基本エンティティ 組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。

基本次元 1つまたは複数の属性次元に関連付けられている標準次元です。たとえば、製品に香りがあるとすると、Product 次元が Flavors 属性次元の基本次元となります。

基本通貨 日常の業務トランザクションが行われる通貨です。

期末 チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。

キャッシュ データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。

キューブ 3つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

キューブ・スキーマ Essbase Studio におけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。

キューブ配置 Essbase Studio で、アウトラインを構築してデータを Essbase アプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。

兄弟 他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

共有 Workspace ページ 専用のシステム・フォルダに格納され、組織全体で共有する Workspace ページです。権限を持つユーザーは、共有 Workspace ページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。

共有ストレージ フェイルオーバー・クラスタのすべてのノードで使用できる必要があるデータを含む一連のディスクです。共有ディスクとも呼ばれます。

共有ディスク 「共有ストレージ」を参照してください。

共有メンバー ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbase アウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。

クエリー・ガバナー Essbase Integration Server のパラメータまたは Essbase サーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行されるクエリーの時間とサイズを制御します。

行の抑制 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付ける設定です。

クラスタ 単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。

クラスタ・サービス システムとしてクラスタ・メンバーの操作を管理するソフトウェアです。クラスタ・サービスを使用すると、一連のリソースやサービスを定義して、クラスタ・メンバー間でのハートビート・メカニズムを監視し、これらのリソースやサービスをできるだけ効率よくかつ透過的に別のクラスタ・メンバーに移動できます。

クラスタ内部接続 ハートビート情報に関するノード障害を検出するためにハードウェア・クラスタにより使用されるプライベート・リンクです。

クラスタ棒グラフ カテゴリを横に並べたグラフです。垂直棒グラフでのみ使用されます。

繰返し 同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパス。

クリーン・ブロック 計算スクリプトによってすべての次元が一度に計算された場合、または計算スクリプトで SET CLEARUPDATESTATUS コマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックです。

クロス集計レポート テーブル・フォーマットでデータの分類および集計を行うレポートです。テーブルのセルには、交差するカテゴリに合致するデータの集計結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス集計レポートに、列見出しとして Small や Large などのサイズ属性、行見出しとして Blue や Yellow などの色属性を表示できます。テーブルの中で Large と Blue が交差するセルには、サイズが Large のすべての Blue 製品の総売上げが表示されます。

グリッドの POV 行、列、またはページの交差に次元を配置せずに、グリッド上で次元メンバーを指定する手段です。レポート設計者はグリッド・レベルで POV の値を設定し、ユーザーの POV がグリッドに影響を与えないように防ぐことができます。次元に含まれるグリッドの値が 1 つのとき、その次元は行、列、またはページではなくグリッドの POV に配置します。

グループ 複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。

グローバル・レポート・コマンド 別のグローバル・コマンドに置き換えられるか、ファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。

計算結果アイテム データベースやキューブに物理的に保管される列に対して、仮想の列を指します。クエリー実行時にデータベースにより、または Interactive Reporting Studio の「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ・アイテム、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。

計算スクリプト データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

計算済勘定科目 変更できない計算式がある勘定科目です。これらの計算式は、作成しているモデルの勘定科目の整合性を保つために固定されています。たとえば、当期純利益、計算済勘定科目の計算式は戦略的財務に組み込まれており、過去実績または予測の期間で変更はできません。

系統データ 割当ての計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての割当てステップにわたるコストまたは収益のフローについてレポートを作成できます。

系列 異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studio では、この関係を系列ビューアでグラフィカルに表示できます。「トレーサビリティ」も参照してください。

結合 特定の列または行の共通のコンテンツに基づく 2 つのリレーショナル・データベース・テーブルまたはトピックの間のリンクです。通常、異なるテーブルまたはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer テーブルと Orders テーブルで Customer ID の値が同一である場合、Customer テーブル内のレコードが Orders 内のレコードに結合します。

欠落データ(#MISSING) ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないかまたはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

権限 データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。

検証 アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプト、またはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。

検証ルール データの整合性を強化するために FDM で使用されるルールです。たとえば、FDM では、検証ルールによって、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後に、特定の条件が満たされていることが保証されます。

限界税率 税引き後の負債コストの計算に使用されるレートです。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。

現地通貨 入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。

原点 2つの軸の交差です。

子 データベース・アウトライン内で親を持つメンバーです。

高可用性 障害が発生した場合でもアプリケーションが継続してサービスを提供できるようにするシステム属性です。これは、フォルト・トレラント・ハードウェアおよびサーバー・クラスタを使用して、シングル・ポイント障害をなくすことで実現されます。1つのサーバーで障害が発生すると、処理要求は別のサーバーにルーティングされます。

高機能計算 最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算方法です。

交差 多次元データベース内の次元の交差を表すデータの単位であり、ワークシートのセルでもあります。

構造ビュー トピックをコンポーネントのデータ・アイテムの単純なリストとして表示します。

構築方法 データベース・アウトラインを変更するために使用する方法の一種です。データ・ソース・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築方法を選択します。

個人の反復タイム・イベント 再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

個人用変数 複雑なメンバー選択の特定の選択ステートメントです。

個人用ページ リポジトリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。

コミット・アクセス Essbase のトランザクションの処理方法に影響する Essbase カーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時トランザクションは書き込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。

コンテキスト変数 タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。

コンテンツ リポジトリに保管されたあらゆるタイプのファイルの情報です。

コンテンツ・ブラウザ コンテンツを参照して選択し、Workspace ページに配置するために使用できるコンポーネントです。

コントリビューション 子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。

コード・ページ 一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非 Unicode のエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。「エンコード方式」も参照してください。

差異 プラン値と実績値などの2つの値の差。

サイクル・スルー データベース内で複数パスを実行し、同時に計算します。

再構成 URL ユーザーが Workspace にログオンしているときに、サーブレット構成設定を動的に再ロードするために使用される URL です。

再構築 データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。

最新 最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を抽出するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。

最上位メンバー 次元のアウトラインで、階層ツリーが一番上に位置する次元メンバーです。次元メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前が次元名と同一となるのが一般的です。

サイレント応答ファイル インストール管理者が提供する必要のあるデータを提供するファイル。応答ファイルを使用すると、ユーザーの操作や入力なしで EPM System インストーラまたは EPM System コンフィグレータを実行できます。

サブ勘定科目のナンバリング 不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。

サブスクライブ アイテムまたはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、アイテムまたはフォルダにフラグを付けることを指します。

サポート詳細 セルの値を算出した計算および仮定です。

三角換算法 第3の共通通貨を使用して、ある通貨から別の通貨に残高を変換する手法です。たとえば、残高をデンマークのクローネからイギリスのポンドに変換するには、クローネの残高をユーロに変換してから、ユーロからポンドに変換します。

算出ステータス 一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。

算術演算子 式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、*、/、%など)。

算術データ・ロード データベース内の値に対して演算(たとえば各値に10を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。

サンプリング エンティティの特性を判別するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。「メタデータのサンプリング」も参照してください。

サービス ビジネス・アイテムを取得、変更、追加、および削除するためのリソースです(権限付与、認証など)。

サーブレット Web サーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。

残高勘定科目 特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。

式 Data Relationship Management では、プロパティ値を動的に計算するための導出プロパティにより使用されるビジネス・ロジックです。

式の保存 データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

資産勘定科目 勘定科目の1つです。会社の資産の値を保管します。

支出勘定科目 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。

市場リスク割増額 国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。

システム抽出 データをアプリケーション・メタデータから ASCII ファイルに変換する機能。

子孫 データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含む次元では、メンバー Qtr2 およびメンバー April がメンバー Year の子孫となります。

シナリオ データを分類するための次元です。たとえば、実績、予算、予測1、予測2などです。

支配比率 所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。

収益勘定科目 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。

集計ルール 階層のノードを集計する際に実行されるルールです。親の残高が正しく集計されるように、顧客固有の適切な式を含めることができます。消去プロセスは、このルール内で制御できます。

修飾名 定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([市場].[東].[州].[ニューヨーク]、[市場].[東].[都市].[ニューヨーク]など)。

集約 集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび保管するプロセスです。または集約プロセスによって保管された結果を指します。

集約関数 関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。

集約スクリプト 集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。

集約ストレージ・データベース 潜在的に大きな多数の次元に分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、保管されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。

集約制約 集約要求ライン・アイテムや集約メタピック・アイテムに設定する制約です。

集約セル 複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、および Quarter 4 のデータを含む 4 つのセルに展開されます。

集約ビュー 各次元内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。

出資比率 あるエンティティが、その親によって所有されている割合。

手動ステージ ユーザーが操作する必要があるステージです。

障害回復 地理的に離れたスタンバイ・サイトにアプリケーションおよびデータ用のリカバリ戦略を用意することで、本番サイトでの自然停電または予期せぬ停電から保護する機能です。

消去 組織内のエンティティ間でのトランザクションをゼロに設定(消去)するプロセスです。

消去済勘定科目 連結ファイルに表示されない勘定科目です。

詳細チャート 要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。

使用済ブロック 最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。

シリアル計算 デフォルトの計算設定です。1 つの計算を複数のタスクに分割して、一度に 1 つのタスクを計算します。

仕訳(JE) シナリオと期間の勘定科目残高の借方または貸方に計上する調整の集合です。

シングル・サインオン(SSO) 一度ログオンすると、再度認証を求められずに複数のアプリケーションにアクセスできる機能です。

シングル・ポイント障害 障害が発生した場合にユーザーが通常の機能にアクセスできなくなるシステムのコンポーネントです。

信頼できるユーザー 認証されたユーザーです。

時間次元 データが示す期間(会計期間、暦時間など)です。

軸 1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です。2)多次元のデータを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basic でデータ・クエリーを実行する場合、軸では Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 の値の列を定義できます。Market と Product の階層による合計が行データとして取得されます。

次元 ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元には多くの場合四半期、月などの期間の単位ごとのメンバーが含まれます。

次元間の無関係性 次元が他の次元と交差しない状況を指します。次元に含まれるデータは、交差しない次元からはアクセスできないため、交差しない次元は無関係となります。

次元構築 Essbase アウトラインに次元およびメンバーを追加するプロセスです。

次元構築のルール データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbase でアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。

次元性 MaxL DML において、セットで示された次元およびその順序です。たとえば、次に示すセットの場合は、含まれている 2 つのタプルはいずれも次元(Region, Year)を反映しているため、同一の次元性であることとなります: {(West, Feb), (East, Mar)}

次元タイプ 定義済の機能を使用可能にする次元のプロパティです。時間のタグが付けられた次元は、定義済のカレンダー機能を持ちます。

次元タブ 「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。

次元テーブル 1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含むテーブルです。2)Essbase 統合サービスでは、Essbase の潜在的な次元を定義する1つ以上のリレーショナル・テーブルのための、OLAPモデルのコンテナを指します。

事前計算 ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。

持続性 Essbase の操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase 管理者がその持続性を制限することがあります。

実行時プロンプト ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

実績の頻度 日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。

自動逆仕訳 次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。

自動ステージ ユーザーの操作を必要としないステージです。たとえば、データ・ロードです。

従業員 特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません。たとえば、コンサルタントでもかまいません。従業員は、認証のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。

重複する別名 別名テーブルに複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。

重複メンバーのアウトライン 重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。

重複メンバー名 データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが2つ含まれることがあります。データベースに New York という名前のメンバーが2つ含まれることがあります。

重要事業領域(CBA) 部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チーム、またはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

重要成功要因(CSF) 戦略目標を達成するために確立および維持する必要がある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1つ以上のアクションに対する親となります。

上位レベル・ブロック 少なくとも1つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。

冗長データ 重複データ・ブロックです。Essbase で更新されたブロックがコミットされるまで、トランザクションの間保持されます。

ジョブ 出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブには Interactive Reporting、SQR Production Reporting、または汎用ドキュメントを含めることができます。

ジョブの出力 ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。

水平のアプリケーション・サーバー・クラスタ 別々のマシンに複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。

数値属性範囲 基本次元メンバーを関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group 属性次元に 0-20、21-40、41-60、および 61-80 という年齢範囲に該当するメンバーを含めることができます。各 Customer 次元メンバーは Age Group 範囲に関連付けられます。データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。

スキーマ リレーショナル・データベースにおける、データおよびデータ間の関連を表す論理モデル。

スクレーピング データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。「イントロスペクション」と対比してください。

スケール スケールによって値の表示方法を決定します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。

スコア ターゲットを達成するレベルです。通常はターゲットのパーセンテージとして表されます。

スコアカード 目標を達成する上での、従業員、戦略要素、または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づき、進行状況が確認されます。

スコープ Essbase の操作または設定により包含されるデータ領域です。たとえば、セキュリティ設定の影響を受けるデータ領域です。通常、スコープには 3 レベルの粒度があり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは、次に示すように上位から下位の順になります: システム全体(Essbase サーバー)、Essbase サーバー上のアプリケーション、または Essbase サーバー・アプリケーション内のデータベース。「持続性」も参照してください。

ステージ 1)通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の 1 つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の 2 つのタイプがあります。2)Profitability では、組織内の割当てプロセスの手順を表すモデルの論理部分です。

ステージ・アクション 自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。

ステージ後割当て 割当てモデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられます。

ステージ内割当て 同じステージ内のオブジェクトに対する財務フローの割当てです。

ステージング・テーブル 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステージング領域 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステータス・バー 画面下部のバーで、コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示されます。

スナップショット 特定の時点の読取り専用データです。

スポットライト 選択された条件に基づくカラー・コーディングを可能にするツールです。

スマート・カット URL フォームのリポジトリ・アイテムへのリンクです。

スマート・タグ Microsoft Office アプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから利用可能な定義済アクションに関連付けられています。Oracle EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

スーパーバイザ サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。

ズームチャート チャートを拡大することにより詳細情報を表示するためのツールです。ズームチャートを使用すると、チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。

精度 数値に表示される小数点以下の桁数です。

製品 Shared Services における、Planning や Performance Scorecard などのアプリケーション・タイプです。

セカンダリ・メジャー プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーには業績レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、次元メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。

責任マップ 組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。

セキュリティ・エージェント Web アクセス管理プロバイダ(Oracle Access Manager、Oracle Single Sign-On または CA SiteMinder など)です。企業の Web リソースを保護します。

セキュリティ・プラットフォーム Oracle EPM System 製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。

世代 データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、次元の最上位のメンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

設計レポート コンポーネント・ライブラリを使用してカスタム・レポートを作成するための Web Analysis Studio のインタフェースです。

接続ファイル 「Interactive Reporting 接続ファイル (.oce)」を参照してください。

セル 1)多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

セル・ノート Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

選択リスト レポート設計者がレポートの視点(POV)を定義する際に各次元に指定するメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーを選択するだけで、選択リストを使用する次元の POV を変更できます。

戦略マップ 上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、構成要素である下位レベルの戦略的達成目標に組入れる方法を示します。

戦略目標(SO) 測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の1つのパースペクティブに関連付けられ、1つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目標の親になります。

税金の初期残高 Strategic Finance では、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリーは、Strategic Finance の最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

関連サブクエリー 親クエリーの各行で一度評価されるサブクエリーです。サブクエリーのトピック・アイテムを親クエリーのトピックに結合することにより作成されます。

相互割当て 財務フローの割当ての一種です。宛先の1つとしてソースが含まれます。

組織 各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。

祖先 その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

属性 次元メンバーの特性です。たとえば、従業員次元メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性がある場合があります。Product 次元のメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

属性計算次元 メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義の次元です。この次元は動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバー Avg を使用すると、製品 Red についてニューヨークでの1月の平均売上を計算できます。

属性次元 次元の一種です。次元のメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

属性タイプ 様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces 属性次元は数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。

属性の関連付け データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性次元のメンバーが基本次元のメンバーの特性を表します。たとえば、製品 100-10 がグレープ味である場合、製品 100-10 は Flavor 属性の関連付けがグレープになります。したがって、Product 次元のメンバー 100-10 は Flavor 属性次元のメンバー Grape に関連付けられることになります。

属性レポート 基本次元メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。「基本次元」も参照してください。

貸借一致の仕訳 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。

対称型マルチプロセッシング(SMP) マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。

対称トポロジ 本番サイトおよびスタンバイ・サイトの層全体で同一である Oracle Fusion Middleware Disaster Recovery 構成です。対称トポロジでは、本番サイトとスタンバイ・サイトには、同数のホスト、ロード・バランサ、インスタンスおよびアプリケーションがあります。両方のサイトに対して同じポートが使用されます。システムは同一に構成され、アプリケーションは同じデータにアクセスします。

タイトル・バー Strategic Finance 名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスが表示されるバーです。

タイム・イベント ジョブ実行のトリガーです。

タイム・スケール 指定された間隔別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示するスケールです。

タイムライン・ビューア 特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するための FDM の機能です。

多次元データベース 3 つ以上の次元でデータを整理、格納、および参照する方法です。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。「リレーショナル・データベース」と対比してください。

タスクフロー ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。

タスクフロー・インスタンス タスクフローの単一のインスタンスです。タスクフローの状態と関連データが含まれます。

タスクフロー管理システム タスクフローを定義および作成し、その実行を管理するシステムです。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやり取り、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。

タスクフロー参加者 手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。

タスクフロー定義 タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスです。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成されます。タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。

タスク・リスト 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

タブ Strategic Finance で、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。

ダブル MDX 構文の要素です。セルは、各次元からのメンバーの交差として参照されます。次元が削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。例: (Jan); (Jan, Sales); ([Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual])。

単項演算子 アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されます。

代替階層 共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、次元に代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。

ダッシュボード 業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築して配置できます。

置換 データ・ロードのオプションの 1 つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。

チャート・テンプレート ワークスペース・チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。

抽出コマンド Essbase レポート作成コマンドの 1 つです。データベースから抽出される RAW データの選択、向き、グループ分け、および配列を処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。

調査 「ドリルスルー」を参照してください。

調整 「仕訳」を参照してください。

調整勘定科目 会社間勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。

直接レート 為替レート・テーブルに入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変換先通貨を米ドルとして、為替レート・テーブルに期間/シナリオのレートを入力します。

通貨換算 データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1 米ドルをユーロに変換するには、ドルに為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます(1*0.923702)。変換後のユーロの額は 0.92 になります。

通貨の上書き 任意の入力期間に対して選択した入力メソッドを上書きして、デフォルトの通貨/アイテムとして該当期間の値の入力を有効にする機能です。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。

通貨パーティション アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離する次元タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。

通常仕訳 特定の期間に一度かぎりの調整を入力するための機能です。通常仕訳は貸借一致、エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。

定義済ドリル・パス データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。

適応状態 Interactive Reporting Web Client の権限レベルです。

テキスト・メジャー Essbase では、メジャーが示されている次元で Text としてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Index というテキスト・メジャーについては、Low、Medium、および High という値を含めることがあります。「型付きメジャー」、「テキスト・リスト」、および「導出テキスト・メジャー」も参照してください。

デフォルト通貨単位 データの単位スケールです。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して 10 を入力すると、この単位は 10,000 と解釈されます。

データ関数 平均値、最大値、件数、およびデータのグループを集計するその他の統計など、集約値を計算する関数です。

データ・キャッシュ 非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。

データ・セル 「セル」を参照してください。

データ値 「セル」を参照してください。

「データなし」ステータス 集計ステータスの 1 つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

データ・ファイル・キャッシュ 圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。

データ・フォーム Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部の次元メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

データベース接続 データソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるようにするファイルです。

データ・マイニング Essbase データベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。

データ・モデル データベース・テーブルのサブセットを示します。

データ・ロック 指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぐ機能です。

データ・ロード位置 FDM で、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対して FDM のデータ・ロード位置が 1 つあります。

データ・ロードのルール テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を決定する一連の基準です。

透過パーティション ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。

透過ログイン ログイン画面を起動せずに認証されたユーザーをログインさせるプロセスです。

統合 Shared Services を使用して Oracle Hyperion アプリケーションでデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付けおよびスケジュールが決定されます。

統制グループ 証明書および評価の情報を維持および整理するために FDM で使用されるグループです。サーベンス・オクスリ(Sarbanes-Oxley)法の規定に準拠する上で特に役立ちます。

時系列レポート作成 カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

トップ・ラベルとサイド・ラベル 列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。

トラフィック・ライト 2つの次元メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。

トリガー ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbaseの機能の1つです。基準に一致すると、Essbaseはユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

トレーサビリティ メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえばEssbase Studioの場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層から次元要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソース要素まで追跡できます。「系列」も参照してください。

トレース・レベル ログ・ファイルに取り込まれた詳細のレベルです。

トレース割当て Profitabilityの機能の1つです。財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にします。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。

トークン 外部認証システム上の1つの有効なユーザーまたはグループの暗号化されたIDです。

トースト・メッセージ 画面右下の隅に現れたり消えたりするメッセージです。

同期 Shared Servicesとアプリケーション・モデルの同期です。

同期済 モデルの最新バージョンがアプリケーションとShared Servicesの両方に存在する状態を指します。「モデル」も参照してください。

導出テキスト・メジャー Essbase Studioで、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、販売高メジャーに基づく導出テキスト・メジャー「販売実績インデックス」は、「高」、「中」、および「低」の値で構成できます。対応する売上が該当する範囲に応じてHigh、Medium、およびLowが表示されるように定義されます。「テキスト・メジャー」も参照してください。

動的階層 集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。

動的計算 Essbaseで、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されません。

動的計算および保管メンバー ブロック・ストレージ・アウトラインで、値を最初に取得したときにのみ計算が行われるメンバーです。計算された値はデータベースに保管されます。2回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。

動的計算メンバー ブロック・ストレージ・アウトラインで、取得時にのみEssbaseによって計算されるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。

動的参照 データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポインタです。

動的時系列 ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

動的ビュー勘定科目 勘定科目の1つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。

動的メンバー・リスト システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照される時、リストは自動的にリフレッシュされます。次元メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。

動的レポート レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。

ドメイン データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。

ドライバ Profitability and Cost Managementでは、ドライバを利用する複数ソース間の数学的關係、およびこれらのソースがコストや収益を割り当てる宛先を示す割当て方法です。Business Modelingの場合は、「コスト・ドライバ」および「アクティビティ・ドライバ」も参照してください。

ドリルスルー あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

ドリルダウン 次元の階層を使用してクエリー結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパーспекティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。

名前付きセット MaxL DML で、MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットはクエリー内で複数回参照することが可能です。

入力データ 計算されるのではなくソースからロードされるデータです。

認証 安全対策としての ID の確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。

認証サービス 単一の認証システムを管理するコア・サービスです。

ネイティブ認証 サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。

ネスト列見出し 複数の次元からのデータを表示するレポート列の列見出しのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列見出しはネスト列です。ネスト列見出しでは、見出しの一番上の行の Q1 (Year 次元)が、見出しの一番下の行の Actual および Budget (Scenario 次元)で修飾されます。

ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML) Web ブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。

ハイパーリンク ファイル、Web ページ、またはイントラネット HTML ページへのリンクです。

ハイブリッド分析 リレーショナル・データベースに保管された下位のデータを、Essbase に保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティと多次元データを組み合わせます。

反復タイム・イベント ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。

反復テンプレート 各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。

汎用ジョブ SQR Production Reporting または Interactive Reporting 以外のジョブを指します。

凡例ボックス 次元のデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。

ハードウェア・クラスタ ネットワーク・サービス(たとえば IP アドレス)やアプリケーション・サービス(データベースや Web サーバーなど)のシングル・ビューを、これらのサービスのクライアントに提供するコンピュータの集合です。ハードウェア・クラスタの各ノードは、独自のプロセスを実行するスタンドアロン・サーバーです。これらのプロセスは互いに通信し、連携してアプリケーション、システム・リソース、データをユーザーに提供する 1 つに見えるシステムを形成します。

バックアップ アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。

バッチ POV ユーザーの POV において、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべての次元の集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチ POV で選択されたメンバーを設定できます。

バッチ計算 データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。

バッチ処理モード サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMD を使用する方法です。ESSCMD スクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行したりすることが可能です。バッチ・ファイルを使用すると、複数の ESSCMD スクリプトを呼び出したり、ESSCMD の複数インスタンスを実行したりできます。

バッチ・ファイル 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windows システムの場合、バッチ・ファイルには BAT というファイル拡張子が付けられます。UNIX の場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。

バッチ・ローダー 複数ファイルの処理を可能にする FDM コンポーネントです。

バージョン データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best Case と Budget - Worst Case では、Budget がシナリオであり、Best Case と Worst Case がバージョンです。

パターン照合 条件として入力されるアイテムの一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(*)などのワイルド・カード値で表すことができます。たとえば、「Find all instances of apple」では apple が戻されるのに対して、「Find all instances of apple*」では apple、applesauce、applecranberry などが戻されます。

パフォーマンス・インディケータ ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルトのパフォーマンス・インディケータを使用することもできますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。

パブリック・ジョブ・パラメータ 管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。

パブリック反復タイム・イベント 管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

パレット JASC に準拠し、.PAL 拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う 16 色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用可能です。

パースペクティブ スコアボードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。

パーティション化 データ・モデルの間で共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。

パーティション領域 データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの 1 つ以上のセル領域から構成されます。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2 つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に 18 個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する 18 個のセルが含まれている必要があります。

非アクティブ・グループ 管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。

非アクティブ・ステータス エンティティの当期の連結が非アクティブになっていることを示すステータスです。

非アクティブ・ユーザー 管理者によりアカウントが非アクティブにされているユーザーです。

非次元モデル Shared Services のモデル・タイプの 1 つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Web フォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。

非対称トポロジ 本番サイトおよびスタンバイ・サイトの層全体で異なる Oracle Fusion Middleware Disaster Recovery 構成です。たとえば、非対称トポロジには、本番サイトより少ないホストおよびインスタンスを持つスタンバイ・サイトを含めることができます。

日付メジャー Essbase で、メジャーが示されている次元で日付というタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間次元を使用して示すことが困難なタイプの分析に役立ちます。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間次元モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。「型付きメジャー」も参照してください。

表示タイプ リポジトリに保存された 3 種類の Web Analysis フォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。

標準仕訳テンプレート 各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目 ID、エンティティ ID、または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。

標準次元 属性次元以外の次元です。

ビジネス・プロセス 集散的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。

ビジネス・ルール 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

ビジュアル・キュー 特定のデータ値のタイプを強調表示する、フォントや色などフォーマットの設定されたスタイル。データ値は、次元メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかです。

ビュー データを年次累計または期別に表示します。

ピボット 取得したデータのパーспекティブを変更します。Essbaseでは、まず次元が取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並替え)を行うことにより、異なる視点を得ることができます。

ピン ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは動的です。ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやトラフィック・ライトの色を変更できます。

ピンボード 3種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの1つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから成るグラフィックです。ピンボードを使用するにはトラフィック・ライトを定義する必要があります。

ファイルの区切り文字 データソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。

ファクト・テーブル スター結合スキーマの中心のテーブルです。外部キー、および次元テーブルから取得した要素により特徴付けられます。通常、このテーブルにはスキーマの他のすべてのテーブルに関連する数値データが含まれます。

フィルタ データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定のテーブル、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。

フェイルオーバー プライマリ・データベース、サーバーまたはネットワークに障害が発生するか、これらがシャットダウンする場合に、冗長性のあるスタンバイ・データベース、サーバーまたはネットワークに自動的に切り替える機能です。フェイルオーバー用にクラスタリングされているシステムは、高可用性、サーバーの冗長性を利用したフォルト・トレランス、および共有ディスクなどのフォルト・トレラント・ハードウェアを提供します。

フォーマット文字列 1) Essbaseでは、セルの値の表示を変換する方法です。2) Data Relationship Managementでは、プロパティ値を返すフォーマットを示す、フォーマットまたはフォーマット済日付の派生プロパティのパラメータです。

復元 データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。

複製パーティション パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトで保管されているデータのコピーに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。

負債勘定科目 一定時点における会社の負債残高を保管する勘定科目の種別です。例: 未払費用、買掛金勘定、長期借入金。

フッター レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。

フリーフォーム・グリッド 動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

フリーフォーム・レポート作成 ワークシートに次元メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

フレーム デスクトップ上の領域です。次に示す2つの主要な領域があります: ナビゲーション・フレームおよびワークスペース・フレーム。

フロー勘定科目 期別と年次累計の符号なしの値を保管する勘定科目です。

ブック 1)Financial Reporting においては、類似するドキュメントのグループを含むコンテナを意味します。ブックには、次元セクションまたは次元の変更が指定されていることがあります。2)Data

Relationship Management においては、グループとして一緒に実行可能なエクスポートの集合を意味します。エクスポートの結果は、まとめることも個別に出力することも可能です。

ブックの POV ブックが実行される次元のメンバーです。

ブックマーク ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたは Web サイトへのリンクです。ブックマークのタイプには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークがあります。

ブロック プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密次元のセルを表します。

ブロックされた勘定科目 手動で入力する必要があるために連結ファイルの計算に含めない勘定科目です。

ブロック・ストレージ・データベース 疎次元に定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および保管する、Essbase のデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

ブロードキャスト・メッセージ Planning アプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が送信する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどの詳細な情報が表示されます。

分離レベル データベース操作のロックとコミットの動作(コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス)を決定する Essbase Kernel の設定です。

プライマリ・メジャー 企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。

プランナ データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の有効化、および Smart View の使用が可能なユーザーです。プランナは、大多数のユーザーから構成されます。

プランニング・ユニット シナリオ、バージョン、およびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付け、および承認のための基本単位です。

プレゼンテーション Web Analysis ドキュメントのプレイリストです。レポートの分類、整理、並べ替え、配布、および確認を行うことができます。リポトリ内のレポートを参照するポインタを含みます。

プロキシ・サーバー セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。

プロジェクト 実装でグループ化された Oracle Hyperion 製品のインスタンスです。たとえば、Planning プロジェクトには Planning アプリケーション、Essbase キューブ、Financial Reporting サーバー・インスタンスが含まれることがあります。

プロセス監視レポート FDM データ変換プロセスにおける、場所のリストとその位置を表示します。プロセス監視レポートを使用して、決算手続のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられます。時間データがロードされた場所を判断するために使用できます。

プロット領域 X 軸、Y 軸、および Z 軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。

プロビジョニング ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権限を付与するプロセスです。

並列エクスポート Essbase データを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

並列計算 計算オプションの 1 つです。Essbase では計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。

並列データ・ロード Essbase で、複数プロセスのレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。

変換 1)アプリケーションの移行後も移行先の環境で正しく機能するように、アーティファクトを変換するプロセスです。2)データ・マイニングでは、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータを変更することです。

変換先通貨 残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。

変換元通貨 為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。

「変更済」ステータス 集計ステータスの1つです。エンティティのデータが変更されたことを示します。

別名テーブル メンバーの代替名を含むテーブルです。

ページ グリッドまたはテーブルでの情報表示の一種です。しばしばZ軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含めることができます。

ページ・ファイル Essbase のデータ・ファイルです。

ページ見出し レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。

ページ・メンバー ページ軸を決定するメンバーです。

保管階層 集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用される用語です。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、一定の制限があります。たとえば、式を含むことはできません。

ホスト アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。

ホスト・プロパティ ホストに関するプロパティです。ホストに複数の Oracle EPM ホームが含まれる場合は、いずれかの Oracle EPM ホームに関するプロパティとなります。

保存された仮定 ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planning でのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積 1 平方フィート当たりのコストなど)。

マイ Workspace ページ ユーザーにより作成されるカスタマイズ可能な Workspace ページです。リポジトリを移動せずに、1つの場所から簡単にアクセスできるように、特別にマークされます。

マイニング属性 データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。

マスター・データ・モデル 複数のクエリーによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「クエリー」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクションに表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

マップ・ナビゲータ 戦略、責任、および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。

マップ・ファイル 外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を保管するファイルです。マップ・ファイルには異なる拡張子があります(データ送信用は.mps、データ取得用は.mpr)。

マルチロード 複数の期間、カテゴリ、および場所を同時にロードすることを可能にする FDM の機能です。

マージ データ・ロード・オプションの1つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。

密次元 ブロック・ストレージ・データベースでは、次元メンバーのすべての組合せについてデータを含んでいる可能性があります。たとえば、時間次元はしばしば密ですが、これは時間次元がすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるからです。「疎次元」と対比してください。

ミドルウェア・ホーム Oracle WebLogic Server ホーム、および EPM Oracle ホームやその他の Oracle ホームを含むディレクトリです。ミドルウェア・ホームは、ローカル・ファイル・システム、または NFS を介してアクセス可能なりモート共有ディスク上に配置できます。

ミニスキーマ データ・ソースからのテーブルのサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。

ミニレポート レポートのコンポーネントの1つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンク、およびレポートのロード用の1つまたは複数のクエリーを含みます。各レポートには、1つ以上のミニレポートを含めることができます。

耳折れ チャートのヘッダー領域の右上にある、折り曲げられたページの角。

メジャー OLAP データベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。「ファクト・テーブル」も参照してください。

メタアウトライン Essbase Integration Services における、OLAP モデルから Essbase アウトラインを作成するための構造とルールを含んでいるテンプレートです。

メタデータ データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。

メタデータ・セキュリティ ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。

メタデータのサンプリング ドリルダウン操作で次元に含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。

メタデータ要素 データ・ソースから算出されるメタデータ、および Essbase Studio で使用するために保管され、カタログが作成されるおよびその他のメタデータです。

メンバー 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb、および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

メンバー選択レポート・コマンド 兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。

メンバー専用レポート・コマンド レポート・ライター・フォーマット・コマンドの1つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。

メンバー・リスト 次元のメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。

メンバー・ロード Essbase Integration Services における、次元およびメンバーを(データなしに)Essbase アウトラインに追加するプロセスです。

目標 指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。

持株会社 法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。

モデル 1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます。2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルは Shared Services により管理される基本データであり、次元と非次元のアプリケーション・オブジェクトという2つの主要なタイプがあります。3)Business Modeling で、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。

役割 リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。

ユーザー定義属性(UDA) アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明する属性です。指定されて関連付けられた UDA を含むメンバーのリストを戻す際に使用できます。

ユーザー定義メンバー・リスト ユーザー定義による、特定の次元に含まれるメンバーの静的なセットです。

ユーザー・ディレクトリ ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。一般的なユーザー・ディレクトリには、Oracle Internet Directory (OID)、Microsoft Active Directory (MSAD)および Sun Java System Directory Server があります。

ユーザー変数 ユーザーのメンバー選択に基づいてデータ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示する変数です。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

要約チャート 「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画します。

ライトバック 取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。

ライフサイクル管理 製品環境で、アプリケーション、リポジトリまたは個別のアーティファクトを移行するプロセスです。

ライン・アイテムの詳細 勘定科目で最も下位の詳細レベルです。

リソース システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。

リポジトリ ビューおよびクエリーに使用するメタデータ、フォーマット、および注釈の情報の格納場所です。

領域 メンバーおよび値の定義済みのセットであり、パーティションを構成します。

履歴平均 多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。

リレーショナル・データベース 関連する 2 次元テーブルにデータを保管するデータベースです。「多次元データベース」と対比してください。

リンク (1)リポジトリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます。2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。

リンク条件 タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。

リンク・データ・モデル リポジトリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。

リンク・パーティション データ・セルを使用して 2 つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースの次元を示す新しいシートが開きます。これにより、表示される次元をドリルダウンできます。

リンク・レポート・オブジェクト(LRO) セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reporting では、Essbase LRO 向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。「ローカル・レポート・オブジェクト」と対比してください。

隣接する四角形 Interactive Reporting ドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reporting ドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さおよび幅を表すピクセル、または 1 ページ当たりの行数により指定されます。

レイアウト領域 コンテンツを配置可能な Workspace ページの領域です。

例外 事前定義済みの条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。

レイヤー 1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample Basic データベースでは Qtr1 と Qtr4 は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1 と Qtr4 は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。

レコード データベースで、1 つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号、および販売データのフィールドが含まれることがあります。

列 Data Relationship Management においては、インポート・ソース、またはクエリー、比較、検証、エクスポートの結果に関連付けられたデータのフィールドを意味します。

レベル 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下の次元メンバー(レベル 0)から上位の親メンバーへと並べられます。

レベル0のブロック 疎のレベル0メンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。

レベル0のメンバー 子の存在しないメンバーです。

レポート・エクストラクタ スクリプトの実行時に、Essbase データベースからのレポート・データを取得する Essbase コンポーネントです。

レポート・オブジェクト レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。

レポート・スクリプト 1つまたは複数の運用レポートを生成する、Essbase レポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。

レポートの通貨 財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。

レポート・ビューア レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示する Essbase コンポーネントです。

連結 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この連結は Year になります。

連結比率 親に連結された子の値の割合です。

連結ファイル(*.cns) 連結プロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用して Strategic Finance ファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。連結ファイルを使用して、連結の定義や変更を行うことも可能です。

連結ファイル(親) 事業部門のすべてのファイルが連結されたファイルです。連結の定義を含みます。

ログ・アナライザ Essbase ログのフィルタ、検索、および分析を行うための Administration Services の機能です。

ロケーション別名 データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名、およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBA のデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD、または API を使用して設定されます。

ロケール コンピュータで使用される言語、通貨および日付のフォーマット、データのソート順、および文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbase ではエンコード方式のみが使用されます。「エンコード方式」、「ESSLANG」も参照してください。

ロケール・ヘッダー・レコード スクリプトなど、一部の非 Unicode でエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。

ロック済 ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。

「ロック済」ステータス 集計ステータスの1つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。

ロック済データ・モデル ユーザーが変更できないデータ・モデルです。

論理 Web アプリケーション 内部ホスト名、ポートおよび Web アプリケーションのコンテキストの識別に使用される別名付きの参照です。クラスタ化環境または高可用性環境では、分散コンポーネントに対して単一の内部参照を確立する別名です。EPM System において、クラスタ化されていない論理 Web アプリケーションは、その Web アプリケーションを実行している物理ホストにデフォルトで設定されます。

論理グループ FDM で、ソース・ファイルが FDM にロードされた後に生成される1つ以上の論理勘定です。論理勘定はソース・データから導き出される計算済勘定です。

ローカル結果 データ・モデルのクエリー結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカルの結果を要求すると、カタログに表示されます。

ローカル・レポート・オブジェクト Explorer で Financial Reporting レポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。「リンク・レポート・オブジェクト」と対比してください。

ロード・バランサ クラスタ内の個々のアプリケーションに要求を分散し、システムへの唯一のエントリ・ポイントとなるハードウェアまたはソフトウェアです。

ロード・バランシング 複数のサーバー・グループに要求を分散すること。これによって、エンド・ユーザーのパフォーマンスが最適化されます。

ロールアップ 「連結」を参照してください。

ワイルド・カード 検索文字列で単一の文字(?)または文字グループ(*)を示す文字です。

割当て 割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

ワークフロー FDM でデータを最初から最後まで処理するために必要なステップです。ワークフローは、インポート(GL ファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。

ワークブック 多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。

索引

A - Z

Abs 関数, 236
 AverageA 関数, 240
 Average 関数, 239
 CalcStatus 関数, 241
 CellText 関数, 242
 CountA 関数, 247
 Count 関数, 246
 Current キーワード, 228
 DataSource 関数, 247
 Date 関数, 249
 Difference 関数, 252
 DynamicMemberList, 57
 Eval 関数, 253
 GetCell 関数, 255
 GetHeading 関数, 256
 GridDimension 関数, 258
 HFMCurrency 関数, 258
 Hyperion Oracle Essbase ポートと接続の違い, 317
 IfThen 関数, 261
 Max 関数, 265
 MemberAlias 関数, 265
 MemberDescription 関数, 266
 MemberName 関数, 268
 MemberProperty 関数, 269
 MemberQualifiedName 関数, 270
 Min 関数, 272
 Mod 関数, 272
 Oracle User Productivity kit (UPK) 使用, 17
 PageCount 関数, 273
 Page 関数, 273
 PercentOfTotal 関数, 274
 PeriodOffset, 55
 PI 関数, 275
 PlanningAnnotations 関数, 275
 ProcessManagementStatus 関数, 278

Product 関数, 279
 Random 関数, 279
 Rank 関数, 280
 ReportAuthor 関数, 282
 ReportCreated 関数, 282
 ReportDesc 関数, 283
 ReportFolder 関数, 283
 ReportModifiedBy 関数, 285
 ReportModified 関数, 284
 ReportName 関数, 285
 ReportRunBy 関数, 286
 Round 関数, 286
 Same As、設定, 52
 Sqrt (平方根)関数, 287
 SSL、外部認証の構成, 170
 Studio ワークスペース、説明, 23
 Sum 関数, 287
 Truncate 関数, 288
 VariancePercent 関数, 292
 Variance 関数, 289
 Web ブラウザ、プレビュー, 177

あ行

値オペランド, 296
 アプリケーション名, 247
 網掛け
 テキスト・ボックスのオプション, 183
 イメージ
 重なる, 104
 説明, 23
 フォーマット, 214
 レポートに追加, 100
 色
 カスタムの作成, 189
 印刷
 スナップショット・レポート, 177
 ヒント, 178
 ページ番号, 273

レポート, 177
 印刷プレビュー、メニュー・コマンド, 35
 インポート
 スナップショット・レポート, 301
 レポート, 301
 「ウィンドウ」メニュー, 40
 疎のコマンド, 42
 埋込み関数引数, 225
 円グラフ、説明, 71
 円グラフ、フォーマット, 81
 演算子、算術式, 295
 オブジェクト
 セキュリティ, 303
 オブジェクトが重なる
 前面に移動, 104
 背面に移動, 104
 レポート, 104
 オプション、レポート・オブジェクトの設定,
 24
 オペランド、算術式, 296
 折れ線グラフ
 オプション, 80
 説明, 70

か行

改ページ
 グリッドへの挿入, 130
 レポート・オブジェクトの前に挿入, 108
 カスタマイズ
 行見出しと列見出し, 114
 チャート内の軸のタイトル, 87
 関数
 Abs, 236
 Average, 239
 AverageA, 240
 CalcStatus, 241
 CellText, 242
 Count, 246
 CountA, 247
 DataSource, 247
 Date, 249
 Eval, 253
 GetCell, 255
 GetHeading, 256
 GridDimension, 258
 HFMCurrency, 258
 IfThen, 261

Max, 265
 MemberAlias, 265
 MemberDescription, 266
 MemberName, 268, 269
 MemberProperty, 269
 MemberQualifiedName, 270
 Min, 272
 Mod, 272
 Page, 273
 PageCount, 273
 PercentOfTotal, 274
 Pi, 275
 PlanningAnnotations, 275
 ProcessManagementStatus, 278
 Product, 279
 Random, 279
 ReportAuthor, 282
 ReportCreated, 282
 ReportDesc, 283
 ReportFolder, 283
 ReportModified, 284
 ReportModifiedBy, 285
 ReportName, 285
 ReportRunBy, 286
 Round, 286
 Sqrt, 287
 Sum, 287
 Truncate, 288
 Variance, 289
 VariancePercent, 292
 関数オペランド, 296
 関数、編集, 59
 関連コンテンツ
 アクセス権の除去, 170
 関連コンテンツ・サーバーの変更, 170
 設定, 166
 プロパティの変更, 171
 リンクの作成, 166
 切り取り、コピー、貼付け
 グリッド, 113
 リポジトリ・アイテム, 301
 キーワード、current, 228
 行
 グリッド内のソート, 196
 グリッドの小計, 134
 グリッドへの挿入, 112
 説明, 23

ソート, 196
 高さの指定, 206
 展開, 141, 162
 非表示, 195
 行参照オペランド, 296
 行と列の展開、使用, 141
 行と列のテンプレート, 116
 作成, 120
 挿入, 122
 変更, 124
 リンク, 123
 リンクの解除, 123
 行の参照指数, 222
 行の高さ, 206
 行の幅、指定, 206
 行見出し
 各ページの表示, 215
 グリッドでの定義, 114
 グラフィック、レポートへの追加, 100
 グリッド
 改ページの挿入, 130
 重なる, 104
 切り取り、コピー、貼付け, 113
 行と列の挿入, 112
 行の高さ, 206
 詳細なデータの表示, 162
 ズーム, 43, 184
 説明, 22
 セル・レベルでの計算, 152
 定義, 96
 データ・ソース, 133-134
 非表示, 195
 列の幅, 206
 レポートに追加, 96
 グリッド・データ・ソース、取得, 247
 グリッドの行と列
 式の定義, 139
 小計, 134
 展開, 141
 グリッドの非表示, 195
 グリッドのフォーマット
 グリッド内でのテキストの配置, 186
 グリッド内の数値のフォーマット, 184
 テキストの置換, 191
 ヒント, 184
 フォントのオプションの変更, 188

グリッドのフォーマット、枠線と網掛けの設定, 190
 計算されたデータの行と列
 フォーマットの適用, 137
 計算、セル・レベル, 152
 計算の繰返し、デフォルト, 314
 計算の順序, 297
 計算の順序、算術式, 297
 継承、セルのフォーマット, 193
 構文、算術関数, 220
 コマンド・ライン・スケジューラ、XML タグ, 323

さ行

削除
 条件付き抑制, 214
 選択したメンバー, 60
 ブックのレポート, 307
 レポートのオブジェクト, 107
 ワークスペース・ライブラリのレポート, 302
 サポート詳細、表示, 126
 参照プロパティ指数, 224
 算術
 演算子, 295
 オペランド, 296
 式、計算の順序, 297
 サンプル・レポート, 21
 サーバー、アクティビティの表示, 109
 サーバー名、取得, 247
 式
 オペランド, 296
 行および列に追加, 139
 使用, 295, 297
 式の行と式の列
 見出しの定義, 140
 式バー
 アクセス, 149
 関数のヘルプ, 150
 式の削除, 151
 式の作成, 149
 式の編集, 150
 使用, 147
 メンバー選択, 147
 メンバー選択の変更, 151
 システム管理タスク, 309
 システム・ツールバー、説明, 34

視点(POV)

- POV バーの表示と非表示の切替え, 128
- 設定, 157
- メンバーの選択, 158
- ユーザー, 157

集約プロパティ引数, 223

「終了」コマンド, 37

詳細

- グリッドでの表示, 162
- リンク・レポートでのアクセス, 166

軸

- メタデータ・ラベル, 77
- ラベルの角度設定, 77

軸のタイトル、チャート用に定義, 85

次元

- 取得, 258
- データ・ソースが同次元であることの検証, 302

時刻

- 現在の取得, 282, 284
- フォーマット用の文字, 250

循環参照

- 計算の反復, 146

条件付きフォーマット

- 基準値, 203
- グリッドへの適用, 201
- 条件の削除, 204
- 比較オプション, 203
- フォーマットの削除, 206
- フォーマットの順序の変更, 205
- フォーマットの追加, 205
- プロパティ, 201

条件付き抑制, 208

- 削除, 214

除去

- 選択したメンバー, 60
- レポートのオブジェクト, 107

数値引数, 222

スナップショット・ブック

- インポート, 307
- 電子メールによるリンクの送信, 302

スナップショット・レポート

- 印刷, 177
- 電子メールによるリンクの送信, 302
- 表示, 33
- ワークスペース・ライブラリでのコピー, 300

ズーム、グリッド, 43, 184

セグメント、表記, 142

セル

- 計算, 152
- 式の定義, 152
- 説明, 23
- マージ, 207

リンク・レポートでのアクセス, 166

セルの参照引数, 222

セルのフォーマット、フォーマット・ペインタ, 194

セルのマージ, 207

絶対オペランド, 296

前面に移動、オブジェクト, 104

挿入

- 改ページ, 108
- グリッド, 23
- テキスト・ボックス, 23

「挿入」メニュー, 38

ソース・レポート・オブジェクト, 92

ソート

- グリッド内, 196
- メンバー, 65

属性、変更, 322

た行

タイトル、チャート内で定義, 85

タイトル・ページ、作成, 108

タスク、システム管理, 309

「タスク」メニュー, 40

チャート

- 重なる, 104
- カスタマイズの概要, 69
- 軸のタイトルのカスタマイズ, 87
- 説明, 22
- タイトルの定義, 85
- チャートの位置の定義, 83
- データの定義, 73
- 凡例の定義, 87
- レポート上の位置, 83
- レポートに追加, 102

チャートのオプション

- 折れ線グラフ, 80
- 棒グラフ, 79

チャートのタイプ

- 円グラフ, 71
- 折れ線グラフ, 70

棒グラフ, 69
 チャートのフォーマット
 円グラフのオプション, 77
 折れ線グラフと棒グラフ(複合チャート)のオプション, 77
 折れ線グラフのオプション, 77
 軸, 77
 凡例, 76
 表示形式, 76
 棒グラフのオプション, 77
 要素のスタイル, 77
 通貨記号一覧表, 349
 ツールバー
 デザイン, 35
 標準, 34
 ボタン、定義, 34
 レポート・オブジェクト・ボタン, 23
 定義
 チャート・データ, 73
 チャートのタイトル, 85
 チャートの凡例, 87
 バッチ・ジョブ, 305
 テキスト
 インデントと配置, 182
 配置, 182
 フォントの指定, 181
 フォーマット, 181
 レポートでの指定, 153
 テキスト関数
 説明, 226
 レポート情報を表示するために使用, 153
 テキストの挿入, 182
 テキスト・ボックス
 重なる, 104
 説明, 22
 挿入, 23
 レポートに追加, 94
 枠線と網掛けの追加, 183
 展開
 「関連コンテンツ」を参照, 166
 展開可能, 162
 テンプレート
 行と列, 116
 デザイナ
 新規レポートの作成, 30
 説明, 24
 ツールバー, 35

電子メール、レポートへのリンクの送信, 302
 データ
 GetCell 関数の使用, 255
 グリッドのソースの変更, 133
 グリッドへのソースの割当て, 133
 抑制, 208
 リンク・レポートからのアクセス, 166
 データ・クエリー最適化オプション、設定, 124
 データ・ソース
 グリッドに複数指定, 133
 グリッドの変更, 133
 名前の取得, 247
 変更, 302
 データ・ソース、変更, 133
 データの行と列、小計, 134
 データの行と列の合計, 134
 データの行または列の小計, 134
 データ・プロンプト
 応答, 175
 レポートのバッチの定義, 305
 データベース取得オペランド, 296
 データベース接続
 管理, 301
 変更, 303
 データベース名, 247
 特殊メンバー, 50
 閉じる
 Studio エクスプローラ, 34
 デザイン, 34
 動的時系列(DTS)関数, 57

な行

名前
 レポートのユーザー名を戻す, 286
 レポート用に取得する, 285

は行

背面に移動、オブジェクト, 104
 範囲、複数のセグメント参照, 146
 凡例、定義, 87
 バッチ処理、概要, 305
 バッチ・ジョブ
 定義, 305
 バッチ・ジョブ、定義, 305
 バッチ入力ファイル
 起動, 321

作成, 320
 引数
 埋込み関数, 225
 行の参照, 222
 数値, 222
 セルの参照, 222
 プロパティ, 223
 列の参照, 222
 引数、範囲の表記, 144
 日付
 現在の取得, 282, 284
 フォーマット用の文字, 250
 表示
 サポート詳細, 126
 ライン・アイテムの詳細, 126
 表示、スナップショット・レポート, 33
 「表示」メニュー, 37
 標準ツールバー, 34
 ヒント
 グリッドのフォーマット, 184
 ビュー・プリファレンス、設定, 176
 ピクチャ、レポートへの追加, 100
 「ファイル」メニュー, 36
 フィルタ、定義, 62
 フォルダ、作成, 299
 フォント、指定, 181
 フォーマット
 網掛けと枠線, 183
 イメージ, 214
 グリッド, 206
 継承を使用したセル, 193
 テキスト, 181
 データの抑制, 208
 日付と時刻の関数, 250
 ページ, 215
 列, 206
 フォーマットの適用
 計算されたデータの行, 137
 計算された列, 137
 フォーマット・ペインタ、セルのフォーマット
 のコピー, 194
 「フォーマット」メニュー, 39
 複合チャート、説明, 71
 フッター
 設計, 107
 説明, 23
 ブック

Web でのプレビュー, 177
 インポート, 307
 データ・ソースの変更, 302
 プレビュー、選択したメンバー, 65
 プロパティ・シート、説明, 24
 プロパティ引数, 223
 参照, 224
 集約, 223
 プロンプト
 プレビュー時の応答, 175
 レポートのバッチの定義, 305
 ヘッダー
 設計, 107
 説明, 22
 「ヘルプ」メニュー, 40
 変更、データ・ソース, 133
 編集
 階層関数, 59
 メンバー・リスト, 63
 レポートのフォーマット, 181
 「編集」メニュー, 37
 ページ軸、説明, 23
 ページ次元の見出し、定義, 131
 ページ、設定, 215
 ページ設定のオプション, 37
 ページ番号、取得, 273
 ページ、変更, 215
 棒グラフ
 オプション, 79
 概要, 70
 ポートと接続、違い, 317, 319

ま行

マージン、レポートの設定, 215
 見出し
 各ページの表示, 215
 カスタマイズ, 114
 グリッドでの定義, 131
 メタデータ・ラベル
 軸, 77
 フォント, 77
 メニュー
 ウィンドウ, 40
 挿入, 38
 表示, 37
 ファイル, 36
 フォーマット, 39

ヘルプ, 40
 編集, 37
 メンバー
 検索, 63
 コピー, 60
 削除, 60
 ソート, 65
 バッチ処理のプロンプト, 305
 プレビュー, 65
 割当て, 48, 59
 メンバー選択
 式バー, 147
 メンバーの検索, 63
 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックス
 選択したメンバーの除去, 60
 メンバーの検索, 63
 メンバーのソート, 65
 メンバー・プロンプト, 175
 メンバー・リスト
 定義, 62
 プレビュー, 65
 編集, 63

や行

優先度
 行または列の計算, 152
 式, 297
 ユーザー・タスク, 29
 「要約」コマンド, 37
 要約の行と列、展開, 162
 抑制
 データ, 208
 抑制、条件付き, 208

ら行

リポジトリ、切取り、コピー、貼付け, 301
 リンク付きレポート・オブジェクト, 92
 リンク・レポート、データへのアクセス, 166
 列
 グリッド内のソート, 196
 グリッドの小計, 134
 グリッドへの挿入, 112
 説明, 23
 ソート, 196
 展開, 141, 162
 幅の指定, 206
 非表示, 195

列参照オペランド, 296
 列の参照引数, 222
 列の高さ、指定, 206
 列の幅, 206
 列見出し
 各ページの表示, 215
 グリッドでの定義, 114
 レポート
 Web でのプレビュー, 177
 オプションの設定, 32
 作成, 30, 91
 サンプル・デザイン, 21
 新規の設計, 30
 情報の表示, 108
 スナップショット・レポートの表示, 33
 電子メールによるリンクの送信, 302
 データ・ソースの変更, 302
 バッチの割当て, 305
 開く, 32
 フォーマット, 181
 ページ設定の変更, 215
 レポート・オブジェクト
 位置設定, 104, 105
 重なる, 104
 グリッド, 96
 サイズ変更, 105
 除去, 107
 説明, 23
 ソース, 92
 追加, 91
 保存, 106
 前に改ページの挿入, 108
 リンク付きおよびローカル, 92
 ワークスペース・ライブラリ, 300
 レポート・オブジェクトの位置設定, 104
 レポート・オブジェクトのサイズ変更, 105
 レポート・オブジェクトの追加
 イメージ, 100
 グリッド, 96
 チャート, 102
 テキスト・ボックス, 94
 レポート情報
 表示, 108
 レポートでの指定, 153
 レポートとブック、印刷プレビュー, 177
 レポートのコンポーネント, 22
 レポートの作成、概要, 91

レポートの設計、ヘッダーとフッター, 107
レポートのバッチ、印刷, 177
レポートの要約、表示, 108
レポート・プロパティのプロパティ設定, 24
レポート・プロンプト、メンバーの選択用の設定, 50
レポート・メニュー・コマンド, 37
レポート、「リンク・レポート」も参照, 166
レポートを開く, 32
ローカル・レポート・オブジェクト, 92

わ行

枠線

テキスト・ボックスへの追加, 183
フォーマット, 183

ワークスペース

変更, 215

ワークスペースへのログオン, 30

ワークスペース・ライブラリ

セキュリティ, 303
データ・ソースの変更, 302
レポート・オブジェクトのフィルタ, 300
レポートとレポート・オブジェクトのコピー, 300

ワークスペース・ライブラリ、説明, 91

ワークスペース・ライブラリのアイテムへのリンク, 302